
熊 谷 市

北 島 遺 跡 V

熊谷スポーツ文化公園建設事業関係
埋蔵文化財発掘調査報告書

— I —

〈第 2 分冊〉

2 0 0 2

埼 玉 県
財団法人 埼玉県埋蔵文化財調査事業団

目次

〈第1分冊〉

口絵

序

例言

例則

目次

I 発掘調査の概要	1
1. 発掘調査に至る経過	1
2. 発掘調査・報告書作成の経過	2
3. 発掘調査・整理・報告書刊行の組織	4
II 遺跡の立地と環境	5
III 遺跡の概要	12
IV 遺構と遺物	19
1. 竪穴住居跡	59
2. 掘立柱建物跡	267
3. 井戸跡	351

〈第2分冊〉

4. 土 壌	415
5. 溝 跡	557
6. 小 穴	739
7. 地 鎮 跡	806
V 結 語	807

写真図版

4. 土 墳



第472図 土墳全体図

概 要

北島遺跡第19地点では、古代から中世までの497基に及ぶ土壌を検出した。以下全体の特徴を述べる。

1 分 布

土壌は、調査区全体にわたって分布が認められる。とくに堅穴住居跡の密集した調査区西側に集中して確認できた。古墳群の広がる調査区の東側や、水田域の広がる調査区の北側と南側、さらに谷水田の広がる中央部では、土壌の分布は希薄である。

なお、個々の遺構説明にあたって、便宜的に中世の土壌についても一括して扱うこととする。また中世の土壌は、第2編で扱うこととした。

2 形 状

土壌の形状分類については、健甕玉果埋蔵文化財調査事業団 第190集『中堀遺跡』に準拠して、以下のとおり行った。

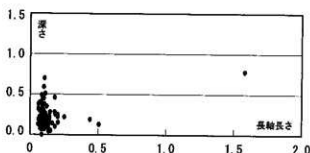
形状については、円形・楕円形・長楕円形・方形・長方形・不整形の6種類に分類した。

円形の土壌

円形に分類した土壌は、87基を数える。

規模は、径2.5m以下の土壌がほとんどである。深さは、0.8mを超える土壌はみられない。散布図上でもドットが集中しており、円形の土壌が均一な大きさであることがわかる。この一群から外れる土壌は、2基である。

規模は、それぞれ径3.65m・深さ0.15mと径5.06m・深さ0.13mである。大きく浅い土壌である。

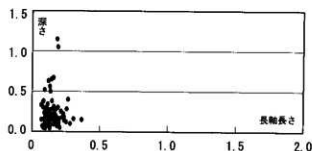


第473図 円形土壌の大きさ

楕円形の土壌

楕円形に分類した土壌は、103基を数える。

規模は、長軸が3m以下の土壌がほとんどである。深さは、0.7m以下の土壌が大半を占める。0.7mを超える深さの土壌は2基あり、それぞれ長軸1.81m・深さ1.15mと長軸1.88m・深さ1.05mである。散布図上の分布は、円形に類似し、均一な大きさである。

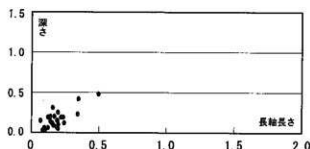


第474図 楕円形土壌の大きさ

長楕円形の土壌

長楕円形に分類した土壌は、24基を数える。

長軸方向に分布の広がりがみられ、3つのまとまりが確認できた。最も多いのは、長軸が3.0m未満のグループである。18基みられた。長軸が3.0m以上、4.0m未満の土壌は、3基である。長軸の長さが、4.0mを超える土壌は3基みられ、長軸4.40m・深さ0.19mの第210号土壌と、長軸4.95m・深さ0.48mの第415号土壌と、長軸4.97m・深さ0.58mの第485号土壌である。当然かもしれないが、長軸が大きいくほど深い。深さは0.6mを超える土壌はなかった。

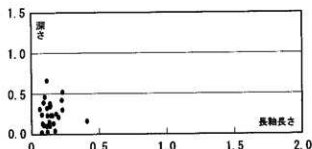


第475図 長楕円形土壌の大きさ

方形の土壌

方形に分類した土壌は、33基を数える。

規模は、径2.5m以下、深さ0.5m以下の土壌がほとんどである。散布図上の分布は、円形の土壌に類似する。円形の土壌よりも均一な土壌が多い。



第476図 方形土壌の大きさ

長方形の土壌

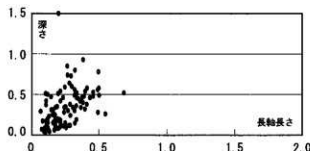
長方形に分類した土壌は、101基を数える。

長軸4.0m以下の土壌が大半を占める。5.0mを超える土壌は、4基と少ない。第160号土壌は長軸15.79mと長い。深さは、0.4m以内の土壌が多く、全体でも深さ0.6m以内の土壌が高い割合を占める。深さが0.6mを超える土壌は、9基である。そのうち8基は、深さ1.0m以内であるが、1基は1.5mと深い。散布図上では、長軸が短い土壌は浅く、長い土壌は、深いという傾向がみられる。

不整形の土壌

不整形に分類した土壌は、73基を数える。

長軸4.3m以内の土壌が大半である。6.0mを超える土壌は、2基検出されており、規模は、それぞれ長軸6.82m・深さ0.55m、長軸8.15m・深さ0.58mである。深さは、0.6m以内の土壌がほとんどを占め

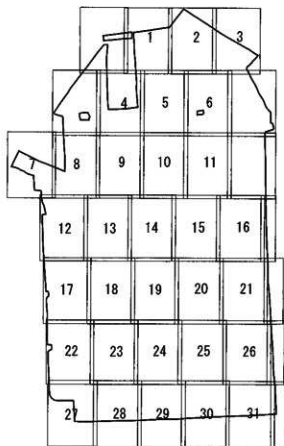


第477図 長方形土壌の大きさ

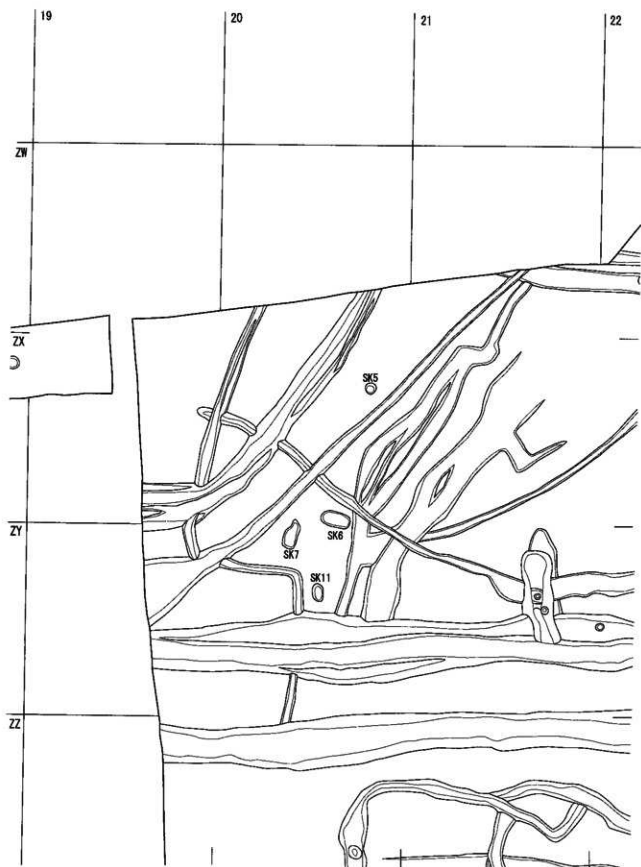
ている。とくに深さ0.4m以下の土壌が多く、63基である。散布図上でも、全体的に浅い傾向がみられる。

以上、述べたように土壌は、形態による大きな差はみられなかったが、いくつかの特徴を指摘できる。

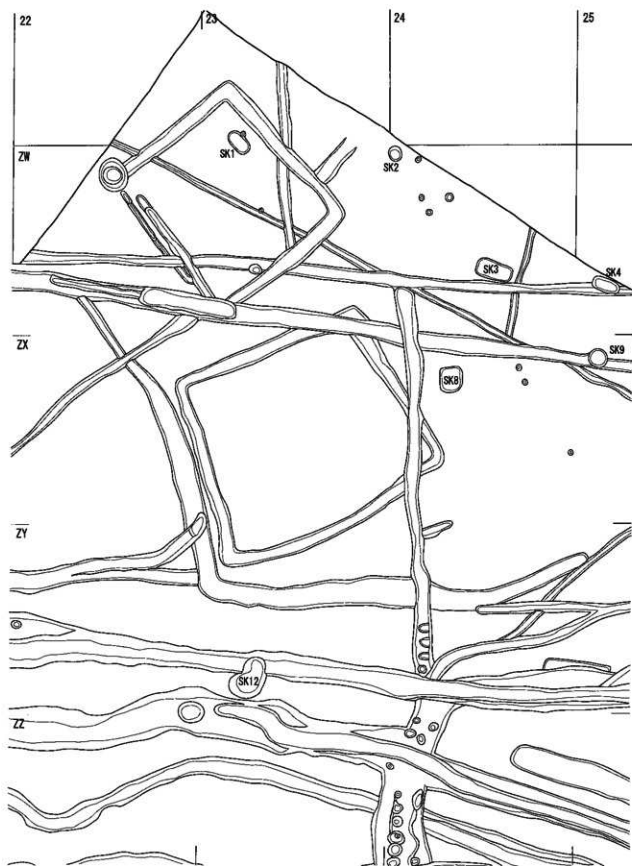
- ①円形・楕円形・方形の土壌は、規模や散布図上の傾向がよく似ている。長軸2.0m・深さ0.6m以下に多くが集まり、同一規模の土壌が多い。
- ②長方形と長楕円形の土壌は、円形・楕円形・方形の土壌に比べ、分布の広がりがみられる。
- ③長軸が長いほど、深い。
- ④円形の土壌は、径の大きな土壌には、深い土壌がない。



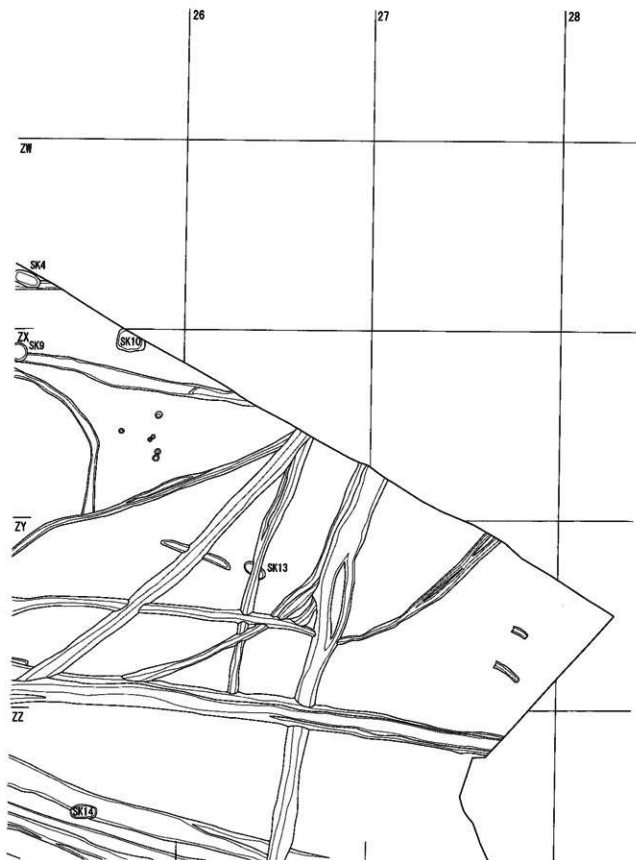
第478図 土壌全体区割図



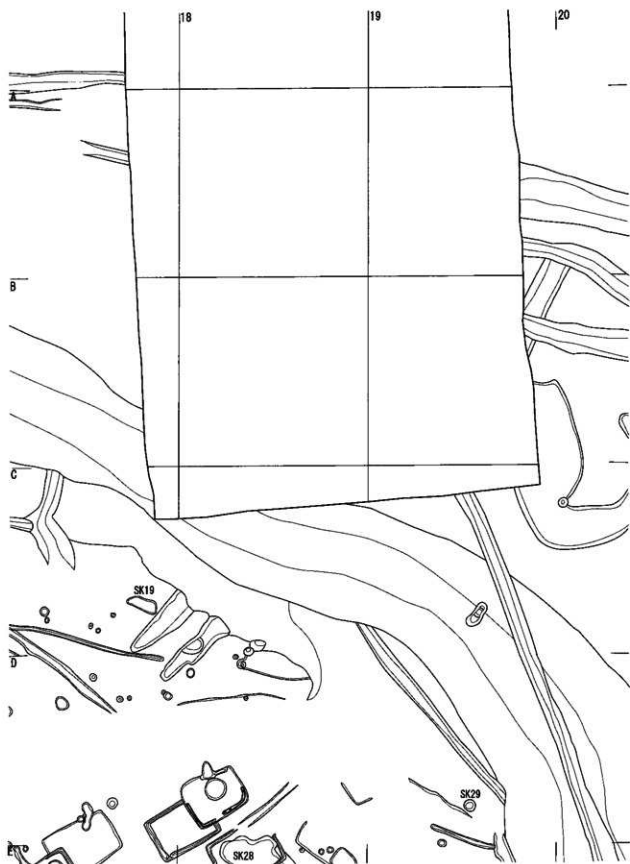
第479図 土壌全体図(1)



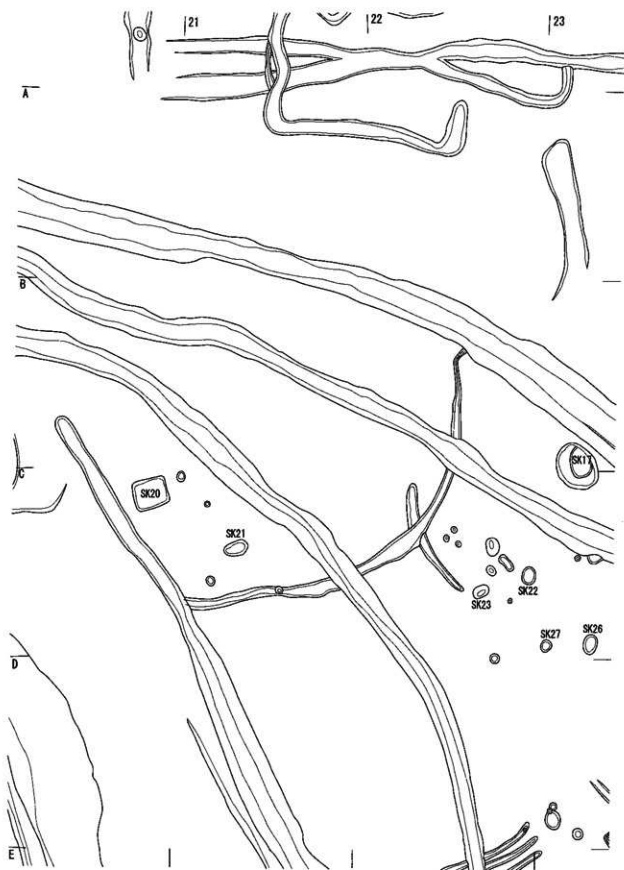
第480図 土壤全体図(2)



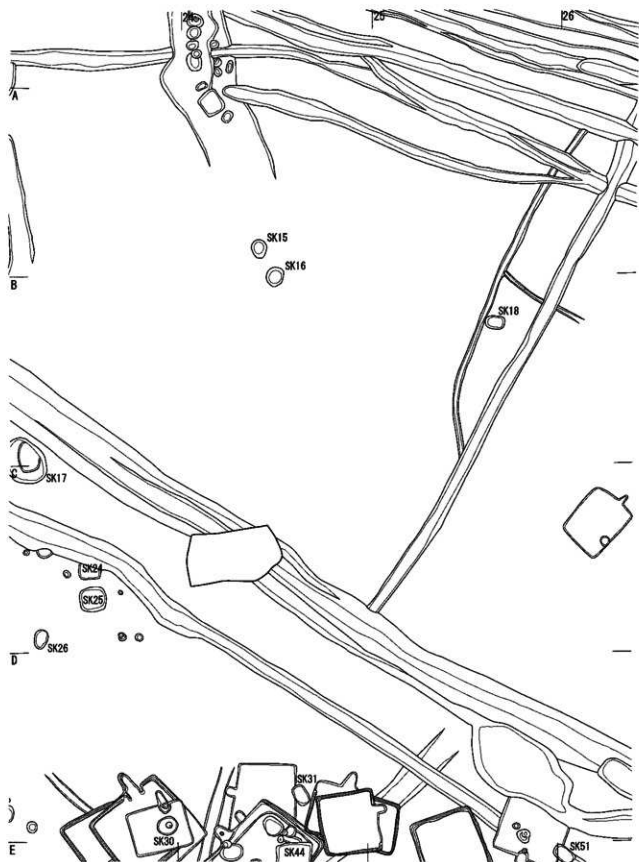
第481図 土壌全体図(3)



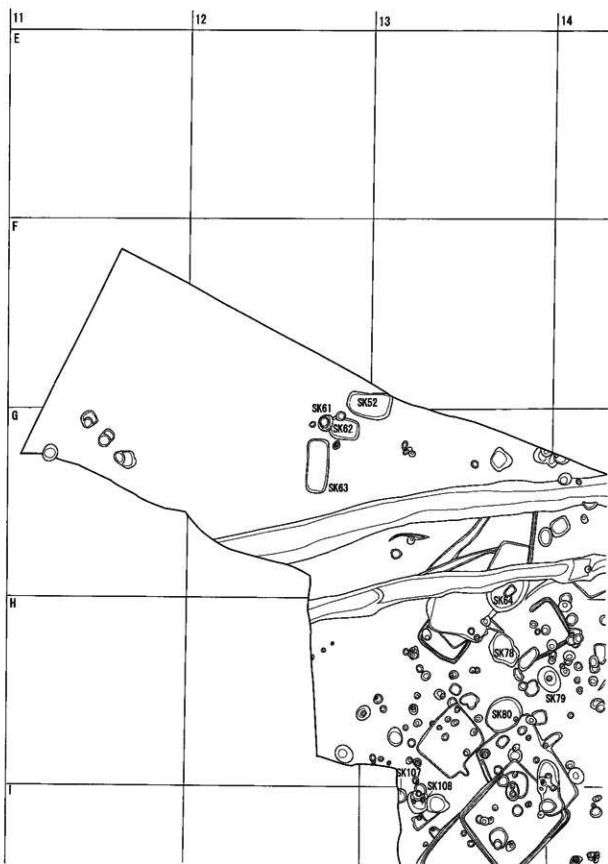
第482図 土壙全体図(4)



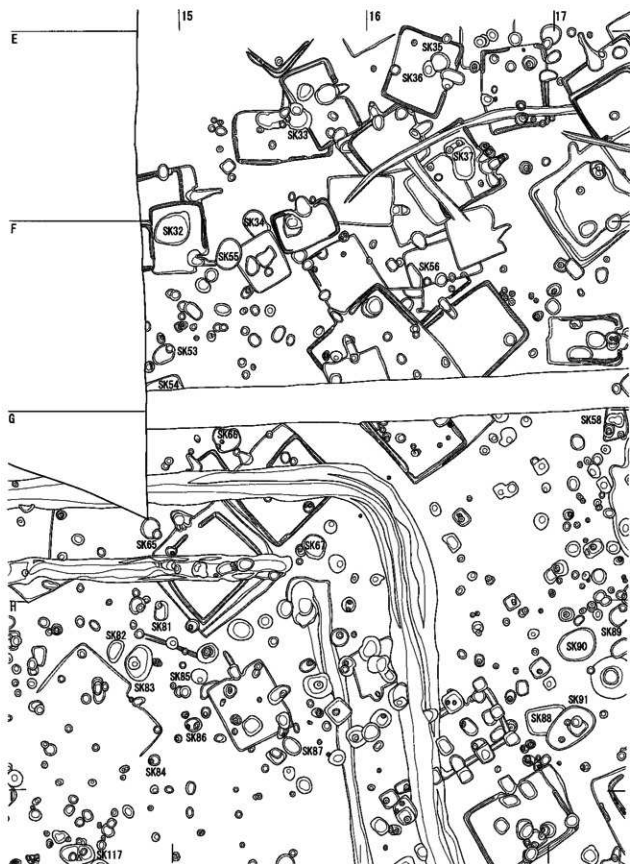
第483图 土墙全体图(5)



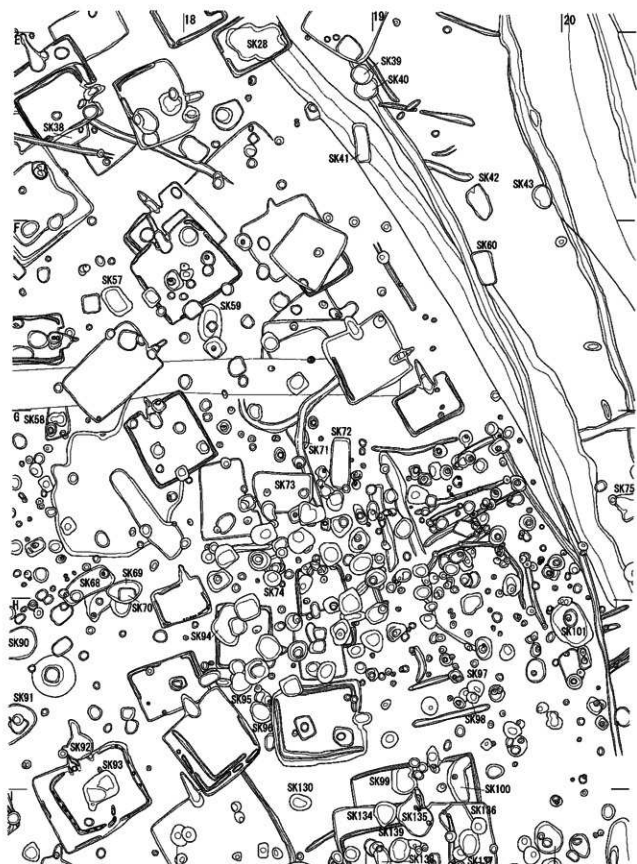
第484図 土壙全体図(6)



第485図 土壌全体図(7)



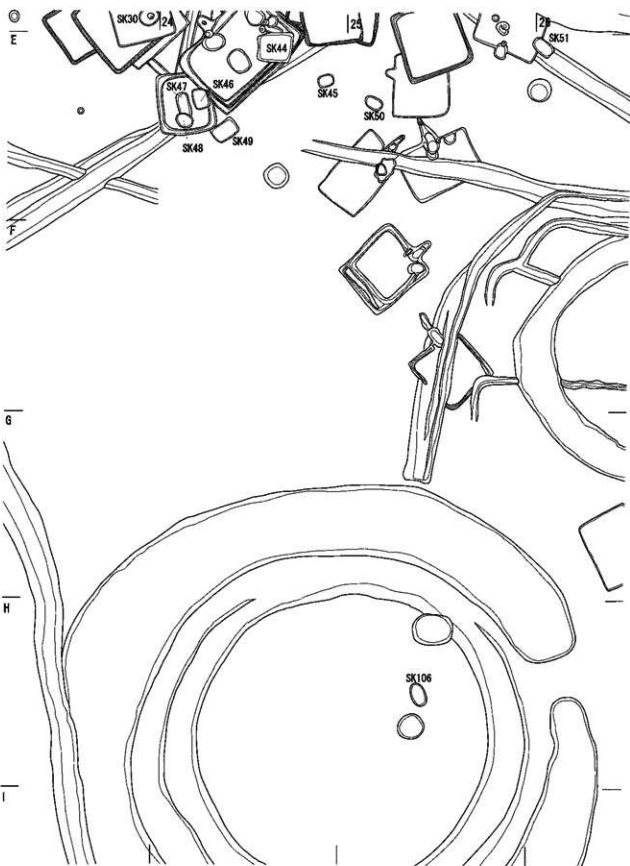
第486図 土墳全体図(8)



第487图 土壤全体图(9)



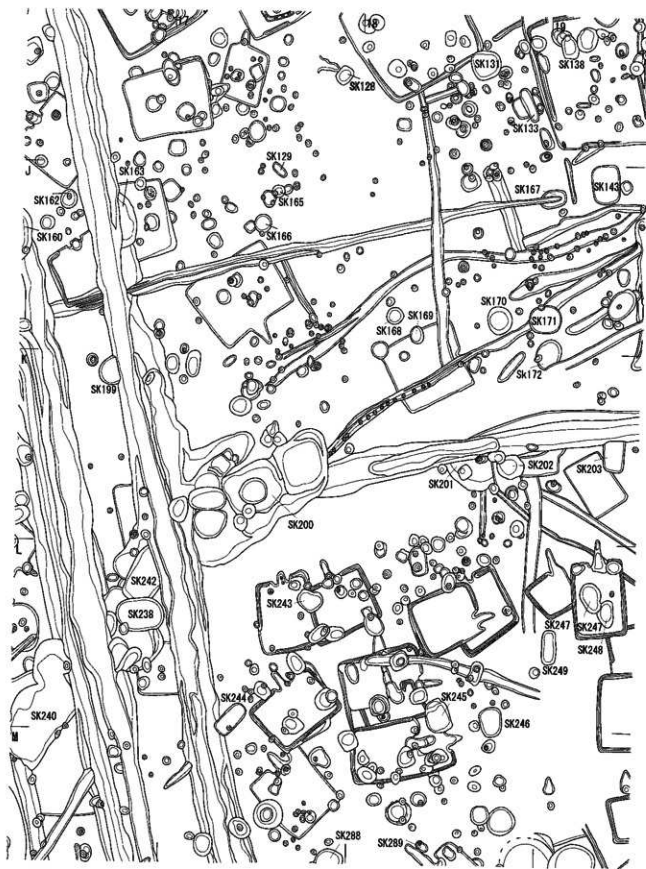
第488图 土壤全体图(00)



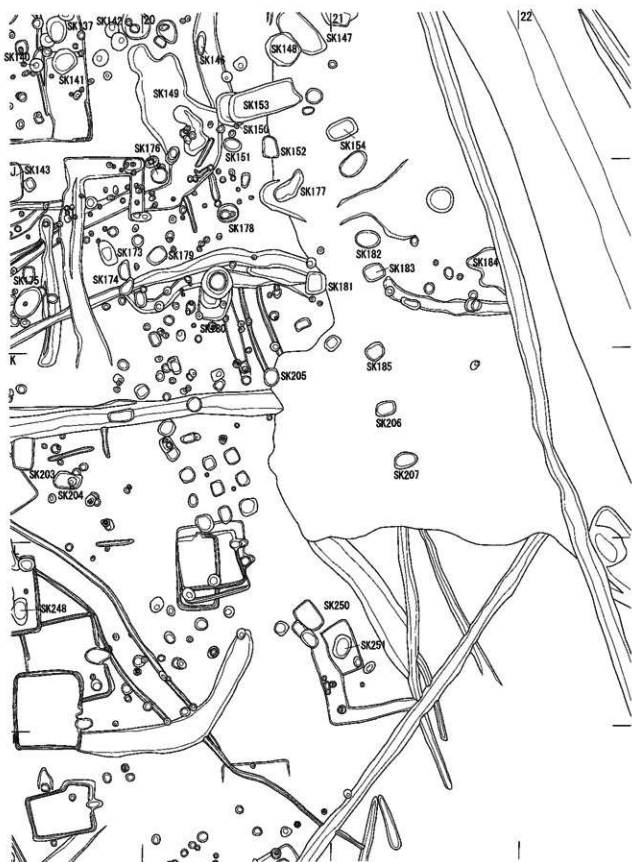
第489図 土壙全体図(1)



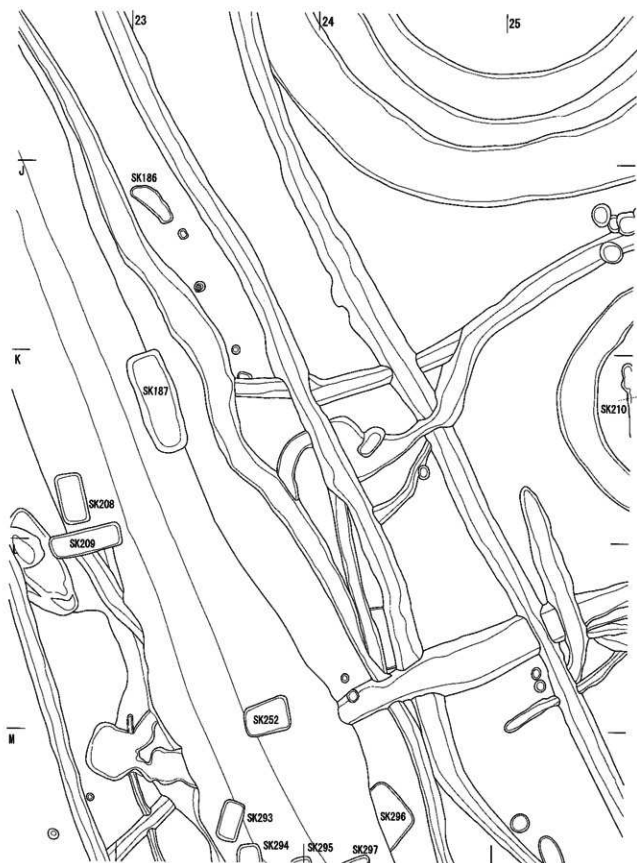
第490図 土墳全体図(1)



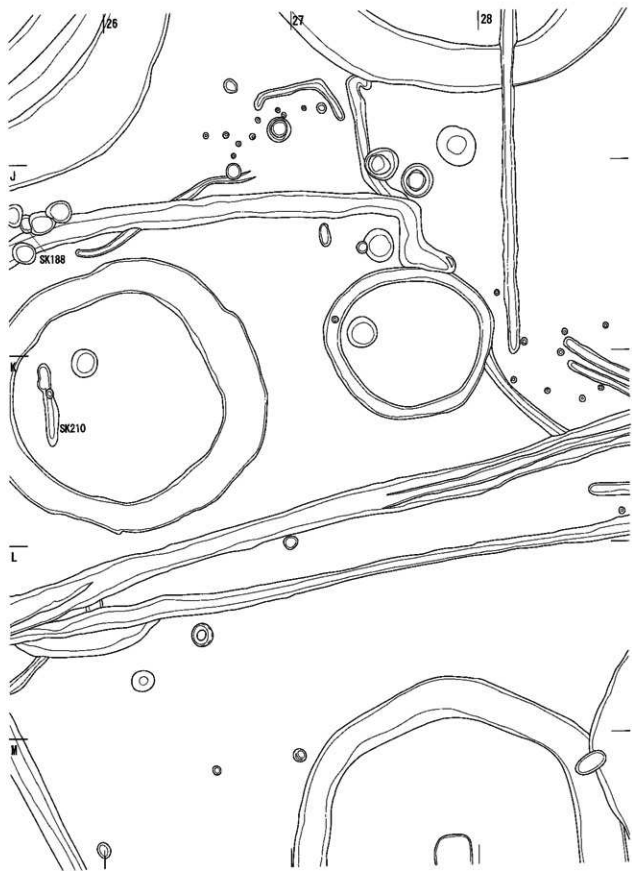
第491図 土壌全体図(13)



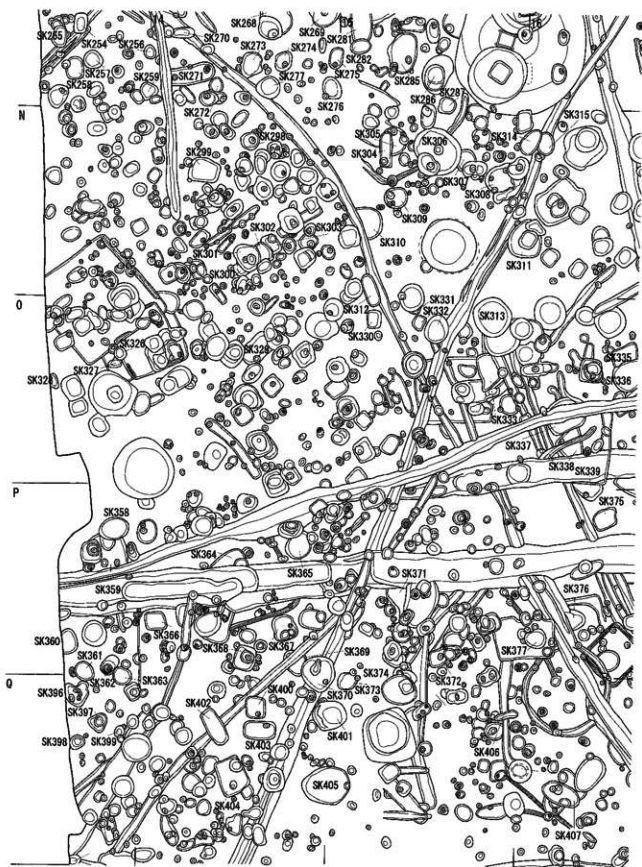
第492図 土坑全体図(1)



第493図 土塘全体図(15)



第494图 土壤全体图(10)



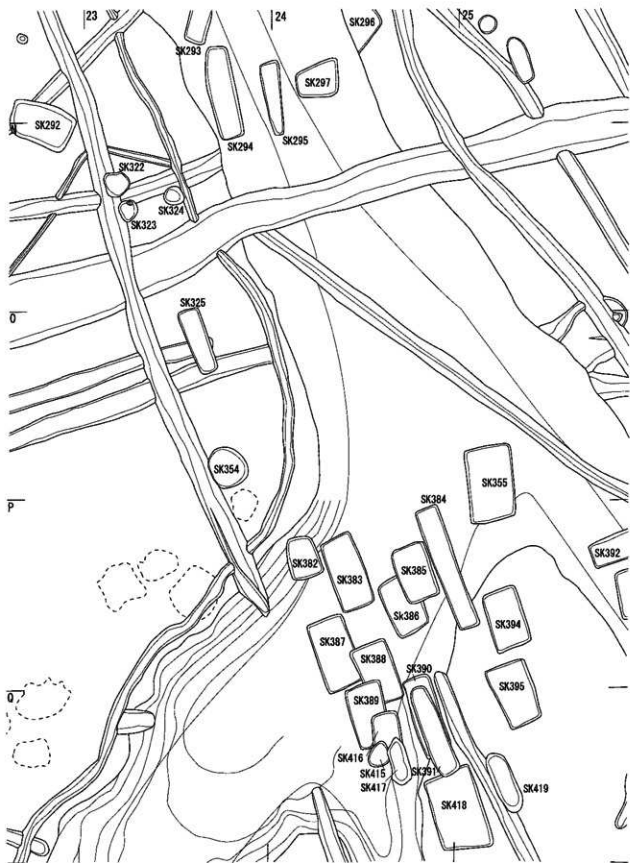
第495図 土壤全体図(7)



第496図 土壌全体図⑩



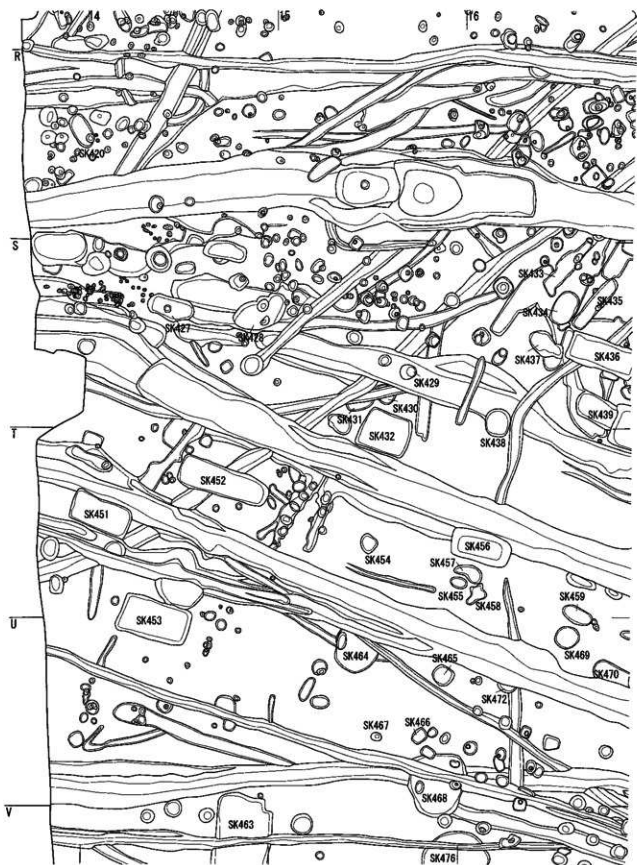
第497図 土壌全体図(19)



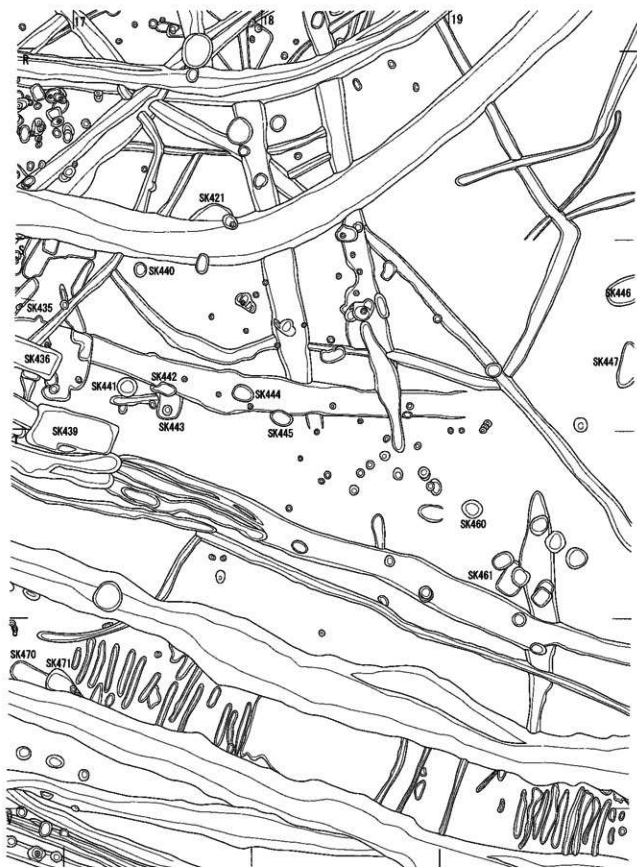
第498图 土壤全体图②



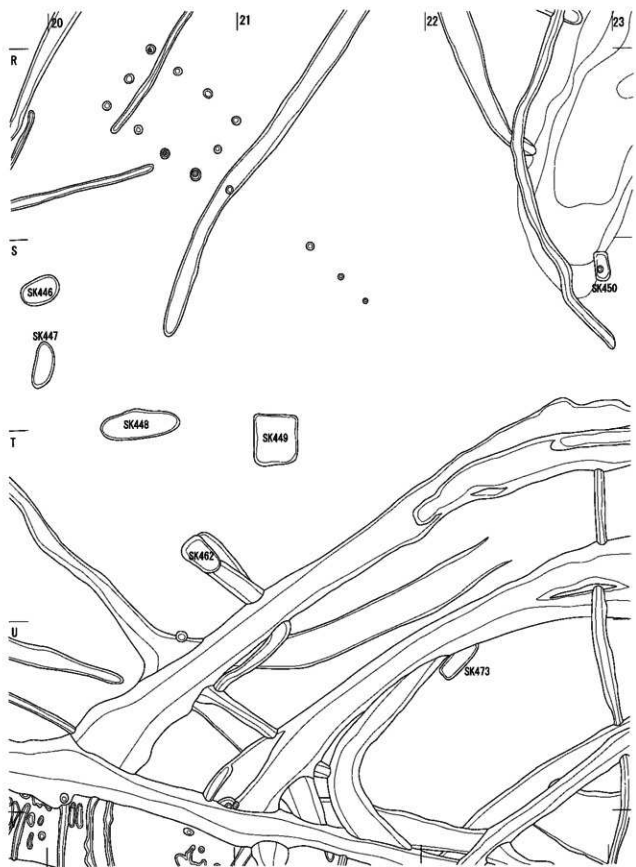
第499图 土壤全体图(2)



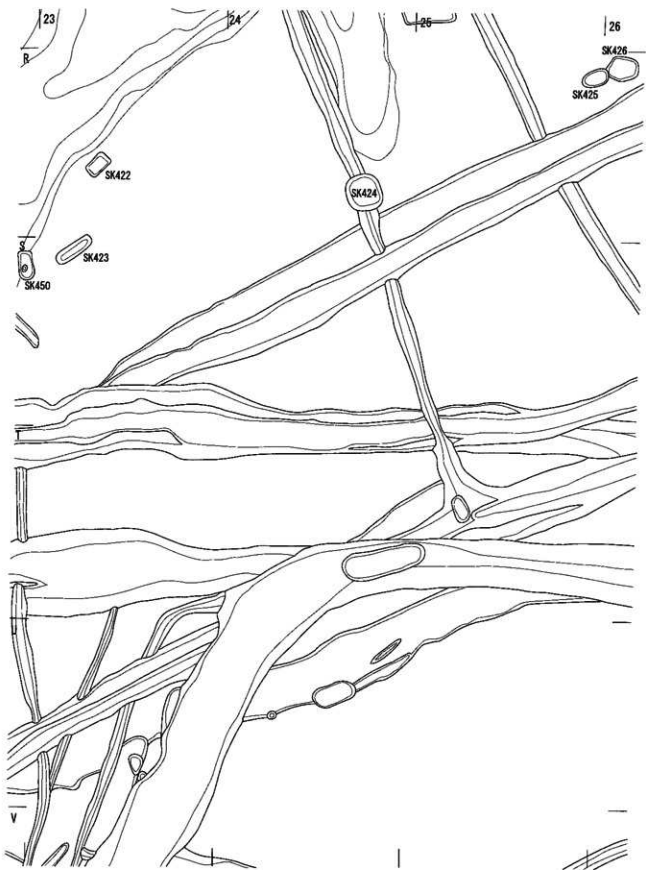
第500図 土壤全体図(2)



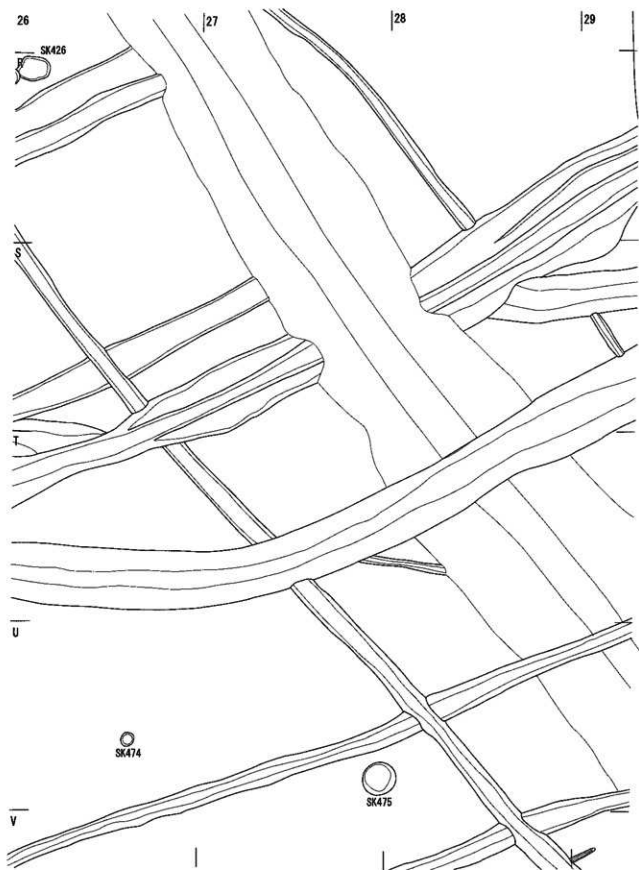
第501図 土壤全体図(23)



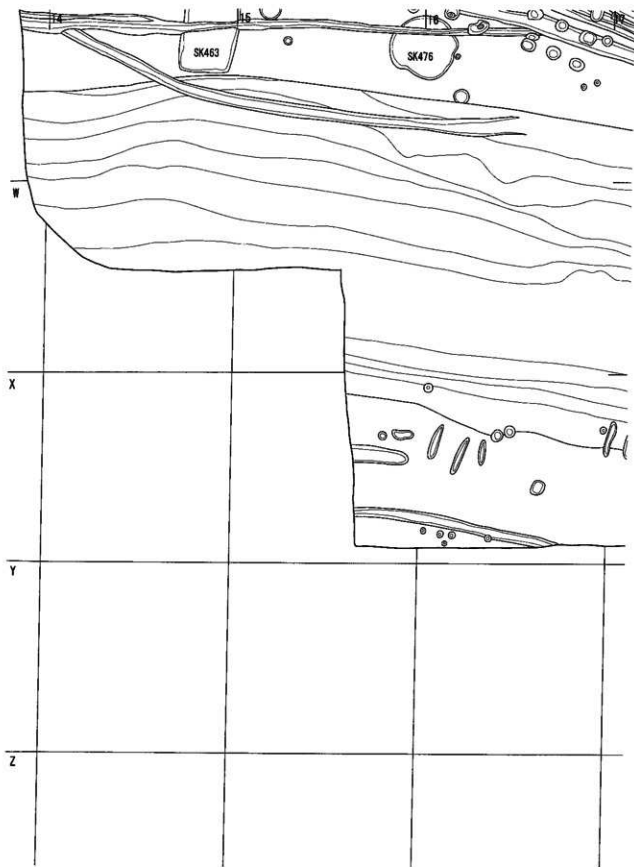
第502図 土壤全体図24



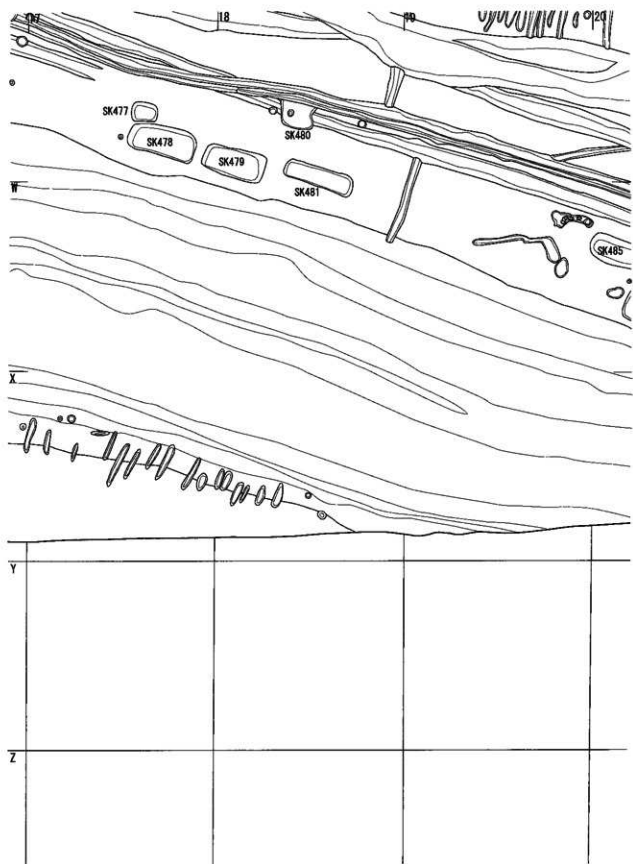
第503図 土壤全体図(25)



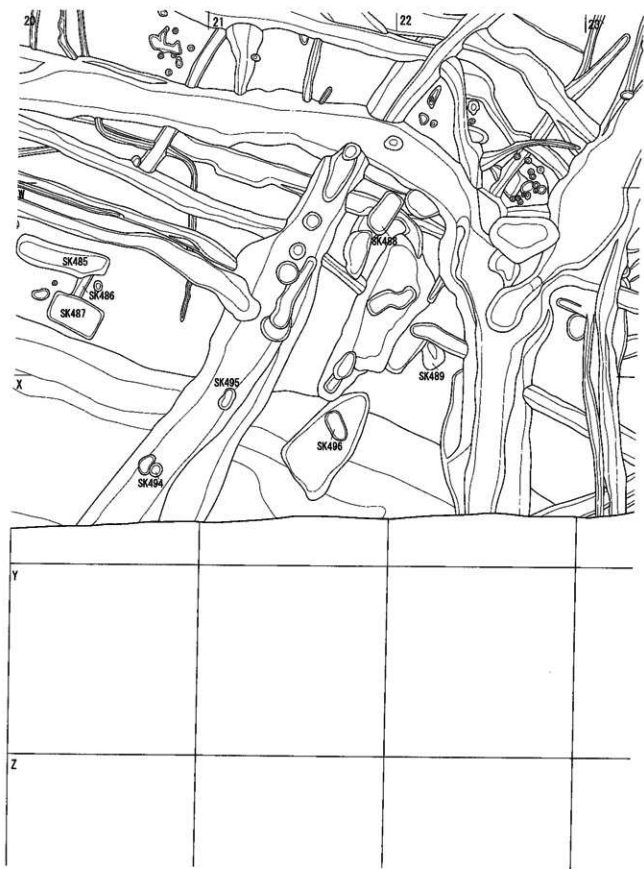
第504図 土壤全体図(20)



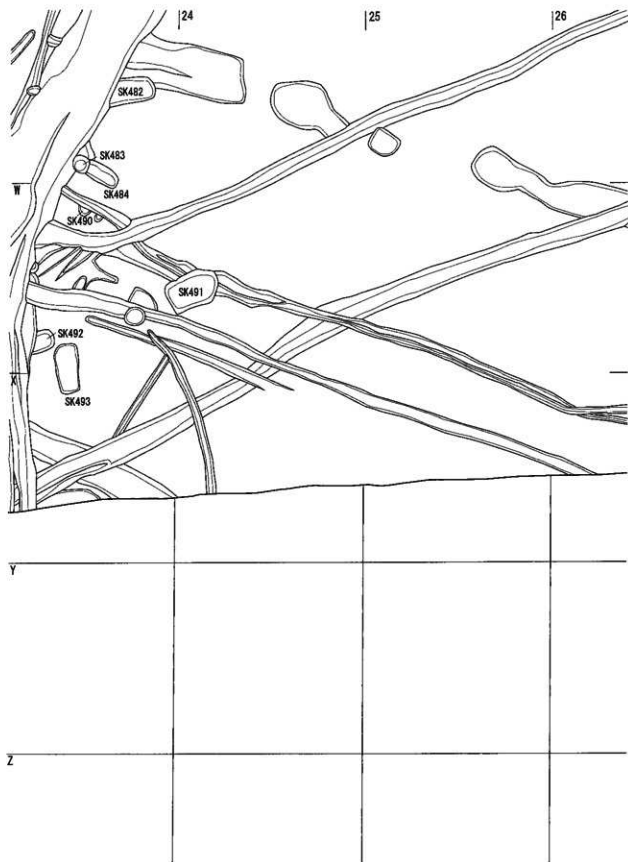
第505図 土壤全体図(27)



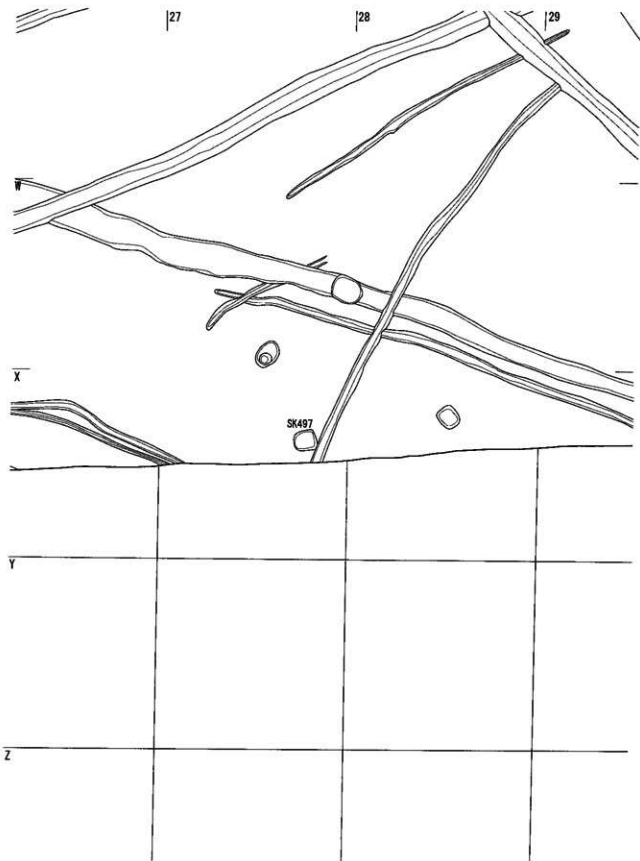
第506図 土墳全体図



第507図 土壌全体図(29)



第508図 土壌全体図(Ⅷ)



第509图 土壤全体图(3)

土壌一覧

番号	グリッド	新 遺 構	旧 遺 構	形 態	長軸長さ	短軸長さ	深 さ	長 軸 方 位	時 期
1	Z V・ZW23			—	1.28	0.85	0.07	N-48°-W	7 C III
2	ZW24			円 形	0.79	0.65	0.40	N-0	10C 後
3	ZW24			長 方 形	1.94	0.93	0.51	N-78°-W	
4	ZW25			長 方 形	1.43	0.76	0.31	N-78°-W	
5	Z X20			円 形	0.61	0.61	0.38	N-90°-EW	
6	Z X・Z Y20			長 楕 円 形	1.56	0.79	0.31	N-76°-W	
7	Z X・Z Y20			不 整 形	1.54	0.73	0.17	N-13°-E	9 C IV
8	Z X24			方 形	1.38	1.24	0.35	N-0	
9	Z X25			円 形	1.00	(0.91)	0.30	N-90°-EW	
10	Z X25			楕 円 形	1.56	1.10	0.67	N-60°-W	
11	Z Y20			楕 円 形	0.97	0.58	0.19	N-8°-W	
12	Z Y23			不 整 形	2.24	1.70	0.87	N-24°-E	
13	Z Y26			楕 円 形	1.29	0.56	0.22	N-59°-W	
14	Z Z25			長 楕 円 形	1.38	0.70	0.14	N-90°-EW	
15	A24			楕 円 形	0.97	0.78	0.15	N-30°-W	
16	A・B24			円 形	1.00	0.94	0.45	N-61°-E	
17	B・C23			楕 円 形	2.64	2.05	0.40	N-30°-W	
18	B25			長 方 形	1.02	0.68	0.51	N-90°-EW	
19	C17			不 整 形	1.61	0.55	0.07	N-72°-W	
20	C20			長 方 形	1.88	1.59	0.20	N-71°-E	
21	C21			楕 円 形	1.34	0.75	0.27	N-72°-E	
22	C22			楕 円 形	0.89	0.70	0.16	N-8°-E	
23	C22			楕 円 形	0.90	0.61	0.23	N-62°-E	
24	C23			—	1.13	0.92	0.14	N-84°-W	
25	C23			方 形	1.41	1.27	0.23	N-90°-EW	
26	C23			楕 円 形	0.99	0.72	0.25	N-8°-E	
27	C23			円 形	5.06	5.04	0.13	N-24°-E	
28	D・E18			不 整 形	3.01	1.75	0.23	N-80°-E	8 C IV
29	D19			円 形	0.61	0.56	0.32	N-49°-E	
30	D23			円 形	1.63	0.91	0.09	N-61°-E	
31	D24			楕 円 形	1.05	0.72	0.10	N-42°-W	
32	E・F14・15			楕 円 形	1.90	1.65	0.30	N-85°-E	
33	E15			不 整 形	2.95	1.18	0.12	N-90°-EW	
34	E・F15			長 方 形	1.82	1.10	0.10	N-10°-E	
35	E16			円 形	1.00	0.97	0.25	N-64°-W	
36	E16			—	0.78	(0.55)	0.38	N-31°-W	
37	E16			不 整 形	1.86	1.38	0.16	N-18°-W	
38	E17			—	1.85	(0.80)	0.20	N-62°-E	
39	E18・19			円 形	1.01	1.00	0.15	N-20°-W	
40	E18・19			円 形	1.23	0.78	0.18	N-70°-E	
41	E18			長 方 形	2.12	0.78	0.42	N-8°-W	
42	E19			長 方 形	1.75	1.00	0.10	N-33°-W	11C 後
43	E19			楕 円 形	1.30	0.98	0.14	N-25°-W	
44	E24			長 方 形	1.87	1.45	0.35	N-90°-EW	9 C I
45	E24			長 方 形	0.83	0.63	0.07	N-71°-E	
46	E24			長 方 形	1.74	1.15	0.11	N-78°-E	10C II
47	E24			—	(1.40)	0.66	0.12	N-17°-W	9 C IV~10C I
48	E24			楕 円 形	0.95	0.71	0.10	N-68°-W	
49	E24			—	0.33	0.90	0.11	N-55°-E	9 C 後

番号	グリッド	新 造 構	旧 造 構	形 態	長軸長さ	短軸長さ	深 さ	長 軸 方 位	時 期
50	E25			楕 円 形	0.98	0.63	0.16	N-55°-W	
51	E25-26			長 方 形	1.18	0.75	0.15	N-44°-W	
52	F・G12・13			—	2.35	1.19	0.28	N-78°-W	7 C III
53	F14			楕 円 形	1.13	0.88	0.10	N-51°-E	
54	F14-15			—	(1.91)	(0.76)	0.10	N-83°-E	
55	F15			楕 円 形	1.64	1.30	0.20	N-14°-E	
56	F16			—	1.30	0.62	0.07	N-25°-W	9 C 前
57	F17			長 方 形	1.57	1.03	0.15	N-48°-W	
58	F・G17			—	1.77	1.26	0.13	N-0	
59	F18			長楕円形	1.95	1.23	0.25	N-2°-E	
60	F19			長 方 形	1.86	0.91	0.08	N-20°-W	
61	G12			円 形	0.85	0.72	0.30	N-23°-E	
62	G12			長 方 形	1.53	1.13	0.25	N-82°-W	
63	G12			長 方 形	2.85	1.19	0.24	N-4°-E	
64	G・H13			—	(2.10)	1.72	0.34	N-44°-E	7 CIV・8 C 中
65	G14			—	1.09	(0.63)	0.10	N-0	
66	G15			不 整 形	1.48	1.22	0.10	N-90°-EW	8 C III
67	G15			円 形	1.29	1.19	0.15	N-46°-W	
68	GH17			長 方 形	2.53	1.22	0.09	N-58°-E	
69	GH17			楕 円 形	1.80	1.26	0.08	N-81°-E	
70	H17			方 形	0.88	0.86	0.11	N-90°-EW	
71	G18			—	(1.43)	0.95	0.11	N-31°-W	
72	G18			長 方 形	2.68	1.08	0.30	N-4°-W	
73	G18			長 方 形	3.20	2.10	0.15	N-86°-W	8 CIV
74	G18			円 形	0.60	0.62	0.13	N-78°-W	
75	G20			不 整 形	1.55	1.31	0.28	N-52°-E	7 C III
76	G20			円 形	1.11	0.95	0.51	N-68°-E	
77	G・H20			不 整 形	3.42	2.96	0.98	N-33°-W	
78	H13			不 整 形	1.92	1.45	0.19	N-36°-W	
79	H13・14			楕 円 形	1.42	0.97	0.65	N-37°-W	
80	H13			円 形	2.03	1.65	0.25	N-58°-E	
81	H14			楕 円 形	1.05	0.73	0.27	N-1°-E	
82	H14			楕 円 形	1.15	0.80	0.12	N-0	
83	H14			楕 円 形	1.88	1.44	1.05	N-0	7 C III
84	H14			—	(0.59)	0.57	0.10	N-88°-E	
85	H15			円 形	0.86	0.80	—	N-52°-W	
86	H15			円 形	0.87	0.70	0.30	N-80°-W	
87	H15			楕 円 形	1.11	0.80	0.15	N-42°-W	
88	H16・17			長 方 形	2.12	1.52	0.18	N-83°-E	
89	H17			楕 円 形	1.25	0.94	0.07	N-45°-E	
90	H17			円 形	2.04	1.69	0.15	N-77°-E	
91	H16・17			楕 円 形	2.80	1.74	0.10	N-46°-E	7 C III
92	H17			不 整 形	2.13	1.90	0.12	N-28°-W	7 C 前
93	H・I 17			不 整 形	1.87	1.35	0.16	N-59°-E	
94	H18			—	1.80	1.56	0.14	N-40°-E	11 C 前
95	H18			不 整 形	1.85	1.16	0.11	N-0	
96	H18			楕 円 形	1.30	1.10	0.11	N-56°-W	
97	H19			不 整 形	0.85	0.65	0.17	N-90°-EW	
98	H19			長 方 形	0.65	0.56	0.29	N-71°-W	
99	H・I 19			不 整 形	1.62	1.27	0.23	N-0	8 C 末～9 C 前

番号	クリッド	新造構	旧造構	形態	長軸長さ	短軸長さ	深さ	長軸方位	時期
100	H・I19			不整形	2.58	1.01	0.29	N-0	9 CIV
101	H19-20			長方形	2.50	1.84	0.35	N-32°-W	7 CIV
102	H20			楕円形	1.30	1.00	0.11	N-44°-E	
103	H20			円形	1.00	0.80	0.26	N-16°-W	
104	H20			円形	1.38	1.26	0.17	N-21°-E	
105	H20-21			楕円形	1.22	0.78	0.18	N-80°-W	
106	H25			楕円形	1.30	0.78	0.04	N-24°-W	
107	I13			—	0.70	0.42	0.22	N-0	
108	I13			不整形	1.20	1.12	0.55	N-0	
109	I13			円形	1.87	1.67	0.25	N-0	8 C中
110	I13			長方形	1.42	1.20	0.47	N-40°-W	
111	I13			円形	0.61	0.55	0.19	N-12°-W	
112	I13			楕円形	1.30	0.85	0.56	N-90°-EW	
113	I13			円形	1.00	0.97	0.59	N-40°-W	
114	I13			円形	1.10	1.00	0.20	N-32°-E	
115	I13			不整形	1.07	0.72	0.27	N-30°-W	
116	I・J13			楕円形	1.19	0.90	0.63	N-70°-E	
117	I14			不整形	1.80	1.10	0.29	N-90°-EW	
118	I14			楕円形	1.05	0.78	0.25	N-44°-E	8 C前
119	I14			楕円形	1.13	0.90	0.27	N-42°-W	
120	I14			円形	0.85	0.85	0.25	N-55°-E	
121	I14			円形	0.69	0.63	0.20	N-74°-E	
122	I15			円形	1.04	0.98	0.07	N-0	
123	I14-15			円形	1.80	1.48	0.28	N-3°-W	8 CIII
124	I15			長方形	1.15	1.10	0.18	N-5°-E	8 CII
125	I14-15			長方形	0.80	0.65	0.17	N-12°-W	8 CIV
126	I・J15			長方形	0.93	0.65	0.05	N-50°-W	
127	I・J15			楕円形	0.82	0.66	0.05	N-45°-W	
128	I17			方形	0.96	0.82	0.46	N-39°-E	
129	I・J17			長楕円形	0.94	0.40	0.06	N-45°-W	
130	I18			楕円形	1.18	0.82	0.26	N-89°-E	
131	I18			方形	1.52	1.50	0.23	N-65°-E	
132	I18			長楕円形	1.20	0.54	0.06	N-20°-W	
133	I18			長楕円形	1.89	0.57	0.15	N-24°-W	
134	I19			不整形	1.33	1.20	0.13	N-0	
135	I19			不整形	2.04	1.60	0.10	N-43°-W	9 C前
136	I19			—	1.54	1.44	0.03	N-63°-E	9 C前
137	I19			楕円形	1.39	1.01	0.21	N-3°-W	9 C後
138	I19			不整形	1.26	0.80	0.15	N-0	9 C前
139	I19			円形	1.25	1.09	0.11	N-0	9 C前
140	I19			不整形	1.32	0.62	0.15	N-21°-E	
141	I19			円形	1.32	1.30	0.12	N-90°-EW	
142	I19-20			楕円形	1.59	1.51	0.15	N-0	
143	I・J19			長方形	2.09	1.43	0.10	N-0	
144	I20			長方形	1.76	1.18	0.34	N-84°-E	
145	I20			不整形	2.32	0.98	0.20	N-63°-W	
146	I20			長楕円形	1.22	0.18	0.19	N-0	
147	I20			方形	1.80	1.58	0.25	N-47°-W	7 CI
148	I20			楕円形	3.05	1.40	0.16	N-47°-W	9 CIV
149	I19-20・J20			不整形	8.15	2.64	0.58	N-23°-W	6 C後・8 C後

番号	グリッド	新 遺 構	旧 遺 構	形 態	長軸長さ	短軸長さ	深 さ	長 軸 方 位	時 期
150	I 20			不 整 形	1.75	1.70	0.08	N-0	7 C III
151	I 20			楕 円 形	0.98	0.69	0.12	N-71'-W	
152	I 20			長 方 形	1.12	0.79	0.10	N-4'-W	
153	I 20			長 方 形	3.94	1.56	0.32	N-75'-E	
154	I 20・21			楕 円 形	1.68	0.98	0.10	N-75'-E	
155	J 13			円 形	1.14	1.07	0.26	N-74'-E	
156	J 13			不 整 形	0.85	0.80	0.08	N-57'-E	
157	J・K13・14			不 整 形	3.10	2.38	0.18	N-90'-EW	7 C III
158	J 14			円 形	1.39	1.25	0.19	N-0	8 C III
159	J13・14			円 形	1.63	1.60	0.14	N-0	
160	J14・15・16			長 方 形	15.79	4.38	0.78	N-89'-E	10 C III
161	J 15			円 形	0.78	0.71	0.13	N-89'-E	8 C II
162	J 16			円 形	0.95	0.87	0.20	N-0	
163	J 16			—	2.75	0.84	0.51	N-0	10 C III
164	J 16			不 整 形	1.45	0.45	0.21	N-46'-W	
165	J 17			円 形	0.70	0.60	0.30	N-70'-E	7 C III・8 C IV
166	J 17			不 整 形	1.11	0.89	0.16	N-0	9 C 後
167	J 18・19			楕 円 形	1.12	0.85	0.12	N-81'-E	8 C II
168	J 18			円 形	0.92	0.90	0.43	N-0	
169	J 18			楕 円 形	0.91	0.74	0.52	N-5'-E	
170	J 18			楕 円 形	1.46	1.28	0.38	N-28'-W	
171	J 18・19			円 形	1.50	1.47	0.05	N-90'-EW	
172	J・K18・19			楕 円 形	1.56	1.22	0.18	N-8'-E	
173	J 19			楕 円 形	1.34	0.78	0.50	N-19'-W	9 C II
174	J 19			—	0.99	0.60	0.17	N-0	8 C 後
175	J 19			楕 円 形	1.84	1.27	0.15	N-36'-E	
176	J 20			円 形	0.83	0.82	0.10	N-0	
177	J 20			不 整 形	1.97	1.03	0.12	N-38'-E	8 C II
178	J 20			円 形	1.14	0.95	0.16	N-90'-EW	
179	J 20			円 形	1.02	0.84	0.08	N-48'-E	
180	J 20			—	2.12	1.55	0.07	N-21'-E	8 C 後
181	J 20			方 形	1.12	1.06	0.66	N-0	8 C III
182	J 21			楕 円 形	1.32	0.94	0.07	N-81'-E	
183	J 21			長 方 形	1.16	0.90	0.08	N-68'-E	
184	J 21			—	2.40	(1.36)	0.16	N-12'-W	
185	J・K21			楕 円 形	(0.78)	0.79	0.10	N-62'-E	
186	J 23			不 整 形	2.70	1.04	0.18	N-50'-W	
187	K23			長 方 形	5.47	2.06	0.26	N-22'-W	
188	J 25			楕 円 形	1.20	0.91	0.20	N-73'-E	
189	K13			不 整 形	4.29	3.36	0.20	N-50'-W	
190	K・L13・14			不 整 形	2.78	0.95	0.10	N-0	
191	K14			円 形	0.82	0.72	0.19	N-35'-E	
192	K15			—	(0.85)	(0.34)	0.30	N-17'-W	
193	K15			長 方 形	1.04	0.74	0.37	N-89'-E	9 C II
194	K15			楕 円 形	2.35	1.62	0.18	N-90'-EW	9 C IV
195	K15			楕 円 形	2.04	1.35	0.05	N-90'-EW	
196	K15			円 形	0.90	0.85	0.25	N-72'-W	10 C 前
197	K15			円 形	1.36	1.21	0.04	N-90'-EW	10 C 後
198	K15			長楕円形	1.51	0.85	0.12	N-81'-E	
199	K16			—	1.45	0.94	0.23	N-14'-W	

番号	グリッド	新造構	旧造構	形 態	長軸長さ	短軸長さ	深 さ	長 軸 方 位	時 期
200	K・L17			不 整 形	(9.14)	6.44	0.79	N-71°-E	8 C III-9 C I
201	K18			—	2.47	(1.70)	0.23	N-84°-E	7 CIV
202	K18			円 形	1.43	1.25	0.21	N-90°-EW	8 C 前
203	K19			—	1.63	1.15	0.20	N-0	8 CIV
204	K19			不 整 形	1.37	0.91	0.12	N-73°-W	
205	K20			円 形	0.93	0.77	0.18	N-0	
206	K21			楕 円 形	1.08	0.82	0.22	N-80°-E	
207	K21			楕 円 形	1.25	0.82	0.14	N-76°-E	
208	K22			長 方 形	2.78	1.46	0.64	N-11°-W	
209	K・L22			長 方 形	3.38	1.32	0.48	N-73°-E	
210	K25			長楕円形	4.40	0.62	0.19	N-9°-W	
211	L13・14			楕 円 形	1.12	0.80	0.17	N-68°-W	6 CIV
212	L1314			楕 円 形	1.58	1.26	0.09	N-53°-W	
213	L13			不 整 形	1.20	1.11	0.25	N-12°-E	
214	L13			—	(1.08)	0.95	0.39	N-58°-E	7 C III
215	L13			不 整 形	1.41	0.86	0.18	N-46°-W	
216	L・M13			不 整 形	1.44	0.95	0.50	N-0	7 C III
217	L14			楕 円 形	1.36	0.97	0.16	N-55°-E	
218	L14			不 整 形	1.18	0.69	0.37	N-0	10C 後
219	L14			円 形	0.90	0.86	0.35	N-90°-EW	10C IV
220	L14			長 方 形	1.08	0.81	0.15	N-38°-W	
221	L14			不 整 形	3.35	2.64	0.32	N-30°-W	9 C 中
222	L14			不 整 形	1.92	1.90	0.12	N-0	
223	L14・M14・15			不 整 形	(4.12)	2.91	0.33	N-30°-W	8 C III
224	L15			方 形	0.87	0.75	0.39	N-0	
225	L15			方 形	1.33	1.18	0.10	N-31°-W	
226	L15			不 整 形	0.84	0.79	0.22	N-1°-W	
227	L15			方 形	0.74	0.67	0.02	N-7°-W	
228	L15			円 形	0.82	0.79	0.40	N-3°-E	9 CIV
229	L15			円 形	0.83	0.79	0.12	N-89°-W	
230	L15			長 方 形	1.30	0.73	0.04	N-53°-E	9 C 後
231	L15			長 方 形	2.12	1.42	0.15	N-38°-W	
232	L15			方 形	1.71	1.58	0.04	N-72°-E	
233	L15			楕 円 形	1.16	0.75	0.24	N-66°-E	8 C II
234	L・M15		SD10	長 方 形	2.34	1.45	0.11	N-0	10C IV
235	L・M15			円 形	0.69	0.68	0.20	N-84°-E	9 C 後
236	L・M15・16			不 整 形	3.07	2.57	0.58	N-90°-EW	
237	L16			楕 円 形	2.50	1.36	0.12	N-0	9 CIV
238	L16			不 整 形	(4.60)	3.00	0.33	N-15°-W	
239	L16			—	(3.55)	(1.20)	0.03	N-59°-E	7 CIV
240	L・M16			不 整 形	6.82	3.72	0.55	N-13°-E	8 C III-9 C I
241	L・M16			楕 円 形	2.35	1.86	0.14	N-0	
242	L16			—	(2.72)	2.73	0.44	N-33°-E	
243	L17			方 形	1.32	1.00	0.19	N-50°-W	
244	L・M17			長 方 形	1.97	0.92	0.08	N-45°-E	
245	L18			楕 円 形	1.76	1.32	0.28	N-13°-W	8 C II
246	L・M18			長 方 形	1.62	1.21	0.16	N-15°-W	
247	L19			楕 円 形	1.65	1.12	0.23	N-20°-W	
248	L19			楕 円 形	1.43	0.83	0.20	N-0	
249	L19			長 方 形	1.83	0.75	0.17	N-0	10C IV

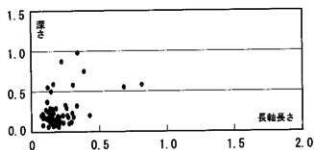
番号	グリッド	新 道 構	旧 道 構	形 態	長軸長さ	短軸長さ	深 さ	長 軸 方 位	時 期
250	L20			方 形	1.60	1.22	0.13	N-41°-W	
251	L21			長 方 形	2.74	1.56	0.12	N-24°-W	
252	L・M23			長 方 形	2.44	1.76	0.59	N-78°-E	
253	M13			方 形	1.34	1.30	0.38	N-0	
254	M13			長 方 形	1.06	0.68	0.42	N-0	
255	M13			不 整 形	1.62	0.74	0.59	N-14°-W	
256	M13・14			方 形	(1.46)	0.56	0.14	N-27°-E	
257	M13			円 形	0.69	0.67	0.20	N-90°-EW	9 C 後
258	M13			方 形	(0.92)	(0.58)	0.26	N-0	9 C 後
259	M13・14			不 整 形	0.89	0.88	0.19	N-58°-E	
260	M14			楕 円 形	0.94	0.75	0.11	N-38°-W	
261	M14			長 方 形	0.97	0.45	0.09	N-58°-E	9 C II
262	M14			楕 円 形	1.47	1.12	0.21	N-46°-E	
263	M14			楕 円 形	1.51	1.15	0.28	N-60°-W	
264	M14			円 形	1.00	0.93	0.07	N-90°-EW	7 C 中
265	M14			不 整 形	1.95	0.98	0.17	N-53°-W	7 C IV
266	M14			円 形	1.06	1.05	0.25	N-59°-W	10 C 後
267	M14			円 形	0.76	0.67	0.16	N-31°-E	9 C 前
268	M14			楕 円 形	2.29	1.68	0.22	N-0	9 C 前
269	M14・15			不 整 形	2.30	1.82	0.20	N-0	8 C II
270	M14			円 形	1.00	0.96	0.30	N-0	
271	M14			—	2.37	1.01	0.17	N-73°-E	
272	M14			円 形	0.74	0.72	0.08	N-45°-E	
273	M14			楕 円 形	1.44	1.10	0.16	N-35°-E	
274	M14			楕 円 形	1.01	0.87	0.20	N-0	
275	M14・15			長 方 形	1.05	0.71	0.17	N-0	
276	M14・15			不 整 形	1.15	0.95	0.37	N-1°-W	
277	M14			円 形	1.22	1.18	0.35	N-46°-W	8 C 後
278	M15			楕 円 形	0.96	0.66	0.04	N-52°-W	
279	M14・15	S K31・S K32	S K30	—	3.37	(2.55)	0.43	N-0	8 C III
280	M15	S J10・S K31	S K30	—	0.96	(0.56)	0.43	N-0	10 C I
281	M15	S K33	S K30	—	(1.78)	(0.90)	0.35	N-90°-EW	
282	M15		S K32	—	(0.83)	0.76	0.22	N-90°-EW	
283	M15			長 方 形	1.18	0.76	0.09	N-76°-W	
284	M15			—	1.52	1.07	0.10	N-16°-E	
285	M15			楕 円 形	2.12	1.47	0.25	N-0	
286	M15			楕 円 形	1.91	1.60	0.09	N-0	8 C III
287	M・N15			円 形	0.90	0.85	0.09	N-90°-EW	9 C 前
288	M17			円 形	1.41	1.41	0.23	N-90°-EW	
289	M18			長 方 形	0.74	0.40	0.07	N-48°-W	7 C 前
290	M18			不 整 形	1.38	1.06	0.16	N-90°-EW	
291	M18			長 方 形	3.64	0.96	0.34	N-54°-E	
292	M・N22			長 方 形	3.44	2.16	0.45	N-65°-W	
293	M23			長 方 形	2.10	1.17	0.54	N-17°-E	
294	M・N23			長 方 形	4.94	1.50	0.78	N-12°-W	
295	M・N24			長 方 形	3.96	0.92	0.54	N-8°-W	
296	M24			—	3.05	(1.99)	0.10	N-38°-W	
297	M24			方 形	2.26	2.00	0.30	N-84°-E	
298	N14			円 形	1.00	(0.94)	0.15	N-48°-W	10 C I
299	N14			長 方 形	1.58	1.25	0.25	N-79°-W	10 C II

番号	グリッド	新造構	旧造構	形 態	長軸長さ	短軸長さ	深 さ	長 軸 方 位	時 期
300-1	N14			楕 円 形	1.58	1.23	0.17	N-32°-W	7 C 前
301-2	N14			方 形	0.80	(0.50)	0.13	N-40°-W	
302-3	N14			楕 円 形	(1.16)	(0.56)	0.18	N-27°-W	
303-4	N14			長 方 形	1.17	(0.66)	0.20	N-40°-W	7 C I
304	N15			長 方 形	1.82	0.62	0.09	N-0	10 C I
305	N15			—	1.32	(0.73)	0.17	N-9°-E	
306	N15			円 形	2.50	2.50	0.22	N-0	7 C I
307	N15			円 形	1.18	1.08	0.21	N-90°-EW	9 CIV
308	N15			不 整 形	2.04	1.95	0.18	N-90°-EW	
309	N15			円 形	1.22	1.17	0.15	N-65°-W	10 C II
310	N15			—	1.68	(0.94)	0.22	N-0	
311	N15-16			不 整 形	2.00	1.70	0.06	N-0	
312	N・O15			—	1.68	0.66	0.22	N-16°-W	
313	N・O15			円 形	2.02	1.90	0.22	N-49°-W	
314	N15-16			楕 円 形	1.55	0.95	0.16	N-35°-E	7 C I
315	N16			—	1.25	(0.80)	0.05	N-0	
316	N・O17			円 形	1.47	1.29	0.28	N-90°-EW	
317	N18			楕 円 形	1.83	0.86	0.07	N-70°-E	
318	N19			不 整 形	1.43	1.04	0.20	N-51°-E	
319	N20			不 整 形	2.35	1.31	0.11	N-90°-EW	
320	N20			楕 円 形	1.00	0.73	0.05	N-36°-E	
321	N20			円 形	0.90	0.76	0.14	N-0	
322	N23			不 整 形	1.38	1.30	0.29	N-37°-W	
323	N23			楕 円 形	1.15	1.00	0.16	N-0	
324	N23			楕 円 形	1.07	0.97	0.30	N-41°-W	
325	N・O23			長 方 形	3.58	1.14	0.42	N-20°-W	
326	O13			円 形	0.69	0.61	0.22	N-65°-W	8 CIV
327	O13			不 整 形	0.73	0.46	0.20	N-68°-E	
328	O13			楕 円 形	0.79	0.47	0.37	N-25°-W	
329	O14			不 整 形	2.50	1.30	0.33	N-38°-E	10 C I
330	O15			長 方 形	1.00	0.76	0.03	N-0	
331	O15			方 形	0.60	0.59	0.31	N-0	9 C 後
332	O15			方 形	0.75	0.63	0.24	N-25°-E	
333	O15			不 整 形	1.79	1.36	0.15	N-18°-W	
334	O16			—	2.01	(1.88)	0.27	N-48°-W	10 C 前
335	O16			—	1.43	(0.90)	0.08	N-67°-E	
336	O16			楕 円 形	1.96	1.46	0.11	N-63°-E	
337	O16			楕 円 形	2.00	1.64	0.16	N-74°-E	
338	O16			—	1.39	(1.37)	0.18	N-70°-E	
339	O・P16			—	1.68	(1.23)	0.17	N-90°-EW	
340	O・P16			—	2.50	(1.74)	0.17	N-85°-E	
341	O・P16			—	(1.26)	(1.00)	0.10	N-20°-W	
342	O17			不 整 形	1.29	0.89	0.25	N-76°-W	
343	O17			楕 円 形	0.83	0.67	0.38	N-46°-W	
344	O18			長 方 形	1.96	1.38	1.50	N-0	
345	O18			不 整 形	1.62	1.37	0.13	N-47°-E	
346	O18			楕 円 形	0.75	0.47	0.07	N-70°-E	
347	O18			円 形	0.81	0.75	0.24	N-34°-W	
348	O18			円 形	0.82	0.75	0.07	N-0	
349	O18-19			—	2.13	1.06	0.14	N-30°-E	

番号	グリッド	新 造 構	旧 造 構	形 態	長軸長さ	短軸長さ	深 さ	長 軸 方 位	時 期
350	O19			楕 円 形	1.60	1.04	0.10	N-17°-E	7 CIV
351	O20			長 方 形	0.90	0.72	0.04	N-0	
352	O20			方 形	1.10	1.02	0.10	N-60°-W	
353	O・P20			—	(1.32)	(0.50)	0.21	N-55°-E	
354	O23			方 形	2.22	1.94	0.42	N-24°-W	
355	O・P25			長 方 形	4.10	2.51	0.58	N-8°-W	
356	O26			長 方 形	2.83	1.88	0.38	N-90°-EW	
357	O26			—	1.23	(0.58)	0.27	N-14°-W	
358	P13			楕 円 形	1.59	(1.17)	0.31	N-81°-E	9 C 後
359	P13			長 方 形	2.38	(1.88)	0.28	N-75°-E	8 C II
360	P13			—	1.28	(0.79)	0.36	N-0	
361	P・Q13			不 整 形	1.62	0.94	0.17	N-81°-W	7 C 前
362	P13			楕 円 形	0.95	0.65	0.17	N-43°-E	
363	P・Q13			円 形	1.05	0.94	0.38	N-44°-W	
364	P14			—	1.50	(0.78)	0.10	N-57°-E	
365	P14			楕 円 形	1.53	1.28	0.21	N-20°-E	7 C III
366	P14			方 形	1.12	1.06	0.32	N-85°-E	
367	P14			方 形	1.34	1.22	0.34	N-17°-W	
368	P14			方 形	1.29	1.17	0.15	N-0	6 CIV
369	P14			不 整 形	1.28	1.18	0.18	N-0	6 CIV
370	P・Q14・15			円 形	1.91	1.70	0.25	N-7°-W	
371	P15			—	2.24	1.11	0.61	N-8°-W	8 C 後
372	P15			長楕円形	1.85	0.82	0.07	N-65°-E	9 C 前
373	P・Q15			楕 円 形	1.14	0.92	0.34	N-54°-E	8 C 後
374	P・Q15			—	1.74	1.72	0.06	N-39°-E	7 C III・8 CIV
375	P16			長 方 形	1.28	1.05	0.05	N-61°-E	
376	P16			—	1.12	0.87	0.25	N-20°-W	
377	P16			円 形	1.15	1.01	0.21	N-90°-EW	10 C I
378	O・P17			—	(2.13)	(1.29)	0.67	N-48°-W	
379	O・P17			楕 円 形	0.69	0.54	0.15	N-34°-W	
380	P19			—	(1.06)	0.72	0.14	N-14°-W	
381	T19			楕 円 形	2.24	1.40	0.18	N-40°-E	
382	P24			方 形	2.28	1.72	0.52	N-15°-W	
383	P24			長 方 形	4.08	1.96	0.38	N-19°-W	
384	P24・25			長 方 形	6.84	1.26	0.52	N-19°-W	
385	P24			長 方 形	3.04	1.94	0.34	N-20°-W	
386	P24			長 方 形	3.17	2.02	0.56	N-24°-W	
387	P・Q24			長 方 形	3.80	2.10	0.40	N-20°-W	
388	P・Q24			長 方 形	3.29	1.97	0.36	N-20°-W	
389	P・Q24			長 方 形	3.32	1.97	0.46	N-15°-W	
390	P・Q24			長 方 形	4.32	1.60	0.46	N-16°-W	
391	P・Q24			長 方 形	5.00	1.30	0.49	N-22°-W	
392	P25			長 方 形	2.90	1.45	0.73	N-72°-E	
393	P25・26			長 方 形	2.64	1.50	0.74	N-16°-W	
394	P25			長 方 形	3.19	1.94	0.50	N-17°-W	
395	P・Q25			長 方 形	3.34	2.12	0.52	N-20°-W	
396	Q13			不 整 形	1.37	1.18	0.27	N-58°-E	7 CIV
397	Q13			楕 円 形	1.00	0.95	0.12	N-62°-E	
398	Q13			円 形	0.82	0.66	0.27	N-60°-E	
399	Q13			円 形	0.85	0.75	0.49	N-74°-E	10 C 後

番号	グリッド	新 遺 構	旧 遺 構	形 態	長軸長さ	短軸長さ	深 さ	長 軸 方 位	時 期
400	Q14			方 形	1.15	1.07	0.23	N-0	9 C IV
401	Q14・15			円 形	1.80	1.55	0.46	N-90°-EW	8 C III
402	Q14			長 方 形	2.04	0.87	0.19	N-26°-W	8 C III
403	Q14			長 方 形	1.71	1.04	0.25	N-87°-W	
404	Q14			方 形	1.98	1.50	0.21	N-18°-W	
405	Q14・15			槽 円 形	2.54	1.99	0.28	N-90°-EW	9 C 後
406	Q15			不 整 形	1.24	0.30	0.06	N-70°-E	
407	Q16			長 槽 円 形	1.95	1.05	0.05	N-60°-W	
408	Q17			—	(0.59)	0.52	0.13	N-73°-W	
409	Q・R17			槽 円 形	1.81	1.57	1.15	N-0	9 C 後
410	Q18			円 形	0.94	0.90	0.16	N-0	8 C 後
411	Q18			長 方 形	2.95	1.64	0.60	N-17°-W	
412	Q18			—	1.15	(0.80)	0.19	N-50°-E	
413	Q2021			円 形	0.94	0.90	0.11	N-90°-EW	
414	Q21			長 方 形	2.62	1.26	0.85	N-0	
415	Q24			長 槽 円 形	4.95	1.29	0.48	N-24°-W	
416	Q24			—	(2.00)	1.55	0.48	N-6°-W	
417	Q24			長 槽 円 形	2.33	0.99	0.19	N-21°-W	
418	Q24・25			長 方 形	4.56	2.76	0.48	N-17°-W	
419	Q25			長 槽 円 形	3.41	1.11	0.23	N-24°-W	
420	R13・14			長 槽 円 形	1.92	1.00	0.15	N-33°-W	
421	R17			—	(1.21)	(1.10)	0.03	N-62°-W	
422	R23			方 形	1.28	1.02	0.22	N-43°-E	
423	R・S23			長 槽 円 形	2.18	0.67	0.19	N-59°-E	
424	R24			方 形	(1.94)	1.84	0.92	N-0	
425	R25・26			長 槽 円 形	1.40	0.81	0.20	N-69°-E	
426	R26			槽 円 形	1.79	1.06	0.15	N-82°-W	
427	S14			不 整 形	2.46	1.24	0.50	N-73°-W	
428	S14・15			—	—	—	0.25	—	
429	S15			槽 円 形	0.82	0.74	0.30	N-90°-EW	8 C 前
430	S15			槽 円 形	1.15	1.03	0.15	N-90°-EW	
431	S15			—	1.30	(1.00)	0.09	N-0	
432	S・T15			長 方 形	2.47	2.05	0.15	N-68°-W	
433	S16			不 整 形	(3.81)	0.95	0.22	N-40°-E	
434	S16			槽 円 形	1.86	1.21	0.08	N-31°-E	
435	S16			長 方 形	3.31	0.75	0.19	N-39°-E	
436	S16			長 方 形	3.80	1.50	0.93	N-72°-W	
437	S16			不 整 形	(2.10)	1.36	0.26	N-53°-W	10 C IV
438	S・T16			円 形	1.44	(1.16)	0.15	N-7°-E	
439	S・T16・17			長 方 形	4.56	2.08	0.53	N-78°-W	8 C 後
440	S17			円 形	0.71	0.64	0.40	N-19°-W	
441	S17			円 形	1.05	1.01	0.70	N-75°-W	8 C I
442	S17			不 整 形	1.35	0.64	0.05	N-90°-EW	
443	S17			—	1.19	—	0.09	N-76°-W	
444	S17			槽 円 形	1.12	0.84	0.06	N-55°-W	
445	S18			槽 円 形	1.20	0.74	0.08	N-75°-W	
446	S19・20			槽 円 形	1.97	1.34	0.10	N-74°-E	
447	S19・20			長 槽 円 形	2.40	0.98	0.12	N-9°-E	
448	S・T20			不 整 形	4.10	2.70	0.16	N-79°-E	
449	S・T21			方 形	2.57	2.31	0.32	N-0	

番号	グリッド	新造構	旧造構	形 態	長軸長さ	短軸長さ	深 さ	長 軸 方 位	時 期
450	S22			長 方 形	1.58	0.83	0.31	N-2°-E	8 C II
451	T13・14			長 方 形	3.20	1.64	0.80	N-67°-W	
452	T14			長 方 形	4.89	1.62	0.56	N-70°-W	
453	T・U14			長 方 形	3.75	2.03	0.41	N-73°-W	
454	T15			楕 円 形	1.00	0.82	0.03	N-0	8 C 後
455	T15・16			楕 円 形	0.81	0.54	0.03	N-79°-W	
456	T15・16			長 方 形	3.16	1.60	0.49	N-81°-W	
457	T15・16			長楕円形	1.62	0.72	0.09	N-69°-W	
458	T16			不 整 形	1.16	0.96	0.03	N-52°-E	
459	T・U16			楕 円 形	1.68	0.93	0.20	N-64°-W	
460	T19			円 形	1.08	0.96	0.08	N-78°-W	
461	T19			長 方 形	1.73	1.10	0.20	N-40°-E	
462	T20			長 方 形	2.30	1.22	0.46	N-48°-W	
463	U・V14			長 方 形	4.92	2.96	0.28	N-30°-E	
464	U15			—	2.17	1.94	0.14	N-72°-W	
465	U15			円 形	1.20	1.07	0.14	N-90°-EW	
466	U15			方 形	0.72	0.61	0.09	N-42°-E	9 C 前
467	U15			楕 円 形	0.66	0.40	0.15	N-89°-E	
468	U15・16・V15			方 形	3.18	2.96	0.16	N-4°-W	
469	U16			円 形	1.34	1.20	0.08	N-79°-E	
470	U16			—	(2.00)	(0.80)	0.08	N-65°-W	
471	U16・17			—	(2.18)	1.12	0.16	N-48°-W	
472	U16			—	(1.10)	(0.40)	0.03	N-76°-W	
473	U22			—	(2.97)	1.02	0.06	N-45°-E	
474	U26			円 形	0.71	0.72	0.12	N-8°-W	
475	U27・28			円 形	1.76	1.73	0.19	N-72°-E	
476	V15・16			円 形	3.65	3.15	0.15	N-87°-E	
477	V17			長 方 形	1.28	1.02	0.23	N-81°-W	
478	V17			長楕円形	3.46	1.44	0.42	N-83°-E	7 C IV
479	V17・18			長楕円形	3.17	1.60	0.30	N-75°-W	
480	V18			—	1.75	(1.44)	0.05	N-90°-EW	
481	V・W18		S J 22	長 方 形	3.75	0.88	0.47	N-74°-W	
482	V23			—	(2.16)	1.30	0.30	N-90°-EW	
483	V23			—	(2.05)	(1.26)	0.47	N-16°-E	
484	V・W23			—	(1.75)	0.96	0.20	N-62°-W	
485	W20			長楕円形	4.97	1.33	0.58	N-77°-W	
486	W20			—	(1.35)	0.55	0.18	N-28°-E	
487	W20			長 方 形	2.83	1.71	0.12	N-65°-W	
488	W21・22			長 方 形	2.40	1.10	0.34	N-32°-E	
489	W22			—	1.58	1.18	0.17	N-26°-W	8 C 後
490	W23			—	0.74	(0.54)	0.22	N-58°-W	
491	W23・24			長 方 形	3.88	1.75	0.75	N-66°-E	
492	W23			—	(1.32)	1.13	0.16	N-79°-E	
493	W・X23			長 方 形	2.64	1.31	0.20	N-8°-W	
494	X20	S K 3		円 形	0.67	0.63	0.33	N-30°-E	
495	X21	S J 360	S J 21	長楕円形	1.16	0.62	0.50	N-31°-E	
496	X21			長楕円形	1.66	0.82	0.06	N-65°-E	
497	X27			—	1.26	(0.75)	0.11	N-75°-E	



第510図 不整形土壌の大きさ

(1) 特徴的な土壌

大多数の土壌は、遺物が少なく、性格の不明な土壌が多い。ここでは、遺物が出土したいくつかの土壌について個別に述べ、他は一覧表を参照していた
 だくこととする。

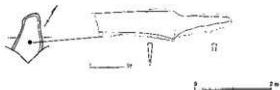
また覆土中に食器が、50片以上出土した土壌について、「覆土中遺物のデータ」を作成した。併せて述べることとする。

第56号土墙

調査区の西側、F-16グリッドに検出した。南半分は、第63住居跡に破壊されたため形状は不明である。

底面から鉄製の刀子が出土した。

構築時期は、9世紀前半である。



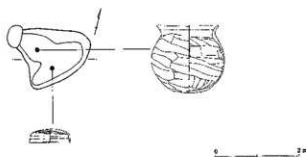
第511图 第56号土墙遗物出土位置

第75号土壤

調査区の中央の谷部に検出した。形状は、不整形である。北西隅には、楕円形の浅い掘り込みを確認した。灰褐色土に少量の炭化物を含む腐土であった。

底面から土師器の有段口縁環と壺が出土した。また、南西隅に木片が出土した。

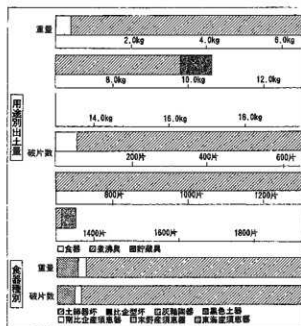
構築時期は、7世紀第Ⅲ四半期である。



第512图 第75号土壤遗物出土位置

第83号土壩

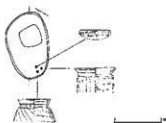
覆土中の土器のデータを掲載する。



第513図 第83号+埋覆土中漬物デ一夕

第91号土壤

調査区の中央、H-20グリッドに検出した。形状は、楕円形である。中央部は、第11号掘立柱建物跡の柱穴が破壊していた。



第514图 第91号土墙遗物出土位置

土壌の西隅から土師器の須恵器坏身模倣坏と2点の甕が、まとまって出土した。

構築時期は、7世紀第III四半期である。

第118号土壌

調査区の西側、1-14グリッドに検出した。形状は、楕円形である。

底面から、土師器の有段口縁坏が出土した。

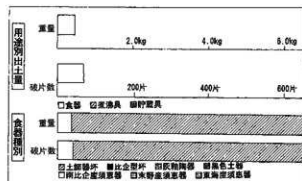
構築時期は、8世紀前半である。



第515図 第118号土壌遺物出土位置

第123号土壌

覆土中の土器のデータを掲載する。



第516図 第123号土壌覆土中遺物データ

第144号土壌

調査区の中央、谷部に検出した。形状は、長方形である。

底面から土師器の有段口縁坏が、2点出土した。2点とも正位の状態であった。また土壌の西隅からは、多量の種子(桃)がまとまって出土した。

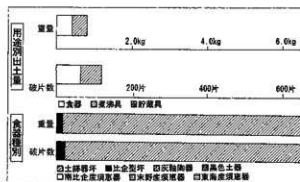
また覆土中の土器のデータを掲載する。

第147号土壌

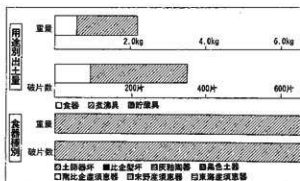
覆土中の土器のデータを掲載する。



第517図 第144号土壌遺物出土位置



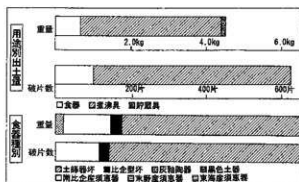
第518図 第144号土壌覆土中遺物データ



第519図 第147号土壌覆土中遺物データ

第149号土壌

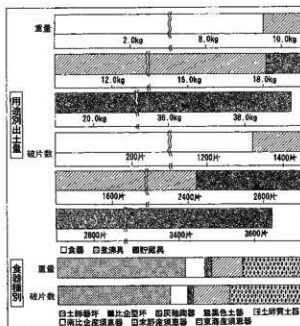
覆土中の土器のデータを掲載する。



第520図 第149号土壌覆土中遺物データ

第160号土壌

調査区の西側、J-14・15・16グリッドに検出した。第125号溝の北に位置する。形状は、長楕円形である。規模は、長軸15.79m・深さ4.38mである。北島遺跡第19地点で検出した土壌の中では最も大きい。覆土は、黄灰色粘土ブロック・炭化物を含む黒褐色土である。中央付近の底面からビットを多数検出した。



第521図 第160号土壌覆土中遺物データ

遺物は、多量に出土し、図示した遺物だけでも175点にのぼる。しかし当初は、溝と認識して調査したため、遺物の詳しい出土状況は確認しなかった。

10世紀後半の廃棄土壌と考えた。

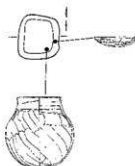
また覆土中の土器のデータを掲載する。

第181号土壌

調査区の中央部、J-20グリッドに検出した。谷部の直上であった。形状は、方形である。深さは、0.66mと深い。

底面から土師器の内屈口縁環と壺が出土した。

構築時期は、8世紀の第Ⅲ四半期である。

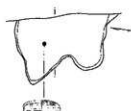


第522図 第181号土壌遺物出土位置

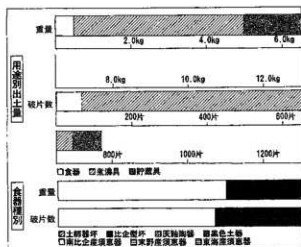
第184号土壌

調査区の中央、谷部に検出した。形状は、不整形である。北半分が、若干深く掘り込まれていた。覆土は、黄褐色粘土を多量に含んでいた。土壌の東側は、第55号溝に切られていた。

底面近くからは、須恵器の蓋が出土した。また、南半分からは、多量の土器の破片と自然石が出土した。



第523図 第184号土壌遺物出土位置



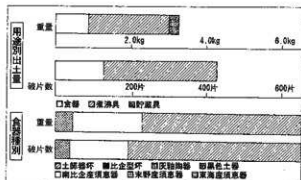
第524図 第184号土壌覆土中遺物データ

構築時期は、7世紀第III四半期である。

また覆土中の土器のデータを掲載する。

第189号土墳

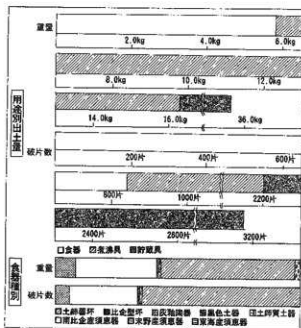
覆土中の土器のデータを掲載する。



第525図 第189号土墳覆土中遺物データ

第200号土墳

調査区の中央部、K-17グリッドに検出した。形状は、不整形である。深さは、6.44mと深い。底面は凹凸が激しく、土壌状の掘り込みがみられる。灰や炭化物・焼上を含む灰褐色土・黒褐色土を主体とした15層～32層を、焼上・炭化物を含む2層～8層、及び10層～14層が切っていた。東側は、第87号溝に



第526図 第200号土墳覆土中遺物データ

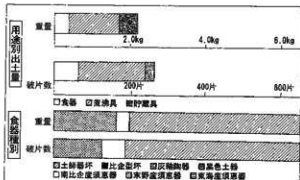
破壊されていた。

遺物は、覆土中から多量に出土した。図示しただけでも70点に上る。

8世紀後半から9世紀初頭の廃棄土壌と考えた。

第221号土墳

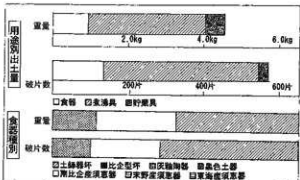
覆土中の土器のデータを掲載する。



第527図 第221号土墳覆土中遺物データ

第223号土墳

覆土中の土器のデータを掲載する。



第528図 第223号土墳覆土中遺物データ

第234号土墳

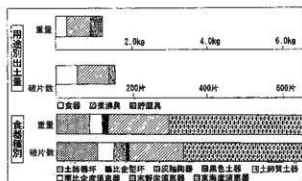
覆土中の土器のデータを掲載する。

第236号土墳

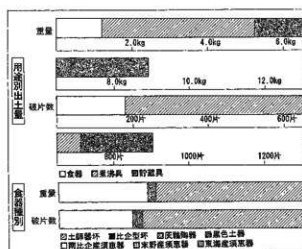
覆土中の土器のデータを掲載する。

第240号土墳

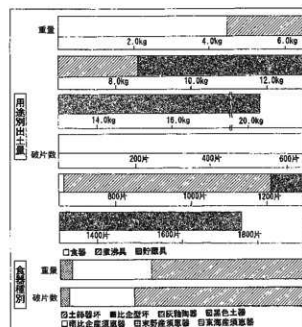
覆土中の土器のデータを掲載する。



第529図 第234号土壌覆土中遺物データ



第530図 第236号土壌覆土中遺物データ



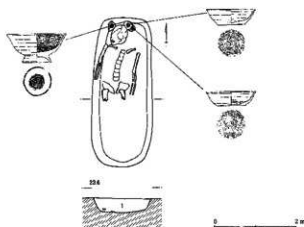
第531図 第240号土壌覆土中遺物データ

第249号土墳

調査区の中央部、L-19グリッドに検出した。形状は、長方形である。人骨と副葬品と推定した土器が、埋葬された墓墳である。

人骨は、上半身のみに検出した。頭部を北に向け、仰向けに横たわっていた。副葬品の土器は、3点出土した。頭蓋骨を取り囲むように出土した。土師質土器の杯が2点、黒色土器の高台付碗が1点である。また頭蓋骨の上層に、片岩礫が出土した。頭部を封じたのであろうか。

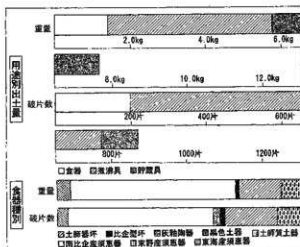
構築時期は、10世紀第IV四半期である。



第532図 第249号土墳遺物出土位置

第279号土墳

覆土中の土器のデータを掲載する。



第533図 第279号土墳覆土中遺物データ



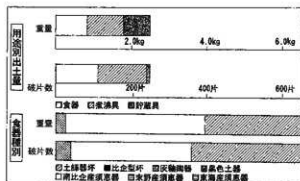
第534图 第279号土壤遺物出土位置

第285号土壤

調査区の西側、M-15グリッドに検出した。形状は、楕円形である。

底面から土師器の坏が出土した。

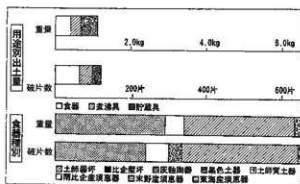
また覆土中の土器のデータを掲載する。



第535図 第285号土壌覆土中遺物データ

第299号土壩

覆土中の土器のデータを掲載する。



第536図 第299号土壌覆土中遺物デ一夕

第304号土壤

調査区の西側、N-15グリッドに検出した。形状は、長方形である。

中央やや北寄りの底面には、須恵器坏・土師質土



第537图 第299号土壤遺物出土位置

器坏が出土した。また北隅から須恵器の花瓶が出土している。

構築時期は、10世紀第Ⅰ四半期である。

第369号土壤

調査区の西側、P-14グリッドに検出した。形状は、不整形である。中央は、第238号清跡に破壊され、東側は、第370号土壌に切られていた。

底面からは、土師器の有段口縁坏が出土した。

構築時期は、6世紀第IV四半期である。



第538图 第369号土墙渣物出土位置

(2) 土壤出土遺物

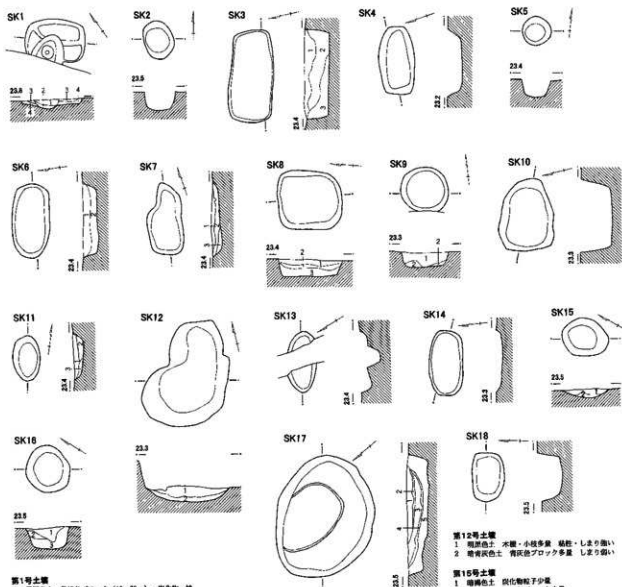
土壌から出土した遺物について以下、略述する。

第1号土罐出土遗物

第569図1は、土師器の有段口縁環である。口縁の段は、明瞭で沈線状である。底部は比較的厚い。利根川水系の原土が用いられている。7世紀第IV四半期。

第2号土墙出土遗物

第569図2は、須恵器の高台付埴である。高台は、粘土紐を付けた程度である。酸化炎焼成で軟質である。末野窯跡群の製品である。10世紀後半。



- 第1号土壌
1 黒褐色土 黄褐色ブロック (10~20mm)・炭化物・焼土粒子少量
2 黒褐色土 黄褐色ブロック (20~30mm) 多量 炭化物・焼土粒子少量
3 黒褐色土 黄褐色ブロック含む 炭化物・焼土粒子少量
4 暗褐色土 黄褐色ブロック含む 炭化物・焼土粒子少量

- 第3号土壌
1 暗灰褐色土 黄褐色シルトブロック多量
2 暗灰褐色土 黄褐色シルトブロック多量
3 暗褐色土 黄褐色シルトブロック・炭化物少量

- 第6号土壌
1 暗灰褐色土 黄褐色シルトブロック多量
2 暗褐色土 炭化物・黄褐色シルトブロック少量

- 第7号土壌
1 暗褐色土 浅褐色軽石ブロック多量

- 第8号土壌
1 暗灰褐色土 黄褐色シルトブロック少量
2 暗褐色土 炭化物少量
3 暗灰褐色土 炭化物少量

- 第9号土壌
1 暗灰褐色土 軽石 炭化物少量
2 黄褐色砂質土 炭化物少量

- 第11号土壌
1 暗灰褐色土 炭化物・黄褐色シルトブロック少量
2 暗褐色土 炭化物少量
3 暗灰褐色土 砂質土

- 第12号土壌
1 暗褐色土 木炭・小枝多量 結粒・しまり強い
2 暗褐色土 黄褐色ブロック多量 しまり強い

- 第15号土壌
1 暗褐色土 炭化物粒子少量
2 暗褐色土 黄褐色ブロック少量

- 第16号土壌
1 暗褐色土 黄褐色ブロック・白色火山灰粒子少量
2 暗褐色土 黄褐色ブロック多量
3 暗褐色土 黄褐色ブロック少量

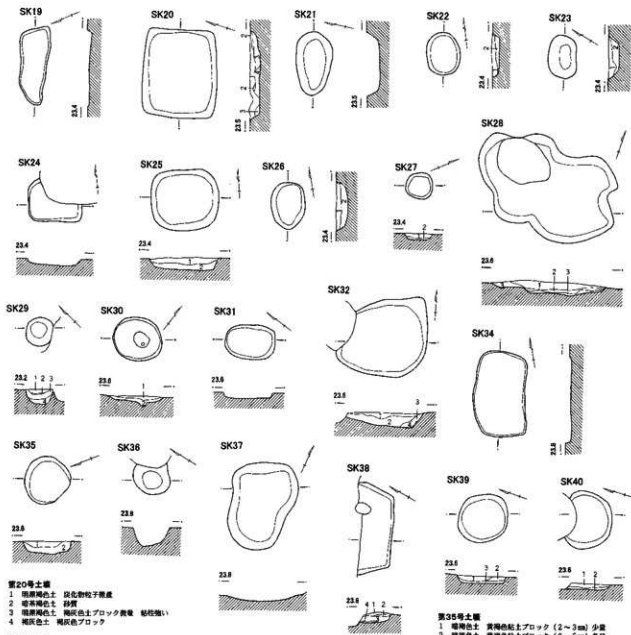
- 第17号土壌
1 暗灰褐色土 火山灰ブロック少量
2 暗褐色土 火山灰ブロック多量 炭化物少量
3 暗灰褐色土 黄褐色シルトブロック・炭化物少量
4 暗灰褐色土 炭化物少量
5 暗灰褐色土 炭化物少量

第539図 土壌(1)

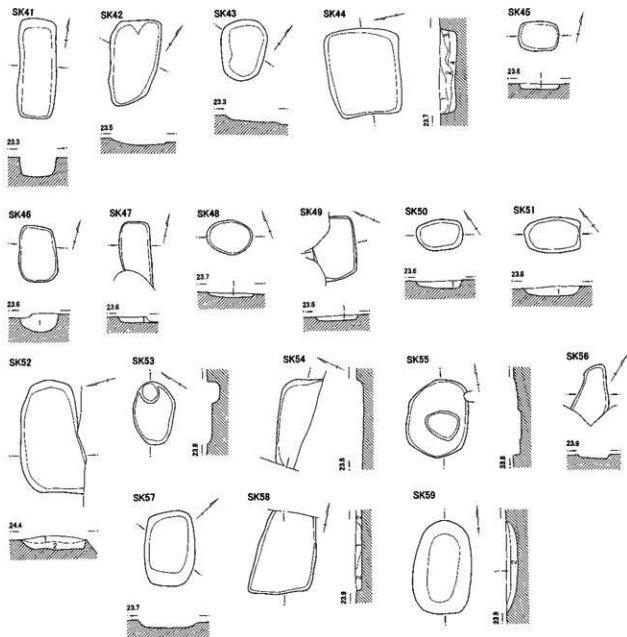
第7号土壌出土遺物

第569図3は、灰釉陶器の塚である。高台は低い三日月状で、底部はケズリ込みがみられる。内面には、

ハケ塗りによる施釉がみられる。東濃地方の製品で、光ヶ丘1号窯式である。9世紀第IV四半期。



第540図 土層(2)



第44号土壌

- 1 黄褐色土 粘土・炭化物・灰多量 しまりなし
- 2 黄褐色土 粘土・炭化物・灰多量 明灰褐色土ブロック含む しまりなし
- 3 明灰褐色土 炭化物・粘土・焼土・灰少量 暗灰色粘土多量
- 4 灰褐色土 明灰褐色土ブロック多量 炭化物・灰

第45号土壌

- 1 暗灰褐色土 炭化物・灰多量 灰層含む 暗灰褐色土ブロック含む

第46号土壌

- 1 暗灰褐色土 炭化物・灰多量 焼土・灰少量 灰しまりなし

第47号土壌

- 1 暗灰褐色土 炭化物・灰多量 焼土・灰少量 灰の層状堆積 しまりなし

第48号土壌

- 1 暗灰褐色土 炭化物・灰少量

第49号土壌

- 1 暗灰褐色土 炭化物・灰少量 明灰褐色土ブロック含む

第50号土壌

- 1 暗灰褐色土 炭化物・灰多量 焼土・灰少量 灰層含む しまりなし

第51号土壌

- 1 暗灰褐色土 炭化物・灰・灰

第52号土壌

- 1 黄褐色土 炭化物・灰多量 灰褐色土ブロック含む 黄褐色土少量
- 2 暗灰褐色土 炭化物・灰少量 暗灰褐色土多量

第58号土壌

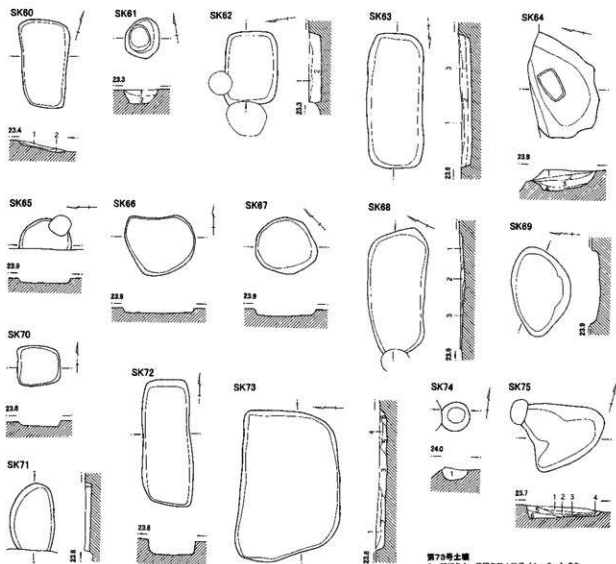
- 1 暗褐色土 灰白色砂粒子 (1mm)・黄褐色粘土ブロック (2~3mm) 少量
- 2 暗褐色土 灰白色砂粒子 (1mm) 少量 黄褐色粘土ブロック (2~5mm) 多量

第59号土壌

- 1 暗褐色土 炭化物多量 粘性強く粒子粗い
- 2 黄褐色土 粘性強く粒子粗い

0 2.0m

第541図 土壌(3)



第60号土壌

- 1 暗灰褐色土 炭化物・粘土粒子含む しまりあり
- 2 灰褐色土 炭化物・粘土粒子少量 しまりあり

第61号土壌

- 1 暗灰褐色土 炭化物粒子・黄褐色微細粒子少量
- 2 暗灰褐色土 炭化物粒子含む

第62号土壌

- 1 黒灰褐色土 炭化物・灰含む
- 2 暗灰褐色土 炭化物粒子少量 黄褐色粘土ブロック含む

第63号土壌

- 1 黒褐色土 炭化物・粘土・灰含む
- 2 暗灰褐色土 炭化物粒子・粘土粒子・黄褐色微細粒子少量
- 3 暗灰褐色土 炭化物・暗灰色粘土含む

第64号土壌

- 1 黒褐色土 炭化物 (1~2mm) まばら 黄褐色粘土粒子 (1~2mm) 含む
- 2 暗褐色土 黄褐色粘土ブロック (3~5mm) 少量 炭化物 (5~8mm) 微量 しまりなし
- 3 暗褐色土 黄褐色粘土ブロック (3~5mm)・粘土炭化物含む
- 4 暗褐色土 黄褐色粘土ブロック (3~5mm) 少量 粘性強い

第65号土壌

- 1 暗褐色土 黄褐色粘土ブロック (1~2mm) 少量
- 2 暗褐色土 黄褐色粘土ブロック (3~5mm) 少量
- 3 黄褐色土 黄褐色土 (10mm) 含む

第66号土壌

- 1 暗褐色土 炭化物・粘土ブロック少量 しまりあり
- 2 暗褐色土 炭化物少量 粘土ブロック含む しまりあり
- 3 砂質土
- 4 灰褐色土 炭化物・粘土少量 しまりあり
- 5 暗褐色土 炭化物・粘土ブロック少量 しまりあり
- 6 暗褐色土 炭化物少量 粘土ブロック含む しまりあり

第67号土壌

- 1 暗褐色土 炭化物・粘土ブロック少量 しまりあり
- 2 暗褐色土 炭化物少量 粘土ブロック含む しまりあり
- 3 砂質土
- 4 灰褐色土 炭化物・粘土少量 しまりあり
- 5 暗褐色土 炭化物・粘土ブロック少量 しまりあり
- 6 暗褐色土 炭化物少量 粘土ブロック含む しまりあり

第68号土壌

- 1 暗褐色土 炭化物・粘土ブロック少量 しまりあり
- 2 暗褐色土 炭化物少量 粘土ブロック含む しまりあり
- 3 砂質土
- 4 灰褐色土 炭化物・粘土少量 しまりあり
- 5 暗褐色土 炭化物・粘土ブロック少量 しまりあり
- 6 暗褐色土 炭化物少量 粘土ブロック含む しまりあり

第69号土壌

- 1 暗褐色土 炭化物・粘土ブロック少量 しまりあり
- 2 暗褐色土 炭化物少量 粘土ブロック含む しまりあり
- 3 砂質土
- 4 灰褐色土 炭化物・粘土少量 しまりあり
- 5 暗褐色土 炭化物・粘土ブロック少量 しまりあり
- 6 暗褐色土 炭化物少量 粘土ブロック含む しまりあり

第70号土壌

- 1 暗褐色土 炭化物・粘土ブロック少量 しまりあり
- 2 暗褐色土 炭化物少量 粘土ブロック含む しまりあり
- 3 砂質土
- 4 灰褐色土 炭化物・粘土少量 しまりあり
- 5 暗褐色土 炭化物・粘土ブロック少量 しまりあり
- 6 暗褐色土 炭化物少量 粘土ブロック含む しまりあり

第71号土壌

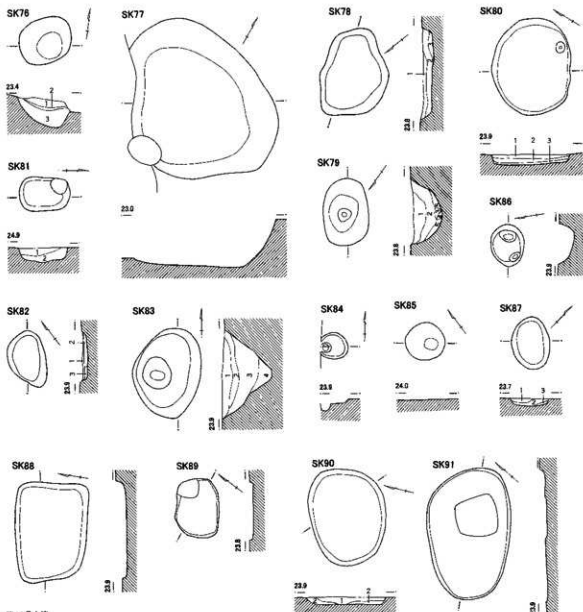
- 1 暗褐色土 炭化物・粘土ブロック少量 しまりあり
- 2 暗褐色土 炭化物少量 粘土ブロック含む しまりあり
- 3 砂質土
- 4 灰褐色土 炭化物・粘土少量 しまりあり
- 5 暗褐色土 炭化物・粘土ブロック少量 しまりあり
- 6 暗褐色土 炭化物少量 粘土ブロック含む しまりあり

第542図 土壌(4)

第28号土壌出土遺物

第569図4は、土師器の環である。薄い器壁の内湾口縁環である。利根川水系の原土が用いられている。

5は、須恵器の環である。還元化が進み硬質に仕上がっている。底部に「レ」またはチェックマークの銘書きがみられる。南比企窯跡群の製品である。



第76号土壌

- 1 暗褐色土 砂質粘土、粘り強い
- 2 黒色土 炭化物塊、粘り強い
- 3 黒褐色土 粘土質、粘り強い

第78号土壌

- 1 暗褐色土 砂質粘土・黄褐色粘土・黄褐色ブロック含む
- 2 黄褐色土 粘土質 黄褐色ブロック・黄褐色粘土含む
- 3 暗褐色土 黄褐色粘土・黄褐色ブロック含む

第79号土壌

- 1 褐色土 炭化物・粘土・黄褐色ブロック含む
- 2 暗褐色土 黄褐色粘土・粘土・黄褐色粘土含む
- 3 暗褐色土 粘土質
- 4 黄褐色土 粘土質・粘土・黄褐色粘土含む
- 5 黄褐色土 黄褐色粘土・粘土・黄褐色粘土含む

第80号土壌

- 1 暗褐色土 粘土・炭化物少量
- 2 暗褐色土 粘土・炭化物少量
- 3 暗褐色土 黄褐色シルトブロック少量

第81号土壌

- 1 暗褐色土 粘土・黄褐色粘土ブロック (2~3mm) まばら
- 2 暗褐色土 炭化物ブロック・粘土・黄褐色粘土ブロック少量

第82号土壌

- 1 暗褐色土 黄褐色粘土含む
- 2 暗褐色土 黄褐色粘土・黄褐色粘土含む
- 3 黄褐色土

第83号土壌

- 1 暗褐色土 粘土・炭化物 (0.5~1mm) 黄褐色粘土ブロック (2~3mm) 少量

- 2 暗褐色土 粘土・炭化物 (0.5~1mm) まばら 黄褐色粘土ブロック (5mm) 少量
- 3 暗褐色土 炭化物 (2~3mm) 黄褐色粘土ブロック (5~6mm) を全体に多量
- 4 暗褐色土 炭化物 (2~3mm) 黄褐色粘土ブロック (1~2mm) 多量

第87号土壌

- 1 暗褐色土 黄褐色粘土少量
- 2 暗褐色土 黄褐色粘土少量
- 3 黄褐色土 黄褐色粘土少量

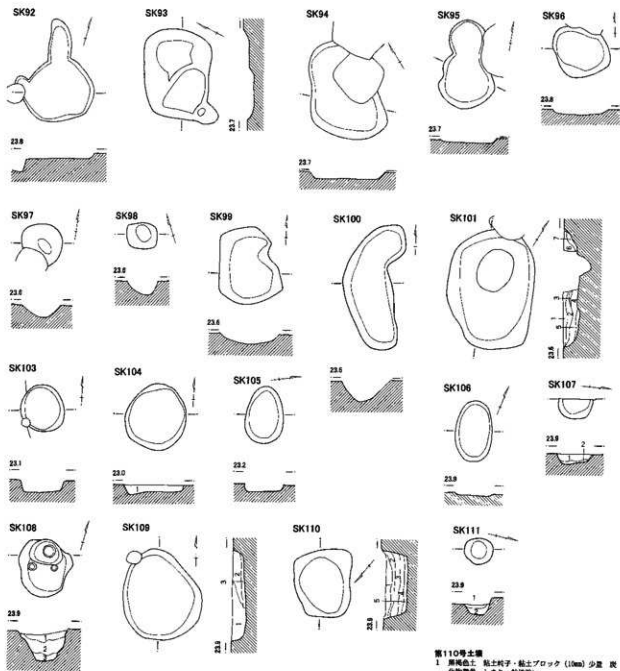
第90号土壌

- 1 暗褐色土 黄褐色粘土ブロック (5~6mm) 少量
- 2 暗褐色土 黄褐色粘土ブロック (2~3mm) 多量

第543図 土壌(5)

6は、土師器の裏である。いわゆる薄装である。
強いケズリ込みがみられる。利根川水系の原土が用

いられている。
7は、砥石である。



- 第101号土壌
- 1 褐色土 炭土多量 粘土粒く粘性強い
 - 2 褐色土 炭土含む 粘土に粘り
 - 3 黄褐色土 粘土に炭く粘土粒が少
 - 4 褐色土 炭土微量 粘土粒が少
 - 5 暗褐色土 砂を含む 粘土粒が少
 - 6 褐色土 炭土含む 粘土粒が少
 - 7 褐色土 炭土微量 粘土粒が少

- 第104号土壌
- 1 灰褐色土 炭化物少量 中・中・大の灰色粘土ブロック多量 しまりあり

- 第107号土壌
- 1 灰褐色土 炭土ブロック・黄褐色シルトブロック多量
 - 2 暗褐色土 炭土ブロック・黄褐色シルトブロック少量

- 第108号土壌
- 1 灰褐色土 黄褐色シルトブロック少量
 - 2 暗褐色土 炭化物少量 炭化物少量
 - 3 暗褐色土 炭化物・炭粉少量

- 第109号土壌
- 1 炭土
 - 2 暗褐色土 炭化物・炭土粒少量
 - 3 暗褐色土 黄褐色シルトブロック多量

- 第110号土壌
- 1 黄褐色土 粘土粒・粘土ブロック (10mm) 少量 炭化物微量 しまり・粘性強い
 - 2 暗褐色土 粘土粒・粘土ブロック (10mm) 多量 炭化物微量 しまり・粘性強い
 - 3 暗褐色土 粘土粒多量 粘土ブロック (10mm) 少量 炭化物微量 しまり・粘性強い
 - 4 暗褐色土 粘土粒多量 粘土ブロック (50mm) 多量 炭化物微量 しまり・粘性強い
 - 5 暗褐色土 粘土粒多量 粘土ブロック (30mm) 多量 炭化物微量 しまり・粘性強い

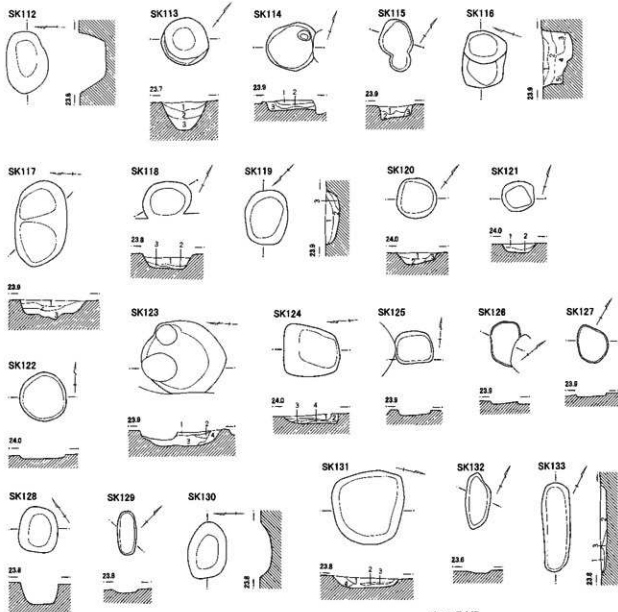
- 第111号土壌
- 1 黄褐色土 粘土粒少量
 - 2 黄褐色土 黄褐色シルトブロック多量

0 2 cm

第544図 土壌(6)

土師器の坏や甕、須恵器の坏から第28号土壌は、

8世紀第IV四半期と考えたい。



第113号土塊

- 褐色土 黄褐色粘土・炭化物含む
- 褐色土 黄褐色粘土・炭化物含む

第114号土塊

- 暗褐色土 粘土粒子・炭化物少量 粘土ブロック多量
しまり・粘性強い
- 暗褐色土 粘土粒子・粘土ブロック多量 炭化物少量
しまり・粘性強い
- 暗褐色土 粘土粒子・炭化物少量 粘土ブロック多量
しまり・粘性強い

第115号土塊

- 暗褐色土 粘土粒子・粘土ブロック (10mm)・炭化物
少量 しまり・粘性強い
- 暗褐色土 粘土粒子・粘土ブロック多量 炭化物少量
しまり・粘性強い
- 暗褐色土 粘土粒子・粘土ブロック多量 炭化物少
量 しまり・粘性強い

第116号土塊

- 暗褐色土 黄褐色シルトブロック・炭化物少量
- 褐色土 黄褐色シルトブロック多量 炭化物・粘土粒
子少量
- 暗褐色土 黄褐色シルトブロック・炭化物少量
- 暗褐色土 黄褐色シルトブロック多量 炭化物少量

- 暗褐色土 黄褐色シルトブロック・炭化物・粘土粒子
少量

第117号土塊

- 暗褐色土 炭土粒子・炭化物少量
- 暗褐色土 粘土粒子・炭化物・黄褐色シルトブロッ
ク少量
- 暗褐色土 黄褐色シルトブロック多量

第118号土塊

- 暗褐色土 炭分多量 黄褐色シルトブロック少量
- 暗褐色土 粘土ブロック・炭化物多量
- 暗褐色土 黄褐色シルトブロック多量

第119号土塊

- 暗褐色土 粘土粒子・炭化物少量
- 暗褐色土 黄褐色シルトブロック少量
- 暗褐色土 炭化物少量

第120号土塊

- 暗褐色土 粘土粒子少量
- 暗褐色土 黄褐色シルト粒子少量
- 暗褐色土 炭分多量

第121号土塊

- 暗褐色土 粘土粒子少量
- 暗褐色土 炭分粒子少量

第123号土塊

- 暗褐色土 粘土粒子 (5mm)・炭化物 (10mm) 少量
- 暗褐色土 黄褐色粘土ブロック (2~3mm) 多量 炭
化物 (3~6mm) 含む
- 黄褐色土 炭化物・炭・黄褐色粘土ブロック (5~8mm)
・粘土ブロック (5mm) まばら
- 粘土 粘土粒子 (1mm) 少量 黄褐色粘土ブロック
(3~5mm) 多量

第124号土塊

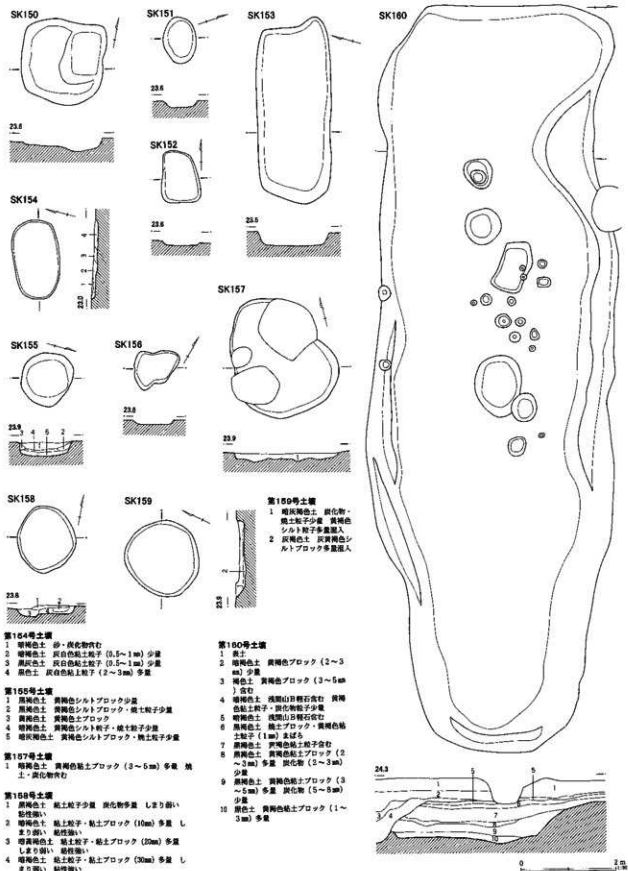
- 暗褐色土 粘土ブロック (3~5mm)・炭化物 (3~
5mm) 少量
- 暗褐色土 粘土ブロック (3~5mm)・炭化物 (3~
5mm) 多量
- 暗褐色土 黄褐色粘土ブロック (3~5mm) 多量
- 暗褐色土 炭・粘土・炭化物ブロック (3~5mm) 多
量

第131号土塊

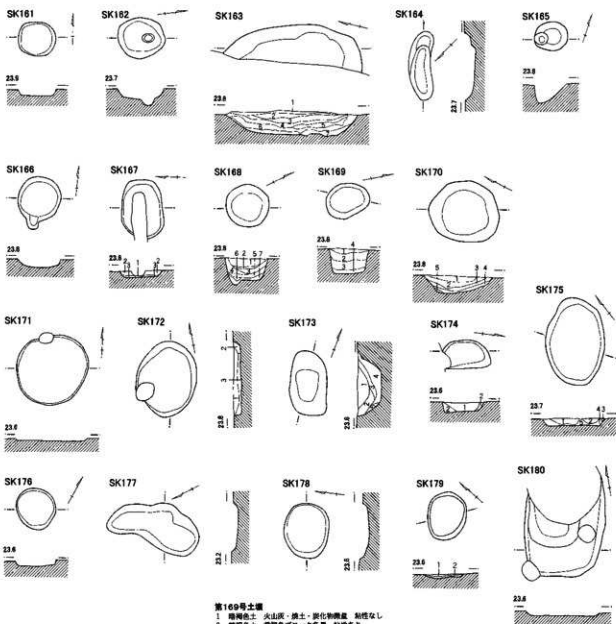
- 暗褐色土 黄褐色粘土粒子 (1~2mm) 炭土・
炭化物少量
- 暗褐色土 黄褐色粘土ブロック (3~5mm) まばら
粘土少量 炭化物多量
- 暗褐色土 黄褐色粘土ブロック (10mm) まばら 炭化
物少量
- 黄褐色土 黄褐色粘土ブロック (2~3mm) 少量

0 3m

第545図 土塊(7)



第547図 土壌(9)



第163号土壌

- 1 暗褐色土 日軽石粒子・黄褐色粘土ブロック (1~2mm) 含む 灰褐色
- 2 暗褐色土 黄褐色粘土ブロック (2~3mm)・炭化物 (5~8mm) 含む
- 3 黒褐色土 焼土 (5~8mm)・炭化物・灰多量
- 4 黒褐色土 黄褐色粘土ブロック (2~3mm) 含む 焼土・炭化物・灰多量
- 5 黒褐色土 焼土・炭化物・灰多量 粘性・しまりなし
- 6 黒褐色土 黄褐色粘土ブロック (2~3mm) 少量
- 7 暗褐色土 黒褐色土・黄褐色土含む 粘性あり

第167号土壌

- 1 暗褐色土 黄褐色粘土塊 粒子細かい
- 2 暗褐色土 焼土・炭化物・粘土粒子少量 しまりあり
- 3 灰褐色土 粘土ブロック少量

第168号土壌

- 1 暗褐色土 灰多量 炭化物・焼土少量 粘性なし
- 2 黒褐色土 灰多量 焼土・炭化物塊 粘性なし
- 3 暗褐色土 灰多量 炭化物・焼土塊 粘性強い
- 4 暗褐色土 ブロック少量 粘土塊 粘性強い
- 5 暗褐色土 黄褐色ブロック少量 粘性強い
- 6 灰褐色土 しまりあり 粘性強い
- 7 灰褐色土 しまりあり 粘性強い

第170号土壌

- 1 灰褐色土 火山灰・炭化物・粘土塊 粘性なし
- 2 暗褐色土 炭化物塊 黄褐色粘土含む 粘性強い
- 3 暗褐色土 炭化物・焼土塊 黄褐色粘土少量 粘性強い
- 4 黒褐色土 黄褐色ブロック少量 粘性強い
- 5 黒褐色土 黄褐色ブロック多量 粘性強い

第172号土壌

- 1 暗褐色土 火山灰・ブロック (5~10mm) 含む 粒子細かい
- 2 暗褐色土 粘土含む 粒子細かい
- 3 黄褐色土 灰褐色土・黄褐色土含む 粒子細かい

第173号土壌

- 1 黒褐色土 黄褐色粘土ブロック (3~5mm) まばら 炭化物多量
- 2 暗褐色土 黄褐色粘土ブロック (3~5mm) まばら
- 3 暗褐色土 黄褐色粘土ブロック (3~5mm) 多量 炭化物まばら
- 4 暗褐色土 黄褐色粘土ブロック (3~5mm) 少量 炭化物まばら
- 5 暗褐色土 黄褐色粘土ブロック (3~5mm) 多量

第174号土壌

- 1 暗褐色土 焼土・炭化物少量 粘土粒子含む しまりあり
- 2 灰褐色土 炭化物少量 粘土粒子多量 しまりあり

第175号土壌

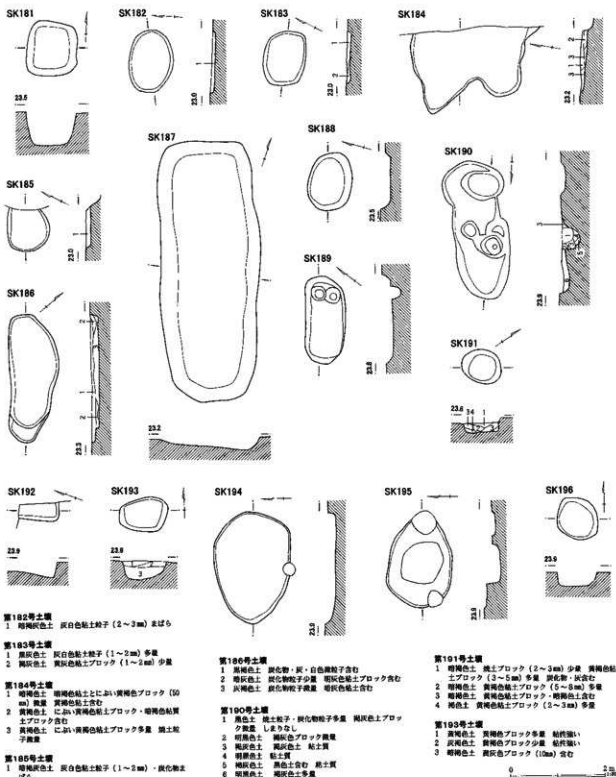
- 1 暗褐色土 焼土・炭化物・火山灰含む 黄褐色粘土ブロック少量 粒子細かい
- 2 暗褐色土 焼土・炭化物・火山灰含む 粘土塊
- 3 暗褐色土 粘土塊
- 4 暗褐色土 粘土塊
- 5 灰褐色土 焼土塊 粘土塊

第179号土壌

- 1 黄褐色土 黄褐色粘土ブロック (2~3mm) 多量 炭化物少量
- 2 黄褐色土 黄褐色土含む

0 2m

第548図 土壌(10)

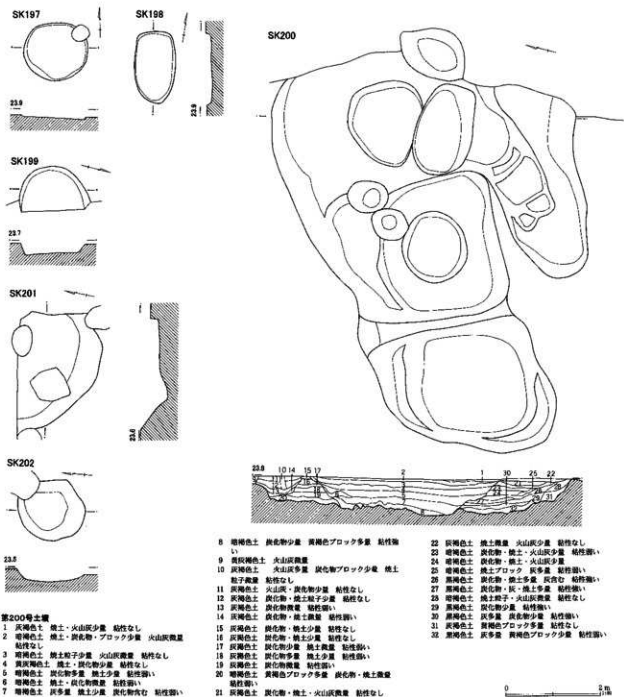


第549図 土城II

第29号土壌出土遺物

第569図 8 は、須恵器の坏である。底部の周辺を回転ヘラケズリしているが、ケズリ残しは、中心部の

ごく僅かな部分である。4回転削っている。良く還元化し、硬質に焼き上がっている。南北企業跡群の製品である。



第550図 土壌(10)

第31号土壌出土遺物

第569図9は、砥石である。

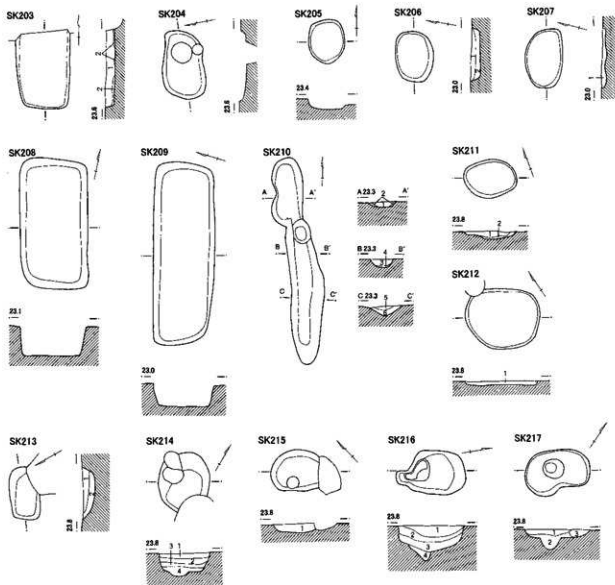
第42号土壌出土遺物

第569図10は、土師質土器の小皿である。器高の低い扁平な小皿で、器表はざらついている。利根川水

系の原土が用いられている。11世紀後半か。

第43号土壌出土遺物

第569図11は、須恵器の大甕である。還元化が進み、断面が小豆色に焼き上がっている。南北企鵝跡群の製品である。



第203号土壙

- 1 灰褐色土 灰化物・焼土粒子少量
- 2 黄褐色土 灰化物 焼土粒子含む

第209号土壙

- 1 暗褐色土 灰白色粘土粒子 (2~3mm) まばら
- 2 黄褐色土 灰白色粘土ブロック (2~3mm) まばら

第207号土壙

- 1 暗褐色土 灰白色粘土粒子 (2~3mm) まばら

第210号土壙

- 1 灰褐色土
- 2 灰褐色土 粘質土 灰化物微量
- 3 灰褐色土 灰
- 4 灰褐色土 粘質土
- 5 灰褐色土 粘質土 灰化物微量
- 6 灰褐色土 灰

第211号土壙

- 1 暗褐色土 黄褐色粘土・灰化粒子含む 粘柱微い
- 2 灰褐色土 砂質土 焼土粒子含む

第212号土壙

- 1 暗褐色土 白色火山灰痕 灰化物粒子少量 黄褐色土ブロック

第213号土壙

- 1 黄褐色土 焼土粒子・灰化粒子含む
- 2 黄褐色土 黄褐色粘土・灰化粒子含む

第214号土壙

- 1 黄褐色土 地山ブロック多量
- 2 黄褐色土 焼土粒子・灰化粒子含む
- 3 灰褐色土 灰褐色粘土ブロック多量
- 4 黄褐色土 灰褐色粘土ブロック・粒子含む

第215号土壙

- 1 黄褐色土 焼土粒子・灰化粒子含む

第216号土壙

- 1 暗褐色土 灰化粘土・焼土粒子少量 黄褐色土ブロック・白色火山灰(目録石)含む
- 2 暗褐色土 灰化粘土・灰土粒子微量 黄褐色土粒子少量
- 3 暗褐色土 灰化粘土粒子少量 暗褐色粘土ブロック含む
- 4 暗褐色土 灰化粘土粒子微量 暗褐色粘土多量 しまうなし

第217号土壙

- 1 黄褐色土 黄褐色粘土ブロック (3~5mm) 少量
- 2 黄褐色土 黄褐色粘土ブロック (10mm) 多量
- 3 黄褐色土 黄褐色土ブロック (8~10mm) 多量

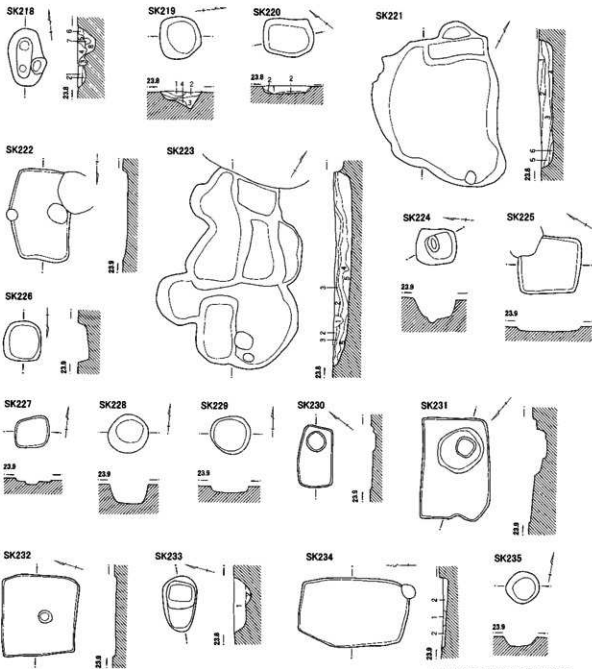
0 2cm

第551図 土壙(13)

第44号土壙出土遺物

第569図12~14は、須恵器の坏である。14の底部に

は、墨書が認められるが、判読できない。全て還元化が進まず淡い灰白色である。ただし硬質である。



第218号土窟

- 1 暗赤褐色土 焼土ブロック (10mm) 多量 しまり・粘性強い
- 2 灰褐色土 焼土粒子少量 しまり・粘性強い
- 3 赤褐色土 焼土ブロック (20mm) 多量 しまり強い 粘性強い
- 4 赤褐色土 焼土ブロック (10mm) 多量 しまり強い 粘性強い
- 5 黒色土 焼土粒子少量 しまり強い 粘性強い
- 6 灰褐色土 焼土粒子少量 しまり強い 粘性強い
- 7 黒色土 しまり強い 粘性強い
- 8 灰褐色土 焼土多量 しまり強い 粘性強い

第219号土窟

- 1 赤褐色土 灰化物焼土ブロック (10mm) 多量 しまり強い 粘性強い
- 2 灰褐色土 灰化物焼土ブロック (20mm) 少量 灰化物 しまり強い 粘性強い
- 3 黒色土 灰化物焼土ブロック (10mm) 少量 しまり強い 粘性強い

- 4 暗褐色土 灰化物焼土ブロック (20mm) 多量 しまり・粘性強い

第220号土窟

- 1 暗褐色土 黄褐色焼土粒子 (1~2mm) まばら
- 2 褐色土 黄褐色焼土ブロック (5~6mm) 多量

第221号土窟

- 1 褐色土 黄褐色シルトブロック多量 灰化物少量
- 2 暗褐色土 黄褐色シルトブロック 灰化物少量
- 3 暗褐色土 黄褐色シルトブロック 灰化物・焼土粒子少量
- 4 暗褐色土 灰白色シルトブロック少量
- 5 灰白色土 灰化物粒少量
- 6 黄褐色土 炭粉粒多量

第223号土窟

- 1 暗褐色土 焼土粒子・灰化物粒少量
- 2 灰褐色土 焼土粒子・灰化物粒多量
- 3 灰白色土 灰化物・灰粒子多量

- 4 暗褐色土 黄褐色シルトブロック多量
- 5 灰褐色土 黄褐色シルトブロック多量

第233号土窟

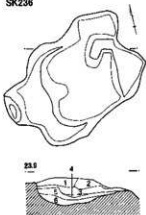
- 1 灰褐色土 焼土ブロック多量 灰化物少量 しまり・粘性あり
- 2 暗褐色土 焼土ブロック少量 灰化物・焼土粒子少量 しまり・粘性あり

第234号土窟

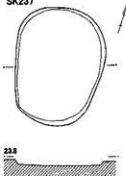
- 1 暗褐色土 黄褐色のブロック (焼土) 多量
- 2 暗褐色土 焼土粒子多量

0 2 4 6 8 10

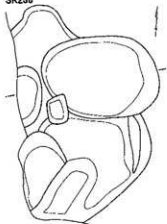
SK236



SK237



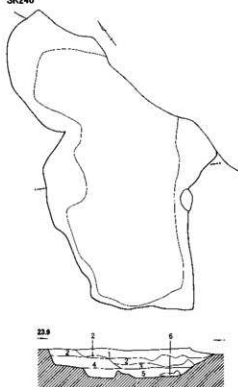
SK238



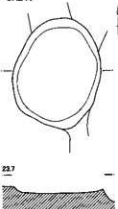
SK239



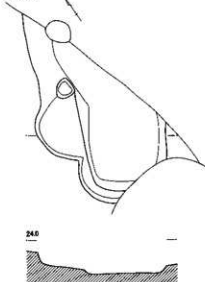
SK240



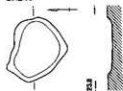
SK241



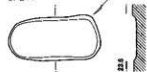
SK242



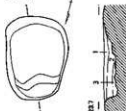
SK243



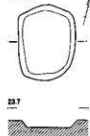
SK244



SK245



SK246



第236号土壌

- 1 暗褐色土 黄褐色粘土ブロック (2~5mm) まばら
- 2 暗褐色土 焼土・炭化物 (2~3mm) 少量
- 3 暗褐色土 黄褐色粘土ブロック (2~3mm) 炭化物 (3~5mm) 少量
- 4 暗褐色土 黄褐色粘土ブロック (10mm) まばら
- 5 暗褐色土 炭化物・焼土 (3~5mm) まばら
- 6 暗褐色土 灰・炭化物多量 しまりなし

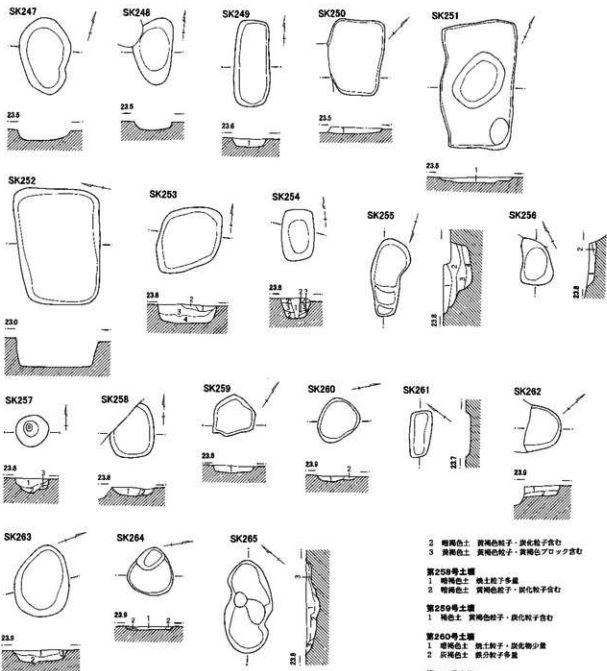
第240号土壌

- 1 暗褐色土 焼土・炭化物粒子 (1~2mm) まばら
- 2 暗褐色土 黄褐色粘土ブロック (20~50mm) 少量
- 3 暗褐色土 黄褐色粘土ブロック (8~10mm) まばら
- 炭化物多量
- 4 暗褐色土 黄褐色粘土ブロック (3~5mm) 少量 炭化物 (5mm) 多量
- 5 暗褐色土 黄褐色粘土ブロック (3~5mm) 多量 炭化物 (3~5mm) 少量
- 6 暗褐色土 黄褐色粘土ブロック (2~3mm) 少量 粘性強

第245号土壌

- 1 暗褐色土 火山灰 (目撃石?) まばら
- 2 暗褐色土 焼土粒子少量
- 3 黄褐色土

第553図 土壌⑨



第249号土堀

- 1 暗褐色土 黄褐色土及びオリブ褐色土ブロック多量 粘性あり

第250号土堀

- 1 暗褐色土 黄褐色粘土ブロック (3~5mm) 多量

第251号土堀

- 1 暗褐色土 黄褐色粘土ブロック (3~5mm) まばら

第253号土堀

- 1 暗褐色土 焼土粒子、炭化物粒子含む
- 2 黄褐色土 焼土粒子、炭化物粒子含む しまりあり
- 3 暗褐色土 黄褐色粘土、黄褐色土ブロック多量

第254号土堀

- 1 暗褐色土 焼土粒子、炭化物粒子多量 しまりなし
- 2 暗褐色土 焼土粒子、炭化物粒子、黄褐色土粒子少量

- 3 黄褐色土 焼土粒子、炭化物粒子少量 黄褐色土ブロック多量

第255号土堀

- 1 暗褐色土 焼土粒子、炭化物粒子、黄褐色土ブロック少量

第256号土堀

- 1 暗褐色土 焼土粒子少量 炭化物粒子少量 黄褐色土ブロック多量

第257号土堀

- 1 黄褐色土 炭化物粒子少量 暗褐色土ブロック含む

第258号土堀

- 1 暗褐色土 焼土粒子少量 炭化物粒子少量 黄褐色土ブロック多量

第259号土堀

- 1 暗褐色土 焼土粒子、炭化物粒子含む

第260号土堀

- 1 暗褐色土 焼土粒子、炭化物少量

第261号土堀

- 1 暗褐色土 炭化物少量

第262号土堀

- 1 暗褐色土 焼土粒子、炭化物少量

第263号土堀

- 1 暗褐色土 焼土粒子、炭化物少量

第264号土堀

- 1 暗褐色土 焼土粒子、炭化物少量

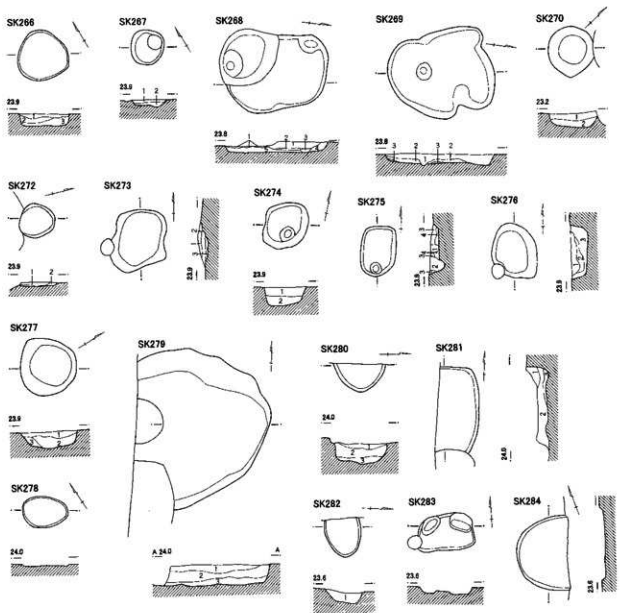
第265号土堀

- 1 暗褐色土 焼土粒子、炭化物少量

第266号土堀

- 1 暗褐色土 焼土粒子少量

第554図 土堀⑩



第266号土壌

- 1 暗褐色土 焼土ブロック、炭化物、白色粒子少量
- 2 黒褐色土 焼土粒子・炭化物、白色粒子少量
- 3 黒褐色土 黄褐色シルトブロック多量

第267号土壌

- 1 暗褐色土 黄褐色シルトブロック少量
- 2 黒褐色土 黄褐色シルトブロック多量

第268号土壌

- 1 黒褐色土 焼土粒子・炭化粒子含む しまり強い
- 2 黒褐色土 灰
- 3 暗褐色土 黄褐色粒子・炭化粒子含む
- 4 黄褐色土 黄褐色粒子・黄褐色ブロック多量
- 5 黄褐色土

第269号土壌

- 1 暗褐色土 焼土粒子・炭化粒子・黄褐色粒子含む
- 2 黄褐色土 黄褐色粒子・黄褐色ブロック含む
- 3 黄褐色土 黄褐色土含む しまりあり

第270号土壌

- 1 暗褐色土 黄褐色粒子ブロック含む
- 2 暗褐色土 焼土粒子含む しまり強い

第272号土壌

- 1 暗褐色土 焼土粒子少量

2 褐色土 黄褐色シルトブロック多量

第273号土壌

- 1 黄褐色土 焼土粒子・炭化粒子含む
- 2 黄褐色土 焼土粒子・炭化粒子含む しまりあり
- 3 暗褐色土 焼土粒子・炭化粒子含む しまり強い

第274号土壌

- 1 暗褐色土 黄褐色粒子・黄褐色ブロック多量 焼土粒子・炭化粒子少量
- 2 黄褐色土 黄褐色粒子少量 しまりあり

第275号土壌

- 1 暗褐色土 炭化物少量
- 2 黄褐色土 焼土ブロック・黄褐色シルトブロック少量
- 3 黄褐色土 炭化物少量
- 4 黄褐色土 黄褐色シルトブロック多量

第276号土壌

- 1 暗褐色土 炭化物・黄褐色シルトブロック少量
- 2 暗褐色土 黄褐色シルトブロック多量
- 3 灰褐色土 炭化粒子多量

第277号土壌

- 1 暗褐色土 焼土ブロック・焼土粒子多量
- 2 暗褐色土 焼土粒子・炭化物・黄褐色シルトブロック多量

3 暗褐色土 炭化物多量・焼土粒子少量

第279号土壌

- 1 黄褐色土 焼土粒子・炭化粒子少量 しまり強い
- 2 黄褐色土 焼土粒子・炭化粒子少量 しまり強い
- 3 黄褐色土 焼土粒子・炭化粒子を含む しまり強い

第280号土壌

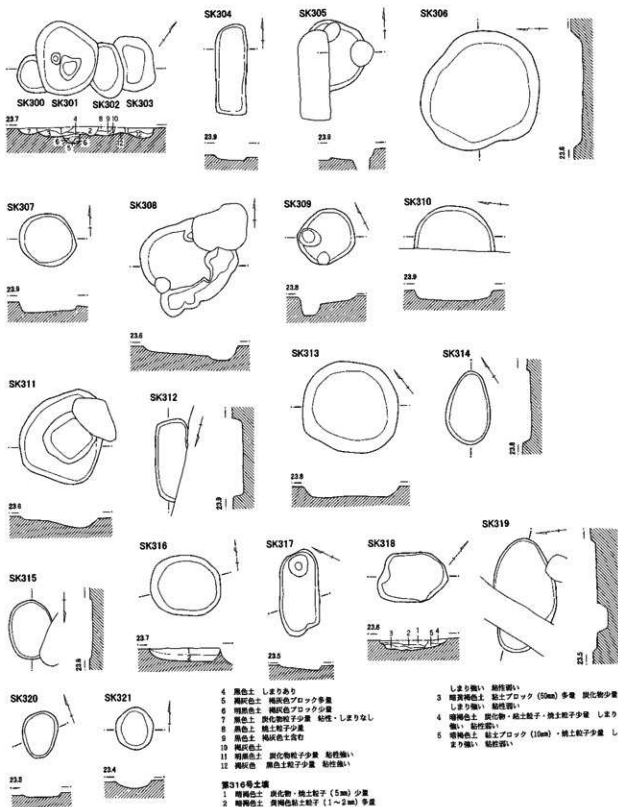
- 1 黄褐色土 焼土粒子・炭化粒子少量 粘性強い
- 2 黄褐色土 焼土粒子・炭化粒子少量 粘性強い
- 3 黄褐色土 黄褐色ブロック少量 粘性非常に強い

第281号土壌

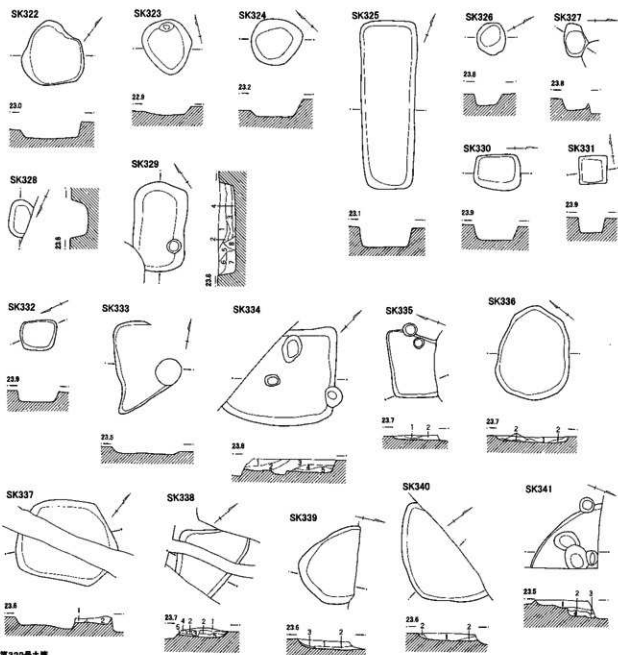
- 1 黄褐色土 焼土粒子少量
- 2 黄褐色土 焼土粒子・炭化粒子・黄褐色粒子 (2mm) 少量
- 3 黄褐色土 黄褐色粘土ブロック (5~25mm) 少量

第282号土壌

- 1 黄褐色土 焼土・炭化粒子多量



第557図 土壌(19)



第329号土壌

- 1 暗褐色土 焼土・炭化物 (3~5mm) 灰多量 黄褐色粘土ブロック少量
- 2 黒色土 炭化物少量 黄褐色粘土ブロック (1~2mm) 少量
- 3 暗褐色土 焼土・炭化物 (3~5mm) 少量 黄褐色粘土ブロック (5~8mm) 多量
- 4 暗褐色土 黄褐色粘土ブロック (3~5mm) まばら
- 5 暗褐色土 黄褐色粘土ブロック (10mm) 多量 炭化物 (5~8mm) 少量
- 6 暗褐色土 炭化物 (3~5mm) 少量 黄褐色粘土ブロック (3~5mm) まばら
- 7 暗褐色土 黄褐色粘土ブロック (10mm) まばら

第334号土壌

- 1 暗褐色土 焼土・炭化物・炭化物 (0.5mm) 多量
- 2 黒褐色土 黄褐色粘土ブロック (2~3mm) 多量
- 3 黒褐色土 黄褐色粘土ブロック (2~3mm) まばら
- 4 暗褐色土 黄褐色粘土ブロック (5~8mm) 多量
- 5 暗褐色土 黄褐色粘土ブロック (10mm) 多量

第335号土壌

- 1 暗褐色土 焼土・炭化物少量 しまり強い 粘性

- 2 暗褐色土 黄褐色粘土ブロック炭化物少量 しまり強い 粘性強い

第336号土壌

- 1 暗褐色土 黄褐色粘土ブロック (10mm) 少量 炭化物・焼土・炭化物少量 しまり強い 粘性強い
- 2 黄褐色土 黄褐色粘土ブロック (10mm) 炭化物少量 しまり強い 粘性強い

第337号土壌

- 1 暗褐色土 黄褐色粘土・炭化物 (1~2mm) を全体に多量に含む
- 2 暗褐色土 黄褐色粘土・炭化物 (1~2mm) をまばらに含む

第338号土壌

- 1 暗褐色土 焼土・炭化物を含む ブロックを含む
- 2 暗褐色土 ブロック (10mm) 多量 しまりあり
- 3 暗褐色土 ブロック (10mm) 少量 粘性強い
- 4 黄褐色土 粘土層がしみりなし 粘性強い
- 5 黒色土 ブロック (30mm) 多量 しまりあり

第339号土壌

- 1 暗褐色土 炭化物粘土ブロック少量 しまりあり
- 2 暗褐色土 炭化物少量 粘土ブロック少量 しまりあり
- 3 灰褐色土 粘土ブロック少量 しまりあり 粘性あり

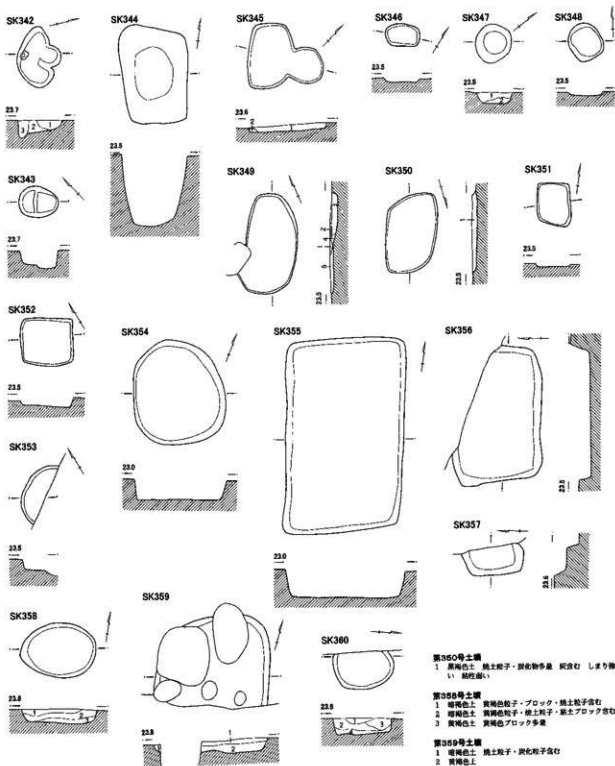
第340号土壌

- 1 暗褐色土 焼土・炭化物粘土ブロックを含む しまりあり
- 2 灰褐色土 黒色土ブロックを含む

第341号土壌

- 1 暗褐色土 焼土・炭化物少量 しまりあり
- 2 灰褐色土 粘土ブロック少量 しまりあり
- 3 暗褐色土 焼土・炭化物を含む しまりあり 粘性あり
- 4 灰褐色土 黒色土ブロックを含む しまりあり

0 2m



第342号土坑

- 1 暗褐色土 炭化物含む 粒子細かい 粘性強い
- 2 灰褐色土 粒子細かい 粘性強い
- 3 暗褐色土 炭化物・焼土含む 粒子細かい 粘性強い

第340号土坑

- 1 暗褐色土 黄褐色砂質土多量
- 2 黄褐色土 灰色粘質土含む

第347号土坑

- 1 暗褐色土 黄褐色砂質土ブロック少量
- 2 暗褐色土 黄褐色土ブロック多量

第349号土坑

- 1 黄褐色土 炭化物・灰・焼土粒子含む
- 2 黄褐色土 灰床
- 3 黄褐色土 黄褐色土ブロックまばら
- 4 黄褐色土
- 5 黄褐色土 灰色粘質土多量

第350号土坑

- 1 黄褐色土 焼土粒子・炭化物多量 灰含む しまり強い 粘性強い

第358号土坑

- 1 暗褐色土 黄褐色粘土・ブロック・焼土粒子含む
- 2 暗褐色土 黄褐色粘土・焼土粒子・灰土ブロック含む
- 3 黄褐色土 黄褐色土ブロック多量

第359号土坑

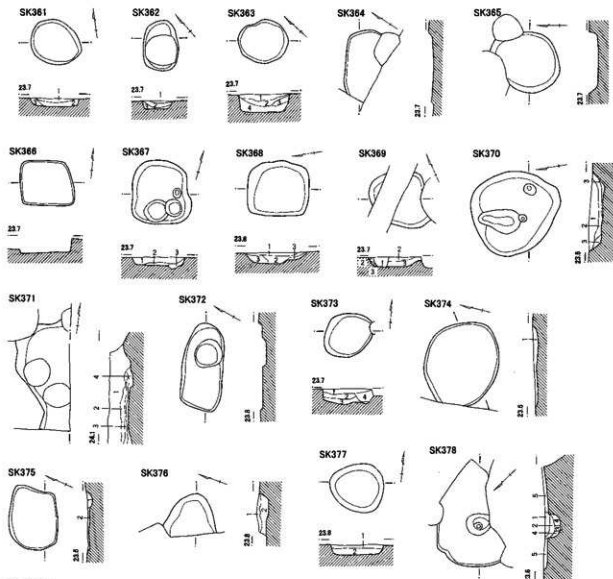
- 1 暗褐色土 焼土粒子・炭化物粒子含む
- 2 黄褐色土

第360号土坑

- 1 暗褐色土 砂礫石まばら 黄褐色粘土ブロック (2~3mm) 少量
- 2 黄褐色土 黄褐色粘土ブロック (3~5mm) まばら焼土・炭化物含む
- 3 暗褐色土 黄褐色粘土ブロック (1~2mm)・焼土・炭化物 (1~2mm) 少量
- 4 灰褐色土 黄褐色粘土ブロック (3~5mm) 少量 炭化物・灰多量

0 3m

第559図 土坑(2)



- 第361号土壌
1 褐色土 黄褐色粘土ブロック (3~5mm) 少量
2 褐色土 黄褐色粘土ブロック (3~5mm) 少量
3 黄褐色土 黄褐色粘土ブロック (3~5mm) 少量
灰む

- 第362号土壌
1 暗褐色土 砂礫石まばら 黄褐色粘土ブロック (2~3mm) 少量
2 暗褐色土 砂礫石まばら
3 暗褐色土 黄褐色粘土ブロック (3~5mm) 少量
4 暗褐色土 黄褐色粘土ブロック (3~5mm) 少量

- 第363号土壌
1 暗褐色土 砂礫石多量 黄褐色粘土ブロック (3~5mm) まばら
2 暗褐色土 黄褐色粘土ブロック (3~5mm) 多量
3 暗褐色土 黄褐色粘土ブロック (3~5mm) まばら
4 暗褐色土 黄褐色粘土ブロック (3~5mm) まばら

- 第367号土壌
1 暗褐色土 黄褐色粘土ブロック (5~8mm) まばら
2 暗褐色土 黄褐色粘土ブロック (5~8mm) 多量
3 暗褐色土 黄褐色粘土ブロック (3~5mm) 少量
4 暗褐色土 黄褐色粘土ブロック (3~5mm) 少量

- 第368号土壌
1 暗褐色土 灰化物、粘土、黄褐色粘土ブロック (3~5mm) まばら
2 暗褐色土 灰化物、粘土まばら 黄褐色粘土ブロック (5~8mm) 多量
3 黄褐色土 暗褐色土まばら

- 第369号土壌
1 暗褐色土 黄褐色粘土ブロック (2~3mm) 多量
2 暗褐色土 黄褐色粘土ブロック (5~8mm) まばら
3 暗褐色土 黄褐色粘土ブロック (8~10mm) 多量

- 第370号土壌
1 暗褐色土 黄褐色粘土ブロック (2~3mm) 粘土、灰化物 (1~2mm) 灰む
2 暗褐色土 黄褐色粘土ブロック (2~3mm) 少量 粘土、灰化物、灰多量
3 暗褐色土 黄褐色粘土ブロック (5~8mm) 多量

- 第371号土壌
1 暗褐色土 粘土、灰化物粘土多量 粘性強い
2 暗褐色 粘土、灰化物粘土多量 粘性強い
3 暗褐色土 灰化物

- 第373号土壌
1 暗褐色土 灰化物、粘土多量
2 暗褐色土 灰化物、粘土、灰多量
3 暗褐色土 灰化物、粘土まばら
4 暗褐色土 灰化物、粘土、黄褐色粘土ブロック (3~5mm) まばら

- 第374号土壌
1 暗褐色土 粘土、灰化物粘土 粘土ブロック少量
しまりあり 粘性強い

- 第375号土壌
1 暗褐色土 粘土、灰化物少量 粘土ブロック灰む、しまりあり
2 暗褐色土 粘土ブロック多量

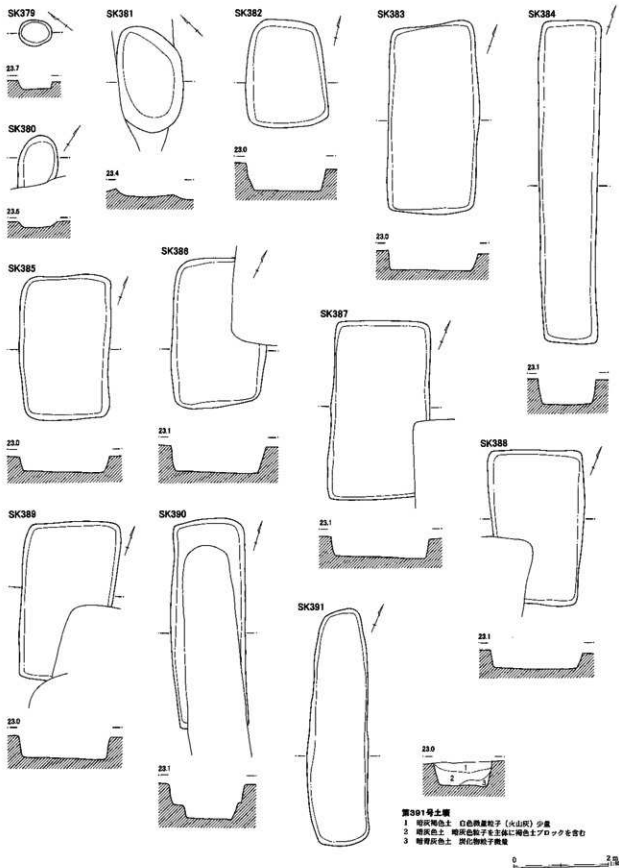
- 第376号土壌
1 黄褐色土 褐色ブロック少量 しまりあり
2 暗褐色土 粘土、灰化物まばら 粘土粘土少量 しまりあり

- 第377号土壌
1 褐色土 粘土の強い灰化物、粘土
2 褐色土 粘土の強い粘土の強い層

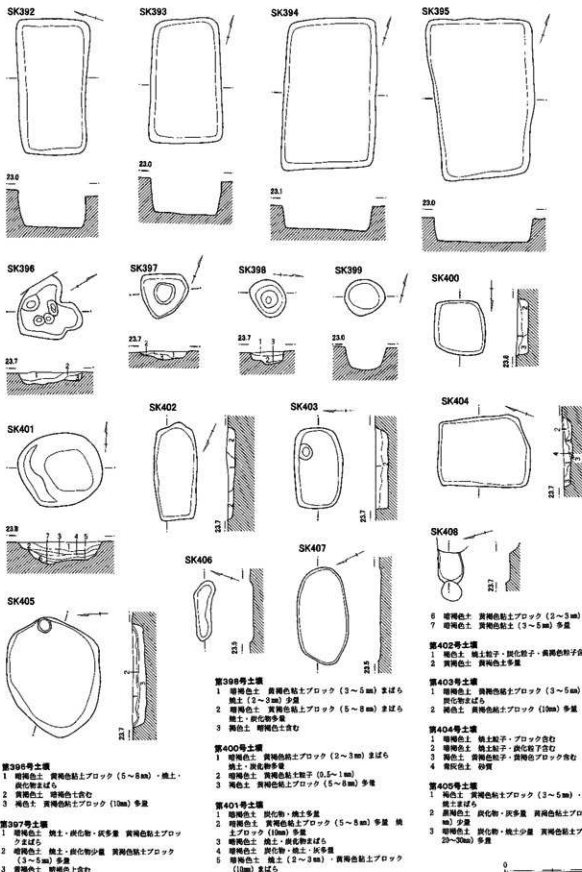
- 第378号土壌
1 暗褐色土 粘土、灰化物、粘土ブロック少量 しまりあり
2 暗褐色土 粘土、灰化物少量 粘土ブロック多量 しまりあり
3 暗褐色土 粘土粘土少量 しまりあり
4 暗褐色土 灰化物粘土 粘土ブロック多量 しまりあり
5 暗褐色土 粘土、灰化物少量 粘土ブロック多量 しまりあり

0 2m

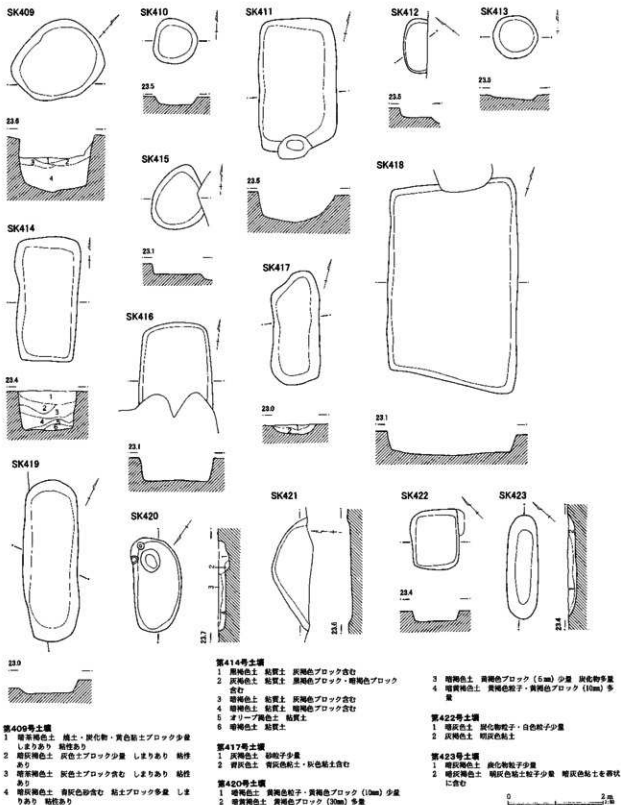
第560図 土壌切



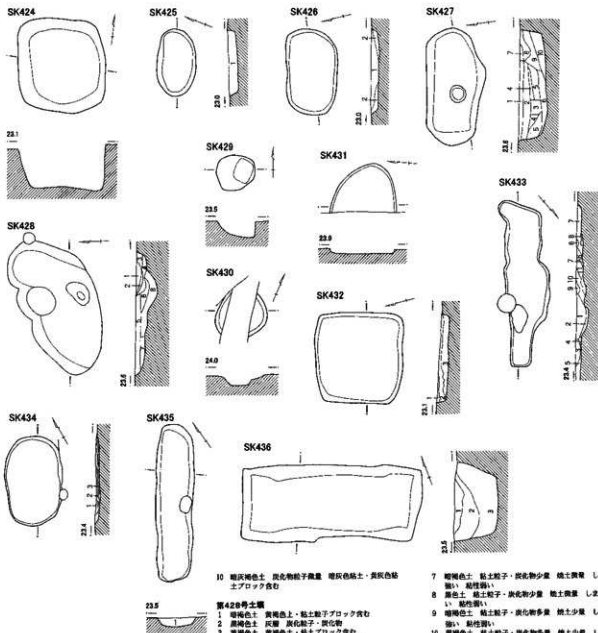
第561図 土壌②



第52図 土壌②



第563図 土壇④



第425号土壌
1 暗灰色土 明灰色粘土粒子・炭化物粒子多量

第426号土壌
1 暗灰色土 明灰色粘土粒子・炭化物粒子多量
2 暗灰色土 明灰色粘土ブロック含む

第427号土壌
1 暗褐色土 黄褐色土・粘土粒子ブロック含む
2 黄褐色土 炭層 炭化粒子・炭化物
3 黄褐色土 黄褐色土・粘土ブロック含む
4 暗褐色土 粘土質土 黄褐色粘土含む
5 暗褐色土 粘土粒子少量 炭化物粒子少量 黄褐色土ブロック含む
6 暗褐色土 炭土粒子少量 炭化物粒子少量 黄褐色土ブロック・暗褐色粘土ブロック含む
7 暗褐色土 炭化粒子少量 暗褐色粘土ブロック含む
8 黄褐色土 炭化物粒子少量 暗褐色粘土ブロック・黄褐色粘土ブロック含む
9 黄褐色土 炭化物粒子少量 黄褐色土ブロック・炭褐色土ブロック含む

10 暗褐色土 炭化物粘土塊 暗褐色粘土・黄褐色土ブロック含む

第428号土壌
1 暗褐色土 黄褐色土・粘土粒子ブロック含む
2 黄褐色土 炭層 炭化粒子・炭化物
3 黄褐色土 黄褐色土・粘土ブロック含む
4 暗褐色土 粘土質土 黄褐色粘土含む
5 暗褐色土 粘土粒子少量 炭化物粒子少量 黄褐色土ブロック・暗褐色粘土ブロック含む
6 暗褐色土 炭化粒子少量 暗褐色粘土ブロック含む
7 黄褐色土 炭化物粒子少量 暗褐色粘土ブロック含む
8 黄褐色土 炭化物粒子少量 暗褐色粘土ブロック含む

第432号土壌
1 黄褐色土 炭化物含む 粘着性粘土粒子多い
2 暗褐色土 粘着性粘土粒子多い
3 黄褐色土 粘着性粘土粒子多い

第433号土壌
1 黄褐色土 粘土粒子・炭化物少量 しまり強い
2 黄褐色土 粘土粒子・炭化物少量 しまり強い
3 黄褐色土 粘土粒子・炭化物少量 しまり強い
4 黄褐色土 粘土粒子・炭化物少量 しまり強い
5 黄褐色土 粘土粒子・炭化物少量 しまり強い
6 黄褐色土 粘土粒子・炭化物少量 しまり強い

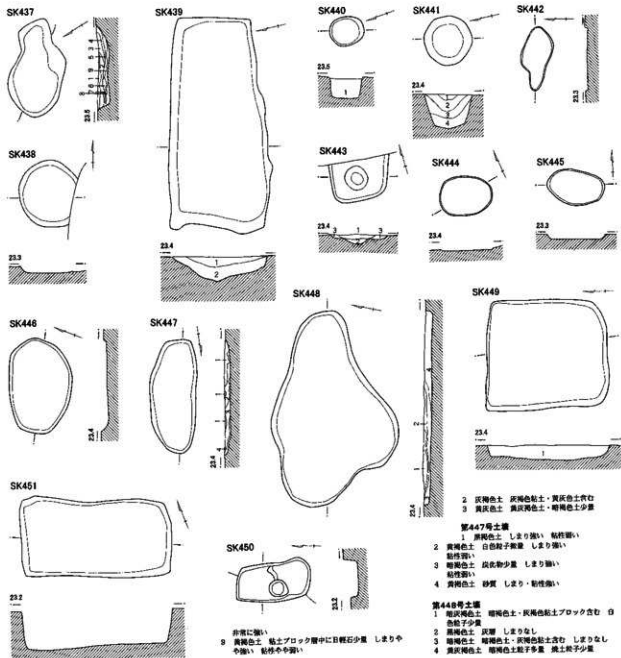
7 暗褐色土 粘土粒子・炭化物少量 粘土質 しまり強い 粘着性強い
8 黄褐色土 粘土粒子・炭化物少量 粘土質 しまり強い 粘着性強い
9 暗褐色土 粘土粒子・炭化物少量 粘土質 しまり強い 粘着性強い
10 黄褐色土 粘土粒子・炭化物少量 粘土質 しまり強い 粘着性強い
11 暗褐色土 粘土粒子・炭化物少量 粘土質 しまり強い 粘着性強い

第434号土壌
1 黄褐色土 粘土粒子・炭化物少量 しまり強い 粘着性強い
2 暗褐色土 粘土粒子・炭化物少量 しまり強い 粘着性強い
3 黄褐色土 粘土粒子・炭化物少量 しまり強い 粘着性強い

第435号土壌
1 暗褐色土 黄褐色粘土ブロック含む しまりなし

第436号土壌
1 黄褐色土 粘土粒子・炭化物少量 しまりなし
2 暗褐色土 暗褐色土・炭化物少量 しまりなし
3 黄褐色土 粘土粒子・炭化物少量 しまりなし
4 黄褐色土 粘土粒子・炭化物少量 しまりなし

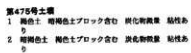
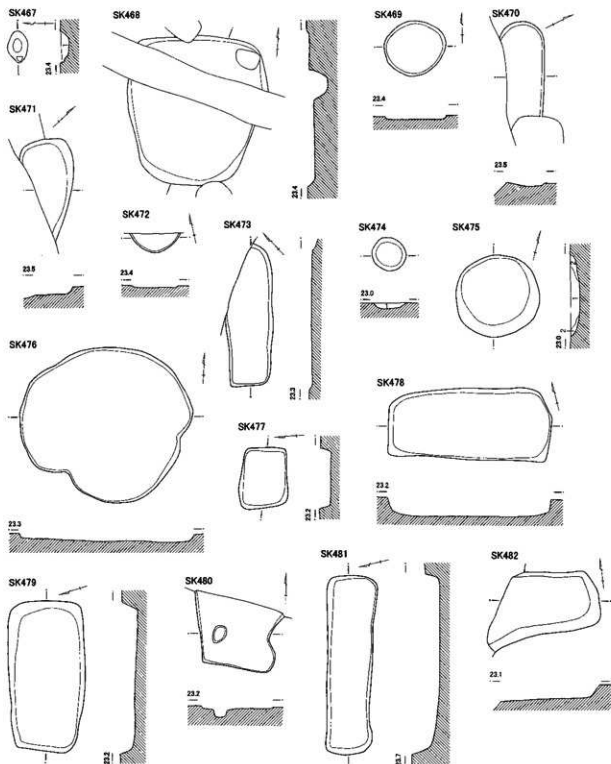
0 3m
1:100

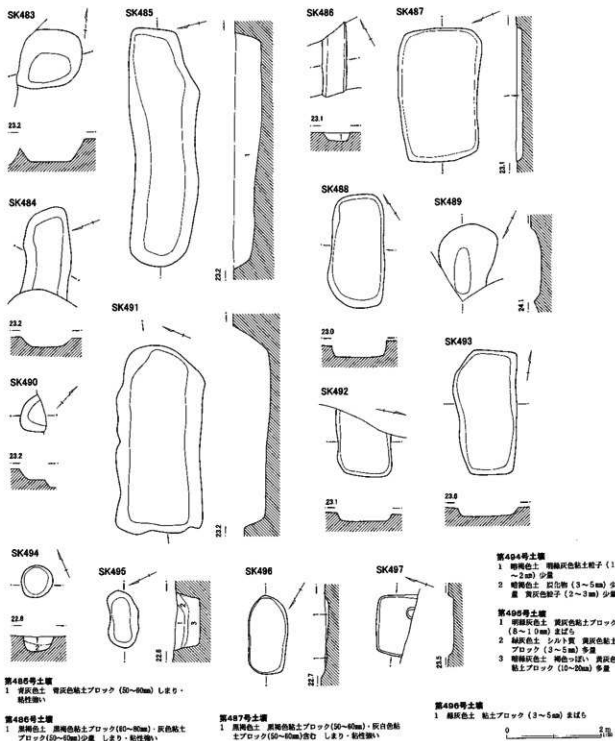


- 第437号土溝
1 灰褐色土 粘土ブロック (20cm) 粘土粘土・炭化物少量 しまりや強い 粘性や強い
2 黄褐色土 粘土ブロック (10cm) 少量 粘土粘土・炭化物少量 しまりや強い 粘性や強い
3 暗褐色土 粘土ブロック (10cm) 若干 粘土粘土少量 しまりや強い 粘性や強い
4 暗褐色土 粘土ブロック (10cm) 少量 粘土粘土少量 炭化物含む しまりや強い 粘性や強い
5 暗褐色土 粘土ブロック (10cm) 粘土粘土少量 炭化物含む しまりや強い 粘性や強い
6 灰褐色土 粘土ブロック (10cm) 層中に粘土粘土・炭化物少量 しまり・粘性や強い
7 灰褐色土 粘土中に灰・炭化物少量 しまり・粘性や強い
8 黄褐色土 灰層中に粘土粘土少量 しまりや強い 粘性

- 第439号土溝
1 暗褐色土 灰褐色粘土ブロック
2 灰褐色土 灰褐色土・暗褐色土ブロック
- 第440号土溝
1 暗褐色土 炭化物粘土・黄土粘土少量 大形の礫含む しまり強い
- 第441号土溝
1 灰褐色土 灰と炭化物の層 しまりなし
2 暗褐色土 炭化物粘土・灰褐色粘土粘土少量
3 暗褐色土 黄土粘土少量
4 暗灰褐色土 炭化物粘土少量 粘性強い
- 第443号土溝
1 暗褐色土 灰褐色粘土少量

第565図 土溝(2)





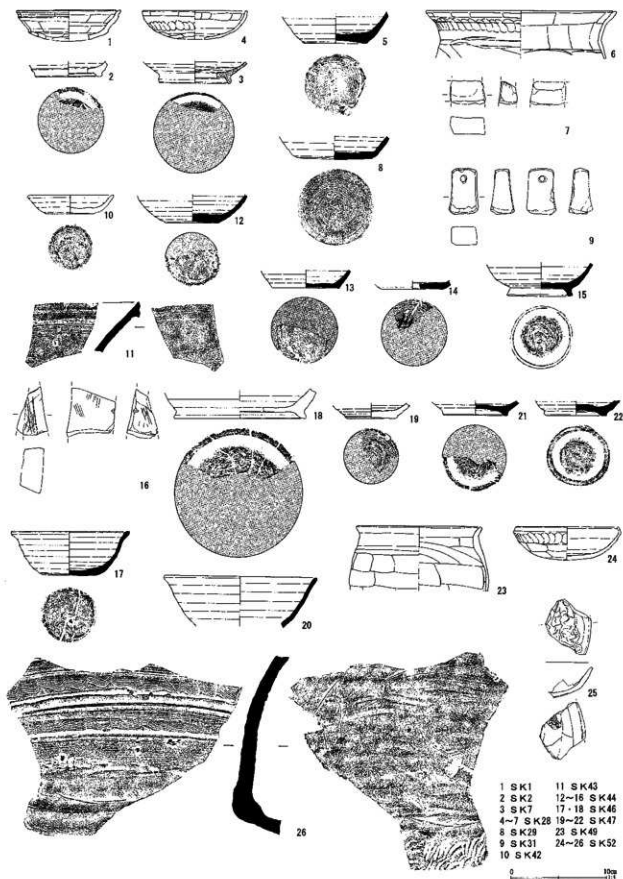
第568図 土壌図

南比企窯跡群の製品である。

15は、須恵器の高台付埴である。高台はやや高く、端部は「M」字状となっている。内端接地である。還元化が進み硬質である。末野窯跡群の製品である。

16は、砥石である。

須恵器の坏や高台付埴から第44号土層は、9世紀第Ⅰ四半期と考えたい。



第569図 土壙出土遺物(1)

第46号土壇出土遺物

第569図17は、須恵器の坏である。還元化が進まず灰白色である。末野窯跡群の製品である。

18は、須恵器の長頸壺である。底部破片である。糸切りがみられる。酸化炎焼成で、焼きが大変鈍い。末野窯跡群の製品である。

須恵器の坏や長頸壺から第46号土壇は、10世紀第II四半期と考えたい。

第47号土壇出土遺物

第569図19は、須恵器の坏である。還元化が進まず軟質である。末野窯跡群の製品である。

20～22は、須恵器の高台付埴である。20は高台部を欠くが、見込みが深いことから判断した。高台は、角高台で接地面が平坦である。還元化が進まず、器肉が発泡している。全て末野窯跡群の製品である。

須恵器の坏や高台付埴から第47号土壇は、9世紀第IV四半期（10世紀第I四半期）と考えたい。

第49号土壇出土遺物

第569図23は、土師器の甕である。やや厚手の甕で、器表は荒れている。利根川水系の原土が用いられている。9世紀後半。

第52号土壇出土遺物

第569図24・25は、土師器の坏である。24は、内屈口縁坏である。薄く丁寧に作られ、器壁は、手に粉が付くようである。ローム台地の粘土を原土としている。25は、有段口縁坏である。口縁の段は、やや不明瞭である。内面に大量の漆が付着し、凝縮している。利根川水系の原土が用いられている。

26は、須恵器の頸部補強帯大甕である。頸部にやや崩れた台形状の補強帯が巡る。口縁部には、まずカキ目によって平滑化した後、二条一対の沈線を引き、沈線間に粗い波状文を施す。口唇部を欠くため文様の全構成は、分りかねるが、>沈線一波状文—沈線—沈線—カキ目—波状文—沈線—沈線—カキ

目—沈線—無文帯—補強帯<の順にみられる。良く還元化し硬質である。末野窯跡群の製品である。

土師器の坏や須恵器の頸部補強帯大甕から第52号土壇は、7世紀第III四半期と考えたい。

第56号土壇出土遺物

第570図1は、土師器の坏である。扁平な坏で器壁が薄い。9世紀前半。

2は、鉄製の刀子か短刀である。

第64号土壇出土遺物

第570図3・4は、土師器の坏である。3は須恵器坏蓋模倣坏、4は扁平化した内湾口縁坏である。利根川水系の原土が用いられている。3は、7世紀第IV四半期、4は、8世紀中葉である。

第66号土壇出土遺物

第570図5は、土師器の甕である。口縁部の比較的に長い土師器の甕である。大雑把なヘラケズリの割には、器肉の薄い甕である。利根川水系の原土が用いられている。8世紀第III四半期。

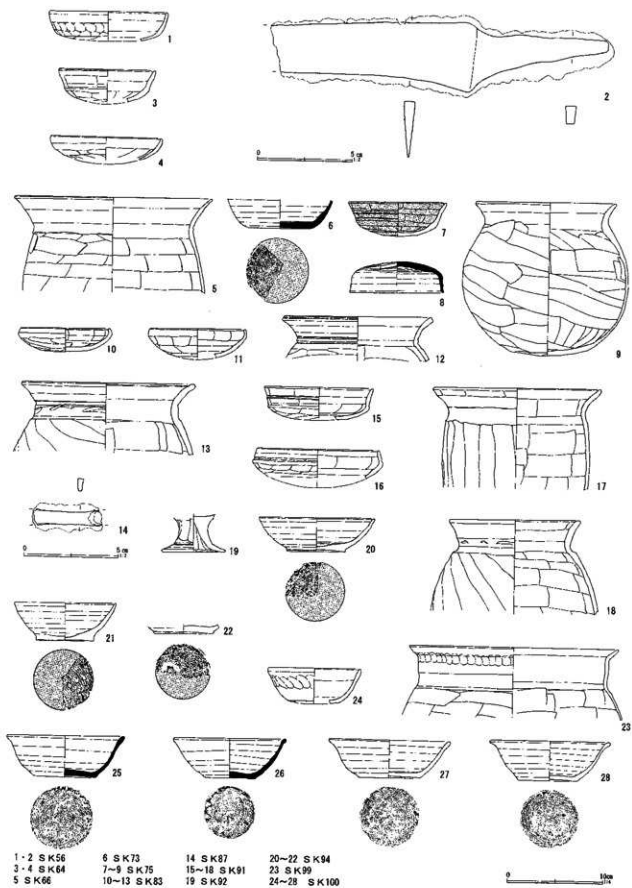
第73号土壇出土遺物

第570図6は、須恵器の坏である。底部周辺を同転ヘラケズリしている。良く還元化し、硬質である。南比企窯跡群の製品である。8世紀第IV四半期。

第75号土壇出土遺物

第570図7は、土師器の有段口縁坏である。口縁の段は明瞭である。黒色処理が施される。利根川水系の原土が用いられている。

8は、須恵器の蓋である。天井部が、細かく手持ちヘラケズリされ、扁平である。口唇部が、やや外反する点など、小形化した比企型坏の作りと共通する。比企型坏の製作者が、須恵器作りにかかっていたことを伺わせる資料である。南比企窯跡群の製品である。



第570図 土壙出土遺物(2)

9は、土師器の壺である。金魚鉢形の球形の胴部である。外面は、やや粗く削られている。利根川水系の原土が用いられている。

土師器の坏や甕、須恵器の壺から7世紀第Ⅲ四半期と考えたい。

第83号土墳出土土遺物

第570図10・11は、土師器の内唇口縁坏である。口縁が内側に小さく窪み小形である。

12・13は、土師器の長胴甕である。13の口縁内側は、沈線状に窪む。全て利根川水系の原土が用いられている。

土師器の坏や甕から第83号土墳は、7世紀第Ⅳ四半期と考えたい。

第87号土墳出土土遺物

第570図14は、不明鉄製品である。

第91号土墳出土土遺物

第570図15・16は、土師器の坏である。15は有段口縁坏、16は須恵器坏身模倣坏である。15は段が、比較的明瞭ではない。利根川水系の原土が用いられている。

17・18は、土師器の甕である。17は、長胴甕である。2は、やや長胴の壺になるかもしれない。2点とも砂粒が多く、利根川水系の原土が用いられている。

土師器の坏や甕から7世紀第Ⅱ四半期と考えたい。

第92号土墳出土土遺物

第570図19は、土師器の高坏である。小形の高坏の脚部である。利根川水系の原土が用いられている。7世紀前半。

第94号土墳出土土遺物

第570図20～22は、土師質土器の坏である。底部は、

ベタ高台状である。京都産緑釉陶器の器形と類似している。利根川水系の原土が用いられている。11世紀前半。

第99号土墳出土土遺物

第570図23は、土師器の甕である。器壁の大変薄い甕で器表は、ざらついている。利根川水系の原土が用いられている。8世紀末から9世紀前半。

第100号土墳出土土遺物

第570図24は、土師器の坏である。やや器肉の厚い坏Aである。焼成は、土師器というよりも土師質土器に近く、表面が劣化し、手に粉が付く。ローマ台地の粘土を原土としている。

第570図25～第571図1は、須恵器の坏である。第570図25・27の底部がやや大きく他は小さい。第570図25・26が、還元化に欠ける仕上がりで他は、酸化炎焼成である。南比企窯跡群の製品である。

第571図2は、須恵器の皿である。酸化炎焼成で軟質な仕上がりである。南比企窯跡群の製品である。

第571図3は、土師器の甕である。「コ」の字状口縁甕で立ち上がりは低い。利根川水系の原土が用いられている。

土師器の坏や甕、須恵器の坏などから第100号土墳は、9世紀第Ⅳ四半期と考えたい。

第101号土墳出土土遺物

第571図4は、土師器の有段口縁坏である。黒色処理が施され、摩滅が少ない。利根川水系の原土が用いられている。7世紀第Ⅳ四半期。

5は、土師器の壺である。口唇部が、「M」字状となる壺である。球形の胴部が続くと予想される。利根川水系の原土が用いられている。

6は、須恵器の甕である。硬質に焼き上がった須恵器の甕である。末野窯跡群の製品である。

第104号土壇出土遺物

第571図7は、須恵器の環である。比較的硬質である。口縁部外面には、欠損のため判読不可能な墨書がみられる。末野窯跡群の製品である。

第109号土壇出土遺物

第571図8は、土師器の甕である。口縁部の長い薄襲である。利根川水系の原土が用いられている。8世紀中葉。

第118号土壇出土遺物

第571図9は、土師器の有段口縁環である。内外面黒色処理を受けるが、器壁は荒れている。

10は、土師器の長胴甕である。器壁が大変薄く、口縁部が長い。9・10とも利根川水系の原土が用いられている。

9は、7世紀前半、10は、8世紀前半である。第118号土壇は、8世紀前半と考えたい。

第123号土壇出土遺物

第571図11・12は、土師器の環である。内湾口縁の環で、扁平である。12は口縁部に沈線状の窪みがある。利根川水系の原土が用いられている。

13は、須恵器の環である。底部周辺を回転ヘラケズリしている。良く還元化されている。南比企窯跡群の製品である。

土師器の環や須恵器の環から第123号土壇は、8世紀第III四半期と考えたい。

第124号土壇出土遺物

第571図14は、須恵器の環である。底部の一部が残し、少なくとも周辺部が、ヘラケズリされていたことが分かる。還元化が進み、硬質に仕上がっている。南比企窯跡群の製品である。8世紀第II四半期。

第125号土壇出土遺物

第571図15は、須恵器の環である。底部周辺を回転

ヘラケズリしている。良く還元化されている。南比企窯跡群の製品である。8世紀第IV四半期。

第135号土壇出土遺物

第571図16は、須恵器の蓋である。つまみを欠く。還元化が進み、比較的硬質に仕上がっている。南比企窯跡群の製品である。9世紀前半。

第138号土壇出土遺物

第571図17は、土師器の環Aである。利根川水系の原土が用いられている。9世紀前半。

第137号土壇出土遺物

第571図18は、土師器の環である。底部は未調整で、粘土よれがみられる。器表は非常にあれ、手に粉が付く。ローム台地の粘土を原土としている。

19は、須恵器の蓋である。小形の蓋で口縁部に沈線が巡る。南比企窯跡群の製品である。

18は9世紀後半だが、19は7世紀後半である。第137号土壇は、9世紀後半と考えたい。

第138号土壇出土遺物

第571図20は、須恵器の環である。還元化が進み、比較的硬質に仕上がっている。南比企窯跡群の製品である。9世紀前半。

第139号土壇出土遺物

第571図21は、須恵器の環である。還元化が進み、比較的硬質に仕上がっている。末野窯跡群の製品である。9世紀前半。

第144号土壇出土遺物

第571図22～24は、土師器の有段口縁環である。22・23は、内外面に黒色処理が施されている。24は、大形の環である。3点とも利根川水系の原土が用いられている。7世紀第I四半期。

第145号土壇出土遺物

第571図25～27は、土師器の坏である。25は、体部下半と底部全面をヘラケズリする。26は、底部中央をケズリ残す。27の焼成は、土師質土器に近く手に粉が付く。底部全面をヘラケズリする。27はローム台地の粘土を原土とし、他は利根川水系の原土が用いられている。

28は、須恵器の蓋である。つまみは、リング状である。南比企窯跡群の製品である。

29～34は、須恵器の坏である。比較的還元化が進みやや硬質である。30には墨書「百」カが、口縁部に横位に書かれている。また34にも墨書がみられるが、断片資料のため判読できない。30・31は、南比企窯跡群の製品、他は末野窯跡群の製品である。

土師器坏や須恵器の坏から第145号土壇は、9世紀第III四半期と考えたい。

第147号土壇出土遺物

第571図35～38は、土師器の坏である。35～37は、有段口縁坏、38は、須恵器坏蓋模倣坏である。37の内外面には、黒色処理が施されている。利根川水系の原土が用いられている。7世紀第I四半期である。

39は、須恵器の長頸壺の頸部である。南比企窯跡群の製品である。

第148号土壇出土遺物

第572図1～4は、土師器の坏である。胴部に二段のユビ押さえを残す坏Aで、器肉がやや厚い。底部は、薄くヘラケズリが行われる。ローム台地の粘土が原土として用いられている。

5～7は、須恵器の坏である。5は、底部周辺を回転ヘラケズリしている。底部外面に「土万」と墨書が残る。比較的良く還元化する。6・7は、小砂利を含む荒れた胎土で還元化もやや悪い。三点とも南比企窯跡群の製品である。

8・9は、須恵器の高台付埴である。8は、高い高台が付く。9は、きめの細かな胎土であり還元

化も進まない。8は末野窯跡群の製品、9は東金子窯跡群の製品である。

10は、須恵器の小形查か。酸化炭焼成である。口縁部に細い折り返しがある。末野窯跡群の製品である。

11は、灰釉陶器の小瓶である。二川窯跡群の製品で、黒第90号窯式である。

5・8～10は、8世紀中葉の土器であるが、他は9世紀第IV四半期である。第148号土壇は、後者と考えたい。

第149号土壇出土遺物

第572図12・13は、土師器の坏である。12は、須恵器坏身模倣坏である。13は、扁平な坏である。12・13とも利根川水系の原土が用いられている。12は6世紀後半、13は8世紀後半である。

14・15は、須恵器の坏である。14は、底部周辺と側辺の一部を回転ヘラケズリしている。15の底部には、「集」と判読できる墨書がみられる。比較的還元化が進み、硬質である。14は南比企窯跡群、15は末野窯跡群の製品である。

16は、須恵器の甕の口縁部である。南比企窯跡群の製品である。

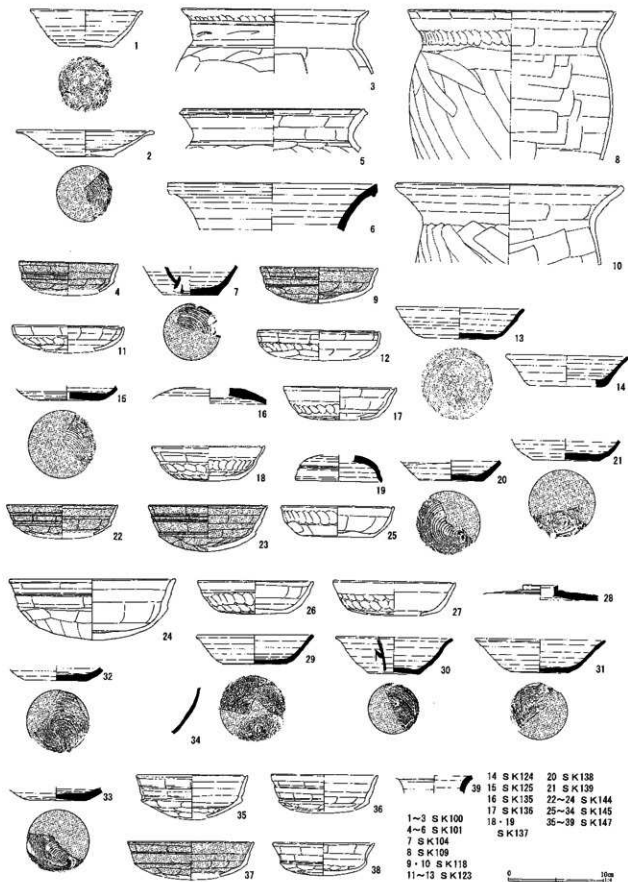
17は、砥石である。

第150号土壇出土遺物

第572図18～20は、土師器の坏である。18は、有段口縁坏、19は、内屈口縁坏、20は、北島型暗文土器である。18の内外面には、黒色処理が施されているが荒れている。20の内面には、細かな放射状暗文が施されている。利根川水系の原土が用いられている。

21は、須恵器の蓋である。天井部の外面は、手持ちのヘラケズリが行われ、内面は、ユビナデの跡がみられる。あるいは提瓶の側面部か。末野窯跡群の製品である。

22は、須恵器の坏である。比較的還元化が進み、硬質である。末野窯跡群の製品である。



第571図 土壇出土遺物(3)

23は、土師器の鉢である。球形の壺の胴下半を切断したような形態である。利根川水系の原土が用いられている。

24は、土師器の長胴甕である。利根川水系の原土が用いられている。

25・26は、土師器の壺である。球胴の壺である。利根川水系の原土が用いられている。

土師器の坏や甕・壺は、7世紀第IV四半期であるが、須恵器の坏は、9世紀前半である。第150号土壇は前者と考えたい。

第157号土壇出土遺物

第572図27は、土師器の有段口縁坏である。内外面を黒色処理している。利根川水系の原土が用いられている。7世紀第IV四半期。

第573図1は、須恵器の甕である。末野窯跡群の製品である。

第158号土壇出土遺物

第573図2は、土師器の坏である。扁平な坏で比較的良くヘラケズリされている。利根川水系の原土が用いられている。8世紀第III四半期。

第160号土壇出土遺物

第573図3～10は、土師器の坏Bである。3～5は、底部の周辺、6～9は、底部全面をヘラケズリするが、10は、底部のヘラケズリを省略している。全て底部から口縁部に向かってケズリ上げている。砂質が強く、利根川水系の原土が用いられている。

11～15は、土師器の高台付埴である。11のみ甕の底部に高台を付けた作りであるが、他は、坏Bに高台を付けた形態である。坏Bよりも口径が、一回り大きく器高が低い。利根川水系の原土が用いられている。

第573図16～第574図4は、須恵器の坏である。第573図16・17は、比較的還元化が進み、硬質な仕上がりとなっている。第573図16は、底部に「綱」、第573

図17は、判読不可能な墨書が認められる。第573図18～29は、還元化の進まない軟質な仕上がりである。第573図18～23は、底径5.5～6.0cm、第573図24～28は、底径5.0cm以下である。第573図19・26・28・29は、末野窯跡群、他は利根川水系の原土が用いられている。28は外面に墨書で「我」とある。

第573図30～第574図4は、酸化炎焼成である。第573図30・31は、底径5.0cmと小さく、他は、底径は6.0cmとやや大きい。全体に器肌が、発泡している。第574図4は、底部周辺を手持ちヘラケズリしている。全て利根川水系の原土が用いられている。

第574図5～35は、土師質土器の坏である。5は、底部がややベタ高台状に突出する。6～8は、6.0～6.5cmと大形の底部で器高が高い。全体に軟質で手に粉が付く仕上がりとなっている。9～16は、6.0cm前後とやや大形の底部で器高が低い。17～21は、5.0～5.5cmと小形で器高が高い。

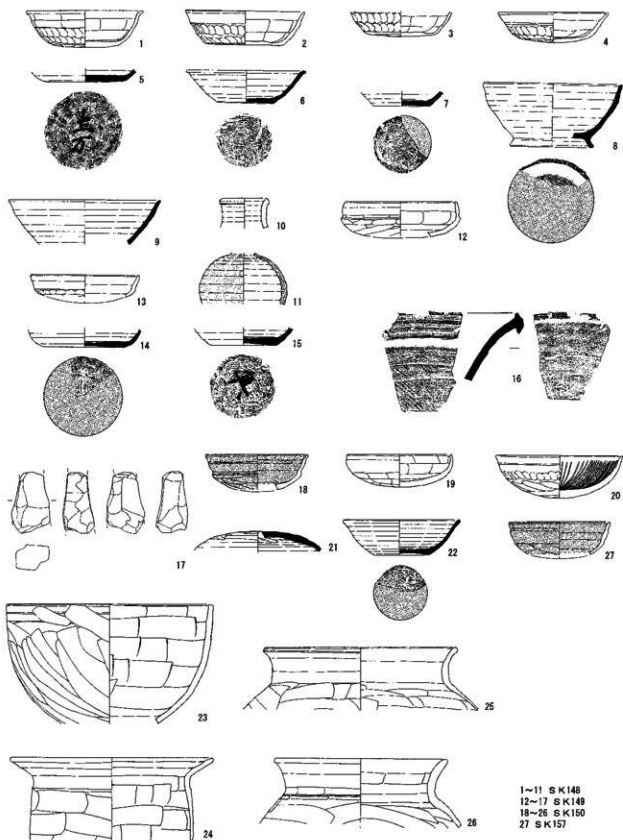
30は、小形の底部で直線的に開く。比較的硬質な仕上がりである。31は、底部を回転ヘラ切りしている。また補修のため底部に粘土を継ぎ足している。32～35は、小形の坏である。皿形とはならない。

6・12・30は、ローム台地の粘土を原土としているが、他は、利根川水系の原土が用いられている。

18～21と22～25の破片、32には、口縁部に墨書がみられる。18は、内面に「人」、19は、内面に「我」外面に「我」、20は、内面に「人」外面に「人」、21は、内面に「人」、22は、外面に「我」、24は、内面に「人」、25は、外面に「人」、32は、内面に「人」外面に「人」と、それぞれ墨書されている。「人」と「我」が一つの個体の中で、内外面で対になっているようである。23には墨痕がみられた。

第575図1～17は、須恵器の高台付埴である。1は、還元化がやや進み硬質な仕上がりとなっている。2・3は、底径も大きく高台も端部が張る。4～10は、還元化の進まない仕上がり。淡い灰色に仕上がり焼き斑あり。7は「息」、8は墨痕あり。

11～17は、酸化炎焼成である。高台は小さな紐状



第572図 土壇出土遺物(4)

の高台で一定ではない。底径も小さく、口縁の伸びが大きい。17の高台は、太く高い。高脚高台に近い。9・16・17が、利根川水系の原土、他は末野窯跡群の製品である。

18～第576図1は、土師質土器の高台付埴である。18～22は、やや硬質な焼き上がりとなっており、高台は太く小さい。23～第576図1は、軟質な焼き上がりである。第575図23・24は、太くやや高い高台が付き、25の高台は、端部が水平、そして第576図1の高台は、低く蛇の目状となっている。1は、クロコからの切り離しが、ヘラ切りである。20は、内面に「人」と墨書があり、21は、墨痕がある。第575図25・第576図1は、ローム台地の粘土を原土とし、他は利根川水系の原土が用いられている。

第576図2～16は、土師質土器の高脚高台付埴である。2・3は、漆埴や木地埴をあたかも模倣した形態である。2・3・5～9は、高台の端部が細く伸びている。1～12はヘラ切り、13～16は、糸切り後、高台を付けている。4には墨書がみられるが、判読できない。全て利根川水系の原土が用いられている。

17は、土師質土器の埴である。高脚高台であろうか。「我」と口縁部外面に墨書がある。利根川水系の原土が用いられている。

18～27は、黒色土器の高台付埴である。内面は黒色のヘラミガキを行った後、黒色処理が施されている。18は、比較的大形の埴である。22・23は、腰が低い。24・25は、比較的大形の埴である。27は、小形の埴部が付く。19・21・22・25・27は、底部をヘラ切り、他は糸切りで切り離した後、高台を付けている。18は、ローム台地の粘土を原土とし、他は利根川水系の原土が用いられている。

28は、土師質土器の鉢である。内面は、細かなヘラミガキが入り、黒色処理が施されている。

第577図1～18は、灰釉陶器である。1・2・5・12～17は埴、3・6～9・11・18は皿、4は輪花埴、10は段皿である。施釉は、4・13・15はハケ塗り、1・2・5～11・16・17はツケガケである。13の底

部はヘラ切りである。1・12・14は東遠江地方の製品で、1は東山72号窯式、12は折戸53号窯式、14は黒笹90号窯式である。2～11・15・18は東濃地方の製品で、2・3・10・18は大原2号窯式、4・15は光ヶ丘1号窯式、5・6・9・11は虎渓山1号窯式、7・8は丸石2号窯式である。13・17は浜北地方の製品で、13は黒笹90号窯式、17は折戸53号窯式である。16は尾北地方の製品で、折戸53号窯式である。

19～29は、緑釉陶器である。19は、稜埴、20は稜皿、21～23は、埴の底部である。24～29は、陶片である。25は埴破片、26は稜皿破片、27は皿破片、29は皿の底部破片である。19～25・28・29は猿投窯跡群の製品で、19～23は黒笹90号窯式である。26・27は尾北地方の製品である。

30～第578図3は、羽釜形甕である。30は、須恵器でやや還元化した硬質な仕上がりとなっている。第578図1は、底部付近の個体で、裾部と胴部を鋸状の工具で切断しようとした痕跡が残る。1～3は、酸化炎焼成である。第577図30は末野窯跡群、他は利根川水系の原土が用いられている。

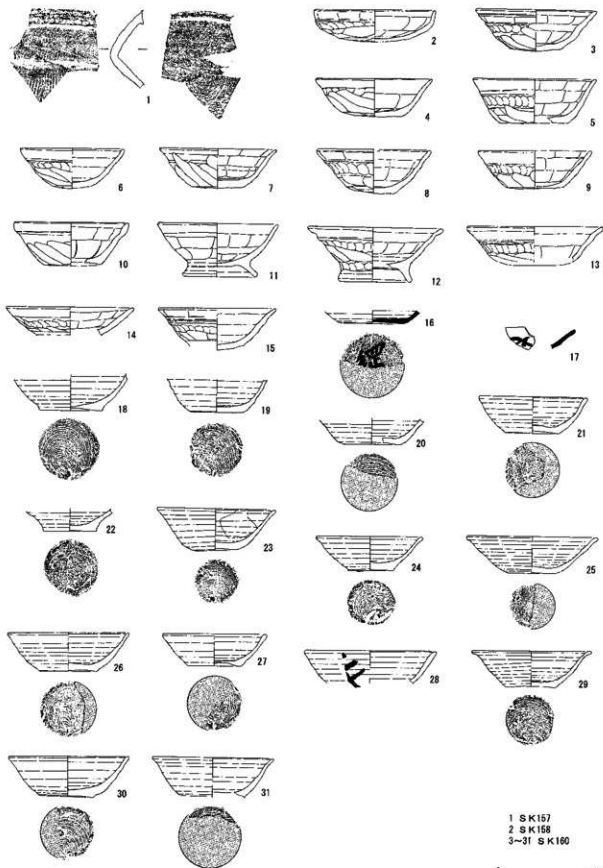
第578図4～7は、羽釜である。4～6は、須恵器の羽釜でやや硬質な還元化された羽釜で、胴中位にまでクロコ挽きが及ぶ。7は、土師器の羽釜で全体に黒色化している。器肉が厚く、外面のヘラケズリも雑である。7は利根川水系の原土、他は末野窯跡群の製品である。

8～12は、土釜である。8は、酸化炎焼成の須恵器である。胴中位までクロコ挽きが及ぶ。9～12は、土師器である。口縁部が小さく外反する。

13は、羽釜か土釜の底部付近の破片である。8は末野窯跡群、他は利根川水系の原土が用いられている。

第579図1は、須恵器の平瓶である。口縁部と天井部の一部が残存する。口縁部には厚く自然釉がかかる。湖西窯跡群の製品か。

2は、須恵器の甕である。胴部の破片で、木口状工具による連続した細かな刺突がみられる。東海地方の製品である。



第573図 土壙出土遺物(5)

3～6は、灰釉陶器の長頸瓶である。広口長頸瓶で、大形である。口縁部内面と口縁部外面から肩部にかけては、ハケ塗りによる施釉がみられる。3・6は東濃地方の製品で、3は大原2号窯式、6は光ヶ丘1号窯式である。4は東濃江地方の製品で、折戸53号窯式である。5は猿投窯跡群の製品で、黒笹14号窯式である。

7～第580図1は、須恵器の甕である。7は、酸化炎焼成である。他は還元化が良く進み、非常に硬質である。10・11・12の外面には、平行線の叩き板の痕跡が明瞭に残る。8・9は、南比企窯跡群、他は、末野窯跡群の製品である。13は利根川水系の原土を用いている。

14は、砥石である。

第160号土壌から出土した遺物は、7世紀後半が、1・12、9世紀前半が、第573図16・17、9世紀後半が、第573図30・31・第575図1・第577図19～30、10世紀Ⅱ四半期が、第573図18～23・30～32・第575図2・3・第576図18、10世紀中葉が、第573図3～15、10世紀Ⅲ四半期が、第573図24～28・30～第574図1・6～8・26～31・第575図4～8・18～22・第576図19～20、10世紀Ⅳ四半期が、第574図9～25・32～35・第575図9～17・23～第576図16・22～27、10世紀後半が、第577図11～18・第578図1～6・8～11・第579図3～6、11世紀前半は、第578図7・12である。

このうち10世紀前半以前の遺物は、周辺遺構からの混入と考えたい。第160号土壌は、10世紀後半から11世紀はじめにかけての遺物を含んでいる。とくに10世紀後半の遺物が集中的に出土し、墨書土器も含まれる。

第160号土壌と第91号溝・第125号溝との重複関係は、第91号溝→第160号土壌→第125号溝であることは明らかであり、第91号溝の末期に第160号土壌が形成され、比較的短時間の内に埋没し、再び第90号溝と共通した区画溝である第125号溝が営まれたと考えたい。よって第160号土壌は、10世紀後半と考え

たい。

第161号土壌出土遺物

第580図2は、須恵器の坏である。底部周辺を手持ちヘラケズリしている。良く還元化されている。器肉が比較的厚い。南比企窯跡群の製品である。8世紀Ⅱ四半期。

第163号土壌出土遺物

第580図3は、土師器の高台付皿である。高台は高く、「ハ」字状に開く。内面は黒色化するが、磨かれてはいない。利根川水系の原土が用いられている。

4～6は、須恵器の高台付埴である。5・6の高台は、低い台形状である。内端接地。還元化は鈍く、やや軟質である。末野窯跡群の製品である。

7は、土師質土器の坏である。利根川水系の原土が用いられている。

第581図1は、土師器の甕である。厚手の甕で、外面のケズリは極めて雑駁である。利根川水系の原土が用いられている。

土師器の高台付皿や甕、須恵器の高台付埴、土師質土器の坏から第163号土壌は、10世紀Ⅲ四半期と考えたい。

第165号土壌出土遺物

第581図2は、土師器の長胴甕である。比較的器肉の薄い甕で、口唇部は「M」字状となっている。利根川水系の原土が用いられている。7世紀前半。

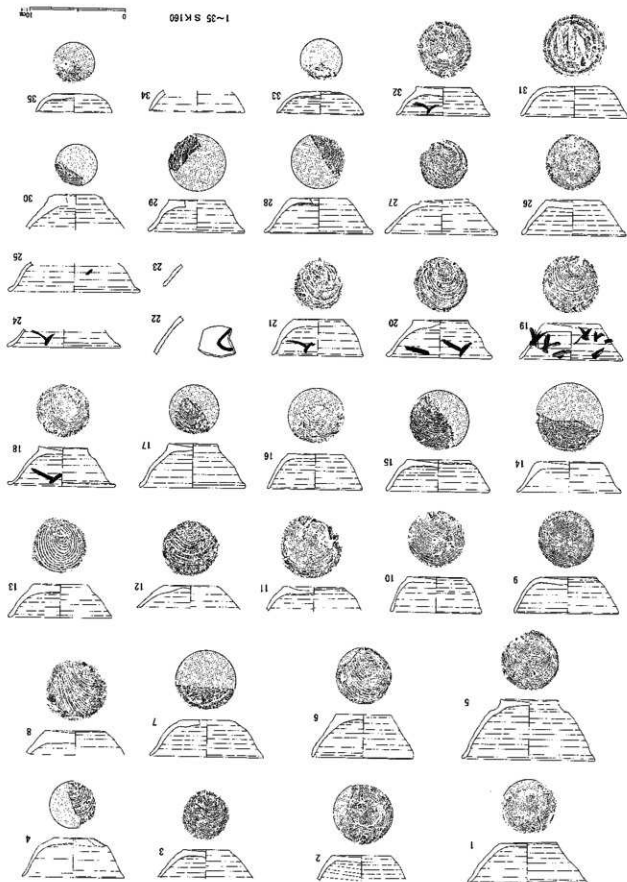
第166号土壌出土遺物

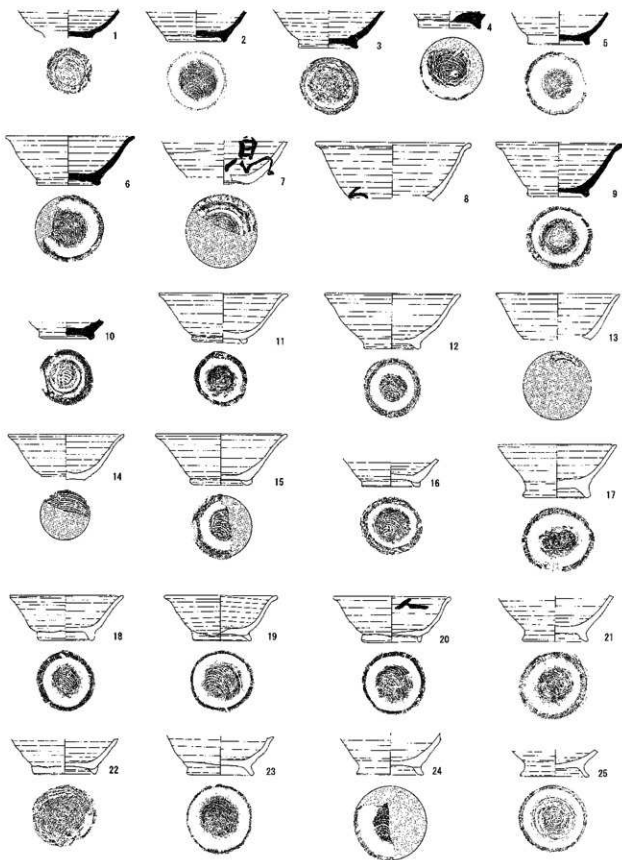
第581図3は、土師器の高台付埴である。高台が高く、内面にはハケ状の工具の跡が残る。利根川水系の原土が用いられている。9世紀後半。

第167号土壌出土遺物

第581図4は、土師器の坏である。内湾口縁の坏で極めて薄く作られている。利根川水系の原土が用い

第574圖 土曜出土遺物(6)

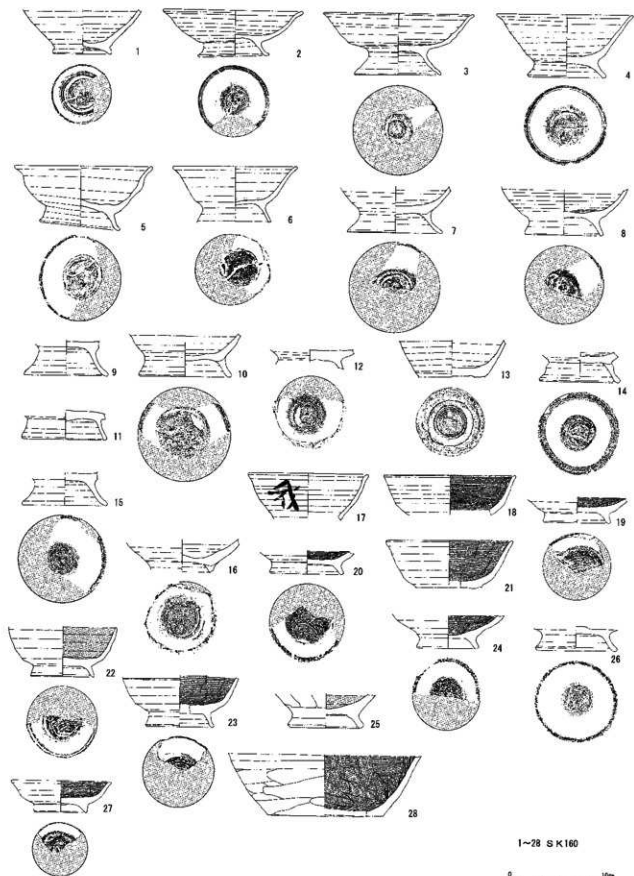




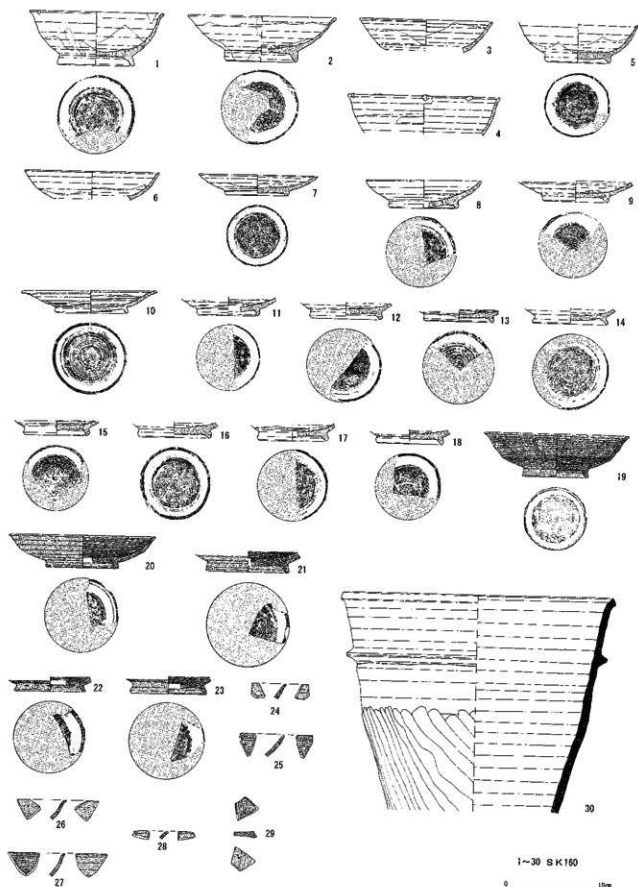
1~25 SK160

0 10cm 117

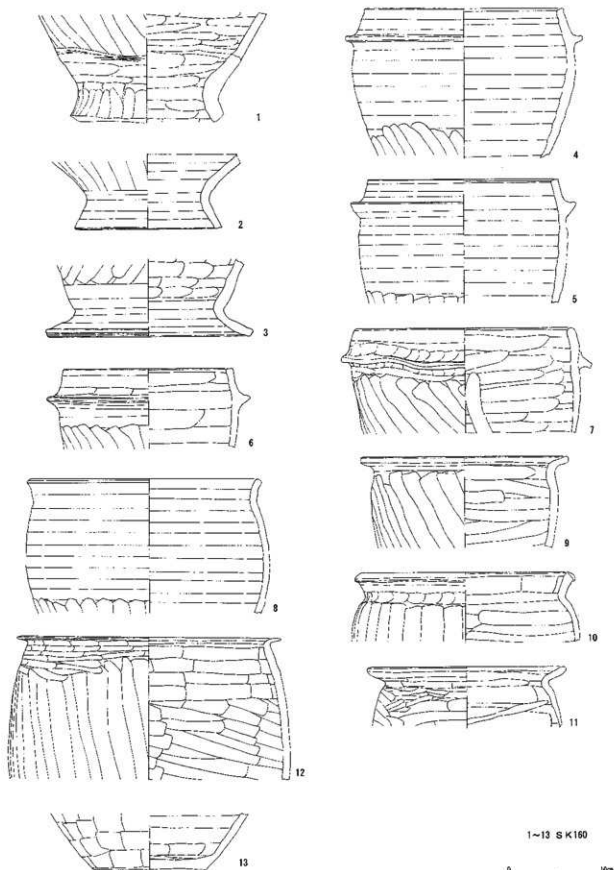
第575図 土壙出土遺物(7)



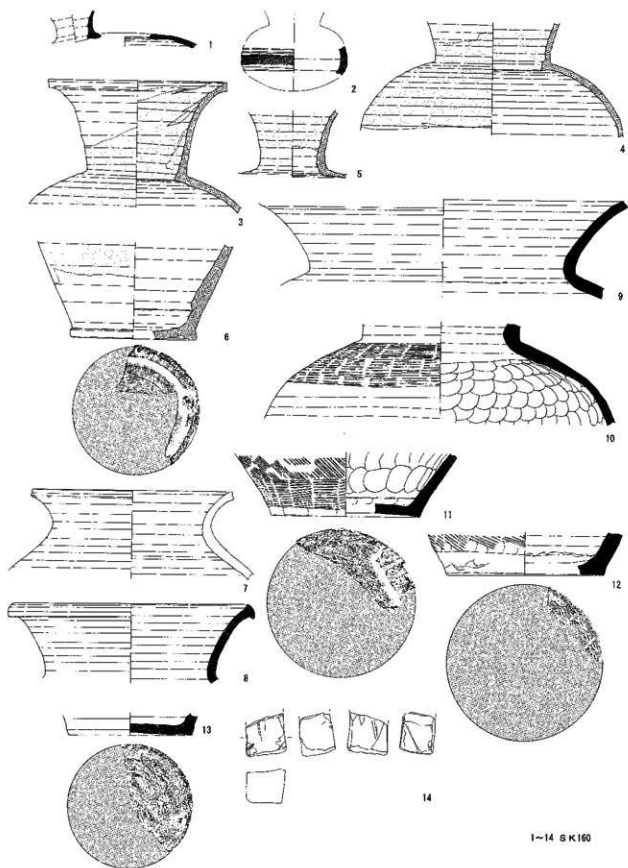
第576図 土壙出土遺物(8)



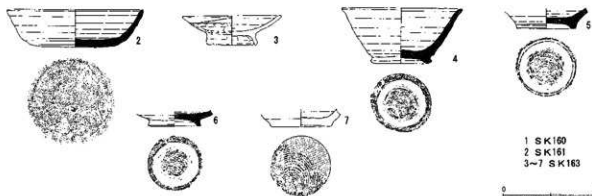
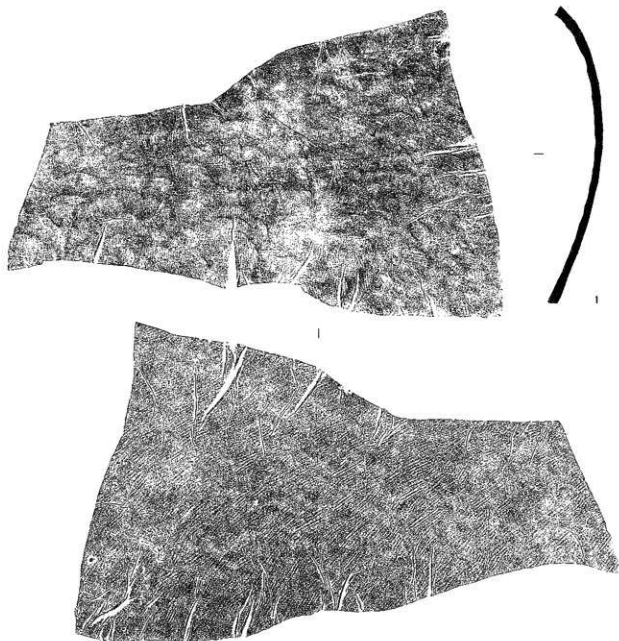
第577図 土壙出土遺物(9)



第578図 土坑出土遺物(1)



第579図 土壙出土遺物(1)



第580図 土壙出土遺物(12)

られている。

5は、須恵器の坏である。底部の全面を回転ヘラケズリしている。南比企窯跡群の製品である。

土師器の坏と須恵器の坏から第167号土壌は、8世紀第Ⅱ四半期と考えたい。

第168号土壌出土遺物

第581図6は、須恵器の坏である。還元化が進まず、大変軟質な焼き上がりである。底部に「綱」と黒書される。図化せず。木野窯跡群の製品である。

7は、須恵器の甕である。口縁部の破片で波状文がみられる。南比企窯跡群の製品である。

第173号土壌出土遺物

第581図8は、須恵器の坏である。しかし還元化がほとんど進んでおらず、器肉が大変薄いことを除くと、土師質土器と大差がない。南比企窯跡群の製品である。

9は、須恵器の皿である。8と同様、土師質土器と大差がない。南比企窯跡群の製品である。

土師器の坏・皿から第173号土壌は、9世紀第Ⅱ四半期と考えたい。

第174号土壌出土遺物

第581図10は、須恵器の高台付碗である。底部周辺を回転ヘラケズリした後、台形状の高台を付ける。外端接地である。還元化が進み、硬質である。南比企窯跡群の製品である。8世紀後半。

第177号土壌出土遺物

第581図11・12は、土師器の坏である。11は、薄手の内溝口縁の坏である。12は、やや大振りな壺形の坏である。利根川水系の原土が用いられている。

13・14は、須恵器の坏である。13は、底部周辺を回転ヘラケズリした坏である。14も底部を回転ヘラケズリしている。範囲は不明である。南比企窯跡群の製品である。

土師器の坏や須恵器の坏から第177号土壌は、8世紀第Ⅱ四半期と考えたい。

第180号土壌出土遺物

第581図15は、土師器の坏である。内面に放射状の暗文が施される。細かな暗文で、器壁への沈み込みも少ない。利根川水系の原土が用いられている。7世紀第Ⅳ四半期。

16は、須恵器の坏である。底部を回転ヘラケズリしている。還元化は、やや進まず淡い灰白色である。南比企窯跡群の製品である。8世紀第Ⅲ四半期。

図化した遺物は、8世紀第Ⅲ四半期だが、第180号土壌は、8世紀後半と考えたい。

第181号土壌出土遺物

第581図17～19は、土師器の坏である。17・18は須恵器坏養模倣坏、19は内屈口縁坏である。利根川水系の原土が用いられている。

20・21は、須恵器の坏である。20は底部全面、21は底部周辺をヘラケズリしている。南比企窯跡群の製品である。

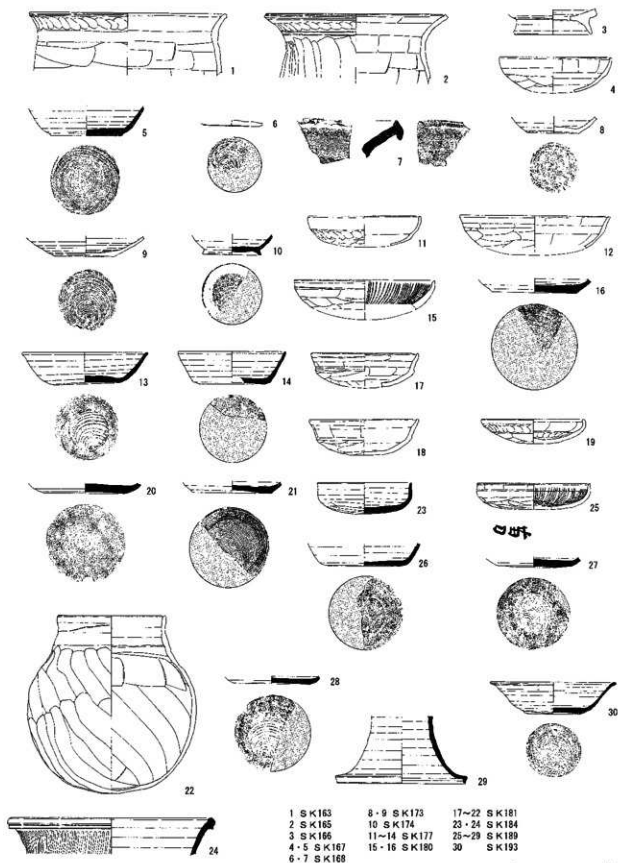
22は、土師器の甕である。球形の胴部で、口縁部は内傾している。利根川水系の原土が用いられている。

土師器の坏・壺は、7世紀第Ⅲ四半期だが、須恵器の坏は、8世紀中葉である。第181号土壌は、8世紀第Ⅲ四半期と考えたい。

第184号土壌出土遺物

第581図23は、須恵器の坏である。底部は、細かな手持ちヘラケズリが施されている。還元化が良く進み、硬質な焼き上がりとなっている。比企型坏と共通した形態、調整である。南比企窯跡群の製品である。7世紀第Ⅲ四半期。

24は、須恵器の甕である。口縁部の破片で縦位の叩きの後、丁寧なクロロ挽きを行っている。南比企窯跡群の製品である。



第581図 土墳出土遺物(3)

第189号土壇出土遺物

第581図25は、土師器の坏である。内面には、細かな放射状の暗文と螺旋状の暗文が描かれている。底部外面に「苗田」と墨書がみられる。利根川水系の原土が用いられている。

26～28は、須恵器の坏である。全て底部周辺を回転ヘラケズリしている。28は末野窯跡群、他は南比企窯跡群の製品である。

29は、須恵器の高盤である。脚部のみの破片であるが、薄く丁寧に作られており、脚端部も「マ」字状に作られている。南比企窯跡群の製品である。

第193号土壇出土遺物

第581図30～第582図2は、須恵器の坏である。30は還元化が進まず、やや軟質であるが、他は硬質である。末野窯跡群の製品である。9世紀第II四半期。

3は、緑釉陶器である。壺の破片か。猿投窯跡群の製品である。

第194号土壇出土遺物

第582図4・5は、須恵器の坏である。4は、底部の周辺部及び側面下半を糸切り後、手持ちヘラケズリしている。底部に「×」の篋書きがある。4・5とも還元化が進まず柔らかい。4は、角閃石や石英を含み、群馬県東部の沖積地の原土が用いられている。5は、末野窯跡群の製品である。

6は、須恵器の高台付壇である。高台は台形状で、端部は平坦である。末野窯跡群の製品である。

4は、8世紀末から9世紀前半、5・6は、9世紀第IV四半期であることから第194号土壇は、後者と考えたい。

第196号土壇出土遺物

第582図7は、須恵器の高台付壇である。還元化がほとんど進まず、淡い灰褐色となっている。利根川水系の原土が用いられている。10世紀前半である。

8・9は、緑釉陶器の破片である。9は後皿の破

片である。8は猿投窯跡群、9は尾北地方の製品である。

10は、須恵器の火舎である。全く還元化せず赤褐色だが硬質である。利根川水系の原土が用いられている。

11は、鉄製の刀子である。

第196号土壇の時期を特定できるのは、須恵器の高台付壇のみであった。

第197号土壇出土遺物

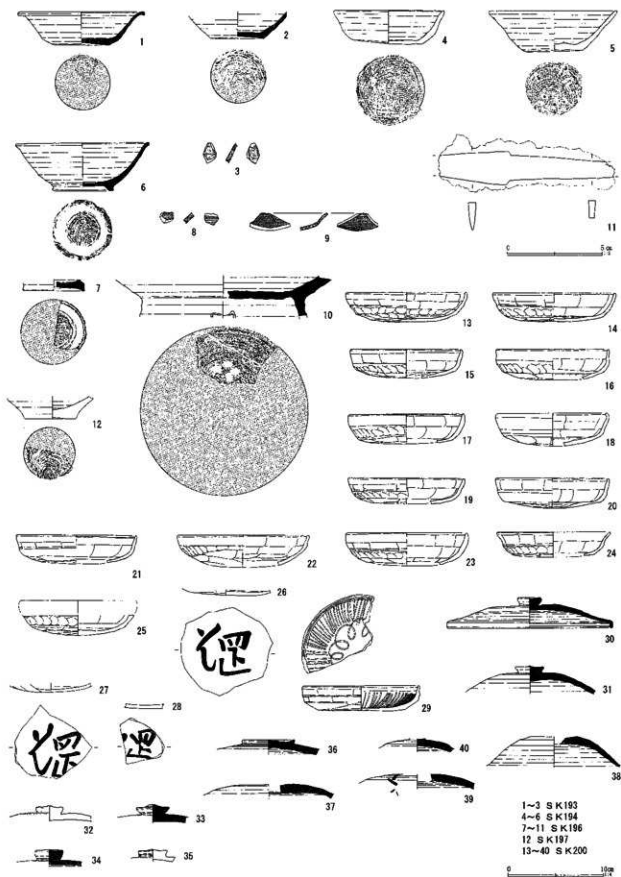
第582図12は、土師質土器の坏である。硬質に焼き上がる。底部の器肉が厚い。ローム台地の粘土を原土としている。10世紀後半。

第200号土壇出土遺物

第582図13～29は、土師器の坏である。13～28は、坏Aである。13～22の口縁は、内湾口縁であり、23は、口縁外面に沈線をもち、24は、「S」字状に屈曲する。26～28の底部外面には、「綱」と墨書されている。29は、内面に暗文がみられる。周辺部を放射状の暗文を施した後、見込みに螺旋状の暗文を施している。15・16・22・23・25～29は、利根川水系の原土が用いられている。他はローム台地の粘土を原土としている。

30～40は、須恵器の蓋である。30のみが、天井部から口唇部の資料である。30～35は、ボタン状のつまみが付く。小さなボタン状のつまみでやや高い。32・35を除き、還元化の進んだ硬質な仕上がりにある。35・38～40は、末野窯跡群の製品、36は、秋間窯跡群の製品である。他は、南比企窯跡群の製品である。39は「綱」と墨書あり。

第583図1～18は、須恵器の坏である。10はやや不明瞭だが、1～9までは、底部の周辺が、回転ヘラケズリが施されている。なかでも1～4までの底部は大形、5～11まではやや小振りである。6は、底部に厚く自然軸が掛かり、底部の二次調整は不明である。12～17の底部は、糸切り離しのみである。18は、



第582図 土壇出土遺物(4)

底部周辺を手持ちヘラケズリしている。18のみ還元化の進まない軟質な焼き上がりで、橙色となっている。5・8・9・13には、「綱」と墨書がみられた。5のみ体部外面に書かれていた。3・17は墨痕あり。11・13は末野窯跡群の製品、18は、新治窯跡群の製品である。他は、南比企窯跡群の製品である。

19～21は、須恵器の高台付埴である。19は、底部周辺をヘラケズリした後に角高台を付けている。内端接地である。埴部は環か。20は、周辺ヘラケズリをした後に高台を付けるが、埴部の屈曲が強い。21も同様。20の高台は、内端接地。21は、外端接地。3点とも硬質に良く還元化されている。南比企窯跡群の製品である。21に「綱」と墨書あり。

22は、須恵器の高盤である。脚部がラッパ状に開く。薄く丁寧に作られている。良く還元化し硬質である。南比企窯跡群の製品である。

23・24は、土師器の甕である。23は、やや厚手の口縁部で胴部は、壺状になるのであろう。24は、器壁の大変薄い甕である。利根川水系の原土が用いられている。

25は、須恵器の蓋である。小形の蓋で、おそらく金属器の水瓶の蓋を模倣したのであろう。つまみは、宝珠状に高く作られている。かえりは高く、全体に甲高である。還元化が大変よく進み、硬質である。南比企窯跡群の製品である。

26は、須恵器の淨瓶である。二本の平行沈線を引いた頸部である。硬質に作られ、淡い灰褐色である。南比企窯跡群の製品である。

27・第584図1は、須恵器の長頸壺である。27は胴部、他は底部である。良く還元化が進んでいる。27は末野窯跡群の製品、他は南比企窯跡群の製品である。

2は、灰釉の陶器長頸壺の底部である。東濃地方の製品で大原2号窯式である。

3は、須恵器の短頸壺である。良く還元化している。南比企窯跡群の製品である。

第584図4～12・第585図1は、須恵器の甕である。第584図8～12には、口縁部に二条以上の波状文が施

文される。4・6・8・第585図1は、南比企窯跡群の製品である。他は末野窯跡群の製品である。

第584図13は、片面硯である。硯面は平滑になっている。突縁が二条巡る。欠損のため、脚部に透穴などを確認できない。南比企窯跡群の製品である。

14は、石製の紡錘車である。

15は、砥石である。

第200号土壌から出土した土器は、8世紀第Ⅲ四半期から9世紀第Ⅰ四半期までみられるが、土壌への遺物の廃棄は、9世紀第Ⅰ四半期に行ったと考えたい。

第201号土壌出土遺物

第585図2・3は、土師器の環である。2は、有段口縁環である。明瞭な段を作る。器表は荒れている。3は、北島型暗文土器である。放射状の暗文が、薄く施文される。器肉は厚い。2・3とも利根川水系の原土が用いられている。7世紀第Ⅳ四半期。

第202号土壌出土遺物

第585図4は、土師器の環である。扁平な環で比較的器肉が厚い。利根川水系の原土が用いられている。8世紀前半。

第203号土壌出土遺物

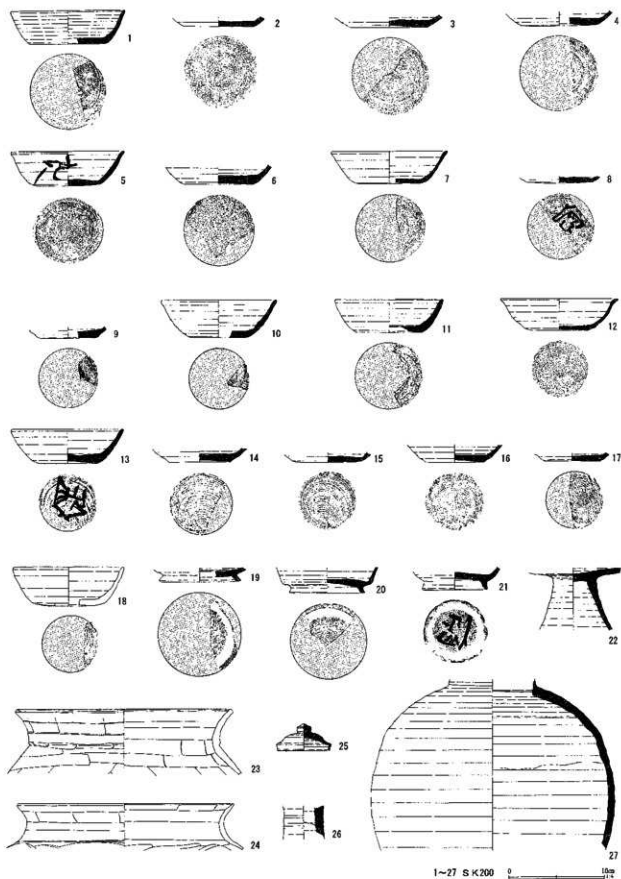
第585図5は、須恵器の蓋である。やや還元化の鈍い仕上がりである。つまみを欠損する。天井部外面に墨痕が残るが、文字として判読できない。末野窯跡群の製品である。

6は、須恵器の無台埴である。器高の高い無台埴で全体の法量も大きい。器肉が薄く、やや腰が張る。南比企窯跡群の製品である。

須恵器の蓋や埴などから第203号土壌は、8世紀第Ⅳ四半期と考えたい。

第211号土壌出土遺物

第585図7は、土師器の有段口縁環である。口縁部



第583図 土壙出土遺物(5)

が長く、沈線状の段が付く。口唇部内面に沈線状の窪みが残る。利根川水系の原土が用いられている。6世紀第IV四半期。

第212号土壇出土遺物

第585図8は、緑釉陶器の椀皿である。内面に沈線状の窪みがある。尾北地方の製品である。

第214号土壇出土遺物

第585図9は、須恵器の環である。底部をへら切りされ分厚い。静岡県湖西窯跡群の製品である。7世紀第III四半期。

第216号土壇出土遺物

第585図10は、北島型暗文土器である。器壁が薄く、内面の暗文は、きめが細かく放射状である。利根川水系の原土が用いられている。7世紀第IV四半期。

11は、緑釉陶器の椀の破片である。猿投窯跡群の製品である。

第217号土壇出土遺物

第585図12は、緑釉陶器の椀の破片である。椀の一部が残る。猿投窯跡群の製品である。

第218号土壇出土遺物

第585図13は、土師質土器の環である。内外面荒れており、ざらついている。中央部に穿孔を行おうとした跡が内外面に残る。利根川水系の原土が用いられている。10世紀後半。

14は、土師質土器の耳皿である。口縁部の一部のみである。末野窯跡群の製品である。

第219号土壇出土遺物

第585図15は、土師質土器の環である。僅かに糸切り痕が残る。ローム台地の粘土を原土としている。10世紀第IV四半期。

16は、不明鉄製品である。

第221号土壇出土遺物

第585図17は、土師器の環である。扁平な皿形の環である。利根川水系の原土が用いられている。

18は、須恵器の環である。良く還元化され硬質である。末野窯跡群の製品である。

19は、緑釉陶器の皿である。高台は角高台で、底部はケズリ込まれ、丸くなっている。猿投窯跡群の製品である。黒笹90号窯式である。

20は、須恵器の壺か。末野窯跡群の製品である。第586図1は、須恵器の甕である。南比企窯跡群の製品である。

第221号土壇は、土師器の環や須恵器の環、緑釉陶器から9世紀中葉と考えたい。

第223号土壇出土遺物

第586図2・3は、須恵器の蓋である。2は、ボタン状のつまみが残る。良く還元化されており、硬質である。3も2と同様のつまみが付くと思われる。極めて薄くシャープに作られている。3は、4の蓋となるかもしれない。

4～8は、須恵器の環である。4・5は、クロの切り離しが、へら切りである。薄く作られ、硬質である。6～8は、底部周辺をへらケズリしている。7は、手持ちへらケズリである。8の底部には、「綱」と墨書されている。2～5は、金山窯跡群、6～8は、南比企窯跡群の製品である。

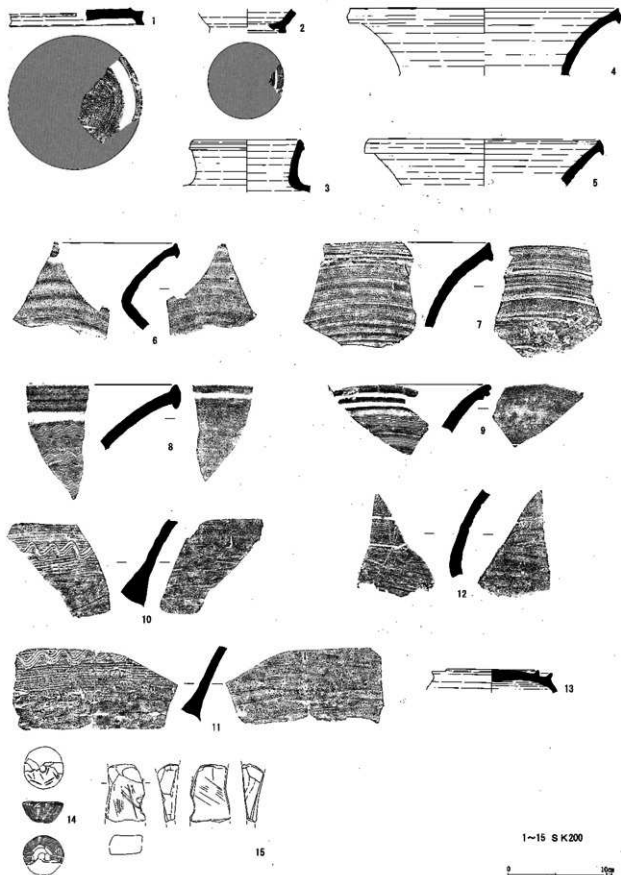
9は、須恵器の壺である。南比企窯跡群の製品である。

10は、須恵器の大甕である。南比企窯跡群の製品である。

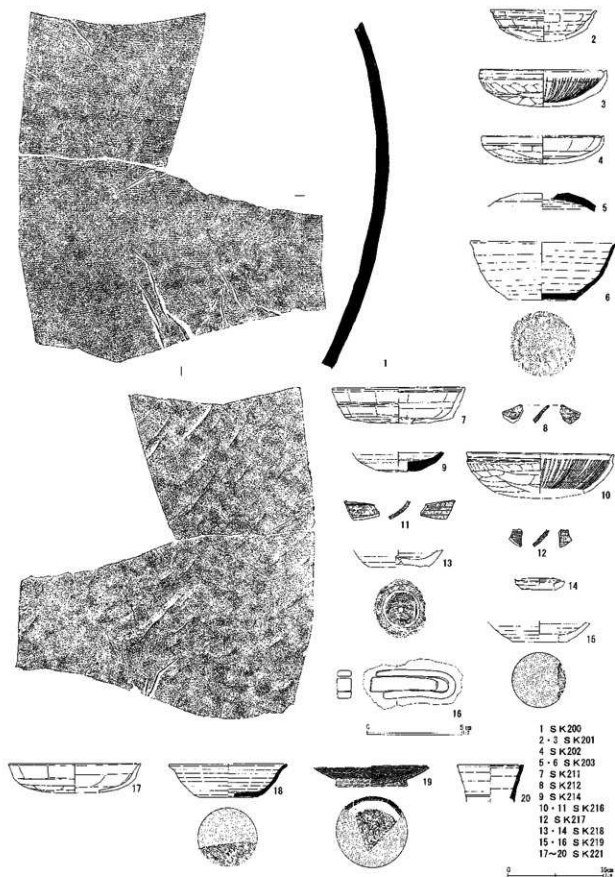
須恵器の蓋・環から第223号土壇は、8世紀第III四半期と考えたい。

第228号土壇出土遺物

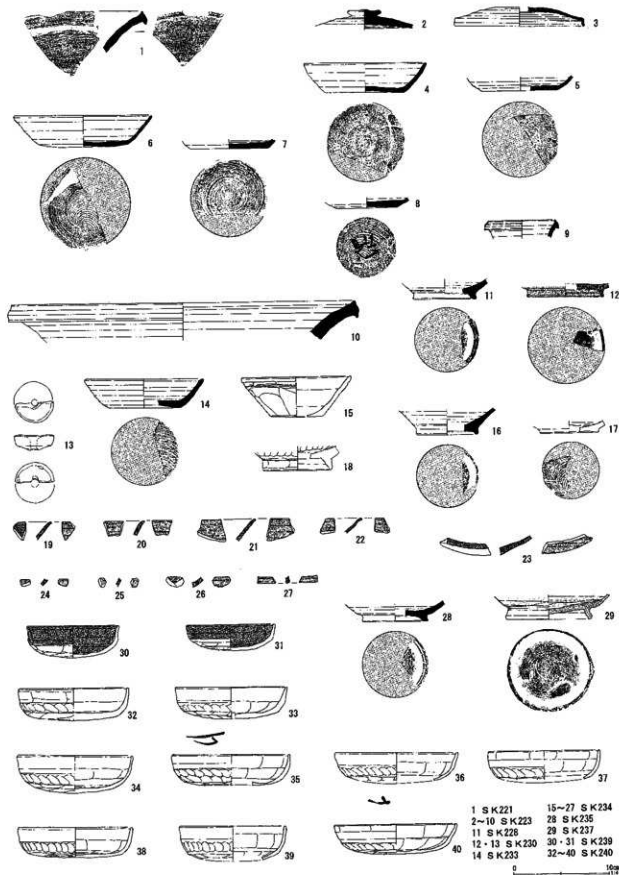
第586図11は、須恵器の高台付壇である。高台は、台形状で比較的丁寧に作られている。外端接地。良く還元化し硬質である。末野窯跡群の製品である。



第584図 土壌出土遺物(16)



第585図 土壙出土遺物(17)



第586図 土墳出土遺物(II)

9世紀IV四半期。

第230号土壇出土遺物

第586図12は、緑釉陶器の埴である。高台が細長い。猿投窯跡群の製品である。黒笹90号窯式である。9世紀後半。

13は、紡錘車である。

第233号土壇出土遺物

第586図14は、須恵器の埴である。還元化がほとんど進まず、赤褐色に仕上がっている。末野窯跡群の製品である。8世紀第II四半期。

第234号土壇出土遺物

第586図15は、土師器の埴Bである。側辺部を粗くケズリ、底部も削られている。利根川水系の原土が用いられている。

16は、須恵器の高台付埴である。高台は低く台形状である。比較的良く還元化されており、硬質である。末野窯跡群の製品である。

17は、土師質土器の皿である。やや硬質である。ローム台地の粘土を原土として用いている。

18は、土師質土器の高台付埴である。大変軟質で手に粉が付く。底部はヘラケズリされている。内面は、黒色化されている。ただしヘラミガキによる平滑化はされていない。利根川水系の原土が用いられている。

19～27は、緑釉陶器である。全て小破片で第234号土壇の覆土中からの出土である。19は陶片、20は埴、21は稜埴、22は稜皿の口縁部である。23は稜皿、24・25・26は陶片の体部である。27は、稜皿の高台部であろう。19～21・23～27は猿投窯跡群、22は尾北地方の製品である。

土師器の埴や須恵器の高台付埴、土師質土器の皿や高台付埴から第234号土壇は、10世紀IV四半期と考えたい。

第235号土壇出土遺物

第586図28は、須恵器の高台付埴である。高台は、台形状である。端部は、外端接地である。比較的硬質な焼き上がりである。末野窯跡群の製品である。9世紀後半。

第237号土壇出土遺物

第586図29は、灰釉陶器の埴である。高い三日月形の高台である。底部はヘラケズリされている。内外面がハケ塗りされている。東遠江地方の製品で、黒笹90号窯式である。9世紀第IV四半期。

第239号土壇出土遺物

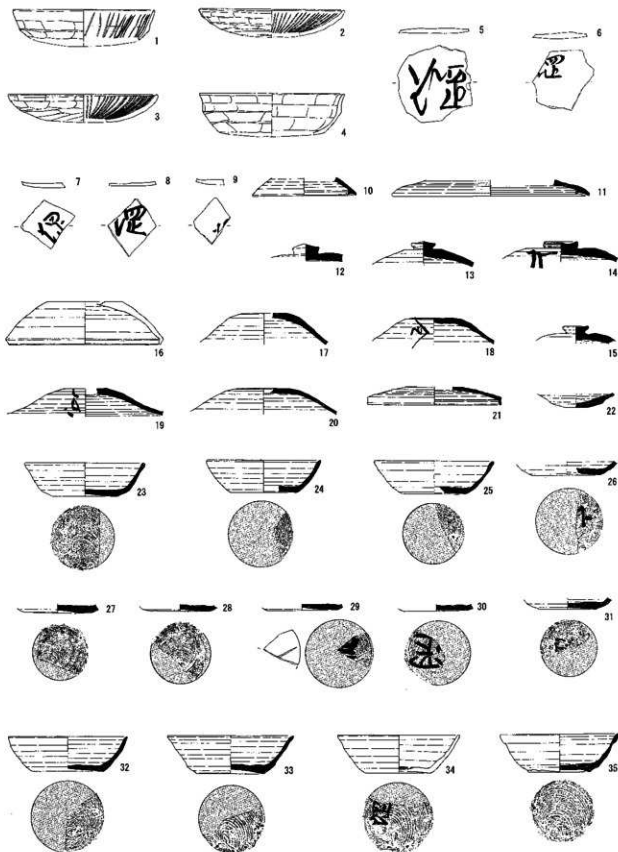
第586図30・31は、土師器の比企型埴である。内面の全面と外面の上半が、赤彩されている。30は、口唇部内面が沈線状となる。両者ともローム台地の粘土を原土としている。7世紀第IV四半期。

第240号土壇出土遺物

第586図32～第587図9は、土師器の埴である。第586図32～40、第587図4～9は、埴Aである。32のみ底部が厚く、やや歪んでいる。4は、器高も高く、体部をヘラケズリしている。第587図1は、内面にやや雑な放射状の暗文を施す。2・3は、北島型暗文土器の皿である。

第586図32・36・第587図5～9の底部には、「綱」と墨書されている。また第586図33の底部には、「金」または「全」と墨書されている。32は図化せず。33・35・37は、ローム台地の粘土を原土としている。他は、利根川水系の原土が用いられている。

第587図10～21は、須恵器の蓋である。10は、小さなかえりの付く蓋である。天井部には、厚く自然釉がかかる。11は、やや奥まったところにかえりが小さく付く。12～15は、つまみが残る。ボタン状のつまみで、14・15は、中央が窪むが、他はキノコ状に尖る。16は、還元化が進まずやや軟質であるが、他は、比較的硬質である。16の天井部は、甲高で内彎



1~35 S K240

0 10cm
2/4

第587図 土壇出土遺物(時)

するが、17・18はやや低く、21は直線的である。

14・18・19に墨書が確認できる。全て外面の傾斜部に書かれている。18は「全」、19は「綱」、14は判読できない。10は、湖西窯跡群の製品である。11・14～17は、末野窯跡群の製品である。他は南比企窯跡群の製品である。

第587図22～第589図14は、須恵器の坏である。22は、底部をへら切りしている。良く還元化した湖西窯跡群の製品である。第587図23～30は、底部周辺を回転へらケズリしている。31は、底部全面を手持ちへらケズリしている。32～第589図12は、底部糸切りのみだが、32～第588図6は、大きな底径、7～第589図10は、やや小さな底径を一括した。第587図34・第588図15・第589図1は、還元化が進まず、軟質で橙色に焼き上がっている。他は硬質である。

第588図15には「=」、第589図5には「×」のへら書きがみられる。第587図26・29・30・31・34・第588図10・18・20・第589図1は、「土」の墨書がみられる。6・14には、「綱」の墨書が記されている。第588図18のみ底部と体部の屈曲部に記されている。第587図25・31～33・35・第588図1・4・8・9・21・22は、末野窯跡群の製品である。他は、南比企窯跡群の製品である。

第589図13は土師器の杯である。小さな破片であるが、「佐」と口縁部外面に墨書がある。末野窯跡群の製品である。第588図7は墨痕のみである。

第589図15は、須恵器の皿である。比較的良く還元化され硬質である。口縁部に墨痕があり、「弟」かであろう。末野窯跡群の製品である。

16～23は、須恵器の高台付埴である。16は、還元化が良く進み極めて硬質な仕上がりとなっている。高台は細く丁寧である。17の高台は、内側に入り込み爪状となる。18・20の高台は、幅広の菱形で端面は水平である。23は、大形の高台付埴である。16のみ南比企窯跡群の製品で他は、末野窯跡群の製品である。17・21に「綱」の墨書がみられる。

24は、黒色土器の鉢である。金属製の鉢（銅鉢）

を模倣したのであろうか。内面に細かな平行したミガキがみられ、黒色処理が施されている。利根川水系の原土が用いられている。

25は、須恵器の短頸壺の蓋である。良く還元化し硬質に焼成されている。南比企窯跡群の製品である。

26は、須恵器の浄瓶であろうか。肩部の破片で降灰が激しい。良く還元化し硬質である。東海地方の製品であろう。

27は、須恵器の花瓶である。大変薄い作りで、外面に自然釉がみられる。東海地方の製品であろう。

28は、須恵器の円面碗である。上部外周に高い突帯が巡る。碗面は欠損し残っていない。やや高い脚部には、長方形とギザミが交互に十二単位入る。透かしは、鋭利な工具で刳り抜いている。比較的硬質に仕上がっている。南比企窯跡群の製品である。

29～第590図6は、須恵器の甕である。口縁部破片の第590図1～4には、外面に波状文がみられる。第589図31は、頸部補強帯が巡る。良く還元化し硬質である。第590図6は、底部内面に叩きの跡が、明瞭に残る。第589図29・31～第590図2・6は、末野窯跡群の製品である。他は南比企窯跡群の製品である。

7は、鉄製の紡錘車である。軸棒が断片的に残る。

8は、銅製の耳環である。錆化が激しく、全体に膨らんでいる。

第240号土墳から出土した土器は、8世紀第Ⅲ四半期から9世紀第Ⅰ四半期までみられるが、土墳への遺物の廃棄は、9世紀第Ⅰ四半期に行なったと考えたい。

第245号土墳出土遺物

第590図9は、須恵器の蓋である。かえりの明瞭な蓋で口唇部を出ない。天井部のへらケズリも深い。末野窯跡群の製品である。7世紀第Ⅳ四半期。

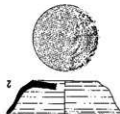
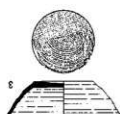
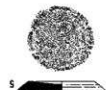
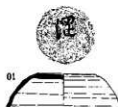
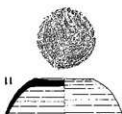
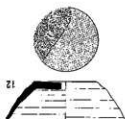
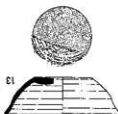
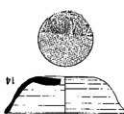
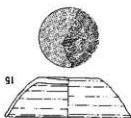
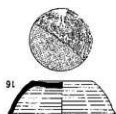
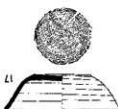
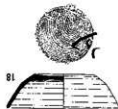
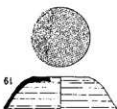
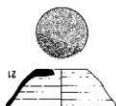
10は、須恵器の高台付埴である。底部の全面を回転へらケズリした後に細高い高台を付けている。外端接地。群馬県の藤岡・吉井窯跡群か。8世紀第Ⅱ四半期か。

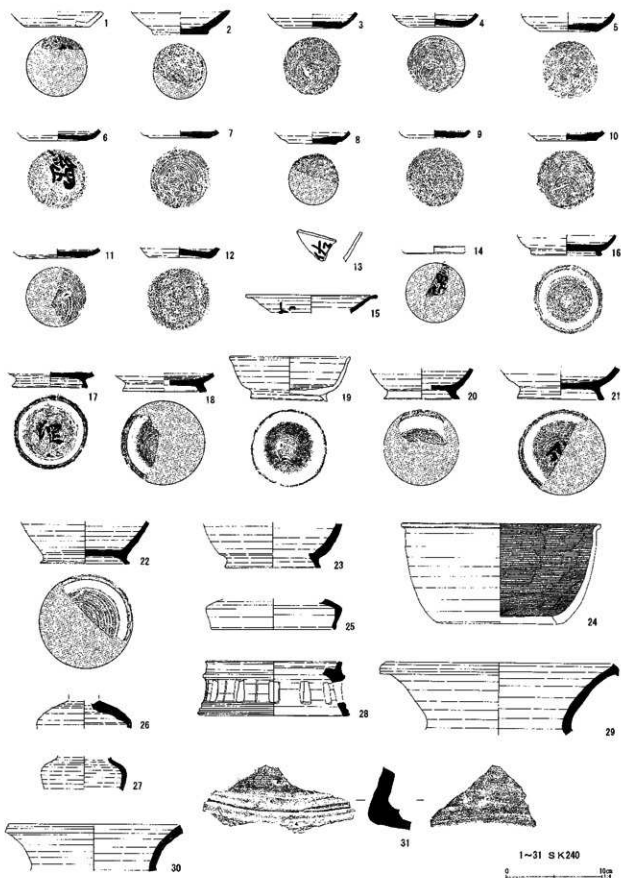
第245号土墳は、8世紀第Ⅱ四半期と考えたい。

第588圖 土城出土遺物(2)

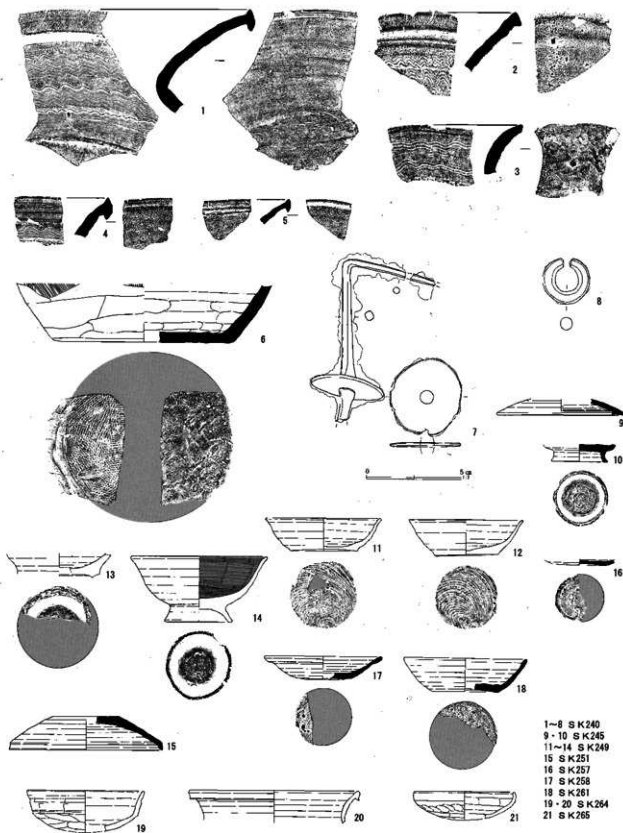
0 10cm

1~24 SK240





第589図 土壇出土遺物(2)



第590図 土墳出土遺物20

第249号土壇出土遺物

第590図11・12は、土師質土器の坏である。焼成が悪く、軟質で手に粉が付く。利根川水系の原土が用いられている。

13は、土師質土器の高台付埴である。器肉が厚く、ロクロ目も明瞭に残る。利根川水系の原土が用いられている。

14は、黒色土器の高台付埴である。高台は、高く高脚状である。内面には細かなヘラミガキを行った後、黒色処理が加えられている。器壁の劣化が激しい。利根川水系の原土が用いられている。

土師質土器の坏や高台付埴、黒色土器の高台付埴から第249号土壇は、10世紀第IV四半期と考えたい。

第251号土壇出土遺物

第590図15、須恵器の蓋である。天井部の糸切りが明瞭に残る。また傾斜部のケズリは粗い。つまみを欠損する。かえりは鈍く、器肉全体も厚い。末野窯跡群の製品である。9世紀前半。

第257号土壇出土遺物

第590図16は、須恵器の坏である。やや軟質で器表の荒れた坏である。末野窯跡群の製品である。9世紀後半。

第258号土壇出土遺物

第590図17は、須恵器の皿である。良く還元化されている。末野窯跡群の製品である。9世紀後半。

第261号土壇出土遺物

第590図18は、須恵器の坏である。還元化が、やや進まず淡い灰色である。底部周辺を手持ちヘラケズリしている。末野窯跡群の製品である。9世紀第II四半期。

第264号土壇出土遺物

第590図19は、土師器の有段口縁坏である。段は沈

線状である。利根川水系の原土が用いられている。7世紀中葉。

20は、須恵器の甕である。南比企窯跡群の製品である。

第265号土壇出土遺物

第590図21は、土師器の坏である。内屈口縁の坏で、内面にタール状の付着物がある。7世紀第IV四半期。

第266号土壇出土遺物

第591図1は、須恵器の高台付埴である。高台は、小さな高台で外端接地である。口縁部は、低い環形となるのであろう。底部を回転糸切した後、高台を付けている。秋間窯跡群の製品である。8世紀第I四半期。

2は、黒色土器の高台付埴である。高台は、高く端部が「M」字状となる。外端接地である。底部は、糸切り痕が残る。内面は、細かなヘラミガキが加わり、黒色化されている。利根川水系の原土が用いられている。10世紀後半。

第266号土壇は、10世紀後半と考えたい。

第267号土壇出土遺物

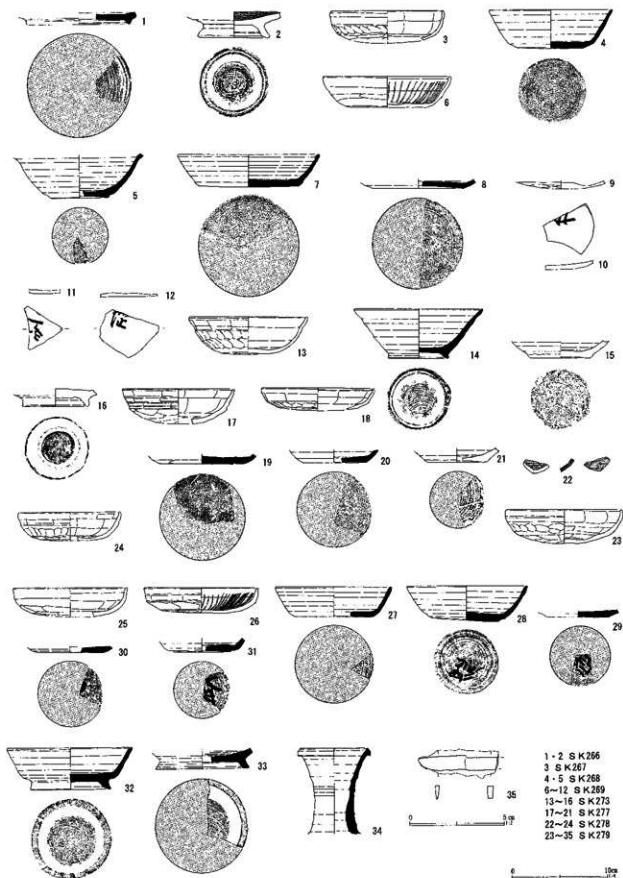
第591図3は、土師器の坏Aである。器壁は大変薄く作られている。利根川水系の原土が用いられている。9世紀前半。

第268号土壇出土遺物

第591図4・5は、須恵器の坏である。4は、底部周辺に回転ヘラケズリを行っているが、5は、未調整である。4・5とも南比企窯跡群の製品である。4は、8世紀第4四半期、5は、9世紀前半である。第268号土壇は、9世紀前半と考えたい。

第269号土壇出土遺物

第591図6・9～12は、土師器の坏である。6は、内面に放射状の暗文を施す。暗文は、間隔や長さが



第591図 土壇出土遺物(23)

まばらである。10～12には、底部に墨書があり、「綱」と書かれている。全て利根川水系の原土が用いられている。

7・8は、須恵器の坏である。7は、底部周辺をヘラケズリしているが、厚く残っている。8も底部周辺をヘラケズリしている。南比企窯跡群の製品である。

土師器の坏や須恵器の坏から第269号土壌は、8世紀第Ⅱ四半期と考えたい。

第273号土壌出土遺物

第591図13は、土師器の坏Aである。やや器肉が厚く、底部がヘラケズリされている。利根川水系の原土が用いられている。

14は、須恵器の高台付埴である。低く小さな高台で、外端接地の台形状である。良く還元化されている。末野窯跡群の製品である。

15は、土師質土器の坏である。比較的硬質な焼き上がりで手に粉が付かない。

16は、土師質土器の高台付埴である。焼き上がりは、15と同様。糸切りの跡をなでている。15・16は、ローム台地の粘土を原土としている。

第277号土壌出土遺物

第591図17・18は、土師器の坏である。17は、有段口縁坏、18は、扁平化した内屈口縁坏である。利根川水系の原土が用いられている。

19・20は、須恵器の坏である。19の底部は、全面手持ちヘラケズリを行っている。20は全面回転ヘラケズリを行っている。19は南比企窯跡群、20は末野窯跡群の製品である。

21は、土師質土器の坏である。利根川水系の原土が用いられている。

17は、7世紀前半、18・19は8世紀中葉、20は8世紀後半、21は10世紀前半である。第277号土壌は、8世紀後半と考えたい。

第278号土壌出土遺物

第591図22は、緑釉陶器の埴の破片である。猿投窯跡群の製品である。

第279号土壌出土遺物

第591図23～26は、土師器の坏である。23～25は、土師器坏Aである。24は、口縁部に小さな屈曲がある。26は、内面に放射状の暗文を施した坏である。口縁部は多段状となる。26のみ緻密に作られる。24は、ローム台地の粘土を原土としているが、他は、利根川水系の原土が用いられている。

27～31は、須恵器の坏である。全て底部周辺に回転ヘラケズリが施されている。また5点とも底部に「綱」と墨書が記されている。28・30は、還元化が進まず淡い灰白色となるが、他は、良く還元化が進んでいる。全て南比企窯跡群の製品である。

32・33は、須恵器の高台付埴である。32は、底部周辺をヘラケズリした後、厚みのある台形状の高台を付けている。外端接地である。33は、端部の平坦な角高台が付く。両者は、良く還元化が進み、硬質に焼き上がっている。32は南比企窯跡群、33は東金子窯跡群の製品である。

34は、須恵器の長頸壺である。頸部に二条の平行沈線が施文される。南比企窯跡群の製品である。

35は、鉄製の刀子である。

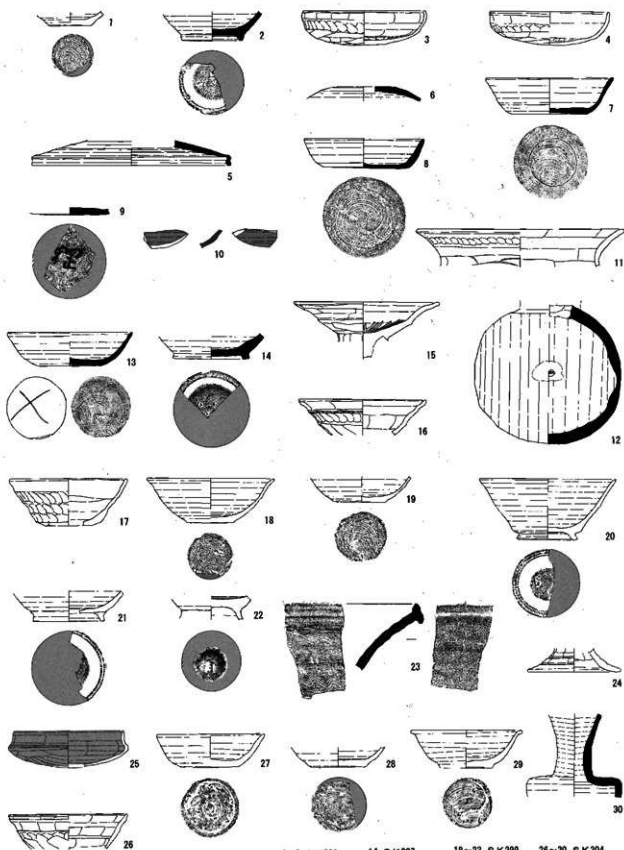
土師器の坏や須恵器の坏、高台付埴から第279号土壌は、8世紀第Ⅲ四半期と考えたい。

第280号土壌出土遺物

第592図1は、土師質土器の坏である。やや硬質である。利根川水系の原土が用いられている。

2は、須恵器の高台付埴である。高台は、台形状の高台でやや紐状である。還元化は進み、硬質である。末野窯跡群の製品である。

土師質土器の坏や須恵器の高台付埴から第280号土壌は、10世紀前半と考えたい。



1・2 S K 280
3~12 S K 285
13 S K 286

14 S K 287
15 S K 289
16・17 S K 288

18~23 S K 299
24 S K 300
25 S K 303

26~30 S K 304

0 10cm

第592図 土壇出土遺物24

第285号土壇出土遺物

第592図3・4は、土師器の環である。内湾口縁の環で、やや器高が高い。ローム台地の粘土を原土としている。

5・6は、須恵器の蓋である。5は、薄く丁寧な作りで、口縁部もやや厚手ながら「マ」字状に作っている。両者とも良く還元化が進んでおり、硬質である。

7～9は、須恵器の環である。全て底部周辺を回転ヘラケズリされている。5～9は、南比企窯跡群の製品である。9は底部に「綱」と黒書あり。

10は、緑釉陶器の稜塊片である。口縁部で若干折れる折縁皿か。猿投窯跡群の製品である。

11は、土師器の甕である。口縁部のみの資料であるが、おそらく球形となる薄甕か。ローム台地の粘土を原土としている。

12は、須恵器のフラスコ形瓶である。口縁部を欠く資料で、外面に自然釉が分厚く掛かる。胴中央部に風船技法のための小孔が穿たれている。湖西窯跡群の製品である。

第286号土壇出土遺物

第592図13は、須恵器の環である。底部全面を回転ヘラケズリしている。底部に「×」のヘラ書がみられる。良く還元化され硬質である。8世紀第Ⅲ四半期。

第287号土壇出土遺物

第592図14は、須恵器の長頸壺である。高台が低く、内端接地となっている。底部はヘラケズリが施されている。東金子窯跡群の製品か。9世紀前半。

第289号土壇出土遺物

第592図15は、土師器の高環である。口縁部の破片である。脚部と接合するために作った柄を残す。口縁部の内面には、放射状のミガキが、施されている。しかし暗文とは異なり、幅広の棒状工具を押し当て

たようである。口縁外面には、断続したヨコナデの痕跡が明瞭に残る。利根川水系の原土が用いられている。7世紀前半。

第298号土壇出土遺物

第592図16・17は、土師器の環Bである。16は、口縁部に粘土の輪積み痕跡を残す。下半がヘラケズリされている。17は、底部の周辺をヘラケズリしている。僅かに残る底部には、離れ砂がみられる。両者とも利根川水系の原土が用いられている。10世紀第Ⅰ四半期。

第299号土壇出土遺物

第592図18・19は、須恵器の環である。18は、還元化が進まず大変軟質である。19は、酸化炎焼成である。末野窯跡群の製品である。

20・21は、須恵器の高台付壇である。20は、還元化が進まず大変軟質である。21は、酸化炎焼成である。末野窯跡群の製品である。

22は、黒色土器の高台付壇である。内面が黒色化しているが、ヘラミガキはみられない。利根川水系の原土が用いられている。

23は、須恵器の甕である。南比企窯跡群の製品である。

須恵器の環や高台付壇、黒色土器の高台付壇から第299号土壇は、10世紀第Ⅱ四半期と考えたい。

第300号土壇出土遺物

第592図24は、土師器の高環である。有段状に広がる裾部である。利根川水系の原土が用いられている。7世紀前半。

第303号土壇出土遺物

第592図25は、土師器の環である。口縁部、底部とも薄く丁寧に削られ、口縁部のナデ跡も良く残る。内外面黒色処理を行っている。利根川水系の原土が用いられている。7世紀第Ⅳ四半期。

第304号土壇出土遺物

第592図26は、土師器の環Bである。体部を粗くヘラケズリを施している。口唇部に沈線状の窪みが巡る。利根川水系の原土が用いられている。

27は、須恵器の環である。還元化が進まず軟質な焼き上がりである。末野窯跡群の製品である。

28は、ロクロ土師器の環である。還元化がほとんど進まず、淡い橙色に仕上がっている。底部はヘラ切りによって、ロクロから切り離される。下総地方の「ロクロ土師器」であろう。

29は、土師質土器の環である。比較的硬質である。素地は、粗く砂質が強い。利根川水系の原土が用いられている。

30は、須恵器の花瓶である。肩部の張った体部とラッパ状に開く口縁部からなる。口縁部と体部の継ぎ目はみられない。いわゆる「壺G」である。還元化が進み、硬質に焼成されている。南比企窯跡群の製品である。

土師器の環や須恵器の環、土師質土器、ロクロ土師器などから第304号土壇は、10世紀第Ⅰ四半期と考えたい。

第306号土壇出土遺物

第593図1は、土師器の有段口縁環である。段部は沈線状である。外面のみ黒色処理を行っている。利根川水系の原土が用いられている。7世紀第Ⅰ四半期。

第307号土壇出土遺物

第593図2は、須恵器の高台付埴である。高台は細く高い。還元化がやや進まず軟らかい。末野窯跡群の製品である。

3は、灰釉陶器の埴である。高い三日月状の高台である。底部は、糸切りである。内面見込みは、激しい摩耗を受けている。東濃地方の製品で、虎渓山1号窯式である。

須恵器の高台付埴や灰釉陶器の埴から第307号土壇は、9世紀第Ⅳ四半期と考えたい。

第308号土壇出土遺物

第593図4は、土師質土器の環である。黄橙色の仕上がりで、比較的硬質である。利根川水系の原土が用いられている。

5は、須恵器の甕である。平底の甕で、底部にゲタ底はみられない。底部付近は横位に削られている。末野窯跡群の製品である。

土師質土器の環は、10世紀第Ⅱ四半期と考えたい。

第314号土壇出土遺物

第593図6は、土師器の有段口縁環である。内外面が黒色化されており、硬質である。利根川水系の原土が用いられている。7世紀第Ⅰ四半期。

第326号土壇出土遺物

第593図7は、須恵器の蓋である。硬質に良く還元化されている。南比企窯跡群の製品である。

8は、須恵器の環である。底部周辺を回転ヘラケズリしている。南比企窯跡群の製品である。

須恵器の蓋や環から第326号土壇は、8世紀第Ⅳ四半期と考えたい。

第329号土壇出土遺物

第593図9は、須恵器の環である。底部を糸切したとき、穴が開いてしまったらしく、内面から粘土を継ぎ足し調整している。還元化が進まず、やや軟質な焼き上がりである。末野窯跡群の製品である。

10は、土師質土器の環である。糸切り後、底部の縁辺を手持ちヘラケズリしている。利根川水系の原土が用いられている。

須恵器の環や土師質土器から第329号土壇は、10世紀第Ⅰ四半期と考えたい。

第331号土壇出土遺物

第593図11は、灰釉陶器の埴である。高台は、内端接地のやや高い高台である。内面は、ハケ塗りされ

るが、外面の施釉はない。底部にはヘラケズリ痕跡が残る。見込みの部分は平滑になっている。二川窯跡群の製品で、黒笹90号窯式である。9世紀後半。

第334号土壇出土遺物

第593図12は、須恵器の高台付壺である。端部が「M」字状となる外端接地の高台である。還元化が進まず、器壁が発泡している。末野窯跡群の製品である。10世紀前半。

第344号土壇出土遺物

第593図13は、須恵器の壺か捏鉢の口縁部である。内面に厚く自然釉が残ることから前者であろうか。硬質である。南比企窯跡群の製品である。

第350号土壇出土遺物

第593図14は、土師器の有段口縁環である。器表の摩滅が激しく、大変砂っぽい。利根川水系の原土が用いられている。7世紀第IV四半期。

第358号土壇出土遺物

第593図15は、須恵器の高台付壺である。酸化炎焼成である。高台は、緑釉陶器の角高台に近似した小振りの極めて繊細な高台である。底部ヘラケズリ後、貼付か。利根川水系の原土が用いられている。9世紀後半か。

第359号土壇出土遺物

第593図16は、土師器の環である。比較的硬質である。利根川水系の原土が用いられている。

17は、須恵器の高台付皿である。高台は、高く、底部も幅広である。口縁部はおそらく屈曲するであろう。還元化が進み、硬質に焼成されている。秋間窯跡群の製品である。

土師器の環や須恵器の高台付皿から第359号土壇は、8世紀第II四半期と考えたい。

第361号土壇出土遺物

第593図18は、須恵器の脚付き長頸壺である。脚部と口縁部は欠損しているが、胴部は完存している。残存部から推定すると口縁部は、別作りで胴部に載せられていたようである。また脚部には、長方形か台形の四方透かしが、開けられていた。胴部には、渦巻状のカキメが四周している。胴中央部には、沈線が引かれ、これを境として木口状工具による綾杉状の刺突が施文されている。さらに胴下半には、四条の沈線が、平行して引かれていた。良く還元化し、硬質に仕上がっている。末野窯跡群の製品である。7世紀前半。

第363号土壇出土遺物

第593図19は、須恵器の甕である。南比企窯跡群の製品である。

第365号土壇出土遺物

第593図20は、土師器の内屈口縁環である。比較的硬質に作られ、器面のざらつきも少ない。利根川水系の原土が用いられている。7世紀第IV四半期。

第368号土壇出土遺物

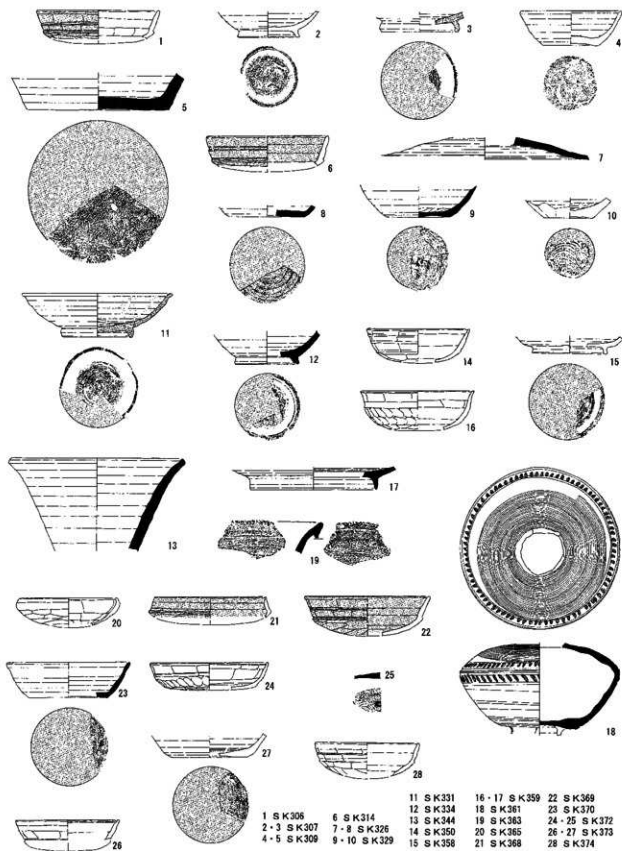
第593図21は、土師器の須恵器坯身模倣環である。端部は鋭い。内外面黒色処理。ローム台地の粘土を原土としている。6世紀第IV四半期。

第369号土壇出土遺物

第593図22は、土師器の有段口縁環である。有段部分は、ナデ状で極めて薄い。内外面が黒色処理されている。利根川水系の原土が用いられている。6世紀第IV四半期。

第370号土壇出土遺物

第593図23は、須恵器の環である。底部周辺部を回転ヘラケズリしている。比較的硬質に還元化している。南比企窯跡群の製品である。



第593図 土壙出土遺物(四)

第372号土壇出土遺物

第593図24は、土師器の坏Aである。口縁部に沈線状の窪みがみられる。利根川水系の原土が用いられている。9世紀前半である。

25は、須恵器の坏である。底部に「綱」カと墨書されている。南比企窯跡群の製品である。

第373号土壇出土遺物

第593図26は、土師器の須恵器坏身模倣坏である。口縁部の一部のみである。口唇部内側に沈線状の窪みを残す。ローム台地の粘土を原土としている。7世紀第III四半期。

27は、須恵器の坏である。底部周辺を回転ヘラケズリしている。やや還元化が進まず軟質である。南比企窯跡群の製品である。8世紀第III四半期。

第373号土壇は、8世紀後半と考えたい。

第374号土壇出土遺物

第593図28は、土師器の有段口縁坏である。段はやや不明瞭である。利根川水系の原土が用いられている。7世紀第III四半期。

第594図1は、須恵器の坏である。還元化が進み比較的硬質。南比企窯跡群の製品である。8世紀第IV四半期。

第377号土壇出土遺物

第594図2～8は、須恵器の坏である。4は、やや扁平で皿に近いが、坏としておく。全て還元化が進まず、淡い橙色に近い色調である。しかし硬質で軽く仕上げられており、従来の須恵器の範疇でとらえない。色調や質感・重量が、整っており、同一の窯で焼成された可能性がある。末野窯跡群の製品である。

9は、土師質土器の坏である。やや硬質で、きめが細かい。利根川水系の原土が用いられている。

須恵器の坏や土師質土器の坏から第377号土壇は、10世紀第I四半期と考えたい。

第396号土壇出土遺物

第594図10・11は、土師器の坏である。10は、内屈口縁坏、11は、扁平な坏である。10は器肉が厚いが、比較的丁寧なヘラケズリをしている。両者は、利根川水系の原土が用いられている。7世紀第IV四半期。

第399号土壇出土遺物

第594図12は、土師質土器の高台付碗である。内面が黒色に仕上がっており、黒色処理か。見かけよりは比較的硬質である。ローム台地の粘土を原土としている。10世紀後半。

第400号土壇出土遺物

第594図13は、須恵器の坏である。酸化炎焼成のため焼き上がりは、橙色である。南比企窯跡群の製品である。9世紀第IV四半期。

第401号土壇出土遺物

第594図14は、土師器の北島型暗文土器である。内面に細かな放射状暗文を施す。やや砂質だが、器肉は薄い。利根川水系の原土が用いられている。7世紀第IV四半期。

15・16は、須恵器の蓋である。15は、ボタン状のつまみを残すが、16は不明である。16の口唇部は「マ」字状となり、器壁も薄く作られる。良く還元化し硬質である。

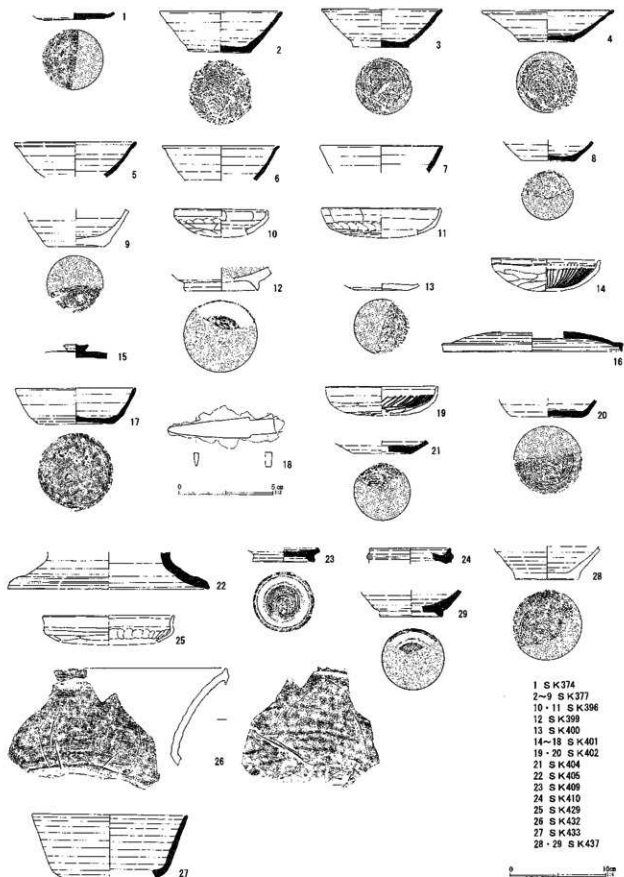
17は、須恵器の坏である。底部周辺に回転ヘラケズリを行っている。15～17は、南比企窯跡群の製品である。

18は、鉄製の刀子である。

土師器の坏や須恵器の坏・蓋から第401号土壇は、8世紀第III四半期と考えたい。

第402号土壇出土遺物

第594図19は、土師器の坏である。見込みに放射状の暗文と、螺旋文を施す。放射状暗文は、右肩上がりである。螺旋文は、単位が大きい。口縁外面



第594図 土墳出土遺物四

中央が、やや高くなる。利根川水系の原土が用いられている。

20は、須恵器の坏である。底部周辺を回転ヘラケズリされている。南比企窯跡群の製品である。

土師器の坏や須恵器の坏から第402号土壌は、8世紀第Ⅲ四半期と考えたい。

第404号土壌出土土遺物

第594図21は、須恵器の坏である。良く還元化され、硬質である。末野窯跡群の製品である。9世紀後半。

第405号土壌出土土遺物

第594図22は、須恵器の甕である。羽釜形甕の脚部にあたり、厚い器肉である。末野窯跡群の製品である。9世紀後半。

第409号土壌出土土遺物

第594図23は、須恵器の高台付埴である。端部は「M」字状となり、外端接地となる。硬質に還元化している。末野窯跡群の製品である。9世紀後半。

第410号土壌出土土遺物

第594図24は、須恵器の円面硯である。比較的硬質に焼成されている。硯面は、一部しか残らないが、平滑に摩滅している。南比企窯跡群の製品である。8世紀後半。

第429号土壌出土土遺物

第594図25は、土師器の坏である。扁平な坏で、口縁部が強く外反する。利根川水系の原土が用いられている。8世紀前半。

第432号土壌出土土遺物

第594図26は、須恵器の甕である。口縁部は粗くナデられている。還元化が進まず、軟らかい。南比企窯跡群の製品である。8世紀後半から9世紀前半である。

第433号土壌出土土遺物

第594図27は、須恵器の高台付埴である。坏部は深く、高台は欠損する。還元化が進み、硬質である。南比企窯跡群の製品である。

第437号土壌出土土遺物

第594図28は、土師質土器の坏である。軟質な仕上がりで手に粉が付く。利根川水系の原土が用いられている。

29は、須恵器の高台付埴である。還元化が進まず淡い灰白色である。高台は、台形状である。末野窯跡群の製品である。

第595図1は、土師器の紡錘車である。

土師質土器の坏や須恵器の高台付埴から第437号土壌は、10世紀第Ⅳ四半期と考えたい。

第439号土壌出土土遺物

第595図2は、須恵器の捏鉢である。底部は、円盤状に突出する。また底部は、手持ちのヘラケズリが行われ、丁寧に仕上げられる。ロクロ成形。南比企窯跡群の製品である。8世紀後半。

第441号土壌出土土遺物

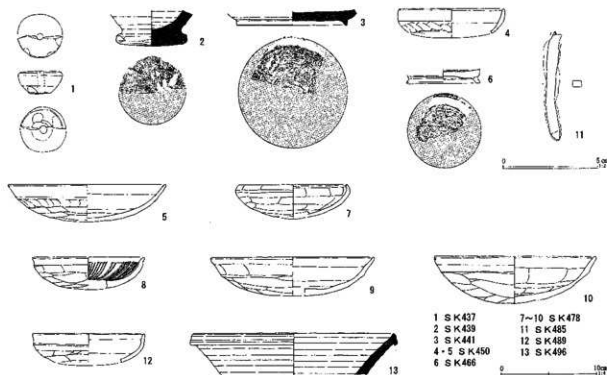
第595図3は、須恵器の高台付埴である。底部をヘラ切りした後、小さく細い高台を巡らせる。口縁は欠損するが、比較的浅い外反した口縁（坏）となるであろう。やや還元化が鈍いが、硬質である。藤岡・吉井窯跡群の製品であろうか。8世紀第Ⅳ四半期。

第450号土壌出土土遺物

第595図4は、土師器の坏である。内湾口縁坏で器表が、大変荒れている。

5は、土師器の皿である。深めの皿で、口縁は直線的に伸びる。4・5とも利根川水系の原土が用いられている。

土師器の坏・皿は、8世紀第Ⅱ四半期である。



第595図 土壌出土遺物(27)

第466号土壌出土遺物

第595図6は、須恵器の高台付碗である。高台は低い角高台である。端部は水平である。末野窯跡群の製品である。9世紀前半。

第478号土壌出土遺物

第595図7・8は、土師器の碗である。7は内屈口縁碗、8は北島型暗文土器である。7は、やや扁平な碗で、器壁も薄い。8は、内面にややまばらな放射状の暗文が入る。暗文は丁寧で見えにくい。

9・10は、土師器の皿である。やや深めな皿で口縁部の伸びが大きい。7～10は、利根川水系の原土が用いられている。

土師器の碗・皿から第478号土壌は、7世紀第IV四半期と考えたい。

第485号土壌出土遺物

第595図11は、棒状鉄製品である。

第489号土壌出土遺物

第595図12は、土師器の碗である。劣化が激しく手に粉が付く。利根川水系の原土が用いられている。8世紀後半。

第496号土壌出土遺物

第595図13は、須恵器の甕である。比較的硬質に焼き上がっている。末野窯跡群の製品である。

第496号土壌は、出土遺物から時期の特定は、困難である。

土壌出土遺物一覧

探検番号	図の番号	遺物番号	種別	器種	口径	底径	器高	最大径	残存率	色調	産地	備考
第569図	1	1	土師器	有段口縁環	111	—	(30)	—	20	にぶい黄橙	利根川水系	
第569図	2	2	須恵器	高台付埴	—	71	(17)	—	5	にぶい褐	末野	
第569図	3	7	灰釉陶器	埴	—	—	—	—	5	灰白	東濃・光ヶ丘	
第569図	4	28	須恵器	内湾口縁環	—	67	(33)	—	40	灰	利根川水系	
第569図	5	28	須恵器	埴	111	—	(30)	—	30	橙	南比企	須恵「レ」(テマツタマツ)
第569図	6	28	土師器	埴	201	—	(50)	—	16	橙	利根川水系	
第569図	7	28	石製品	砥石	—	—	—	—	—	—	—	
第569図	8	29	須恵器	埴	—	81	(25)	—	40	灰	南比企	
第569図	9	31	石製品	砥石	—	—	—	—	—	—	—	
第569図	10	42	土師器	小皿	91	48	20	—	100	にぶい黄橙	利根川水系	
第569図	11	43	須恵器	人甕	—	—	—	—	5	黄灰	南比企	
第569図	12	44	須恵器	埴	—	56	30	—	25	灰黄	南比企	
第569図	13	44	須恵器	埴	—	70	20	—	20	黄灰	南比企	
第569図	14	44	須恵器	埴	—	64	(9)	—	5	灰白	南比企	墨書「二」
第569図	15	44	須恵器	高台付埴	—	70	36	—	30	緑青灰	末野	
第569図	16	44	石製品	砥石	—	—	—	—	—	—	—	
第569図	17	46	須恵器	埴	124	56	46	—	55	灰白	末野	
第569図	18	46	須恵器	長頸甕	—	139	32	—	5	橙・内面浅黄	末野	
第569図	19	47	須恵器	埴	—	50	(16)	—	20	灰白	末野	
第569図	20	47	須恵器	高台付埴	160	—	(53)	—	30	にぶい橙	末野	
第569図	21	47	須恵器	高台付埴	—	67	(16)	—	20	褐	末野	
第569図	22	47	須恵器	高台付埴	—	65	(16)	—	35	灰黄	末野	
第569図	23	49	土師器	埴	133	—	(69)	—	40	橙	利根川水系	
第569図	24	52	土師器	内湾口縁環	108	—	34	—	40	橙	ローム台地の粘土	
第569図	25	52	土師器	有段口縁環	—	—	—	—	20	明黄褐	利根川水系	漆付着
第569図	26	52	須恵器	須恵埴輪器大甕	—	—	—	—	5	灰	末野	
第570図	1	56	土師器	埴	125	—	(30)	—	30	橙	利根川水系	
第570図	2	56	鉄製品	刀子か短刀	—	—	—	—	—	—	—	
第570図	3	64	土師器	須恵埴輪器	103	—	(34)	—	50	橙	利根川水系	
第570図	4	64	土師器	内湾口縁環	119	—	(24)	—	10	橙	利根川水系	
第570図	5	66	土師器	埴	210	—	(101)	—	30	橙	利根川水系	
第570図	6	73	須恵器	埴	—	66	(30)	—	10	灰	南比企	
第570図	7	75	土師器	有段口縁環	103	—	35	—	70	黄褐	利根川水系	黒色処理
第570図	8	75	須恵器	甕	99	—	33	—	100	灰	南比企	
第570図	9	75	土師器	甕	150	—	112	175	95	にぶい黄橙	利根川水系	
第570図	10	83	土師器	内湾口縁環	94	—	25	99	20	橙	利根川水系	
第570図	11	83	土師器	内湾口縁環	100	—	(31)	—	10	橙	利根川水系	
第570図	12	83	土師器	長脚甕	160	—	(47)	—	10	明黄褐	利根川水系	
第570図	13	83	土師器	長脚甕	185	—	(74)	—	10	橙	利根川水系	
第570図	14	87	鉄製品	不明鉄製品	—	—	—	—	—	—	—	
第570図	15	91	土師器	有段口縁環	114	—	(33)	—	20	橙	利根川水系	
第570図	16	91	土師器	須恵埴輪器	128	—	(30)	137	20	内側・外側・にぶい黄橙	利根川水系	
第570図	17	91	土師器	長脚甕	177	—	(56)	—	40	内湾口縁・外側・浅黄	利根川水系	
第570図	18	91	土師器	甕	138	—	(16)	—	20	赤褐	利根川水系	
第570図	19	92	土師器	高埴	—	68	(40)	—	5	橙	利根川水系	
第570図	20	94	土師器	埴	123	61	36	—	20	にぶい黄橙	利根川水系	
第570図	21	94	土師器	埴	108	61	40	—	20	橙	利根川水系	
第570図	22	94	土師器	埴	—	61	(10)	—	10	浅黄橙	利根川水系	

棟図番号	図の番号	通稱番号	種 別	器 種	口 径	底 径	器 高	最大径	残存率	色 調	産 地	備 考
第570図	23	99	土 師 器	甕	220	—	(74)		5	橙	利根川水系	
第570図	24	100	土 師 器	環A	93	56	(37)		5	にぶい黄橙	ローム台地の粘土	
第570図	25	100	須 恵 器	環	125	65	43		90	オリーブ灰	南比企	
第570図	26	100	須 恵 器	環	120	52	42		100	灰白	南比企	
第570図	27	100	須 恵 器	環	129	64	40		100	にぶい黄橙	南比企	
第570図	28	100	須 恵 器	環	128	63	43		95	にぶい黄橙	南比企	
第571図	1	100	須 恵 器	環	120	58	39		65	灰黄	南比企	
第571図	2	100	須 恵 器	皿	146	60	28		20	内側黄灰・外側 緑	南比企	
第571図	3	100	土 師 器	甕	199	—	(86)		5	明赤褐	利根川水系	
第571図	4	101	土 師 器	有段口縁環	106	—	(31)		10	黒褐	利根川水系	黒色処理
第571図	5	101	土 師 器	甕	191	—	(46)		5	橙	利根川水系	
第571図	6	101	須 恵 器	甕	220	—	(50)		10	灰	未野	
第571図	7	104	須 恵 器	環	—	58	(32)		10	灰	未野	黒書「□」
第571図	8	109	土 師 器	甕	220	—	(158)		30	内側にぶい橙・外 側緑	利根川水系	
第571図	9	118	土 師 器	有段口縁環	125	—	38		100	にぶい黄橙	利根川水系	黒色処理
第571図	10	118	土 師 器	長刺甕	242	—	87		20	内側にぶい橙・外 側にぶい黄橙	利根川水系	
第571図	11	123	土 師 器	内湾口縁環	119	—	(27)		10	橙	利根川水系	
第571図	12	123	土 師 器	内湾口縁環	129	—	(29)		10	橙	利根川水系	
第571図	13	123	須 恵 器	環	136	76	33		75	褐灰	南比企	
第571図	14	124	須 恵 器	環	130	78	(32)		5	灰	南比企	
第571図	15	125	須 恵 器	環	—	72	15		10	灰白	南比企	
第571図	16	135	須 恵 器	蓋	—	—	(16)		5	灰白	南比企	
第571図	17	136	土 師 器	環A	120	—	(35)		5	明褐	利根川水系	
第571図	18	137	土 師 器	環	120	—	37		30	にぶい橙	ローム台地の粘土	
第571図	19	137	須 恵 器	蓋	92	52	(28)		10	灰	南比企	
第571図	20	138	須 恵 器	環	—	67	(23)		35	灰褐	南比企	
第571図	21	139	須 恵 器	環	—	70	23		10	灰	未野	
第571図	22	144	土 師 器	有段口縁環	118	—	(33)		10	灰黄褐	利根川水系	黒色処理
第571図	23	144	土 師 器	有段口縁環	126	—	49		100	内側にぶい赤褐・ 外側黒褐	利根川水系	黒色処理
第571図	24	144	土 師 器	有段口縁環	176	—	64		100	内側黄灰・外側黄 灰橙	利根川水系	
第571図	25	145	土 師 器	環	119	76	(32)		60	にぶい橙	利根川水系	
第571図	26	145	土 師 器	環	122	74	(35)		50	にぶい黄橙	利根川水系	
第571図	27	145	土 師 器	環	129	—	31		40	浅黄	ローム台地の粘土	
第571図	28	145	須 恵 器	蓋	—	114	(15)		10	灰	南比企	
第571図	29	145	須 恵 器	環	125	69	31		70	灰	未野	
第571図	30	145	須 恵 器	環	124	52	38		30	灰	南比企	黒書「□」
第571図	31	145	須 恵 器	環	137	62	(34)		20	オリーブ灰	南比企	
第571図	32	145	須 恵 器	環	—	63	(15)		15	内側黄灰・外側に ぶい地	未野	
第571図	33	145	須 恵 器	環	—	63	(14)		10	灰白	未野	
第571図	34	145	須 恵 器	環	—	—	—		5	褐灰	未野	黒書「□」
第571図	35	147	土 師 器	有段口縁環	118	—	(45)		40	橙	利根川水系	
第571図	36	147	土 師 器	有段口縁環	112	—	(38)		30	橙	利根川水系	
第571図	37	147	土 師 器	有段口縁環	134	—	(32)		20	にぶい黄橙	利根川水系	黒色処理
第571図	38	147	土 師 器	有段口縁環	107	—	34		30	浅黄橙	利根川水系	
第571図	39	147	須 恵 器	長頸壺	—	—	(19)		5	灰	南比企	
第572図	1	148	土 師 器	環A	122	70	40		70	にぶい黄橙	ローム台地の粘土	
第572図	2	148	土 師 器	環A	126	80	36		30	にぶい黄橙	ローム台地の粘土	
第572図	3	148	土 師 器	環A	—	70	26		30	にぶい黄橙	ローム台地の粘土	
第572図	4	148	土 師 器	環A	116	—	32		20	にぶい黄橙	ローム台地の粘土	

採出番号	図の番号	産地番号	種別	器種	口径	底径	器高	最大径	残存率	色調	産地	備考
第572図	5	148	須恵器	環	—	82	(14)		20	灰	南比企	墨書「土刀」
第572図	6	148	須恵器	環	124	36	62		80	灰	南比企	
第572図	7	148	須恵器	環	—	30	16		10	褐	南比企	
第572図	8	148	須恵器	高台付埴	144	90	68		10	暗灰	末野	
第572図	9	148	須恵器	高台付埴	162	—	46		10	灰白	東金子	
第572図	10	148	須恵器	小壺	46	—	32		10	にぶい橙	末野	
第572図	11	148	灰釉陶器	小瓶	—	—	28		5	オリーブ灰	二川・K90	
第572図	12	149	土師器	須恵器呼称環	118	—	(43)	126	10	明赤褐	利根川水系	
第572図	13	149	土師器	環	—	—	(23)		5	橙	利根川水系	
第572図	14	149	須恵器	環	—	84	(21)		5	灰	南比企	
第572図	15	149	須恵器	環	—	68	(19)		20	灰	末野	墨書「集」
第572図	16	149	須恵器	壺	—	—	—		5	灰	南比企	
第572図	17	149	石製品	砥石	—	—	—		—	—	—	
第572図	18	150	土師器	有段口縁環	108	—	(38)		10	灰黄	利根川水系	
第572図	19	150	土師器	内口口縁環	110	—	34		100	にぶい橙	利根川水系	
第572図	20	150	土師器	北島型埴土器	133	—	45		60	橙	利根川水系	
第572図	21	150	須恵器	壺	—	103	(21)		5	灰白	末野	
第572図	22	150	須恵器	環	124	56	37		25	黄灰	末野	
第572図	23	150	土師器	鉢	220	—	(126)		30	にぶい褐	利根川水系	
第572図	24	150	土師器	長胴鉢	216	—	(86)		30	橙	利根川水系	
第572図	25	150	土師器	壺	205	—	(66)		20	にぶい褐	利根川水系	
第572図	26	150	土師器	壺	182	—	(73)		20	淡黄	利根川水系	
第572図	27	157	土師器	有段口縁環	106	—	(35)		5	にぶい黄橙	利根川水系	黒色処理
第573図	1	157	須恵器	壺	—	—	—		5	灰	末野	
第573図	2	158	土師器	環	128	—	34		40	橙	利根川水系	
第573図	3	160	土師器	環B	128	53	44		50	浅黄橙	利根川水系	
第573図	4	160	土師器	環B	123	65	41		70	浅黄橙	利根川水系	
第573図	5	160	土師器	環B	140	72	47		20	暗灰黄	利根川水系	
第573図	6	160	土師器	環B	110	43	37		40	灰白	利根川水系	
第573図	7	160	土師器	環B	124	56	41		70	にぶい橙	利根川水系	
第573図	8	160	土師器	環B	119	43	47		80	浅黄橙	利根川水系	
第573図	9	160	土師器	環B	120	62	51		30	灰白	利根川水系	
第573図	10	160	土師器	環B	121	59	46		80	にぶい黄橙	利根川水系	
第573図	11	160	土師器	高台付埴	127	80	56		100	灰黄褐	利根川水系	
第573図	12	160	土師器	高台付埴	143	78	57		50	灰白	利根川水系	
第573図	13	160	土師器	高台付埴	144	—	(36)		30	灰白	利根川水系	
第573図	14	160	土師器	高台付埴	135	—	(30)		30	にぶい橙	利根川水系	
第573図	15	160	土師器	高台付埴	125	—	(44)		30	浅黄橙	利根川水系	
第573図	16	160	須恵器	環	—	99	(14)		10	灰	利根川水系	墨書「横」
第573図	17	160	須恵器	環	—	—	—		5	灰	利根川水系	墨書「口」
第573図	18	160	須恵器	環	—	66	(40)		45	灰	利根川水系	
第573図	19	160	須恵器	環	—	51	35		45	灰白	末野	
第573図	20	160	須恵器	環	—	61	(23)		20	オリーブ黒	利根川水系	
第573図	21	160	須恵器	環	114	57	38		20	灰白	利根川水系	
第573図	22	160	須恵器	環	—	56	(24)		25	灰白	利根川水系	
第573図	23	160	須恵器	環	126	42	44		80	灰	利根川水系	
第573図	24	160	須恵器	環	113	49	36		50	灰白	利根川水系	
第573図	25	160	須恵器	環	139	50	39		35	灰白	利根川水系	
第573図	26	160	須恵器	環	130	63	40		40	灰	末野	

測図番号	図の番号	測図番号	種 別	器 種	口 径	底 径	器 高	最大径	残存率	色 調	産 地	備 考
第573図	27	160	須 恵 器	環	110	56	34		40	灰白	利根川水系	
第573図	28	160	須 恵 器	環	140	—	(34)		5	灰白	朱野	黒書「我」
第573図	29	160	須 恵 器	環	126	53	38		60	明赤褐	朱野	
第573図	30	160	須 恵 器	環	128	55	42		40	明赤褐	利根川水系	
第573図	31	160	須 恵 器	環	129	—	(42)		20	にぶい黄橙	利根川水系	
第574図	1	160	須 恵 器	環	128	61	43		75	灰黄褐	利根川水系	
第574図	2	160	須 恵 器	環	—	62	(27)		35	にぶい橙	利根川水系	
第574図	3	160	須 恵 器	環	—	48	(30)		40	灰黄褐	利根川水系	
第574図	4	160	須 恵 器	環	108	42	40		40	にぶい黄橙	利根川水系	
第574図	5	160	土師質土器	環	140	62	58		70	灰白	利根川水系	
第574図	6	160	土師質土器	環	108	60	45		60	橙	ローマ台地の粘土	
第574図	7	160	土師質土器	環	120	50	(38)		40	にぶい黄橙	利根川水系	
第574図	8	160	土師質土器	環	—	64	(26)		30	にぶい黄橙	利根川水系	
第574図	9	160	土師質土器	環	111	60	38		70	にぶい黄橙	利根川水系	
第574図	10	160	土師質土器	環	97	62	37		99	淡黄	利根川水系	
第574図	11	160	土師質土器	環	—	64	(26)		30	灰白	利根川水系	
第574図	12	160	土師質土器	環	—	56	(24)		50	にぶい黄橙	ローマ台地の粘土	
第574図	13	160	土師質土器	環	110	56	35		50	灰白	利根川水系	
第574図	14	160	土師質土器	環	111	65	32		40	浅黄橙	利根川水系	
第574図	15	160	土師質土器	環	110	66	33		40	淡黄	利根川水系	
第574図	16	160	土師質土器	環	100	59	37		25	灰白	利根川水系	
第574図	17	160	土師質土器	環	112	50	45		40	灰白	利根川水系	
第574図	18	160	土師質土器	環	114	52	41		60	灰白	利根川水系	黒書「人」
第574図	19	160	土師質土器	環	111	60	38		80	灰白	利根川水系	黒書(内)黒書「我」 (外)黒書「人」
第574図	20	160	土師質土器	環	112	57	40		75	灰白	利根川水系	黒書(内)黒書「人」 (外)黒書「人」
第574図	21	160	土師質土器	環	96	52	38		75	浅黄橙	利根川水系	黒書「人」
第574図	22	160	土師質土器	環	—	—	—		5	灰白	利根川水系	黒書「我」
第574図	23	160	土師質土器	環	—	—	—		5	灰白	利根川水系	黒書「人」
第574図	24	160	土師質土器	環	120	—	(19)		5	浅黄	利根川水系	黒書「人」
第574図	25	160	土師質土器	環	140	—	(31)		5	灰白	利根川水系	黒書「人」
第574図	26	160	土師質土器	環	111	53	37		100	浅黄橙	利根川水系	
第574図	27	160	土師質土器	環	119	51	35		80	灰白	利根川水系	
第574図	28	160	土師質土器	環	115	58	(37)		20	灰白	利根川水系	
第574図	29	160	土師質土器	環	120	90	(32)		25	にぶい黄橙	利根川水系	
第574図	30	160	土師質土器	環	—	43	(37)		20	橙	ローマ台地の粘土	
第574図	31	160	土師質土器	環	114	64	32		80	浅黄橙	利根川水系	
第574図	32	160	土師質土器	環	99	53	30		65	にぶい黄橙	利根川水系	黒書(内)黒書「人」 (外)黒書「人」
第574図	33	160	土師質土器	環	91	42	(24)		20	にぶい黄橙	利根川水系	
第574図	34	160	土師質土器	環	101	—	(23)		5	橙	利根川水系	
第574図	35	160	土師質土器	環	81	47	(19)		45	橙	利根川水系	
第575図	1	160	須 恵 器	高台付埴	—	—	(30)		35	灰	朱野	
第575図	2	160	須 恵 器	高台付埴	—	65	(33)		30	暗灰	朱野	
第575図	3	160	須 恵 器	高台付埴	—	64	(45)		40	灰	朱野	
第575図	4	160	須 恵 器	高台付埴	—	66	(17)		15	灰白	朱野	
第575図	5	160	須 恵 器	高台付埴	—	66	(35)		20	灰白	朱野	
第575図	6	160	須 恵 器	高台付埴	137	64	52		50	灰	朱野	
第575図	7	160	須 恵 器	高台付埴	—	—	46		40	灰白	朱野	黒書「息」
第575図	8	160	須 恵 器	高台付埴	165	—	(62)		10	灰白	朱野	黒書「口」
第575図	9	160	須 恵 器	高台付埴	134	57	(56)		55	暗灰	利根川水系	

神岡番号	図の番号	建群番号	種 別	器 種	口 径	径 径	器 高	最大径	残存率	色 調	産 地	備 考
第575図	10	160	須 恵 器	高台付埴	—	58	(20)	—	30	灰	木野	
第575図	11	160	須 恵 器	高台付埴	138	52	52	—	80	褐色	木野	
第575図	12	160	須 恵 器	高台付埴	144	57	59	—	30	によい黄橙	木野	
第575図	13	160	須 恵 器	高台付埴	130	—	52	—	20	によい褐	木野	
第575図	14	160	須 恵 器	高台付埴	122	—	(48)	—	25	明赤褐	木野	
第575図	15	160	須 恵 器	高台付埴	140	56	54	—	45	によい黄橙	木野	
第575図	16	160	須 恵 器	高台付埴	—	62	33	—	40	橙	利根川水系	
第575図	17	160	須 恵 器	高台付埴	125	66	56	—	50	橙	利根川水系	
第575図	18	160	土師質土器	高台付埴	121	55	47	—	75	によい黄橙	利根川水系	
第575図	19	160	土師質土器	高台付埴	118	60	47	—	100	浅黄橙	利根川水系	
第575図	20	160	土師質土器	高台付埴	126	53	48	—	80	浅黄橙	利根川水系	墨書「人」
第575図	21	160	土師質土器	高台付埴	—	81	48	—	60	浅黄橙	利根川水系	墨書「口」
第575図	22	160	土師質土器	高台付埴	—	67	(37)	—	30	によい黄橙	利根川水系	
第575図	23	160	土師質土器	高台付埴	—	71	(41)	—	45	によい黄橙	利根川水系	
第575図	24	160	土師質土器	高台付埴	—	72	(45)	—	40	橙	利根川水系	
第575図	25	160	土師質土器	高台付埴	—	73	(29)	—	25	によい黄橙	ローマ台地の粘土	
第576図	1	160	土師質土器	高台付埴	—	60	(48)	—	25	淡橙	ローマ台地の粘土	
第576図	2	160	土師質土器	高脚高台付埴	149	77	48	—	85	橙	利根川水系	
第576図	3	160	土師質土器	高脚高台付埴	159	90	64	—	40	浅黄橙	利根川水系	
第576図	4	160	土師質土器	高脚高台付埴	145	84	66	—	90	橙	利根川水系	墨書「二」
第576図	5	160	土師質土器	高脚高台付埴	147	82	64	—	75	によい黄橙	利根川水系	
第576図	6	160	土師質土器	高脚高台付埴	132	—	(60)	—	30	橙	利根川水系	
第576図	7	160	土師質土器	高脚高台付埴	—	101	(50)	—	40	灰白	利根川水系	
第576図	8	160	土師質土器	高脚高台付埴	—	84	50	—	20	浅黄橙	利根川水系	
第576図	9	160	土師質土器	高脚高台付埴	—	89	(38)	—	50	によい黄橙	利根川水系	
第576図	10	160	土師質土器	高脚高台付埴	—	99	46	—	40	黄橙	利根川水系	
第576図	11	160	土師質土器	高脚高台付埴	—	91	(31)	—	20	浅黄橙	利根川水系	
第576図	12	160	土師質土器	高脚高台付埴	—	—	(18)	—	35	浅黄橙	利根川水系	
第576図	13	160	土師質土器	高脚高台付埴	—	—	(39)	—	30	灰白	利根川水系	
第576図	14	160	土師質土器	高脚高台付埴	—	86	(32)	—	20	橙	利根川水系	
第576図	15	160	土師質土器	高脚高台付埴	—	90	(34)	—	15	灰白	利根川水系	
第576図	16	160	土師質土器	高脚高台付埴	—	—	(36)	—	55	によい黄橙	利根川水系	
第576図	17	160	土師質土器	埴	128	—	(49)	—	10	浅黄橙	利根川水系	墨書「我」
第576図	18	160	黒色土器	高台付埴	140	—	(43)	—	20	内側黒・外側 によい黄橙	ローマ台地の粘土	
第576図	19	160	黒色土器	高台付埴	—	71	(28)	—	15	内側黒・外側 によい黄橙	利根川水系	
第576図	20	160	黒色土器	高台付埴	—	78	(25)	—	15	内側黒・外側 によい黄橙	利根川水系	
第576図	21	160	黒色土器	高台付埴	130	—	(50)	—	30	内側黒・外側 によい黄橙	利根川水系	
第576図	22	160	黒色土器	高台付埴	—	67	(53)	—	20	内側灰・外側 によい黄橙	利根川水系	
第576図	23	160	黒色土器	高台付埴	—	73	(54)	—	20	内側暗灰・外側 によい黄橙	利根川水系	
第576図	24	160	黒色土器	高台付埴	—	66	(25)	—	30	内側暗灰・外側 によい黄橙	利根川水系	
第576図	25	160	黒色土器	高台付埴	—	80	(35)	—	40	淡橙	利根川水系	
第576図	26	160	黒色土器	高台付埴	—	87	(26)	—	20	によい黄橙	利根川水系	
第576図	27	160	黒色土器	高台付埴	160	56	33	—	10	によい赤褐	利根川水系	
第576図	28	160	土師質土器	鉢	—	121	(55)	—	10	によい黄橙	利根川水系	黒色処理
第577図	1	160	灰釉陶器	埴	90	83	55	—	40	灰	東濃・江72	
第577図	2	160	灰釉陶器	埴	155	75	48	—	30	灰	東濃・大原2	
第577図	3	160	灰釉陶器	甕	90	—	—	—	10	灰白	東濃・大原2	
第577図	4	160	灰釉陶器	輪花埴	—	67	—	—	5	灰白	東濃・光ヶ丘1	
第577図	5	160	灰釉陶器	埴	—	67	—	—	40	灰白	東濃・鹿浜山1	

押印番号	国の番号	登録番号	種 別	器 種	口 径	底 径	器 高	最大径	残存率	色 調	産 地	備 考
第577Ⅸ	6	160	灰 釉 陶 器	皿	143	—	(30)	—	10	灰白	東濃・虎渡山 1	
第577Ⅹ	7	160	灰 釉 陶 器	皿	125	63	22	—	70	灰白	東濃・丸石 2 号	
第577Ⅺ	8	160	灰 釉 陶 器	皿	122	70	30	—	30	灰	東濃・丸石 2 号	
第577Ⅻ	9	160	灰 釉 陶 器	皿	—	70	—	—	30	灰白	東濃・虎渡山 1	
第577Ⅼ	10	160	灰 釉 陶 器	段皿	143	78	25	—	90	にぶい橙	東濃・大原 2	
第577Ⅽ	11	160	灰 釉 陶 器	皿	—	65	—	—	10	灰白	東濃・虎渡山 1	
第577Ⅾ	12	160	灰 釉 陶 器	埴	—	78	—	—	20	灰白	東濃江・O53	墨書「口」
第577Ⅿ	13	160	灰 釉 陶 器	埴	—	76	—	—	5	灰白	尾北・K90	
第577ⅰ	14	160	灰 釉 陶 器	埴	—	80	—	—	30	灰	東濃江・K90	
第577ⅱ	15	160	灰 釉 陶 器	埴	—	68	(15)	—	15	灰白	東濃・光ヶ丘 1	
第577ⅲ	16	160	灰 釉 陶 器	埴	—	—	—	—	20	灰白	尾北・O53	
第577ⅴ	17	160	灰 釉 陶 器	埴	—	73	—	—	20	灰白	尾北・O53	
第577ⅵ	18	160	灰 釉 陶 器	皿	—	68	—	—	20	灰白	東濃・大原 2	
第577ⅶ	19	160	緑 釉 陶 器	段埴	152	70	45	—	40	明オリーブ灰	猿投・K90	
第577ⅷ	20	160	緑 釉 陶 器	段皿	155	77	34	—	30	オリーブ灰	猿投・K90	
第577ⅸ	21	160	緑 釉 陶 器	埴	—	90	—	—	5	明オリーブ灰	猿投・K90	
第577ⅹ	22	160	緑 釉 陶 器	埴	—	75	—	—	5	にぶい黄橙	猿投・K90	
第577ⅺ	23	160	緑 釉 陶 器	埴	—	80	—	—	5	明オリーブ灰	猿投・K90	
第577ⅻ	24	160	緑 釉 陶 器	陶片	—	—	—	—	5	明オリーブ灰	猿投	
第577ⅼ	25	160	緑 釉 陶 器	陶片	—	—	—	—	5	オリーブ灰	猿投	
第577ⅽ	26	160	緑 釉 陶 器	段皿片	—	—	—	—	5	灰白	尾北	
第577ⅾ	27	160	緑 釉 陶 器	皿片	—	—	—	—	5	緑灰	尾北	
第577ⅿ	28	160	緑 釉 陶 器	陶片	—	—	—	—	5	オリーブ灰	猿投	
第577ⅿ	29	160	緑 釉 陶 器	皿片	—	—	—	—	5	オリーブ灰	猿投	
第577ⅿ	30	160	須 恵 器	羽釜形甗	286	—	(227)	290	20	灰	末野	
第578ⅰ	1	160	土 師 器	羽釜形甗	—	—	—	—	40	にぶい黄橙	利根川水系	
第578ⅱ	2	160	土 師 器	羽釜形甗	156	—	(78)	—	30	にぶい橙	利根川水系	
第578ⅲ	3	160	土 師 器	羽釜形甗	—	220	(80)	—	20	にぶい黄橙	利根川水系	
第578ⅴ	4	160	須 恵 器	羽釜	208	—	(160)	250	20	灰	末野	
第578ⅵ	5	160	須 恵 器	羽釜	200	—	(131)	237	15	黄灰	末野	
第578ⅶ	6	160	須 恵 器	羽釜	180	—	(83)	216	10	灰	末野	
第578ⅷ	7	160	土 師 器	羽釜	223	—	(111)	264	30	にぶい黄橙	利根川水系	
第578ⅸ	8	160	須 恵 器	土釜	248	—	(141)	—	30	にぶい橙	末野	
第578ⅹ	9	160	土 師 器	土釜	220	—	(96)	—	10	にぶい橙	利根川水系	
第578ⅺ	10	160	土 師 器	土釜	233	—	(74)	—	30	にぶい橙	利根川水系	
第578ⅻ	11	160	土 師 器	土釜	210	—	(65)	—	10	橙	利根川水系	
第578ⅼ	12	160	土 師 器	土釜	280	0	(151)	—	30	内側ににぶい橙・外側赤褐色	利根川水系	
第578ⅽ	13	160	土 師 器	羽釜か土釜	—	19	—	—	10	にぶい橙	利根川水系	
第579ⅰ	1	160	須 恵 器	平甗	—	—	(36)	—	5	灰	御西	
第579ⅱ	2	160	須 恵 器	甗	—	—	(30)	—	5	灰	東海	
第579ⅲ	3	160	灰 釉 陶 器	長頸瓶	90	—	—	—	10	明青灰	東濃・大原 2	
第579ⅴ	4	160	灰 釉 陶 器	長頸瓶	—	—	(120)	—	20	暗灰	東濃江・O53	
第579ⅵ	5	160	灰 釉 陶 器	長頸瓶	—	—	(62)	—	5	明オリーブ灰	猿投・K14	
第579ⅶ	6	160	灰 釉 陶 器	長頸瓶	—	133	—	—	5	灰	東濃・光ヶ丘 1	
第579ⅷ	7	160	須 恵 器	甗	212	—	(92)	—	10	橙	末野	
第579ⅸ	8	160	須 恵 器	甗	243	—	(83)	—	10	灰	南比企	
第579ⅹ	9	160	須 恵 器	甗	—	—	104	—	10	灰	南比企	
第579ⅺ	10	160	須 恵 器	甗	—	—	—	—	20	灰	末野	
第579ⅻ	11	160	須 恵 器	甗	—	156	(64)	—	10	灰	末野	

神田番号	図の番号	遺跡番号	種 別	器 種	口 径	底 径	高	最大径	残存率	色 調	産 地	備 考
第579図	12	160	須 恵 器	甕	—	164	(46)	—	10	灰	末野	
第579図	13	160	須 恵 器	甕	—	129	(24)	—	15	灰	利根川水系	
第579図	14	160	石 製 品	砥石	—	—	—	—	—	—	—	
第580図	1	160	須 恵 器	大甕	—	—	—	—	5	青灰	末野	
第580図	2	161	須 恵 器	坏	144	87	40	—	80	灰	南比企	
第580図	3	163	土 師 器	高台付甕	140	—	(24)	—	30	にぶい橙	利根川水系	
第580図	4	163	須 恵 器	高台付埴	127	64	58	—	20	明赤褐	末野	
第580図	5	163	須 恵 器	高台付埴	—	62	22	—	30	灰	末野	
第580図	6	163	須 恵 器	高台付埴	—	55	(17)	—	15	灰白	末野	
第580図	7	163	土師竈土器	坏	—	63	(18)	—	20	にぶい黄橙	利根川水系	
第581図	1	163	土 師 器	甕	210	—	(66)	—	20	にぶい黄橙	利根川水系	
第581図	2	165	土 師 器	長胴甕	190	—	(73)	—	—	灰黄	利根川水系	
第581図	3	166	土 師 器	高台付埴	—	82	(27)	—	15	黄橙	利根川水系	
第581図	4	167	土 師 器	内湾口縁埴	118	—	(36)	—	—	橙	利根川水系	
第581図	5	167	須 恵 器	坏	—	75	(32)	—	40	暗オリーブ灰	南比企	
第581図	6	168	須 恵 器	坏	—	60	(6)	—	10	灰褐	末野	黒書「横」
第581図	7	168	須 恵 器	甕	—	—	—	—	5	灰	南比企	
第581図	8	173	須 恵 器	坏	—	58	(18)	—	30	灰黄	南比企	
第581図	9	173	須 恵 器	甕	—	63	(22)	—	30	黒褐	南比企	
第581図	10	174	須 恵 器	高台付埴	—	63	(22)	—	10	灰	南比企	
第581図	11	177	土 師 器	内湾口縁埴	117	—	(31)	—	5	にぶい黄橙	利根川水系	
第581図	12	177	土 師 器	坏	158	—	(34)	—	5	にぶい橙	利根川水系	
第581図	13	177	須 恵 器	坏	134	68	33	—	80	灰	南比企	
第581図	14	177	須 恵 器	坏	115	71	34	—	10	灰	南比企	
第581図	15	180	土 師 器	坏	148	—	(31)	—	20	橙	利根川水系	
第581図	16	180	須 恵 器	坏	—	91	(15)	—	5	灰白	南比企	
第581図	17	181	土 師 器	須恵器坏蓋縁埴	113	—	(35)	—	20	橙	利根川水系	
第581図	18	181	土 師 器	須恵器坏蓋縁埴	116	—	36	—	80	橙	利根川水系	
第581図	19	181	土 師 器	内湾口縁埴	108	—	26	—	100	橙	利根川水系	
第581図	20	181	須 恵 器	坏	—	86	(11)	—	25	灰褐	南比企	
第581図	21	181	須 恵 器	坏	—	84	(13)	—	10	灰	南比企	
第581図	22	181	土 師 器	甕	115	—	188	—	80	淡黄	利根川水系	
第581図	23	184	須 恵 器	坏	100	80	33	—	75	灰	南比企	
第581図	24	184	須 恵 器	甕	220	—	(39)	—	5	灰白	南比企	
第581図	25	189	土 師 器	坏	119	—	(27)	—	40	にぶい橙	利根川水系	黒書「苗田」
第581図	26	189	須 恵 器	坏	—	83	—	—	10	灰	南比企	
第581図	27	189	須 恵 器	坏	—	79	(12)	—	20	灰白	南比企	
第581図	28	189	須 恵 器	坏	—	80	(8)	—	15	灰白	末野	
第581図	29	189	須 恵 器	高甕	—	136	(71)	—	5	灰	南比企	
第581図	30	193	須 恵 器	坏	133	61	34	—	45	灰	末野	
第582図	1	193	須 恵 器	坏	135	58	35	—	15	灰	末野	
第582図	2	193	須 恵 器	坏	—	56	29	—	25	灰褐	末野	
第582図	3	193	緑 釉 陶 器	陶片	—	—	—	—	5	オリーブ灰	横投	
第582図	4	194	須 恵 器	坏	116	72	35	—	80	にぶい橙	群馬県東部の沖積地	刻書「×」
第582図	5	194	須 恵 器	坏	135	57	43	—	95	灰白	末野	
第582図	6	194	須 恵 器	高台付埴	141	65	50	—	50	灰白	末野	
第582図	7	196	須 恵 器	高台付埴	—	66	(12)	—	5	明褐灰	利根川水系	
第582図	8	196	緑 釉 陶 器	陶片	—	—	—	—	5	明緑灰	横投	
第582図	9	196	緑 釉 陶 器	埴	—	—	—	—	5	暗オリーブ灰	尾北	

押込番号	図の番号	遺構番号	種 別	器 種	口 径	底 径	器 高	最大径	残存率	色 調	産 地	備 考
第582図	10	196	須 恵 器	大 合	—	—	(45)	—	10	橙	利根川水系	
第582図	11	196	鉄 製 品	刀 子	—	—	—	—	—	—	—	
第582図	12	197	上輝貫土器	環	—	55	(24)	—	20	橙	ローム台地の粘土	
第582図	13	200	土 師 器	環A	128	—	31	—	70	にぶい橙	ローム台地の粘土	
第582図	14	200	土 師 器	環A	130	—	30	—	40	にぶい橙	ローム台地の粘土	
第582図	15	200	土 師 器	環A	118	—	3	—	50	にぶい橙	利根川水系	
第582図	16	200	土 師 器	環A	119	—	(32)	—	20	にぶい橙	利根川水系	
第582図	17	200	土 師 器	環A	122	—	(32)	—	30	橙	ローム台地の粘土	
第582図	18	200	土 師 器	環A	117	—	(35)	—	20	橙	ローム台地の粘土	
第582図	19	200	土 師 器	環A	123	—	(27)	—	30	にぶい橙	ローム台地の粘土	
第582図	20	200	土 師 器	環A	120	—	32	—	50	橙	ローム台地の粘土	
第582図	21	200	土 師 器	環A	118	—	(40)	—	30	にぶい黄橙	ローム台地の粘土	
第582図	22	200	土 師 器	環A	140	—	(32)	—	20	にぶい橙	利根川水系	
第582図	23	200	土 師 器	環A	127	—	(33)	—	20	にぶい橙	利根川水系	
第582図	24	200	土 師 器	環A	120	—	(24)	—	16	にぶい褐	ローム台地の粘土	
第582図	25	200	土 師 器	環A	—	—	(22)	—	30	にぶい橙	利根川水系	
第582図	26	200	土 師 器	環A	—	74	(6)	—	20	浅黄	利根川水系	黒書「綱」
第582図	27	200	土 師 器	環A	—	—	(10)	—	10	浅黄	利根川水系	黒書「綱」
第582図	28	200	土 師 器	環A	—	—	—	—	10	にぶい黄橙	利根川水系	黒書「綱」
第582図	29	200	土 師 器	環	124	91	26	—	40	橙	利根川水系	
第582図	30	200	須 恵 器	蓋	174	104	32	—	50	灰	南比企	
第582図	31	200	須 恵 器	蓋	—	92	(28)	—	10	灰	南比企	
第582図	32	200	須 恵 器	蓋	—	—	(16)	—	10	灰白	南比企	
第582図	33	200	須 恵 器	蓋	—	—	(18)	—	5	灰	南比企	
第582図	34	200	須 恵 器	蓋	—	—	(17)	—	10	灰	南比企	
第582図	35	200	須 恵 器	蓋	—	—	(13)	—	5	灰白	末野	
第582図	36	200	須 恵 器	蓋	—	104	(16)	—	20	灰	秋田	
第582図	37	200	須 恵 器	蓋	—	116	(15)	—	15	灰白	南比企	
第582図	38	200	須 恵 器	蓋	—	92	(32)	—	10	黄灰	末野	
第582図	39	200	須 恵 器	蓋	—	—	(16)	—	5	灰白	末野	黒書「綱」
第582図	40	200	須 恵 器	蓋	—	65	(14)	—	5	灰	末野	
第583図	1	200	須 恵 器	環	121	81	35	—	20	灰白	南比企	
第583図	2	200	須 恵 器	環	—	75	(11)	—	20	灰	南比企	
第583図	3	200	須 恵 器	環	—	80	13	—	25	灰	南比企	黒書「口」
第583図	4	200	須 恵 器	環	—	80	15	—	30	灰	南比企	
第583図	5	200	須 恵 器	環	121	60	36	—	40	褐灰	南比企	黒書「綱」
第583図	6	200	須 恵 器	環	—	74	(21)	—	35	内側灰・外側灰の 中央白有り	南比企	
第583図	7	200	須 恵 器	環	122	71	34	—	45	灰白	南比企	
第583図	8	200	須 恵 器	環	—	71	(7)	—	10	暗赤灰	南比企	黒書「綱」
第583図	9	200	須 恵 器	環	—	60	12	—	10	灰	南比企	黒書「綱」
第583図	10	200	須 恵 器	環	122	65	39	—	15	灰	南比企	
第583図	11	200	須 恵 器	環	114	70	35	—	25	灰白	末野	
第583図	12	200	須 恵 器	環	124	60	34	—	30	灰	南比企	
第583図	13	200	須 恵 器	環	119	60	36	—	50	灰白	末野	黒書「綱」
第583図	14	200	須 恵 器	環	—	66	14	—	15	灰	南比企	
第583図	15	200	須 恵 器	環	—	63	11	—	20	灰	南比企	
第583図	16	200	須 恵 器	環	—	62	(18)	—	20	灰	南比企	
第583図	17	200	須 恵 器	環	—	60	9	—	15	灰	南比企	黒書「口」
第583図	18	200	須 恵 器	環	118	50	41	—	10	浅黄	新泊	

押図番号	図の番号	図の番号	種 別	器 種	口 径	底 径	器 高	最大径	残存率	色 調	産 地	備 考
第583図	19	200	須 恵 器	高台付埴	—	86	(15)	5	オリブ灰	南比企		
第583図	20	200	須 恵 器	高台付埴	—	79	27	5	灰	南比企		
第583図	21	200	須 恵 器	高台付埴	—	69	25	20	灰	南比企		黒書「綱」
第583図	22	200	須 恵 器	高 盤	—	—	65	5	青灰	南比企		
第583図	23	200	土 師 器	甕	228	—	(76)	20	にふい橙	利根川水系		
第583図	24	200	土 師 器	甕	130	—	(49)	20	にふい黄橙	利根川水系		
第583図	25	200	須 恵 器	蓋	55	39	28	80	灰	南比企		
第583図	26	200	須 恵 器	淨瓶	—	—	(35)	5	灰白	南比企		
第583図	27	200	須 恵 器	長頸壺	—	—	(180)	30	暗紫灰	水野		
第584図	1	200	須 恵 器	長頸壺	—	41	(17)	10	オリブ灰	南比企		
第584図	2	200	灰 胎 陶 器	長頸壺	—	—	—	5	明赤灰	東濃・大原 2		
第584図	3	200	須 恵 器	短頸壺	111	—	55	5	灰	南比企		
第584図	4	200	須 恵 器	甕	281	—	71	5	灰	南比企		
第584図	5	200	須 恵 器	甕	—	—	—	5	灰	水野		
第584図	6	200	須 恵 器	甕	—	—	—	5	灰	南比企		
第584図	7	200	須 恵 器	甕	—	—	—	10	灰	水野		
第584図	8	200	須 恵 器	甕	—	—	—	10	内側灰・外側緑黒	南比企		
第584図	9	200	須 恵 器	甕	—	—	—	5	灰	水野		
第584図	10	200	須 恵 器	甕	—	—	—	5	灰	水野		
第584図	11	200	須 恵 器	甕	—	—	—	5	灰	水野		
第584図	12	200	須 恵 器	甕	—	—	0	10	灰褐	水野		
第584図	13	200	須 恵 器	内面視	上97	—	—	高 (25)	10	灰白	南比企	
第584図	14	200	石 製 品	紡錘車	上43	下18	高21	上最大 125	孔7 50	—	—	
第584図	15	200	石 製 品	砥石	—	—	—	—	—	—	—	
第585図	1	200	須 恵 器	甕	—	—	—	15	明青灰	南比企		
第585図	2	201	土 師 器	有段口縁杯	112	—	32	10	にふい黄橙	利根川水系		
第585図	3	201	土 師 器	北島型文土器	134	—	39	20	橙	利根川水系		
第585図	4	202	土 師 器	杯	130	—	30	20	橙	利根川水系		
第585図	5	203	須 恵 器	蓋	—	—	14	20	灰	水野		黒書「□」
第585図	6	203	須 恵 器	無台埴	155	71	61	80	灰	南比企		
第585図	7	211	土 師 器	有段口縁杯	140	115	(37)	30	浅黄橙	利根川水系		
第585図	8	212	緑 胎 陶 器	礎皿	—	—	—	5	オリブ灰	尾北		
第585図	9	214	須 恵 器	杯	—	47	(21)	5	灰	浦西		
第585図	10	216	土 師 器	北島型文土器	155	—	(43)	20	浅黄橙・外側浅黄	利根川水系		
第585図	11	216	緑 胎 陶 器	礎片	—	—	—	5	オリブ灰	鍛冶		
第585図	12	217	緑 胎 陶 器	礎片	—	—	—	5	オリブ灰	鍛冶		
第585図	13	218	土 師 質 土 器	杯	—	—	(18)	10	灰黄褐	利根川水系		
第585図	14	218	土 師 質 土 器	耳皿	—	37	(12)	5	灰白	水野		
第585図	15	219	土 師 質 土 器	杯	—	58	(23)	5	にふい黄橙	ローマ台地の粘土		
第585図	16	219	鉄 製 品	不明鉄製品	—	—	—	—	—	—	—	
第585図	17	221	土 師 器	杯	140	50	30	20	にふい橙	利根川水系		
第585図	18	221	須 恵 器	杯	124	61	35	20	灰	水野		
第585図	19	221	緑 胎 陶 器	皿	—	76	(21)	10	オリブ灰	鍛冶・K90		
第585図	20	221	須 恵 器	蓋	70	—	(40)	5	内側暗オリブ 灰・外側灰白	水野		
第586図	1	221	須 恵 器	甕	—	—	—	5	内側灰・外側黒	南比企		
第586図	2	223	須 恵 器	甕	—	91	(22)	5	灰	金山		
第586図	3	223	須 恵 器	蓋	137	100	(20)	30	灰	金山		
第586図	4	223	須 恵 器	杯	129	84	31	30	灰	金山		
第586図	5	223	須 恵 器	杯	—	81	(15)	5	灰	金山		

押図番号	図の番号	透視番号	種 別	器 種	口 径	底 径	器 高	最大径	残存率	色 調	産 地	備 考
第586図	6	223	須 恵 器	環	146	57	33		20	灰	南比企	
第586図	7	223	須 恵 器	環	—	81	(10)		5	灰白	南比企	
第586図	8	223	須 恵 器	環	—	64	(12)		10	灰白	南比企	黒書「銅」
第586図	9	223	須 恵 器	壺	71	—	(18)		5	暗灰	南比企	
第586図	10	223	須 恵 器	人妻	—	—	—		5	オリブ黒	南比企	
第586図	11	228	須 恵 器	高台付埴	—	66	(21)		10	灰	末野	
第586図	12	230	緑釉陶器	埴	—	—	—		5	オリブ灰	横投・K90	
第586図	13	230	石 製 品	防鈴車	上42	下35	高15	孔7	50	—	—	
第586図	14	233	須 恵 器	環	126	74	30		20	にぶい橙	末野	
第586図	15	234	土 師 器	環B	116	56	(42)		10	灰白	利根川水系	
第586図	16	234	須 恵 器	高台付埴	—	65	(28)		20	黄灰	末野	
第586図	17	234	土師黄土器	皿	—	62	(13)		10	にぶい橙	ROOM台地の粘土	
第586図	18	234	土師黄土器	高台付埴	—	73	(26)		10	にぶい橙	利根川水系	
第586図	19	234	緑釉陶器	陶片	—	—	—		5	青灰	横投	
第586図	20	234	緑釉陶器	埴片	—	—	—		5	オリブ灰	横投	
第586図	21	234	緑釉陶器	埴片	—	—	—		5	オリブ灰	横投	
第586図	22	234	緑釉陶器	埴片	—	—	—		5	オリブ灰	尾北	
第586図	23	234	緑釉陶器	埴片	—	—	—		5	オリブ灰	横投	
第586図	24	234	緑釉陶器	陶片	—	—	—		5	オリブ灰	横投	
第586図	25	234	緑釉陶器	陶片	—	—	—		5	オリブ灰	横投	
第586図	26	234	緑釉陶器	陶片	—	—	—		5	オリブ灰	横投	
第586図	27	234	緑釉陶器	埴片	—	—	—		5	灰オリブ	横投	
第586図	28	235	須 恵 器	高台付埴	—	70	(19)		5	黄灰	末野	
第586図	29	237	灰釉陶器	埴	—	—	(22)		30	灰	東遠江・K90	
第586図	30	239	土 師 器	比企型埴	98	—	34		20	内側赤・外部灰部に にぶい橙	ROOM台地の粘土	
第586図	31	239	土 師 器	比企型埴	95	—	27		60	にぶい黄橙	ROOM台地の粘土	
第586図	32	240	土 師 器	環A	117	—	34		90	にぶい橙	利根川水系	黒書「銅」
第586図	33	240	土 師 器	環A	119	—	(33)		50	橙	ROOM台地の粘土	黒書「金」または「金」
第586図	34	240	土 師 器	環A	123	—	40		40	にぶい褐	利根川水系	
第586図	35	240	土 師 器	環A	126	—	(32)		20	にぶい橙	ROOM台地の粘土	
第586図	36	240	土 師 器	環A	130	—	(29)		5	にぶい橙	利根川水系	黒書「銅」
第586図	37	240	土 師 器	環A	118	—	(30)		20	橙	ROOM台地の粘土	
第586図	38	240	土 師 器	環A	120	—	(31)		50	にぶい橙	利根川水系	
第586図	39	240	土 師 器	環A	113	—	(35)		20	橙	利根川水系	
第586図	40	240	土 師 器	環A	130	—	31		50	橙	利根川水系	
第587図	1	240	土 師 器	環	150	—	(31)		5	にぶい橙	利根川水系	
第587図	2	240	土師器+土師器	北比型文土器	154	—	(27)		15	にぶい黄橙	利根川水系	
第587図	3	240	土 師 器	北比型文土器	154	—	(30)		5	にぶい褐	利根川水系	
第587図	4	240	土 師 器	環A	133	110	(44)		30	にぶい黄橙	利根川水系	
第587図	5	240	土 師 器	環A	—	—	—		20	にぶい橙	利根川水系	黒書「銅」
第587図	6	240	土 師 器	環A	—	—	—		5	にぶい橙	利根川水系	黒書「銅」
第587図	7	240	土 師 器	環A	—	—	—		5	にぶい黄橙	利根川水系	黒書「銅」
第587図	8	240	土 師 器	環A	—	—	—		10	にぶい橙	利根川水系	黒書「銅」
第587図	9	240	土 師 器	環A	—	—	—		5	にぶい橙	利根川水系	黒書「銅」
第587図	10	240	須 恵 器	蓋	109	—	(18)		5	灰白	湖西	黒書「銅」
第587図	11	240	須 恵 器	蓋	207	142	(18)		5	灰白	末野	
第587図	12	240	須 恵 器	蓋	—	0	(18)		30	灰	南比企	
第587図	13	240	須 恵 器	蓋	—	—	—		20	灰	南比企	
第587図	14	240	須 恵 器	蓋	—	95	(22)		40	オリブ灰	末野	黒書「□」

押込番号	図の番号	通称番号	種 別	器 種	口 径	底 径	器 高	最大径	残存率	色 調	産 地	備 考
第587図	15	240	須恵器	蓋	—	70	(19)		5	灰	米野	
第587図	16	240	須恵器	蓋	161	80	45		25	灰白	米野	
第587図	17	240	須恵器	蓋	—	74	(33)		30	灰	米野	
第587図	18	240	須恵器	蓋	—	80	(27)		30	灰	南比企	墨書「全」
第587図	19	240	須恵器	蓋	—	46	(29)		10	暗緑灰	南比企	墨書「綱」
第587図	20	240	須恵器	蓋	—	78	(28)		30	灰	南比企	
第587図	21	240	須恵器	蓋	141	87	(19)		10	灰	南比企	
第587図	22	240	須恵器	環	—	25	(16)		10	灰	湖西	
第587図	23	240	須恵器	環	125	70	35		50	灰	南比企	
第587図	24	240	須恵器	環	—	71	34		15	灰	南比企	
第587図	25	240	須恵器	環	127	66	35		35	灰	米野	
第587図	26	240	須恵器	環	—	72	(15)		10	灰	南比企	墨書「綱」
第587図	27	240	須恵器	環	—	73	(10)		8	灰	南比企	
第587図	28	240	須恵器	環	—	71	(8)		10	灰	南比企	
第587図	29	240	須恵器	環	—	73	(7)		5	灰白	南比企	墨書「綱」
第587図	30	240	須恵器	環	—	68	(7)		5	灰	南比企	墨書「綱」
第587図	31	240	須恵器	環	—	60	13		5	灰	米野	墨書「綱」
第587図	32	240	須恵器	環	126	76	37		45	灰白	米野	
第587図	33	240	須恵器	環	134	72	40		50	灰	米野	
第587図	34	240	須恵器	環	128	68	40		50	にぶい橙	南比企	墨書「綱」
第587図	35	240	須恵器	環	125	65	40		70	灰	米野	
第588図	1	240	須恵器	環	—	70	(32)		25	灰	米野	
第588図	2	240	須恵器	環	122	69	(36)		30	灰	南比企	
第588図	3	240	須恵器	環	119	62	36		30	灰	南比企	
第588図	4	240	須恵器	環	—	72	(22)		30	灰	米野	
第588図	5	240	須恵器	環	—	70	(15)		25	灰	南比企	
第588図	6	240	須恵器	環	—	70	(5)		15	灰白	南比企	
第588図	7	240	須恵器	環	123	65	37		75	灰	南比企	墨書「口」
第588図	8	240	須恵器	環	—	61	(7)		10	灰	米野	
第588図	9	240	須恵器	環	118	61	34		35	灰	米野	
第588図	10	240	須恵器	環	120	62	35		90	灰	南比企	墨書「綱」
第588図	11	240	須恵器	環	123	64	38		80	暗青灰	南比企	
第588図	12	240	須恵器	環	126	67	41		45	灰	南比企	
第588図	13	240	須恵器	環	122	61	39		20	内側灰白・外側灰	南比企	
第588図	14	240	須恵器	環	127	59	39		45	灰	南比企	
第588図	15	240	須恵器	環	133	61	42		25	にぶい黄橙	南比企	刻書「二」
第588図	16	240	須恵器	環	113	66	35		30	灰	南比企	
第588図	17	240	須恵器	環	122	60	37		60	灰	南比企	
第588図	18	240	須恵器	環	119	62	36		40	オリーフ灰	南比企	墨書「綱」
第588図	19	240	須恵器	環	119	60	35		40	緑灰	南比企	
第588図	20	240	須恵器	環	—	66	16		20	灰	南比企	墨書「綱」
第588図	21	240	須恵器	環	106	54	40		15	灰	米野	
第588図	22	240	須恵器	環	109	39	40		20	灰黄	米野	
第588図	23	240	須恵器	環	—	60	(29)		45	灰	南比企	
第588図	24	240	須恵器	環	—	64	23		15	灰白	南比企	
第589図	1	240	須恵器	環	—	65	(17)		5	灰黄	南比企	墨書「土」
第589図	2	240	須恵器	環	—	56	25		30	内側灰・外側灰白	南比企	
第589図	3	240	須恵器	環	—	62	(17)		30	暗緑灰	南比企	
第589図	4	240	須恵器	環	—	58	(15)		30	灰	南比企	

標尺番号	図の番号	通称番号	種 別	器 種	口 径	底 径	器 高	最大径	残存率	色 調	産 地	備 考
第589図	5	240	須 恵 器	環	—	61	(20)		20	灰白	南比企	刻字「×」
第589図	6	240	須 恵 器	環	—	62	12		20	灰白	南比企	墨書「綱」
第589図	7	240	須 恵 器	環	—	63	(8)		20	灰	南比企	
第589図	8	240	須 恵 器	環	—	51	(14)		10	暗緑灰	南比企	
第589図	9	240	須 恵 器	環	—	62	(8)		20	灰	南比企	
第589図	10	240	須 恵 器	環	—	62	(11)		20	灰	南比企	
第589図	11	240	須 恵 器	環	—	62	(10)		10	黄灰	南比企	
第589図	12	240	須 恵 器	環	—	64	(11)		20	灰	南比企	
第589図	13	240	土 師 器	環	—	—	—		5	灰白	南比企	墨書「佐」
第589図	14	240	須 恵 器	環	—	63	(8)		5	灰	末野	墨書「綱」
第589図	15	240	須 恵 器	皿	140	—	(19)		10	灰	末野	墨書「第」
第589図	16	240	須 恵 器	高台付埴	—	75	(23)		25	灰	南比企	
第589図	17	240	須 恵 器	高台付埴	—	80	(15)		20	灰白	末野	墨書「綱」
第589図	18	240	須 恵 器	高台付埴	—	88	(20)		10	灰	末野	
第589図	19	240	須 恵 器	高台付埴	127	82	45		60	灰	末野	
第589図	20	240	須 恵 器	高台付埴	—	80	(32)		15	灰	末野	
第589図	21	240	須 恵 器	高台付埴	—	80	(35)		10	灰	末野	墨書「綱」
第589図	22	240	須 恵 器	高台付埴	—	95	(45)		20	オリーブ灰	末野	
第589図	23	240	須 恵 器	高台付埴	—	102	(47)		10	内側灰白・外側灰	末野	
第589図	24	240	黒色土器	鉢	111	133	(105)		10	内側黒黒・外側に おしい粉	利根川水系	
第589図	25	240	須 恵 器	蓋	131	—	(32)		15	灰白	南比企	
第589図	26	240	須 恵 器	淨瓶	—	—	(31)		10	内側白・外側灰	東海地方	
第589図	27	240	須 恵 器	花瓶	—	—	(36)		5	灰	東海地方	
第589図	28	240	須 恵 器	円蓋	上144	下161	高57	上最大 150	5	緑灰	南比企	
第589図	29	240	須 恵 器	甕	241	—	(76)		10	灰	末野	
第589図	30	240	須 恵 器	甕	182	—	(49)		10	灰	南比企	
第589図	31	240	須 恵 器	甕	—	—	—		10	灰	末野	
第590図	1	240	須 恵 器	甕	—	—	—		5	灰	末野	
第590図	2	240	須 恵 器	甕	—	—	—		5	灰	末野	
第590図	3	240	須 恵 器	甕	—	—	—		5	内側灰白・外側暗 オリーブ灰	南比企	
第590図	4	240	須 恵 器	甕	—	—	—		5	内側白・外側暗緑 灰	南比企	
第590図	5	240	須 恵 器	甕	—	—	—		5	暗青灰	南比企	
第590図	6	240	須 恵 器	甕	—	185	(63)		10	内側褐白・外側灰	末野	
第590図	7	240	鉄 製 品	鉄鉢	—	—	—		—	—	—	
第590図	8	240	鉄 製 品	耳環	—	—	—		—	—	—	鉄地銀張
第590図	9	245	須 恵 器	蓋	133	—	(17)		5	灰	末野	
第590図	10	245	須 恵 器	高台付埴	—	59	(19)		30	灰	藤岡・吉井	
第590図	11	249	土師質土器	環	122	71	35		70	にぶい黄粉	利根川水系	
第590図	12	249	土師質土器	環	120	65	38		80	橙	利根川水系	
第590図	13	249	土師質土器	高台付埴	—	—	(26)		10	和灰	利根川水系	
第590図	14	249	黒色土器	高台付埴	145	72	69		80	内側黒黒・外側橙	利根川水系	
第590図	15	251	須 恵 器	甕	162	101	35		20	にぶい褐	末野	
第590図	16	257	須 恵 器	環	—	49	(6)		15	灰	末野	
第590図	17	258	須 恵 器	皿	124	44	25		40	灰	末野	
第590図	18	261	須 恵 器	環	130	70	(35)		30	灰白	末野	
第590図	19	264	土 師 器	有段口縁環	124	—	(43)		20	橙	利根川水系	
第590図	20	264	須 恵 器	甕	181	—	(34)		5	灰	南比企	
第590図	21	265	土 師 器	内底口縁環	107	—	(28)		10	灰	利根川水系	
第591図	1	266	須 恵 器	高台付埴	—	109	(15)		5	黄灰	秋間	

採出番号	図の番号	建機番号	種 別	器 種	口 径	径 径	器 高	最大径	残存率	色 調	産 地	備 考
第591図	2	266	黒色土器	高台付埴	—	74	(27)	29	内側オリブ黒・外側黄	利根川水系		
第591図	3	267	土 師 器	埴A	121	—	(31)	5	黄	利根川水系		
第591図	4	268	須 恵 器	埴	130	70	41	35	棕紫灰	南比企		
第591図	5	268	須 恵 器	埴	—	60	(45)	10	灰	南比企		
第591図	6	269	土 師 器	埴	135	84	33	30	にぶい黄橙	利根川水系		
第591図	7	269	須 恵 器	埴	150	105	34	30	灰	南比企		
第591図	8	269	須 恵 器	埴	—	95	10	10	灰	南比企		
第591図	9	269	土 師 器	埴	—	—	(9)	30	黄	利根川水系		
第591図	10	269	土 師 器	埴	—	—	—	5	にぶい橙	利根川水系	黒書「綱」	
第591図	11	269	土 師 器	埴	—	—	—	5	黄	利根川水系	黒書「綱」	
第591図	12	269	土 師 器	埴	—	—	—	5	明褐	利根川水系	黒書「綱」	
第591図	13	273	土 師 器	埴A	121	—	40	40	黄	利根川水系		
第591図	14	273	須 恵 器	高台付埴	135	65	52	90	灰	東野		
第591図	15	273	土師質土器	埴	—	62	18	20	浅黄橙	ローム台地の粘土		
第591図	16	273	土師質土器	高台付埴	—	70	(19)	20	にぶい黄	ローム台地の粘土		
第591図	17	277	土 師 器	有段口縁埴	119	—	37	30	明赤褐	利根川水系		
第591図	18	277	土 師 器	内屈口縁埴	120	—	(25)	10	明赤褐	利根川水系		
第591図	19	277	須 恵 器	埴	—	90	—	10	明オリブ灰	南比企		
第591図	20	277	須 恵 器	埴	—	68	—	5	灰白	水野		
第591図	21	277	土師質土器	埴	—	61	—	5	浅黄	利根川水系		
第591図	22	278	緑 釉 陶 器	埴片	—	—	—	5	オリブ黄	猿投		
第591図	23	279	土 師 器	埴A	123	—	36	40	橙	利根川水系		
第591図	24	279	土 師 器	埴A	109	—	(30)	20	黄	ローム台地の粘土		
第591図	25	279	土 師 器	埴A	120	—	(31)	20	にぶい黄橙	利根川水系		
第591図	26	279	土 師 器	埴	121	86	26	40	黄	利根川水系		
第591図	27	279	須 恵 器	埴	122	80	31	10	灰	南比企	黒書「綱」	
第591図	28	279	須 恵 器	埴	127	71	37	60	灰白	南比企	黒書「綱」	
第591図	29	279	須 恵 器	埴	—	65	(8)	5	灰白	南比企	黒書「綱」	
第591図	30	279	須 恵 器	埴	—	70	(7)	5	淡白	南比企	黒書「綱」	
第591図	31	279	須 恵 器	埴	—	60	(15)	5	灰白	南比企	黒書「綱」	
第591図	32	279	須 恵 器	高台付埴	134	87	44	80	灰白	南比企		
第591図	33	279	須 恵 器	高台付埴	—	98	(21)	10	暗オリブ灰	東金子		
第591図	34	279	須 恵 器	長頸壺	76	—	—	10	暗オリブ灰	南比企		
第591図	35	279	鉄 製 品	刀子	—	—	—	—	—	—		
第592図	1	280	土師質土器	埴	—	42	(15)	40	灰白	利根川水系		
第592図	2	280	須 恵 器	高台付埴	—	64	(31)	20	灰白	水野		
第592図	3	285	土 師 器	内湾口縁埴	127	—	36	100	にぶい黄	ローム台地の粘土		
第592図	4	285	土 師 器	内湾口縁埴	126	—	35	90	にぶい黄	ローム台地の粘土		
第592図	5	285	須 恵 器	壺	210	—	(26)	35	灰	南比企		
第592図	6	285	須 恵 器	壺	—	90	(15)	5	灰白	南比企		
第592図	7	285	須 恵 器	埴	133	78	38	65	灰	南比企		
第592図	8	285	須 恵 器	埴	125	89	(31)	100	灰	南比企		
第592図	9	285	須 恵 器	埴	—	—	(8)	10	暗緑灰	南比企	黒書「綱」	
第592図	10	285	緑 釉 陶 器	埴片	—	—	—	5	灰オリブ	猿投		
第592図	11	285	土 師 器	壺	118	—	(41)	10	黄	ローム台地の粘土		
第592図	12	285	須 恵 器	フラスコ形瓶	—	—	(148)	50	灰白	湖内		
第592図	13	286	須 恵 器	埴	132	66	36	50	灰	南比企	刻書「×」	
第592図	14	287	須 恵 器	長頸壺	—	80	(27)	5	灰	東金子		
第592図	15	289	土 師 器	高埴	153	—	(61)	60	内側にぶい黄・外側黄	利根川水系		

採掘番号	図の番号	通線番号	種 別	器 種	口 径	底 径	器 高	最大径	残存率	色 調	産 地	備 考
第592図	16	298	土 師 器	坏B	134	—	(38)		30	にぶい橙	利根川水系	
第592図	17	298	土 師 器	坏B	125	49	50		30	にぶい黄橙	利根川水系	
第592図	18	299	須 恵 器	坏	134	50	46		35	灰白	末野	
第592図	19	299	須 恵 器	坏	119	52	27		35	橙	末野	
第592図	20	299	須 恵 器	高台付埴	144	64	63		40	灰白	末野	
第592図	21	299	須 恵 器	高台付埴	—	76	32		10	橙	末野	
第592図	22	299	黒色土器	高台付埴	—	—	25		20	内側オリーブ黒・外側灰	利根川水系	
第592図	23	299	須 恵 器	変	—	—	—		50	内側灰白・外側オリーブ灰	南比企	
第592図	24	300	土 師 器	高坏	—	98	(25)		10	浅黄橙	利根川水系	
第592図	25	303	土 師 器	坏	115	—	(37)	126	20	内側黒褐・外側黒	利根川水系	
第592図	26	304	土 師 器	坏B	120	—	(32)		10	橙	利根川水系	
第592図	27	304	須 恵 器	坏	113	61	35		100	浅黄橙	末野	
第592図	28	304	ロクロ土師器	坏	—	55	(21)		20	橙	下総地方	
第592図	29	304	土師質土器	坏	115	54	40		50	明褐色	利根川水系	
第592図	30	304	須 恵 器	花瓶	—	—	(88)		10	灰	南比企	変G
第593図	1	306	土 師 器	有段口縁坏	130	—	(30)		20	内側にぶい橙・外側オリーブ黒	利根川水系	黒色処理
第593図	2	307	須 恵 器	高台付埴	—	63	(28)		30	灰	末野	
第593図	3	307	灰輪陶器	埴	—	—	—		5	灰白	東濃・虎沢山1	
第593図	4	309	土師質土器	坏	106	58	(36)		40	淡黄	利根川水系	
第593図	5	309	須 恵 器	変	—	150	(40)		10	暗オリーブ灰	末野	
第593図	6	314	土 師 器	有段口縁坏	129	—	33		10	黒褐	利根川水系	黒色処理
第593図	7	326	須 恵 器	変	—	128	(25)		5	灰	南比企	
第593図	8	326	須 恵 器	坏	—	80	—		10	オリーブ灰	南比企	
第593図	9	329	須 恵 器	坏	—	67	(34)		25	灰	末野	
第593図	10	329	土師質土器	坏	—	51	(22)		20	にぶい黄橙	利根川水系	
第593図	11	331	灰輪陶器	埴	160	75	47		20	灰白	二川・K90	
第593図	12	334	須 恵 器	高台付埴	—	68	(35)		20	灰白	末野	
第593図	13	344	須 恵 器	変か唇鉢	180	—	(98)		10	内側暗オリーブ灰・外側灰白	南比企	
第593図	14	350	土 師 器	有段口縁坏	109	—	(34)		10	内側橙・外側浅黄	利根川水系	
第593図	15	358	須 恵 器	高台付埴	—	80	(19)		5	橙	利根川水系	
第593図	16	359	土 師 器	坏	119	—	(42)		20	にぶい褐	利根川水系	
第593図	17	359	須 恵 器	高台付皿	—	134	(24)		10	灰	秋間	
第593図	18	361	須 恵 器	脚付長頸壺	—	—	(98)		80	灰	末野	
第593図	19	363	須 恵 器	変	—	—	—		5	灰黄褐	南比企	
第593図	20	365	土 師 器	内口縁坏	103	—	(29)	110	20	橙	利根川水系	
第593図	21	368	土 師 器	須恵器環身腹帯坏	118	—	(20)	130	10	灰褐	ローム台地の粘土	黒色処理
第593図	22	369	土 師 器	有段口縁坏	131	—	(42)		70	暗褐	利根川水系	黒色処理
第593図	23	370	須 恵 器	坏	131	82	37		30	緑灰	南比企	
第593図	24	372	土 師 器	坏A	125	—	(29)		30	にぶい橙	利根川水系	
第593図	25	372	須 恵 器	坏	—	—	—		5	灰	南比企	器書「銅」カ
第593図	26	373	土 師 器	須恵器環身腹帯坏	110	—	(21)		10	橙	ローム台地の粘土	
第593図	27	373	須 恵 器	坏	—	80	(25)		5	灰	南比企	
第593図	28	374	土 師 器	有段口縁坏	108	—	(38)		20	橙	利根川水系	
第594図	1	374	須 恵 器	坏	—	65	(8)		20	灰	南比企	
第594図	2	377	須 恵 器	坏	127	67	43		95	にぶい黄橙	末野	
第594図	3	377	須 恵 器	坏	125	59	40		45	にぶい黄橙	末野	
第594図	4	377	須 恵 器	坏	138	57	33		30	灰黄	末野	
第594図	5	377	須 恵 器	坏	128	—	33		10	にぶい黄橙	末野	
第594図	6	377	須 恵 器	坏	127	—	37		15	にぶい黄橙	末野	

押込番号	図の番号	遺蹟番号	種 別	器 種	口 径	底 径	器 高	最大径	残存率	色 調	産 地	備 考
第594図	7	377	須 恵 器	坏	127	—	29		10	浅黄	末野	
第594図	8	377	須 恵 器	坏	—	56	22		10	明赤褐	末野	
第594図	9	377	土師質土器	坏	—	60	40		10	浅黄橙	利根川水系	
第594図	10	396	土 師 器	内胎口縁坏	98	— (27)			20	橙	利根川水系	
第594図	11	396	土 師 器	坏	126	— (28)			30	橙	利根川水系	
第594図	12	399	土師質土器	高台付埴	—	76 (25)			20	内側黒・外側によ り、黄	ローム台地の粘土	黒色土器
第594図	13	400	須 恵 器	坏	—	55 (7)			10	橙	南比企	
第594図	14	401	土 師 器	北島型埴文土器	115	—	34		30	にぶい黄橙	利根川水系	
第594図	15	401	須 恵 器	蓋	—	— (14)			5	灰	南比企	
第594図	16	401	須 恵 器	蓋	189	108 (21)			15	灰	南比企	
第594図	17	401	須 恵 器	坏	130	82	38		80	灰	南比企	
第594図	18	401	鉄 製 品	刀子	—	—	—		—	—	—	
第594図	19	402	土 師 器	坏	119	— (30)			20	橙	利根川水系	
第594図	20	402	須 恵 器	坏	—	72 (21)			10	灰	南比企	
第594図	21	404	須 恵 器	坏	—	60 (15)			5	灰	末野	
第594図	22	405	須 恵 器	羽釜形甕	212	— (40)			5	灰	末野	
第594図	23	409	須 恵 器	高台付埴	—	66	14		20	灰	末野	
第594図	24	410	須 恵 器	円面硯	85	— (16)			5	灰	南比企	
第594図	25	429	土 師 器	坏	140	— (27)			10	橙	利根川水系	
第594図	26	432	須 恵 器	甕	—	—	—		5	灰	南比企	
第594図	27	433	須 恵 器	高台付埴	164	— (67)			10	灰	南比企	
第594図	28	437	土師質土器	坏	—	66 (36)			25	にぶい黄橙	利根川水系	
第594図	29	437	須 恵 器	高台付埴	—	67	29		10	灰	末野	
第595図	1	437	土 師 器	紡錘車	上47	F21 高23	孔6		50	灰黄褐	利根川水系	
第595図	2	439	須 恵 器	控鉢	—	75 (38)			5	灰白	南比企	
第595図	3	441	須 恵 器	高台付埴	—	117	16		20	灰白	藤岡・吉井	
第595図	4	450	土 師 器	内湾口縁坏	112	— (26)			30	橙	利根川水系	
第595図	5	450	土 師 器	甕	168	—	40		100	橙	利根川水系	
第595図	6	466	須 恵 器	高台付埴	—	77 (15)			10	灰黄	末野	
第595図	7	478	土 師 器	内胎口縁坏	115	— (36)			20	橙	利根川水系	
第595図	8	478	土 師 器	北島型埴文土器	119	— (32)			30	橙	利根川水系	
第595図	9	478	土 師 器	甕	174	— (41)			40	橙	利根川水系	
第595図	10	478	土 師 器	甕	170	—	50		50	橙	利根川水系	
第595図	11	485	鉄 製 品	棒状鉄製品	—	—	—		—	—	—	
第595図	12	489	土 師 器	坏	119	— (31)			10	橙	利根川水系	
第595図	13	496	須 恵 器	甕	212	— (44)			10	褐灰	末野	

5. 溝 跡



第596図 溝跡全体図

概 要

北島遺跡第19地点では、442条の古代から近世にかけての溝を調査した。ここで溝とした遺構は、その機能上、

- ① ある一定の空間を区画する溝
- ② パネル状の垣や櫓などを設置するための溝
- ③ 建物に直接関連した雨落ち溝
- ④ 島地の耕作のため大地を刻んだ痕跡の溝
- ⑤ 道路などの工作物のために構造上必要とされた溝
- ⑥ 用排水路として掘削された溝
- ⑦ 溝状窪地
- ⑧ 降斜路
- ⑨ 河川跡
- ⑩ 円形周溝状遺構
- ⑪ 性格を特定できない溝

などに分類することができる。

本稿ではこの分類に従い、古代の溝について、記述を進めていくこととする。

なお第2・43・78・81・82・83・84・85・86・123・124・147・148・164・165・184・333号溝跡は、中世の溝である。

また第55・200・225・257・258・298・303・315・324・336・407号溝跡は、近世の溝である。

(1) 溝

① 区画溝

いわゆる区画溝は、異なる土地利用（空間）の境界として掘削された溝と、建物群の周囲を区画する溝に分けて考えることができる。

前者は、第87・90・91・206・235・275・277・128・153号溝跡、第125・151号溝跡、第163・199・221・226号溝跡、第183号溝跡、第187号溝跡である。

後者は、第8・117・127・152・154・156・192・195・198・201・205・217・218・219・220・223・224・227・234・237・238・244・246・251・252・267・268・270・272・276・278・282号溝跡である。

a 異なる土地利用の境界溝

第87・90・91・206・235・275・277・128・153号溝跡

外溝と内溝が、対になる形で区画溝を構成していた。これらの溝に区画される一画は、調査区の西側に位置し、北郭と南郭を構成していた。この区画の北に約40m、東に約50mの地点は、谷となる。

北郭を区画する溝は、第87・90・91・206・235号溝跡で構成していた。東辺内溝・外溝のN17グリッドには、幅約4mの断続部（掘り残し）があり、ここに四脚門を確認した。

また、この門の北方I16グリッドには、冠木門（棟門か）を検出したが、東辺の内溝・外溝は、余り切れなかった。区画溝に板などを渡して通行していたのであろう。南辺は、外溝のP15グリッドに幅約2mの途切れる場所があり、内溝はそこで終わっていた。門などの具体的施設を確認できなかったが、門を想定してもおかしくはないだろう。他の施設もみられなかった。

南郭は、東辺を第275・277号溝跡によって区切られ、南辺は1号道路跡の側溝（第319・329号溝跡）によって区画されていた。北辺は、北郭の南辺を共有していた。東辺の溝は、1号道路跡の側溝の手前、T17グリッドで終わっていた。

また南辺の道路側溝（第319号溝跡）は、S15グリッドで途切れ、そこから南郭内を北上すると北辺（北郭の南辺）区画溝の断続部にあたる。以上から道路より北郭に向かう通路が、南郭内を通っていたと判断した。

外溝と内溝の間には、土堀もしくは築地又は生け垣が築かれていたと考えたい。

北郭の北辺の溝は、外側が第87号溝跡、内側が第90号溝跡である。規模は、第87号溝跡が長さ740.69m・深さ0.71m・掘削幅2.04m・深さ0.4m、第90号溝跡は長さ30.9m・掘削幅4.46mである。

内溝と外溝は、訳2.8mの間隔をあけ併走していた。両溝とも西側は、調査区外となり全容は不明である。

東辺の溝は、外側が第87号溝跡・第206号溝跡、内

側は第91号溝跡である。規模は、第87号溝跡が長さ69.6m・掘削幅2.52m・深さ5.2mである。

第206号溝跡は、長さ13.4m・掘削幅2.24m・深さ0.58mである。第91号溝跡は、長さ76.8m・掘削幅1.56m・深さ0.48mである。外溝と内溝の間隔は、約3mである。

南辺の溝は、外側が第206号溝跡、内側は第235号溝跡である。規模は、第235号溝跡が長さ19.3m・掘削幅1.53m・深さ0.41mである。第206号溝跡は、長さ41.9m・掘削幅2.16m・深さ0.65mである。両溝の間隔は、約3mとなる。第206号溝跡の西側は、調査区外となり全容は不明である。

南郭の東辺の溝は、外側が第277号溝跡、内側が第275号溝跡である。規模は、第277号溝跡が長さ42.4m・掘削幅1.69m・深さ0.28m、第275号溝跡は長さ41.7m・掘削幅1.52m・深さ0.12mとなる。両溝の間隔は約3mである。

第128号溝跡と第153号溝跡は、この区画の東側に検出され、区画施設に付属した区画溝であろう。東西方向に走り、東辺の第87号溝跡とは直行する。第128号溝跡の規模は、長さ27.9m・掘削幅0.42m・深さ0.1mである。第153号溝跡は、長さ30.1m・掘削幅1.28m・深さ3.64mである。

第153号溝跡は、K17グリッドで西端が第200号土壌と交わる。第153号溝跡が第200号土壌よりも新しいが、第200号土壌を先行して調査してしまったため、詳細は不明である。

東端はK20グリッドで谷と交わり、それ以降は検出できなかったことから、溜まり水は、谷へ排水していたと考えたい。

第125・151号溝跡

外溝と内溝が、対になる形で区画溝は、構成されていた。これらの溝によって区画された一画は、調査区の西側に位置し、前述の区画を切って、その内側に検出した。

北辺と東辺の溝は、第125・151号溝跡である。外溝

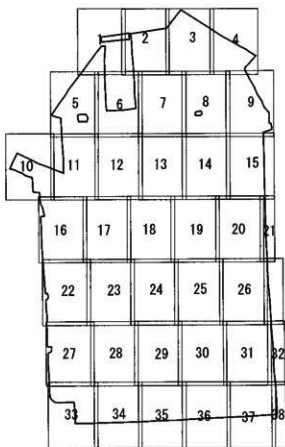
は、第125号溝跡、内溝は、第151号溝跡である。北辺と東辺には、門等の開口部を示す施設は、みられなかった。

また、南の境界を示す溝や標列などは、確認できなかった。しかしこの区画の南側には道路遺構が検出されており、南辺を区画していた可能性も考えられる。

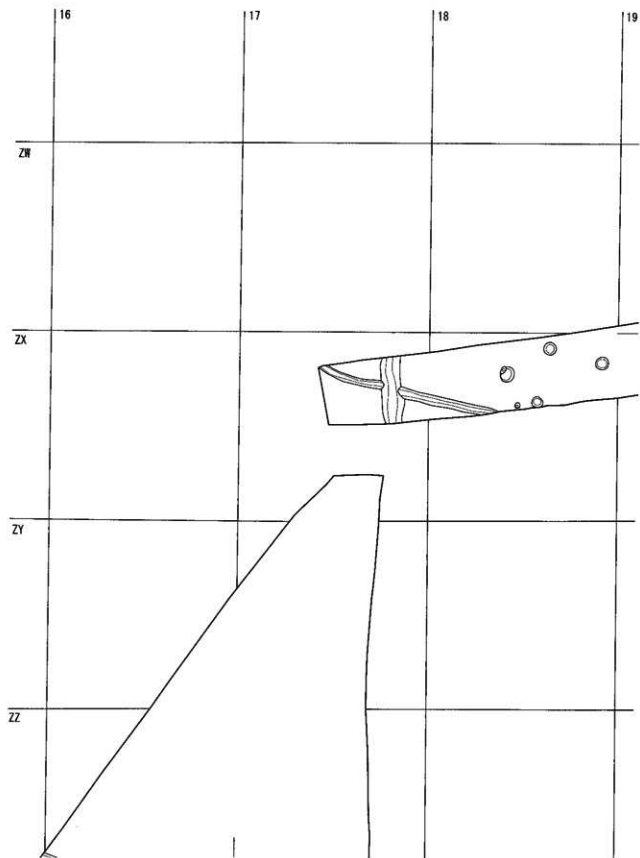
外溝と内溝の間には、幅約3mの無遺構帯があり、土塀もしくは築地が築かれていたと考えた。ただし、築地塀や土塀などの基礎となる版築や盛り土は、確認できなかった。

北辺の規模は、第125号溝跡が長さ30.2m・掘削幅2.4m・深さ0.9mである。第151号溝跡は長さ21.7m・掘削幅0.62m・深さ0.18mである。両溝の間隔は2.7～6.3mである。西側が調査区外となるため全容は不明である。

東辺の規模は、第125号溝跡が長さ73.5m・掘削幅2.36m・深さ1.05m、第151号溝跡が、長さ68.9m・



第597図 溝跡全体区画図



第598図 溝跡全体図(1)

掘削幅0.92m・深さ0.34mである。両溝の間隔は1.0～3.5mである。

内溝の第151号溝跡は、P17グリッドで東側に曲がり、第125号溝跡との間隔が約半分の1.2mに縮まっていた。両溝は、Q17グリッドで徐々に浅くなり、ついには途切れ、確認できなくなった。

第163号溝跡

調査区を北東―南西方向に走る。調査区の西側を南北に区画する溝である。第163号溝跡の北側は、竪穴住居跡や掘立柱建物跡などが、密集していた。南側は、比較的遠構の疎らな地域が広がっていた。

溝の南端は、T17グリッドで第325号溝跡に破壊されていた。その後、調査区外へ延びていくのであろう。北端は、K22グリッドで谷に落ち込み途切れた。

Q16グリッドでは、第221号溝跡が分岐していた。第221号溝跡のほうが古く、流路を変更したと考えた。

規模は、掘削幅0.94m・深さ0.42mである。

第199号溝跡

調査区を北東―南西方向に走る区画溝である。Q18グリッドで第226号溝跡から分岐しており、第226号溝跡より古かった。構築当初は、第199号溝跡を流れていたが、後に第226号溝跡を開削し、流路変更したと考えた。東端は、M23グリッドで谷に入り、その先は検出できなかった。

規模は、掘削幅0.94～1.44m・深さ0.35～0.51mである。

第221号溝跡

調査区を北東―南西方向に走る区画溝である。Q16グリッドでは、第163号溝跡から分岐しており、第163号溝跡より古かった。

構築当初は、第221号溝跡を流れていたが、後に北寄りに改削し、第163号溝跡へ流路変化したと考えた。N21グリッドで途切れ、それより北には検出できなかった。

規模は、掘削幅0.60m・深さ0.03mである。

第226号溝跡

調査区を北東―南西方向に走る。第163号溝跡と同様に、調査区の西側を南北に区画する溝である。西端は、T13グリッドで調査区外となり、さらに延びていたのであろう。東端は、谷に落ち込むN23グリッドで途切れていた。

Q18グリッドからは、第199号溝跡が分岐していた。第199号溝跡が古く、流路を変更したと考えた。

規模は、掘削幅0.98m・深さ0.17mである。

第183号溝跡

調査区を北西―南東方向に走る区画溝である。南西方向にM13グリッドで向きを変え、調査区外へ延びていた。U21グリッドでは、第384号溝跡と合流し、それより東は検出できなかった。

第183号溝跡の西から南側にかけて、溝の掘削方向と平行した掘立柱建物跡が、並んでいた。このことから第183号溝跡は、これらの掘立柱建物跡の排水溝としての機能を担っていたと考えられる。

規模は、掘削幅0.58～1.81m・深さ0.13～0.37mである。

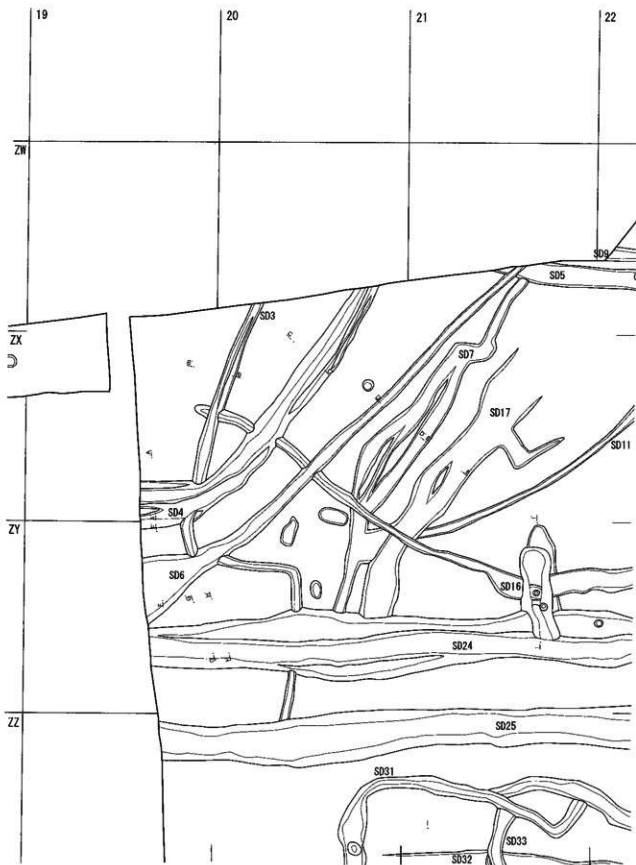
第187号溝跡

調査区を北北東から南南西方向に走る区画溝である。第200号溝跡にR14グリッドで破壊されていたが、南側は調査区外へ延びていたと考えた。

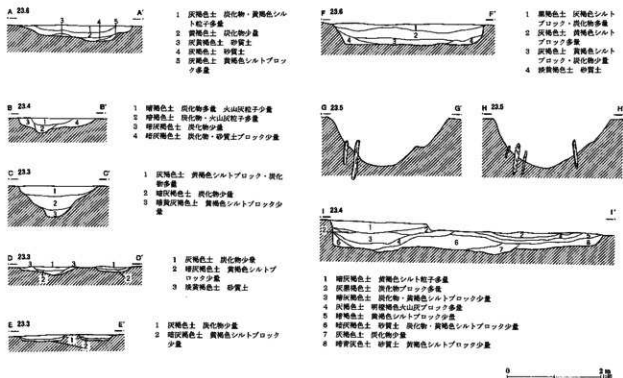
北端は、M16グリッドで第125号溝跡に当たる。その先も第91号溝跡・第200号土壌に破壊されていた。ただし、溝の走行方向は、第133号溝跡につながる可能性を残す。

第187号溝跡の溝底部には、小穴がいくつか検出された。北側につながる可能性のある第133号溝跡内にも明らかなビット列を、検出している。

第187号溝跡には、柵が設置されていた可能性も考えておきたい。また溝の東側には、溝の走行方向に



第599图 溝跡全体図(2)



第600図 溝跡(2)土層断面図

合わせて掘立柱建物跡を数棟検出した。

規模は、掘削幅0.46～1.13m・深さ0.17～0.37mである。

b 居宅の周囲を区画する溝

第8号溝跡

調査区を北西～南東方向に走る区画溝である。南端では、東に向きを変えていた。その先は、第1号方形区画遺構に破壊されていたため詳細は不明である。

規模は、掘削幅0.4m・深さ0.08mである。

第117号溝跡

調査区を南北方向に走る区画溝である。北端は、第109号住居跡に破壊され、その先は、検出できなかった。南端は、第133号溝跡に接していた。

規模は、掘削幅0.7m・深さ0.17mである。

第127号溝跡

第125号溝跡の北側に検出した。第125号溝跡は、この溝と併走して東西に走っていた。東端は、第160

号溝跡に、西端は、第159号溝跡に破壊されていたため、それより先は、検出できなかった。

規模は、掘削幅0.40m・深さ0.13mである。

第152号溝跡

第151号溝跡の南側に検出した。東西方向に走る区画溝である。第125・127溝跡と併走していた。西端は、第151号溝跡に、東端は、第132号住居跡に破壊されていた。

規模は、掘削幅0.63mである。

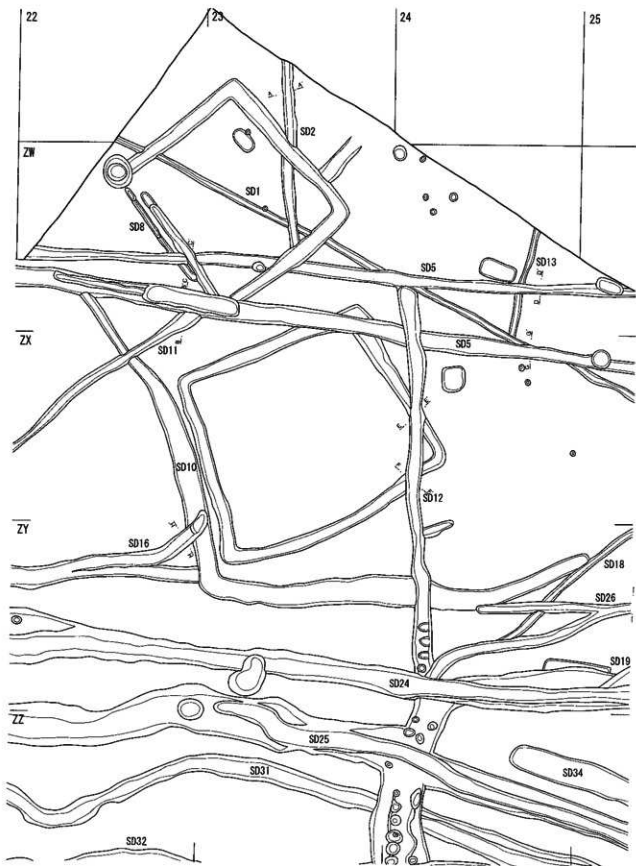
第154号溝跡

第153号溝跡の南側に検出した。南北方向に走る区画溝である。第156号溝跡と2.3mの距離をもって併走しており、対になっていたと考えた。北端は、第201号土壌に破壊されていたため明らかではない。

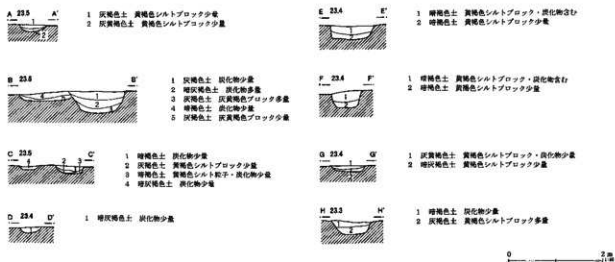
規模は、掘削幅0.25m・深さ0.76mである。

第156号溝跡

第153号溝跡の南側に検出した。南北方向に走る区



第601図 溝跡全体図(3)



第602図 溝跡(3)土層断面図

画溝である。第154号溝跡と2.3mの距離をもって併走しており、対になっていたと考えた。北端は、第153号溝跡に接していた。

規模は、掘削幅0.65m・深さ0.1mである。

第192号溝跡

調査区を北東―南西方向に走る区画溝である。東端は、第167号住居跡に破壊され、西端は、第176号住居跡に破壊されていた。それより先は、検出できなかった。

規模は、掘削幅0.71m・深さ0.09mである。

第195号溝跡

第38号掘立柱建物跡の南東側に検出した区画溝である。第38号掘立柱建物跡の南側の桁行に沿って走り、北東隅で南東方向に向きを変えていた。しかし第38号掘立柱建物跡との関連はなく、むしろ第198・217・218号溝跡と関連する区画溝であると判断した。

規模は、掘削幅0.61m・深さ0.11mである。

第198号溝跡

第39・40号掘立柱建物跡の西側に検出した。掘立柱建物跡の柱筋に沿い、「く」の字形に屈曲していた。第39・40号掘立柱建物跡の周囲を区画する溝であると判断した。

規模は、掘削幅0.70m・深さ0.08mである。

第201号溝跡

第49号掘立柱建物跡の南側に検出した。調査区を北東―南西方向に走る区画溝である。南端は、第67号井戸跡に破壊され、その先も遺構が重複しているため詳細は不明だが、第237号溝跡と同一の溝であると判断した。

規模は、掘削幅0.71m・深さ0.08mである。

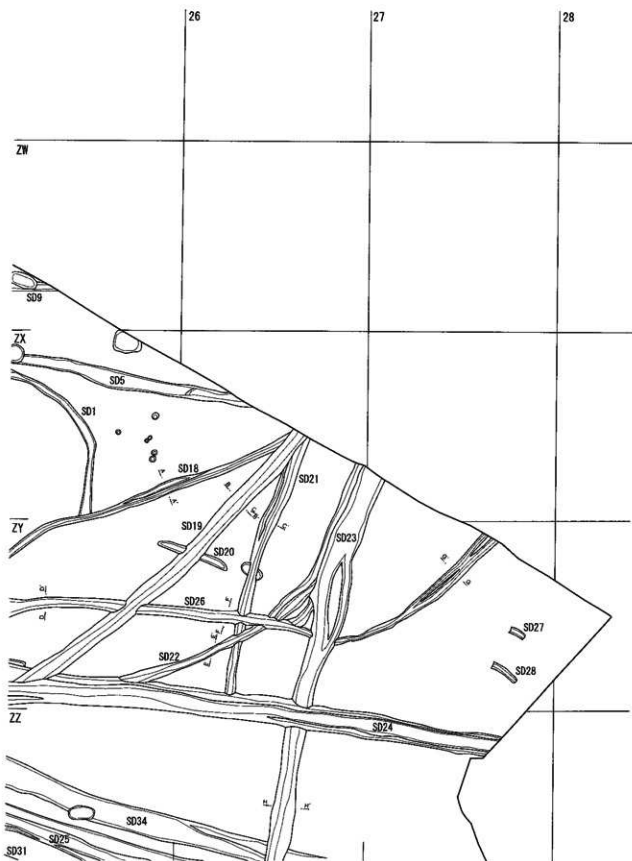
第205号溝跡

調査区を北西―南東方向に走る区画溝である。第50号掘立柱建物跡の東側から延びていた。第252号溝跡と同一の溝であると判断した。第244・246・278号溝跡と、4.6mの距離をもって併走していた。

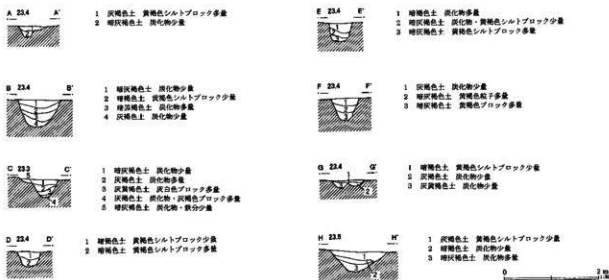
規模は、掘削幅0.31m・深さ0.08mである。

第217号溝跡

第218号溝跡の西側に検出した区画溝である。東端は、第218号溝跡に接し、北西方向に1.4m延びたところで南西方向に向きを変え、第176・177号住居跡の壁に沿って、北西方向に向きを変えていた。このことから第217号溝跡は、第176・177号住居跡の周囲を区画する溝であると判断した。また西端は、第206号溝跡に破壊されていた。



第603図 溝跡全体図(4)



第604図 溝跡(4)土層断面図

規模は、掘削幅0.36m・深さ0.07mである。

第218号溝跡

第198号溝跡の西側に検出した。第53号掘立柱建物跡の柱筋に沿うように「コ」の字形に掘削されていた。第53号掘立柱建物跡の周囲を区画する溝であると判断した。東端は、第198号溝跡に接していた。

規模は、掘削幅0.44m・深さ0.07mである。

第219号溝跡

第52号掘立柱建物跡の東側に検出した。調査区を北西一南東方向に走る区画溝である。第220号溝跡と3.0mの距離をもって併走しており、対になる溝であったと推定した。北端は、第198号溝跡に接し、南端は、第224号溝跡に接していた。

規模は、掘削幅0.38m・深さ0.05mである。

第220号溝跡

第52号掘立柱建物跡の東側に検出した。調査区を北北西一南南西方向に走る区画溝である。第219号溝跡と3.0mの距離をもって併走しており、対になる溝であったと判断した。

規模は、掘削幅0.43m・深さ0.05mである。

第223号溝跡

調査区を北西一南東方向に走る区画溝である。北端は、第226号溝跡に破壊され、南端は、第200号溝跡に破壊されていた。それより先は検出できなかった。

規模は、掘削幅1.14m・深さ0.01mである。

第224号溝跡

第52号掘立柱建物跡の東側に検出した。調査区を北東一南西方向に走る区画溝である。西端は、第198号溝跡に接していた。

規模は、掘削幅0.64m・深さ0.1mである。

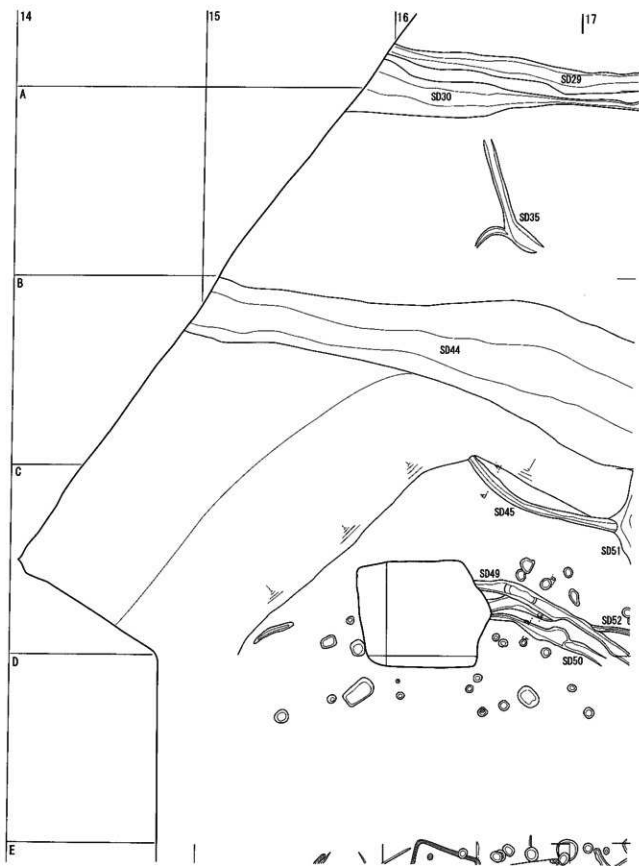
第227号溝跡

第39・40号掘立柱建物跡の東側に検出した。調査区を北西一南東方向に走る区画溝である。南端は、第226号溝跡に接していた。

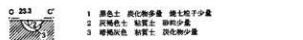
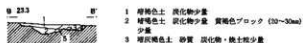
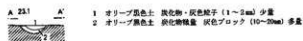
規模は、掘削幅0.54m・深さ0.06mである。

第234号溝跡

第183号溝跡の東側に検出した。調査区を北西一南東方向に走る区画溝である。第237号溝跡と3.2mの距離をもって併走しており、対になる溝であったと考えた。北端は、第64号井戸跡に破壊され、南端は、第183号溝跡に破壊されていた。



第605图 沟迹全体图(5)



0 2.5m

第606図 溝跡(5)土層断面図

規模は、掘削幅0.34~1.05m・深さ0.1~0.28mである。

第237号溝跡

第183号溝跡の東側に検出した。調査区を北西一南東方向に走る区画溝である。第234号溝跡と3.2mの距離をもって併走しており、対となる溝と推定した。北端は、第313号土壌に破壊されていた。南端は、第125号溝跡に破壊されていた。

規模は、掘削幅0.31~1.96m・深さ0.15~0.4mである。

第238号溝跡

第183号溝跡の西側に検出した。調査区を北東一南西方向に走る区画溝である。北端は、第235号溝跡に接したところで途切れていた。おそらく第201号溝跡と同一の溝であろう。南端は、第225号溝跡に破壊されていたが、さらに調査区外に延びていくと考えた。

規模は、掘削幅0.47m・深さ0.23mである。

第244号溝跡

調査区を北西一南東方向に走る区画溝である。南端は、第125号溝跡に破壊され、詳細は不明だが、第246・278号溝跡とつながり、同一の溝であると判断した。また、第205・252号溝跡と3.5mの距離をもって併走し、対となる溝と考えた。北端は、第334号土壌に破壊されていた。

規模は、掘削幅0.83m・深さ0.34mである。

第246号溝跡

第125号溝跡の東側に検出され、調査区を北西一南東方向に走る区画溝である。西端は、125号溝跡に、東端は、206号溝跡に破壊されていた。走行方向から第244・278号溝跡と同一の溝であると判断した。また、第205・252号溝跡と3.7mの距離をもって併走しており、対となる溝と考えた。

規模は、掘削幅0.48m・深さ0.06mである。

第251号溝跡

第57号掘立柱建物跡の西側で検出した。南北方向に走る区画溝である。第217号溝跡の南端から第57号掘立柱建物跡の柱筋に沿って延び、第252号溝跡と合流していた。

規模は、掘削幅0.79m・深さ0.09mである。

第252号溝跡

第57号掘立柱建物跡の西側で検出した。調査区を北西一南東方向に走る区画溝である。北端は、第206号溝跡に破壊されていた。南端は、第221号溝跡に接していた。

規模は、掘削幅0.64m・深さ0.05mである。

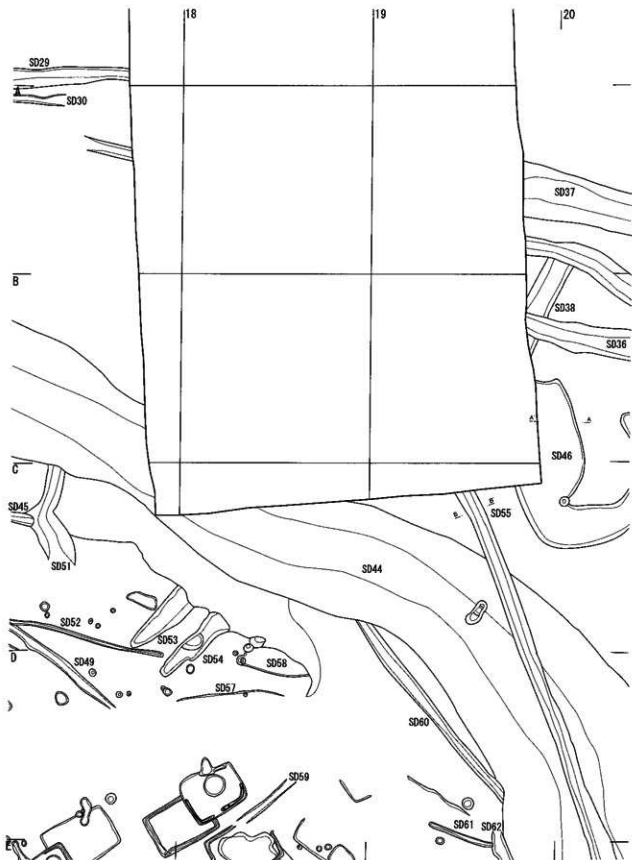
第267号溝跡

第206号溝跡の南側に検出した。調査区を南北方向に走る区画溝である。第268号溝跡と4.3mの距離をもって併走しており、対となる溝と判断した。北端は、第61号掘立柱建物跡に破壊されていた。

規模は、掘削幅0.29m・深さ0.06mである。

第268号溝跡

第206号溝跡の南側に検出した。調査区を南北方向に走る区画溝である。第267号溝跡と4.3mの距離をもって併走しており、対の溝であると判断した。北端は、第186号住居跡に破壊され、南端は、第86号井



第607図 溝跡全体図(6)



- 1 明褐色土 炭化物粒子多量 粘性強い
- 2 灰褐色土 1層と似るが色調明るい 粘性強い



- 1 明褐色土 炭化物粒子多量 粘性強い
- 2 明褐色土 砂質少量
- 3 暗褐色土 炭化物含む
- 4 暗褐色土 砂質含む
- 5 灰褐色土 粘性あり



第608図 溝跡(6)土層断面図

戸跡に破壊されていた。

規模は、掘削幅0.61m・深さ0.04mである。

第270号溝跡

第206号溝跡の南側に検出した。調査区を東西方向に走る区画溝である。西端は、第237号溝跡に破壊されていた。

規模は、掘削幅0.83m・深さ0.09mである。

第272号溝跡

第270号溝跡の南側に検出した。調査区を東西に走る区画溝である。第270号溝跡の南側に接近して併走していた。西端は、第237号溝跡に破壊されていた。

規模は、掘削幅0.73m・深さ0.07mである。

第276号溝跡

第62号掘立柱建物跡の北西側に検出した。第62号掘立柱建物跡の柱筋に沿うように北東—南西方向に走っていた。このため掘立柱建物跡の周囲を区画する溝の一部であると判断した。西端は第275号溝跡に、東端は第277号溝跡に破壊されていた。

規模は、掘削幅0.5m・深さ0.36mである。

第278号溝跡

第62号掘立柱建物跡の東側に検出した。北西—南東方向に走る区画溝である。やや北寄りにずれるが、第244・246号溝跡と同一の溝であると判断した。第205・252号溝跡と2.7mの距離をもって併走しており、対となる溝と考えた。北端は、第206号溝跡に破

壊されていた。

規模は、掘削幅0.25m・深さ0.04mである。

第282号溝跡

調査区を北西—南東方向に走る区画溝である。西端は、第281号溝跡に破壊されていた。

規模は、掘削幅1.10m・深さ0.13mである。

② 垣や櫓などの溝

溝の底に小穴が連続、あるいは一定の間隔をあけて穿たれた溝である。小穴は、堀や櫓の柱穴として打ち込んだ杭の穴と考えた。ただし、東北地方の城櫓官衙にみられるように櫓木を並べた構造ではない。柴を束ねてパネル状として並べた柴垣や簡便な櫓列を考えておきたい。

第133号溝跡

調査区を北東—南西方向に走る。溝内には、径0.17mの小穴が、約0.32mの間隔をもって並んでいた。西端は、第200号土壌に破壊されていた。しかし、さらに西側の第187号溝跡につながり、同一の溝であった可能性を考慮したい。東端は、第122号溝跡に破壊されていた。

溝の規模は、掘削幅0.35～0.52m・深さ0.1mである。

③ 建物の雨落ち溝

掘立柱建物跡に隣接し、建物の軒にかかる雨落ち溝と判断した溝である。

第232号溝跡

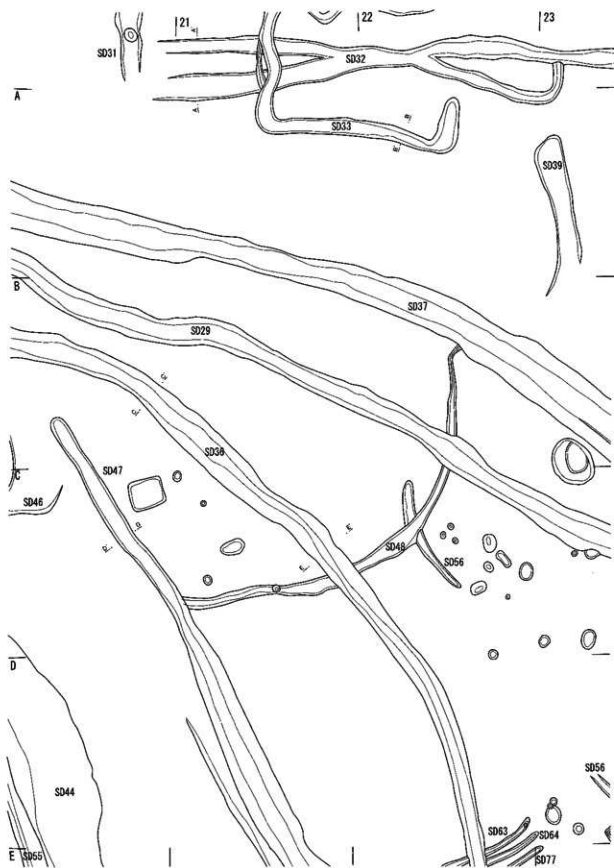
第54号掘立柱建物跡の西側に検出した。

規模は、長さ4.2m・幅0.49m・深さ0.14mである。

④ 畠地の痕跡の溝

小規模な溝状の遺溝が、平行して数条みられる場合、畝や鋤などによるサク状の耕作痕跡と判断した。溝の単位や溝間の距離は、まちまちである。

耕作の痕跡として北島遺跡第19地点でまとまりがみられるのは、第20・61・63・64・71・72・73・77・



第609图 沟迹全体图(7)



- 1 暗灰色土 黄褐色シルトブロック少量
- 2 灰黄褐色土 黄褐色シルトブロック少量
- 3 灰褐色土 黄褐色シルトブロック少量
- 4 暗灰色土 黄褐色シルトブロック少量



- 1 暗灰色土 灰化物少量
- 2 灰褐色土 黄褐色シルトブロック少量



- 1 暗灰色土 灰化物粒子微量
- 2 暗灰色土 粘性・しり強い



- 1 灰オリーブ色土 黄褐色粒子 (1~2mm) 少量 灰化物 (10mm) まばら
- 2 灰オリーブ色土 黄褐色粒子 (1~2mm) 少量 灰化物微量
- 3 オリーブ黒色土 黄褐色粒子 (2~3mm) 少量 灰化物ブロック (10mm) 少量 灰化粒子 (1mm) 含む
- 4 暗オリーブ色土 黄褐色粒子 (2~3mm) 少量 灰化物少量

0 2.5m

第610図 溝跡(7)土層断面図

93・94・95・96・97・98・99・100・101・103・107・108・109・110・111・112・113・114・118・119・120・121・131・132・134・136・138・139・140・143・144・145・158・159・170・171・172・173・174・175・177・185・188・189・190・196・203・204・207・208・209・210・211・212・213・214・216・236・239・240・241・242・243・245・271・273・274・279・288・289・290・291・292号溝跡である。

以下、まとめりに記述する。

第20号溝跡

ZY26・27グリッドで検出した。単独で走行するが、形状や規模から耕作の痕跡と判断した。ごく浅く、東西南方向に走る。

第61・71・72・73号溝跡

E19グリッド付近で検出した。ごく浅く、平行に走る。東西南方向である。第61号溝跡は、他の3条の溝とやや離れている。しかし規模が近似し、平行に走ることから同一の耕作の痕跡と判断した。溝間距離は、0.5~5.0mである。第73号溝跡は、西端を第74号溝跡に破壊されていた。

第63・64・77号溝跡

E22グリッド付近で検出した。ごく浅く平行に走る。東西南方向である。溝間距離は、約0.5mである。

第93号溝跡

G18グリッドで検出した。単独で走行するが、形状や規模から耕作の痕跡と判断した。ごく浅く、東西南方向に走る。

第94・95・96・97・98・99・100・101号溝跡

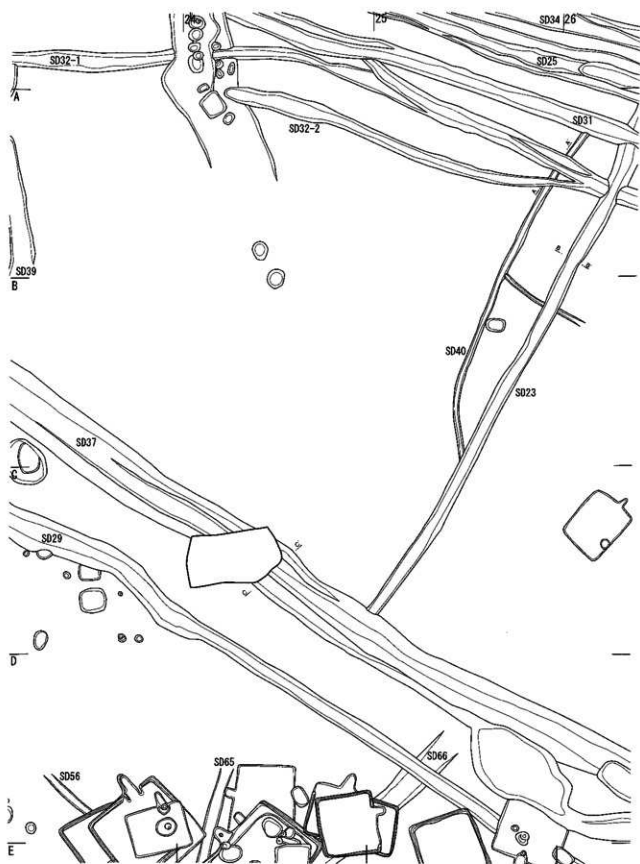
G19グリッド付近で検出した。第94・98・99・100・101号溝跡は、東西南方向に平行に走る。溝間距離は、0.3~2.8mである。第95・96・97号溝跡は、南北方向に平行に走る。溝間距離は、0.8~6.3mである。後者のまとめりは、前者の耕作の痕跡を囲むように検出された。畠地を他の施設等から区画した溝の可能性も考慮すべきであろう。

第103号溝跡

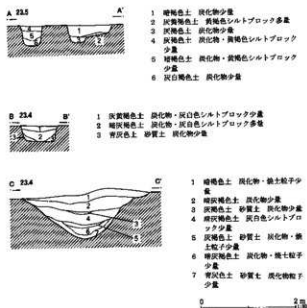
G・H19グリッドで検出した。単独で走行するが、形状や規模から耕作痕跡と判断した。ごく浅く、南北方向に走る。

第107・108・109号溝跡

H19グリッドで検出した。第108・109号溝跡は、平行し、東西に走る。溝間距離は、1.8mである。第107号溝跡は、他の2条の溝と直行し、南北に走る。そのため別のまとめりの一部の可能性もある。



第611図 溝跡全体図(8)



第612図 溝跡(8)土層断面図

第110・111・112・113号溝跡

H20グリッドで検出した。ごく浅く平行し、東西方向に走る。溝間距離は、0.2~1.5mである。西側は、第74号溝跡に破壊されていた。

第114号溝跡

H20グリッドで確認した。単独で走行するが、形状や規模から耕作の痕跡と判断した。ごく浅く、南北方向に走る。南端は、第115号溝跡に破壊されていた。

第118号溝跡

I18グリッドで検出した。単独で検出したが、形状や規模から耕作の痕跡と判断した。ごく浅く、東西方向に走る。西端は、第117号溝跡に破壊されていた。

第119号溝跡

I18グリッドで検出した。単独で検出したが、形状や規模から耕作の痕跡と判断した。ごく浅く、東西方向に走る。東端は、第121号住居跡に破壊されていた。

第120・121号溝跡

I・J19グリッドで検出した。第120号溝跡は、東

西に走る。第121号溝跡は、南北に走り第120号溝跡と直行する。

第131・132・136号溝跡

J19グリッド付近で検出した。ごく浅く平行し、東西方向に走る。溝間距離は、約2mである。第131・132号溝跡は、東端を第122号溝跡に破壊され、第136号溝跡は、第175号土壌に破壊されていた。

第134号溝跡

K18グリッドで確認した。単独で走行していたが、形状や規模から耕作の痕跡と判断した。ごく浅く、南北方向に走る。

第138・139・140号溝跡

J20グリッドで検出した。第139・140号溝跡は、平行し、南北方向に走る。溝間距離は、1.5mである。北側は、第149号土壌に破壊されていた。第138号溝跡は、南北方向に走り、他の2条の溝と直行する。別の耕作の痕跡である可能性も考慮すべきである。

第143・144・145号溝跡

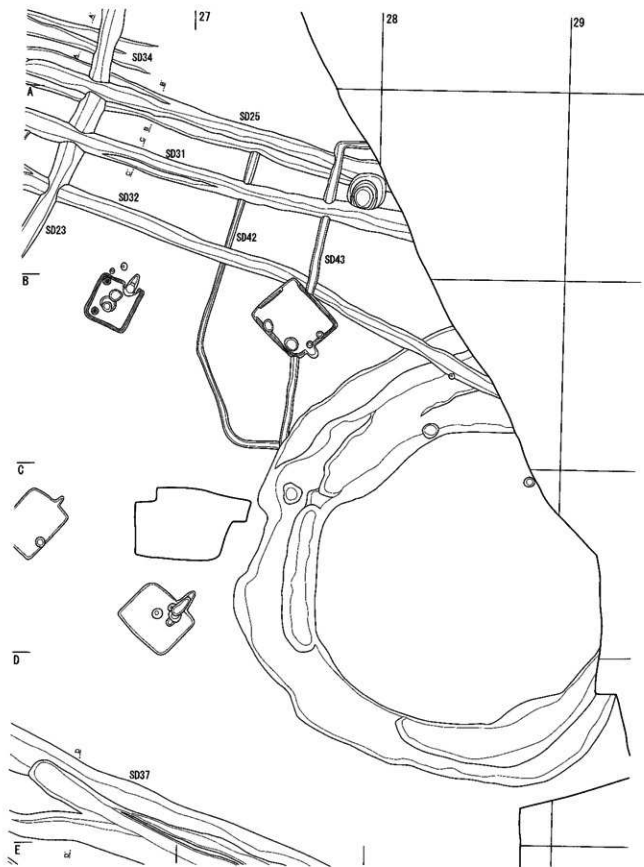
J20グリッド付近で検出した。ごく浅く平行し、南北方向に走る。溝間距離は、0.6mである。北側は、第141号溝跡に破壊されていた。

第158・177号溝跡

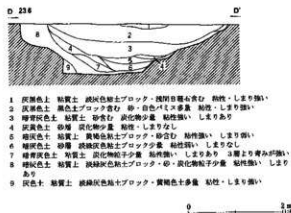
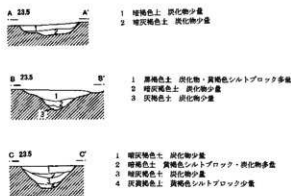
K19グリッド付近で検出した。ごく浅く平行し、東西方向に走る。溝間距離は、5.2mである。両溝間は、やや離れている。しかし規模が近似することや平行に走ることから同一の耕作痕跡と判断した。

第159号溝跡

K19グリッドで検出した。単独で走行するが、形状や規模から耕作の痕跡と判断した。ごく浅く、南北方向に走る。北端は、第153号溝跡に破壊されていた。



第613图 清跡全体图(9)



第614図 溝跡(9)土層断面図

第170・171・172・173号溝跡

L14グリッドで検出した。ごく浅く平行し、東西方向に走る。溝間距離は、1.5~2.3mである。

第174・175号溝跡

L16グリッド付近で検出した。ごく浅く平行し、南北方向に走る。溝間距離は、3.5mである。

第185号溝跡

M14グリッドで検出した。単独で走行するが、形状や規模から耕作の痕跡と判断した。ごく浅く、南北方向に走る。

第188号溝跡

M16グリッドで検出した。単独で走行するが、形状や規模から耕作の痕跡と判断した。ごく浅く、南北方向に走る。

第189・203号溝跡

M・N16グリッドで検出した。ごく浅く平行し東西方向に走る。第189号溝跡は、西端が確認できず、第203号溝跡は、東端を第125号溝跡に破壊されていた。

第190号溝跡

M17グリッドで検出した。単独で検出したが、形状や規模から耕作の痕跡と判断した。ごく浅く、東西方向に走る。東端は、第87号溝跡に破壊されていた。

第196号溝跡

M21グリッドで検出した。単独で走行するが、形状や規模から耕作の痕跡と判断した。ごく浅く、南北方向に走る。

第204号溝跡

N17グリッドで確認した。単独で走行するが、形状や規模から耕作の痕跡と判断した。ごく浅く、東西に走る。東側は、第205号溝跡に破壊され、西側は、第151号溝跡に破壊されていた。

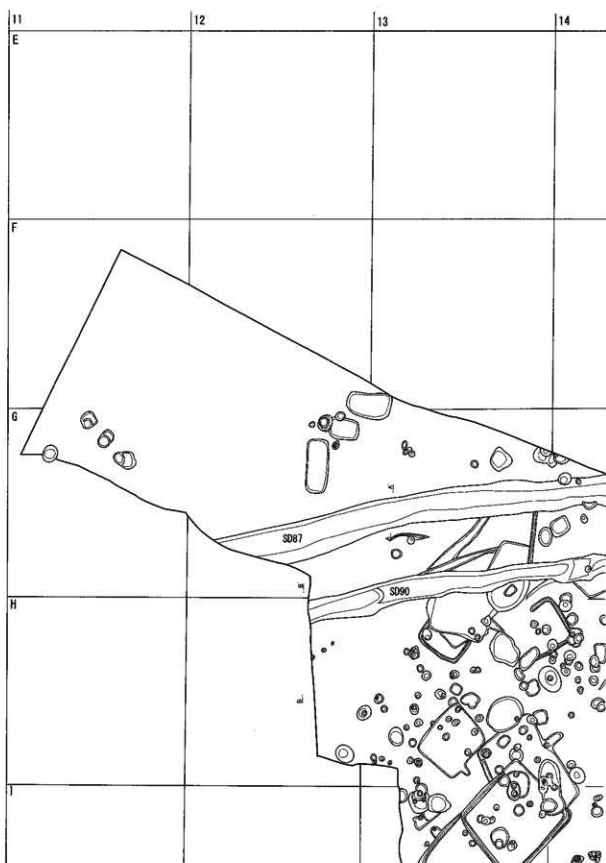
第207・208・209・210・211・212・213・214・216号溝跡

N18・19グリッドで検出した。第207・211・214号溝跡は、平行して東西方向に走る。溝間距離は、3.5~4.0mである。第211号溝跡は、第176号住居跡に破壊され、第214号溝跡は、第74号井戸跡に西端をそれぞれ破壊されていた。

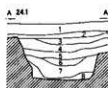
第208・209・210号溝跡は、第207・211・214号溝跡と交叉するように北西~南東方向にかけて平行して走る。溝間距離は、0.2~0.8mである。第208号溝跡は、西端を第207号溝跡に破壊されていた。

第212・213号溝跡は、東西方向に平行に走る。溝間距離は、0.8mである。

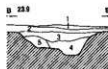
第216号溝跡は、第212・213号溝跡と連なりながら東西方向に走る。東端は、第218号溝跡に破壊されていた。



第615図 溝跡全体図(00)



- 1 基層色土 白色砂子・暗褐色土粒子含む
- 2 暗褐色土 酸化鉄粒子含む しまりあり
- 3 暗褐色土 赤質土・黒色土含む
- 4 暗褐色土 赤色土主層 酸化鉄粒子含む しまりあり
- 5 暗褐色土 暗褐色砂子・黒色粘土粒子含む しまりあり
- 6 暗褐色土 酸化鉄粒子・灰色粘土ブロック含む
- 7 暗褐色土 酸化鉄粒子・黒色砂子含む しまりあり
- 8 暗褐色土 酸化鉄粒子含む しまりあり



- 1 黄褐色土 耕作土 酸化鉄含む
- 2 暗褐色土 黒色砂子・酸化鉄粒子含む しまりあり
- 3 暗褐色土 黒土ブロック・暗褐色砂子含む 酸化鉄粒子散在
- 4 暗褐色土 赤褐色砂子・酸化鉄粒子含む 暗褐色土
- 5 暗褐色土 酸化鉄粒子・暗褐色砂子含む しまりあり

0 2.5m

第616図 溝跡01土層断面図

第236・241・242・243・245号溝跡

O16グリッド付近で検出した。第242・243号溝跡は、平行して東西方向に走る。溝間距離は0.3mである。西側は、第233号溝跡に破壊されていた。第241号溝跡は、東西方向に走る。第242・243号溝跡とはほぼ平行である。西端は、第235号溝跡に破壊されていた。

第236・245号溝跡は、平行して南北方向に走る。溝間距離は、10.8mである。第241・242・243号溝跡を間にはさみ、存在したことから第236・245号溝跡は、畝地を区画する溝の可能性も考えておきたい。

第239・240号溝跡

P15グリッドで検出した。ごく浅く、平行して南北方向に走る。溝間距離は、0.6mである。北側は、第206号溝跡に破壊され、南側は、第267号溝跡に破壊されていた。

第271・273・274号溝跡

P・Q17グリッドで検出した。第271・273号溝跡は、平行して南北に走っていた。溝間距離は、2.3mである。第273号溝跡は、北端を第272号溝跡に破壊されていた。第274号溝跡は、他の2条の溝と直直しながら東西方向に走っていた。そのため別の耕作痕跡の一部である可能性も考慮すべきだろう。第274号溝跡は西端を第237号溝跡に破壊され、東端は、第125号溝跡に破壊されていた。

第279号溝跡

P・Q18グリッドで検出した。単独で走行するが、形状や規模から耕作の痕跡と判断した。ごく浅く、南北方向に走る。南端は、第277号溝跡に破壊されていた。

第288・289号溝跡

Q15グリッドで検出した。ごく浅く、平行して東西方向に走る。溝間距離は、2.2mである。

第290号溝跡

Q16グリッドで検出した。単独で走行するが、形状や規模から耕作の痕跡と判断した。ごく浅く、南北方向に走る。北側を第237号溝跡に、南側は、第183号溝跡に破壊されていた。

第291・292号溝跡

Q18グリッドで検出した。ごく浅く、平行して南北方向に走る。溝間距離は、0.5mである。北側は、第281号溝跡に破壊され、南側は、第225号溝跡に破壊されていた。

⑤ 道路の溝

古代の道路は、路面と側溝から構成されていた。側溝は、素掘りの排水路となっている場合が多い。側溝は片側につく場合、両側につく場合、側溝をつくらない場合がある。北島遺跡19地点では、古代の道路跡を調査区の南端に確認した。

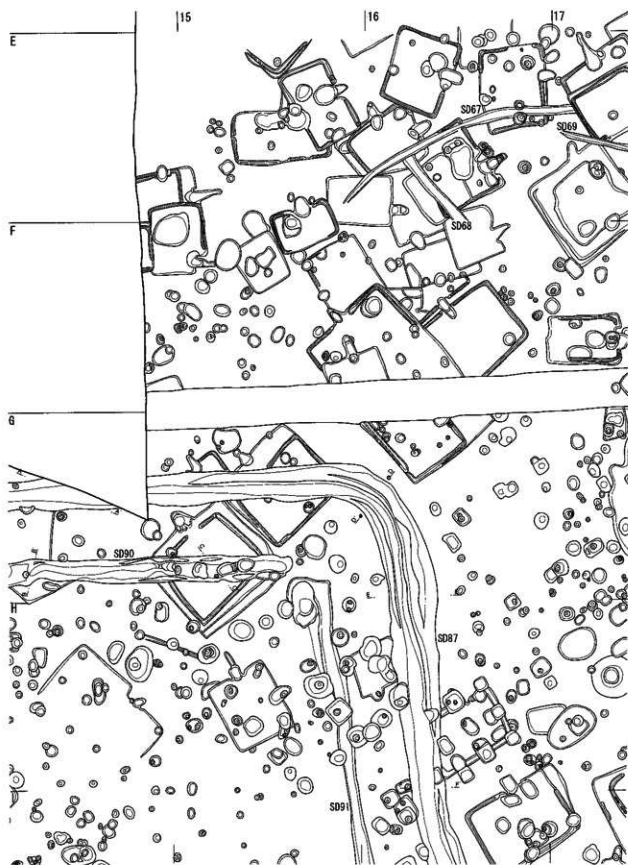
なお、道路跡は、変遷を含め第2編で評論したい。

a 側溝

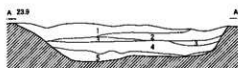
道路の側溝と判断したのは、第155・157・194号溝跡・316・319・325・326・329・385・386・398・410号溝跡である。

第155・157・194号溝跡

調査区の中央付近に検出した。北西一南東方向に走る道路側溝である。路面を挟んで西側には、第155



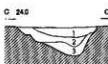
第617图 溝跡全体図(1)



- 1 暗褐色土 炭化物・炭化物を含む
- 2 暗褐色土 炭化物・炭化物・粘土・粘土を含む
- 3 暗褐色土 炭化物・粘土・粘土を含む
- 4 暗褐色土 炭化物・粘土・粘土・粘土を含む
- 5 暗褐色土 炭化物・粘土・粘土・粘土を含む



- 1 暗褐色土 炭化物・炭化物・粘土・粘土を含む
- 2 暗褐色土 炭化物・炭化物・粘土・粘土を含む
- 3 暗褐色土 炭化物・炭化物・粘土・粘土を含む
- 4 暗褐色土 炭化物・炭化物・粘土・粘土を含む
- 5 暗褐色土 炭化物・炭化物・粘土・粘土を含む



- 1 暗褐色土 炭化物・炭化物・粘土・粘土を含む
- 2 暗褐色土 炭化物・炭化物・粘土・粘土を含む
- 3 暗褐色土 炭化物・炭化物・粘土・粘土を含む
- 4 暗褐色土 炭化物・炭化物・粘土・粘土を含む
- 5 暗褐色土 炭化物・炭化物・粘土・粘土を含む



- 1 暗褐色土 炭化物・炭化物・粘土・粘土を含む
- 2 暗褐色土 炭化物・炭化物・粘土・粘土を含む
- 3 暗褐色土 炭化物・炭化物・粘土・粘土を含む
- 4 暗褐色土 炭化物・炭化物・粘土・粘土を含む
- 5 暗褐色土 炭化物・炭化物・粘土・粘土を含む
- 6 暗褐色土 炭化物・炭化物・粘土・粘土を含む
- 7 暗褐色土 炭化物・炭化物・粘土・粘土を含む
- 8 暗褐色土 炭化物・炭化物・粘土・粘土を含む



- 1 暗褐色土 炭化物・炭化物・粘土・粘土を含む
- 2 暗褐色土 炭化物・炭化物・粘土・粘土を含む
- 3 暗褐色土 炭化物・炭化物・粘土・粘土を含む
- 4 暗褐色土 炭化物・炭化物・粘土・粘土を含む
- 5 暗褐色土 炭化物・炭化物・粘土・粘土を含む
- 6 暗褐色土 炭化物・炭化物・粘土・粘土を含む
- 7 暗褐色土 炭化物・炭化物・粘土・粘土を含む
- 8 暗褐色土 炭化物・炭化物・粘土・粘土を含む



- 1 暗褐色土 炭化物・炭化物・粘土・粘土を含む
- 2 暗褐色土 炭化物・炭化物・粘土・粘土を含む
- 3 暗褐色土 炭化物・炭化物・粘土・粘土を含む
- 4 暗褐色土 炭化物・炭化物・粘土・粘土を含む
- 5 暗褐色土 炭化物・炭化物・粘土・粘土を含む
- 6 暗褐色土 炭化物・炭化物・粘土・粘土を含む
- 7 暗褐色土 炭化物・炭化物・粘土・粘土を含む
- 8 暗褐色土 炭化物・炭化物・粘土・粘土を含む

0 2m

第618図 溝跡の土層断面図

号溝跡、東側には、第157・194号溝跡がある。第194号溝跡と対になる溝は、検出できなかった。また路面の構造物は、検出できなかった。

規模は、平均すると掘削幅0.33m・深さ0.05m・溝間距離1.5mである。

第316・325・385・410号溝跡

調査区の南に検出した。東西方向に走る道路側溝である。路面を挟んで北側が、第316号溝跡、南側が、第325号溝跡である。V22グリッドで南に向きを変える。第316号溝跡は、第385号溝跡、あるいは第410号溝跡と連続すると考えた。両溝の間には、波板状遺構を検出した。

第316号溝跡が、掘削幅2.24m・深さ0.5m、第325号溝跡は、掘削幅2.16～3.04m・深さ0.46～0.94m、第385号溝跡は、掘削幅0.90m・深さ0.24m、第410号溝跡は、掘削幅1.01m・深さ0.16mである。第316号溝跡と第325号溝跡の間の距離は、約4mである。

第319・329・386号溝跡

第316号溝跡の北側に検出した。東西方向に走る道

路側溝である。第319・329号溝跡は、同一の溝である。対となる道路側溝は、前述の第316号溝跡と第325号溝跡と考えた。第316号溝跡は、第386号溝跡へ延び、調査区外まで続くと推定した。また第325号溝跡と対になる場合は、南に向きを変えるのであろう。その場合は、第386号溝跡との関連はみられなくなる。

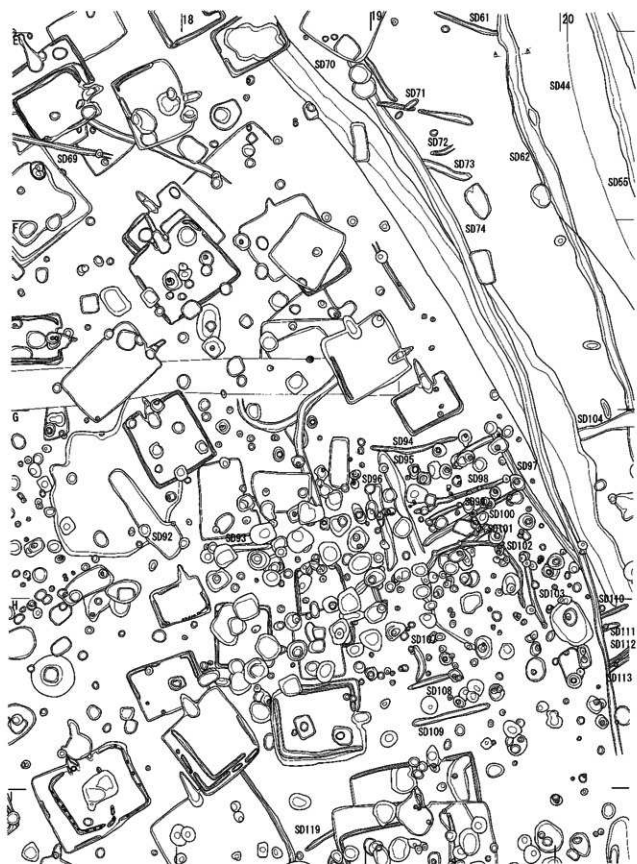
第319・329号溝跡と第316号溝跡の間に路面の構造物は、検出できなかった。

第319号溝跡が、掘削幅1.56m・深さ0.33m、第329号溝跡は、掘削幅1.18m・深さ0.37m、第386号溝跡は、掘削幅1.07m・深さ0.07mである。溝間距離は、第319・326号溝跡と第316号溝跡の間が3～5m、第325号溝跡との間は約10mである。

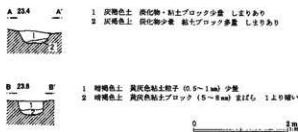
第326・398号溝跡

第325号溝跡の南側に検出した。東西方向に走る道路側溝である。第325号溝跡に破壊されていたため詳細は不明だが、同一の溝の可能性も考慮すべきである。対となる溝は、確認できなかった。

第326号溝跡が、掘削幅1.47～2.0m・深さ0.46m、第398号溝跡は、掘削幅1.49m・深さ0.11mである。



第619図 溝跡全体図②



第620図 溝跡02土層断面図

b 路面

第12号溝跡、第347～383・393～396・399・402・419・420・421・422号溝跡、第424～442号溝跡では、道路の路面を確認した。第12号溝跡以外の溝は、いわゆる波板状遺構を確認した。

第12号溝跡

調査区の北側を南北に走る道路遺構である。側溝は検出できず、路面を溝状に掘り込んでいた。溝内から径0.73mの小穴が、南北に並んでみられた。

規模は、掘削幅0.6～0.92m・深さ0.28～0.36mである。

第347～383・393～396・399・402・419・420・421・422号溝跡

波板状遺構は、道路側溝の第316号溝跡と第325号溝跡の間に検出した。小溝が、平行して並び側溝と直行していた。

平均の規模は、長さ約3m・掘削幅0.36m・深さ0.23m・溝間距離約0.5mである。

第424～442号溝跡

X16・17・18グリッドに平行して並んでいた。側溝は、検出できなかった。

平均の規模は、長さ1.0～2.0m・掘削幅0.28m・溝間距離約0.5mである。

⑥ 用排水路溝

北島遺跡第19地点では、水田耕作のための灌溉用水路や悪水の排水路として機能したと判断できる溝

を156条検出した。そのうち幅広で深さも一定し、傾斜の少ない溝を幹線水路と判断した。幹線水路と考えたのは、第4・24・25・30・34・37・47・70・75・166・296・314・321・322・323・344・384号溝跡である。

また幹線水路から目的別の方向へ分水したと判断した水路を枝線水路とした。枝線水路と考えたのは、第6・18・19・22・26・76・150・167・169・263・345・346号溝跡である。

また幹線水路との関連は、確認できなかったが、規模や走行状態などから枝線水路と考えたのは、第1・3・5・7・9・11・13・14・15・16・21・23・29・31・32・33・35・36・38・39・40・41・42・45・48・49・50・52・56・59・60・62・65・66・67・68・69・74・79・80・88・89・104・105・106・115・116・126・129・130・137・141・142・146・149・161・162・168・176・181・182・222・228・229・231・233・248・249・253・254・255・256・261・262・264・265・280・281・283・284・286・295・297・300・302・304・306・308・309・310・311・312・313・317・318・327・328・330・331・337・338・339・341・342・343・387・388・389・390・391・392・397・400・403・404・405・406・408・409・411・412・413・141・415・416・417・418号溝跡である。

以下、個別の幹線水路と枝線水路について述べる。

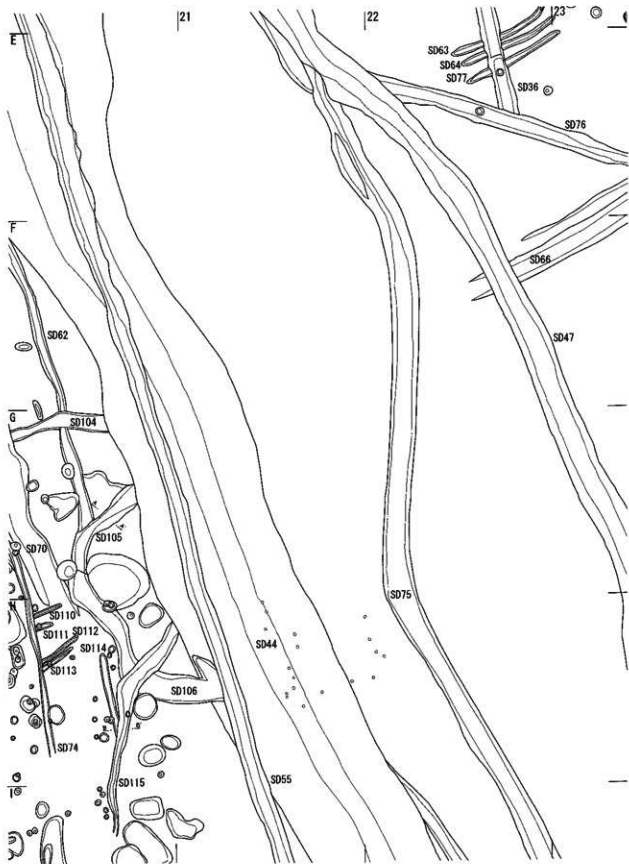
a 幹線用排水路

第4号溝跡

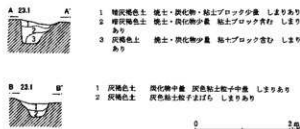
掘削幅2.3m・深さ0.36mの大形水路である。規模から主要幹線水路と判断した。調査区を西から北に向かって流れる。調査区内には、枝線水路はみられなかった。

第24号溝跡

調査区を西から東に向かって流れる主要幹線水路である。掘削幅2.52m・深さ1.04mである。ZY24グリッドから枝線水路の第26号溝跡、ZY25グリッドから枝線水路の第19・22号溝跡を引水する。また



第621図 溝跡全体図(1)



第622図 溝跡(Ⅱ)土層断面図

枝線用水路の第6号溝跡が、ZY19グリッドの西側の調査区外から引水したと考えた。

第25号溝跡

調査区を西から東に向かって流れる主要幹線水路である。掘削幅1.44m・深さ0.40mである。調査区内には、枝線用水路を確認できなかった。

第30号溝跡

掘削幅0.48m・深さ0.70mの大形水路である。規模から主要幹線水路と判断した。A17グリッド以東は、確認できなかった。調査区を西から東に向かって流れる。調査区内には、枝線用水路がみられなかった。

第34号溝跡

掘削幅1.24m・深さ0.24mの大形水路である。規模から主要幹線水路と判断した。ZZ27グリッド以東は、確認できなかった。調査区を西から東に向かって流れる。枝線用水路は、調査区内にみられなかった。

第37号溝跡

調査区を北西から南東に向かって流れる主要幹線水路である。掘削幅2.68～4.4m・深さ0.96～1.06mである。枝線用水路は、調査区内にみられなかった。

第47号溝跡

調査区を北西から南東に向かって流れる主要幹線水路である。掘削幅1.0～1.66m・深さ0.66～0.84mである。E22グリッドから枝線用水路の第76号溝跡を引水する。P26グリッドでは、第262号溝跡に破壊

され、それより南は検出できなかった。

第70号溝跡

掘削幅2.0m・深さ0.07mの大形水路である。規模から主要幹線水路と判断した。D18グリッド以北とH20グリッド以南は、確認できなかった。調査区を北西から南東に向かって流れる。枝線用水路は、調査区内にみられなかった。

第75号溝跡

調査区を北から南東に向かって流れる主要幹線水路である。掘削幅1.30m・深さ0.51mである。E21グリッドで第47号溝跡と切り合っていることから流路を変更したと判断した。O27グリッドから枝線用水路の第263号溝跡を引水する。

第166号溝跡

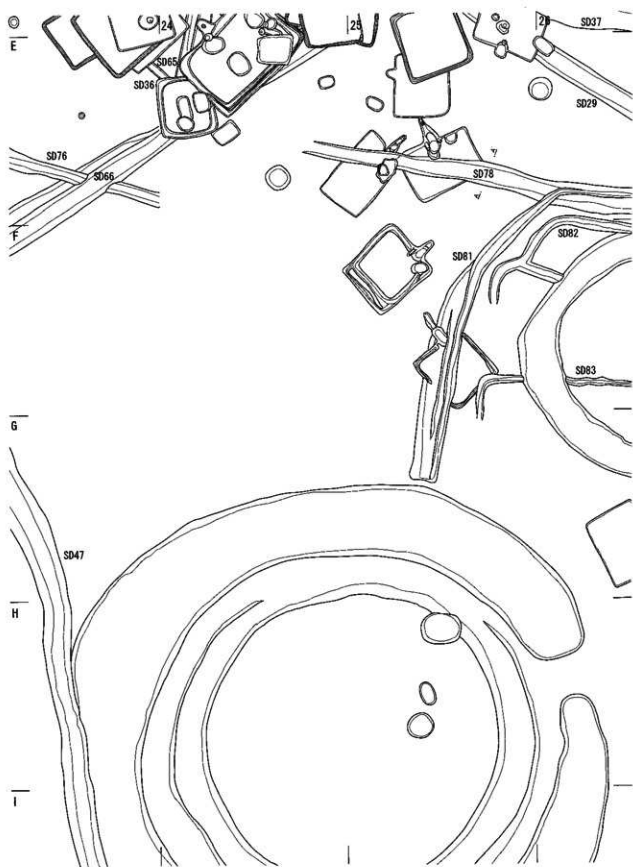
調査区を西から東に向かって流れる主要幹線水路である。掘削幅0.94m・深さ0.27mである。L23グリッド以西は、確認できなかった。L25グリッドから枝線用水路の第169号溝跡を引水する。またK28グリッドでは、枝線用水路の第167号溝跡が合流し、また調査区外となるが、枝線用水路の第150号溝跡が合流する。

第296号溝跡

調査区を南西から北東に向かって流れる主要幹線水路である。掘削幅1.85m・深さ0.10mである。S23グリッドで第321号溝跡から分岐する。R27グリッド以東は、電柱を撤去できなかったため検出できなかった。調査区内には、枝線用水路はみられなかった。

第314号溝跡

調査区を南西から北東に向かって流れる主要幹線水路である。掘削幅1.59m・深さ0.52mである。S23グリッドで第321号溝跡から分岐する。R27グリッド以東は、電柱を撤去できなかったため検出できな



第623図 溝跡全体図04



- 1 灰白色土 黄褐色シルトブロック (50cm) 含む しきりあり
2 黄褐色土 シルト質 鉄分少量 しきりあり

第624図 溝跡(4)土層断面図

かった。調査区内には、枝線用水路はみられなかった。

第321号溝跡

調査区を南西から東に向かって流れる主要幹線水路である。掘削幅1.61m・深さ0.45mである。V20グリッド以南、T26グリッド以东は、確認できなかった。調査区内には、枝線用水路がみられなかった。

第322号溝跡

調査区を東から西に向かって流れる主要幹線水路である。掘削幅1.91m・深さ0.12mである。S27グリッド以东は、確認できなかった。調査区内には、枝線用水路は、みられなかった。

第323号溝跡

掘削幅2.17m・深さ0.44mの大形水路である。規模から主要幹線水路と判断した。S28グリッド以西は、確認できなかった。調査区を西から東に向かって流れる。調査区内には、枝線用水路は確認できなかった。

第344号溝跡

調査区を西から東に向かって流れる主要幹線水路である。掘削幅2.32m・深さ0.58mである。V19グリッド以东は、確認できなかった。U15グリッドで枝線用水路の第345号溝跡が合流する。また第468号土壌に破壊されるため、詳細は不明である。しかしU15グリッドで枝線用水路の第346号溝跡を引水すると考えた。

第384号溝跡

掘削幅1.80m・深さ0.17mの大形水路である。規模から主要幹線水路と判断した。T22グリッド以北、

V21グリッド以南は、確認できなかった。調査区を北東から南東に向かって流れる。調査区内に枝線用水路は、確認できなかった。

b 幹線水路に伴う枝線用排水路

第6号溝跡

調査区を南西から北東に向かって流れる。第24号溝跡から引水する枝線用水路である。掘削幅3.2m・深さ0.48mである。

第18号溝跡

調査区を南西から北東に向かって流れる。ZY24グリッドで枝線用水路の第26号溝跡から引水する枝線用水路である。掘削幅0.56m・深さ0.24mである。

第19号溝跡

調査区を南西から北東に向かって流れる。ZY25グリッドで第24号溝跡から引水する枝線用水路である。掘削幅0.92m・深さ0.56mである。

第22号溝跡

調査区を南西から北に向かって流れる。ZY25グリッドで第24号溝跡から引水する枝線用水路である。掘削幅0.48m・深さ0.36mである。

第26号溝跡

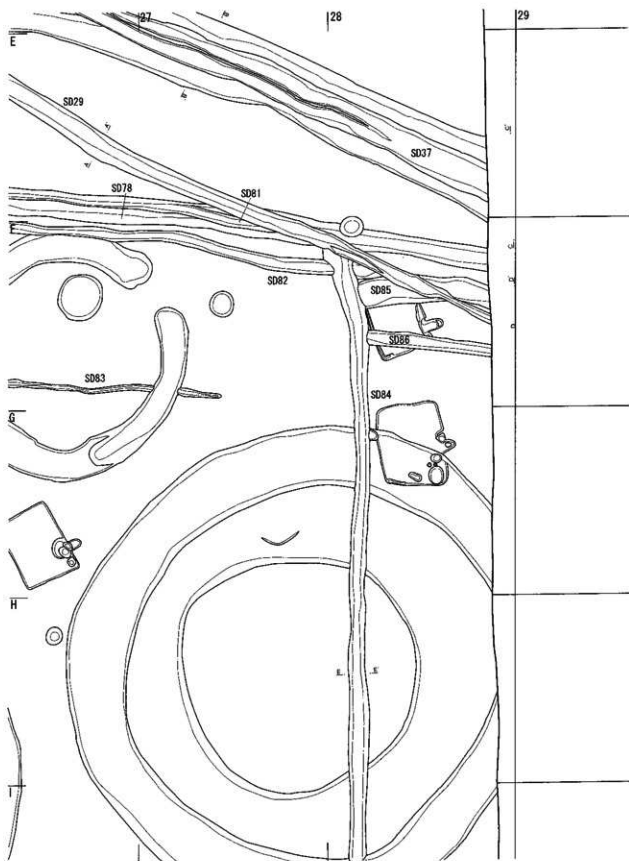
調査区を西から北東に向かって流れる。ZY24グリッドで第24号溝跡から引水する枝線用水路である。掘削幅0.52m・深さ0.32mである。ZY24グリッドから枝線用水路の第18号溝跡を引水する。

第76号溝跡

調査区を西から東に向かって流れる。E22グリッドで第47号溝跡から引水する枝線用水路である。掘削幅0.65m・深さ3.72mである。E24グリッド以东は、確認できなかった。

第150号溝跡

調査区を北西から南東に向かって流れる。調査区



第625图 满迹全体图(19)



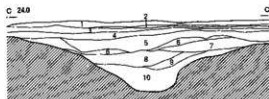
- 1 灰黄色土 シルト質 灰色シルトブロック (5mm) 多量 炭化物 (3mm) 少量
- 2 暗灰色土 シルト質 黄灰色細砂ブロック (2~3mm) 多量 炭化物 (5mm) 少量
- 3 灰黄色土 シルト質 灰白色細砂ブロック (5mm) 少量 炭化物 (5mm) 含む

- 4 灰黄色土 砂質土 炭化物 (5mm) 少量
- 5 暗灰色土 シルト質 灰白色細砂ブロック (10mm) 含む 炭化物 (3mm) 少量
- 6 灰黄色土 シルト質 黄灰色細砂ブロック (5mm) 少量 炭化物 (3mm) 多量
- 7 暗灰色土 黄灰色細砂ブロック (2mm) 炭化物 (10mm) 少量
- 8 灰黄色土 砂質土
- 9 灰黄色土 シルト質
- 10 灰黄色土 シルト質 黄灰色細砂ブロック (30mm) 含む 炭化物 (10mm) 含む 炭化物 (5mm) 多量

- 11 暗灰色土 粘土
- 12 暗灰色土 シルト質 炭化物 (1~2mm) 多量
- 13 灰黄色土 シルト質 黄灰色細砂ブロック (20mm) 含む 炭化物 (15mm) 含む
- 14 灰黄色土 シルト質 灰白色細砂ブロック (30mm) 含む 炭化物 (20mm) 含む 炭化物 (5mm) 少量



- 1 灰黄色土 黄色土ブロック含む 砂・白色バミス多量 粘性・しり強い
- 2 オリーブ灰色土 砂多量 炭化物少量 粘性・しり強い
- 3 灰黄色土 砂質 炭化物少量 粘性・しり強い
- 4 暗灰色土 粘質土 砂含む 炭化物少量 粘性強い しりあり
- 5 暗灰色土 粘質土 黄褐色粘土ブロック・砂含む 粘性強い しり強い
- 6 灰黄色土 粘質土 黄褐色粘土ブロック多量 粘性・しり強い
- 7 暗灰色土 砂質 黄褐色粘土ブロック少量 粘性強い しりなし
- 8 赤褐色土 砂質 暗灰色粘土ブロック少量 粘性・しり強い
- 9 灰黄色土 粘質土 黄褐色粘土ブロック少量 粘性強い しり強い
- 10 暗灰色土 粘質土 炭化物少量 粘性強い しりあり 4層より青みか強い
- 11 暗灰色土 粘質土 黄褐色粘土ブロック・砂・炭化物少量 粘性強い しりあり
- 12 暗灰色土 粘質土 黄褐色粘土ブロック・炭化物少量 粘性強い しりあり
- 13 灰黄色土 粘質土 黄褐色粘土ブロック・黄褐色土多量 粘性・しり強い



- 1 黄・黄褐色土 粘質土 粘質土 黄褐色土の灰含む
- 2 灰黄色土 粘質土 黄褐色土の灰含む しり強い
- 3 黄褐色土 粘質土 黄褐色土の灰含む 砂多量
- 4 灰黄色土 粘質土 マンガン・鉄多量
- 5 灰黄色土 粘質土 黄褐色粘土ブロック・黄褐色土の灰含む 粘性・しり強い
- 6 灰黄色土 黄褐色粘土ブロック含む 砂・白色バミス多量 粘性・しり強い
- 7 オリーブ灰色土 砂多量 炭化物少量 粘性・しり強い
- 8 暗灰色土 粘質土 砂含む 炭化物少量 粘性強い しりあり
- 9 暗灰色土 砂質 黄褐色粘土ブロック少量 粘性強い しりなし
- 10 赤褐色土 砂質 暗灰色粘土ブロック少量 粘性・しり強い



- 1 暗褐色土 粘質土 粘土・炭化物・黄褐色シルトブロック含む
- 2 暗褐色土 粘質土



- 1 黄褐色土 粘質土 暗褐色粘土ブロック・黄褐色粘土ブロック多量 しり強い
- 2 黄褐色土 黄褐色粘土含む

0 2.5m

第262図 溝跡(9)土層断面図

外で第166号溝跡に流れ込む枝線用水路である。掘削幅0.7m・深さ0.19mである。

第167号溝跡

調査区を北西から南東に向かって流れる。K28グリッドで第166号溝跡に流れ込む枝線用水路である。掘削幅0.68m・深さ0.6mである。

第169号溝跡

調査区を西から東に向かって流れる。L25グリッドで第166号溝跡から引水する枝線用水路である。掘削幅1.04m・深さ0.43mである。

第263号溝跡

調査区を西から東に向かって流れる。O27グリッドで第75号溝跡に合流する枝線用水路である。掘削幅0.5m・深さ0.28mである。

第345号溝跡

調査区を西から東に向かって流れる。U15グリッドで第344号溝跡に流れ込む枝線用水路である。掘削幅0.69m・深さ0.08mである。

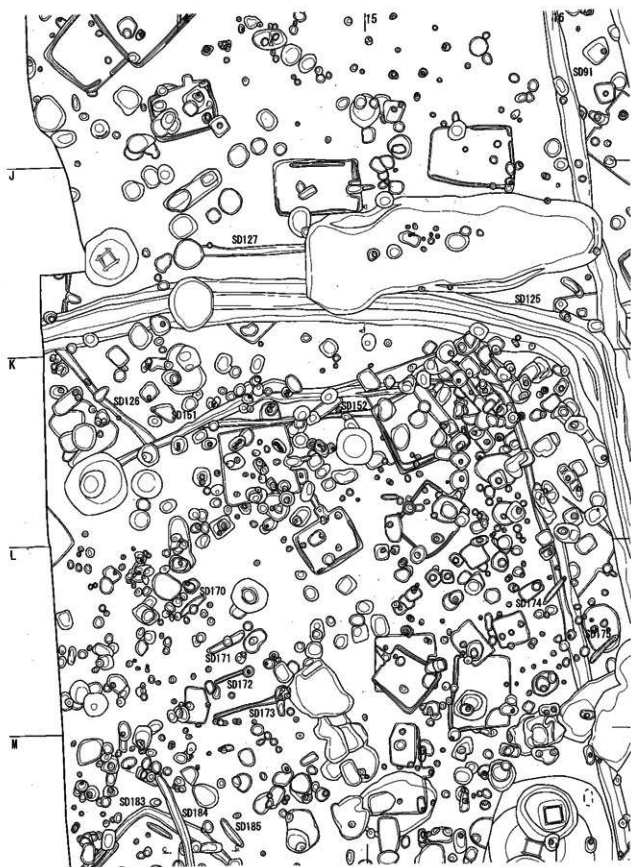
第346号溝跡

調査区を西から東に向かって流れる。V15グリッドで第468号土壌に破壊される。そのため詳細は不明だが、第344号溝跡から引水すると判断した。掘削幅0.77m・深さ0.10mである。V17グリッド以東は、検出できなかった。

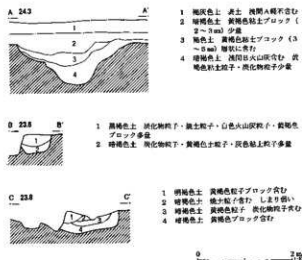
c その他の枝線用排水路

第1号溝跡

調査区を北西から南に向かって流れる枝線用水路である。掘削幅0.35m・深さ0.08mである。ZX25グリッドで第18号溝跡に破壊されていた。それ以南は



第627图 清跡全体図⑩



第628图 溝跡(6)土層断面図

確認できなかった。

第3号潜踪

調査区を北から南に向かって流れる枝線用水路である。掘削幅1.6m・深さ0.32mである。ZZ20グリッドで第23号溝筋に破壊されていた。それ以南は確認できなかった。

第5号溝跡

調査区を西から東に向かって流れる枝線用水路である。掘削幅0.72~1.12m・深さ0.12~0.44mである。ZW22グリッドで枝線用水路の第11号溝跡が合流する。

第7号遺跡

調査区を北から南に向かって流れる枝線用水路である。掘削幅1.68m・深さ0.64mである。ZW21グリッドで第5号溝跡に破壊され、ZY20グリッドで第24号溝跡に破壊されていた。それより先は確認できなかった。

超藥味 6 味

調査区を西から東に向かって流れる枝線用水路である。掘削幅0.56m・深さ0.16mである。

第11号簿页

調査区を南西から北東に向かって流れる枝線用水

路である。掘削幅1.04m・深さ0.2mである。ZW22
グリッドで第5号溝跡に流れ込む。

第13号遺跡

調査区を北から南に向かって流れる枝線用水路である。掘削幅0.30m・深さ0.03mである。ZX24グリッドで第1号溝路に破壊され、それ以南は確認できなかった。

第14号藏跡

調査区を北西から東に向かって流れる枝線用水路である。掘削幅0.48m・深さ0.23mである。

第15号潜踪

調査区を北から南に向かって流れる枝線用水路である。掘削幅0.93m・深さ0.45mである。

第16号遺跡

調査区を北西から東に向かって流れる枝線水路である。掘削幅0.84m・深さ0.28mである。ZY22グリッドで第10号溝跡に破壊され、それ以後は確認できなかった。

第23号遺跡

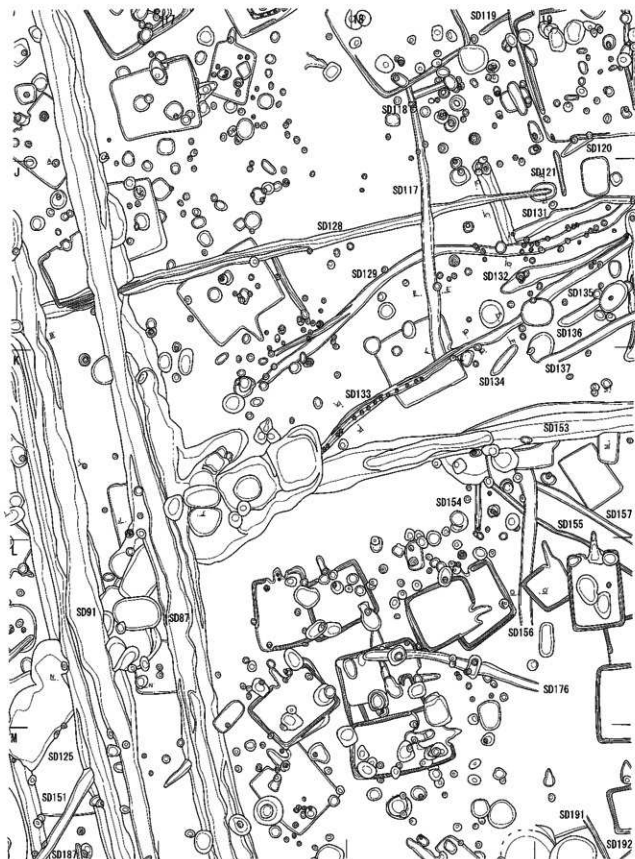
調査区を北から南に向かって流れる枝線用水路である。掘削幅0.76~1.2m・深さ0.44mである。C25グリッドで第37号溝跡に破壊され、それ以南は検出できなかった。B25グリッドで枝線用水路の第40号溝跡が合流する。

第29号遺跡

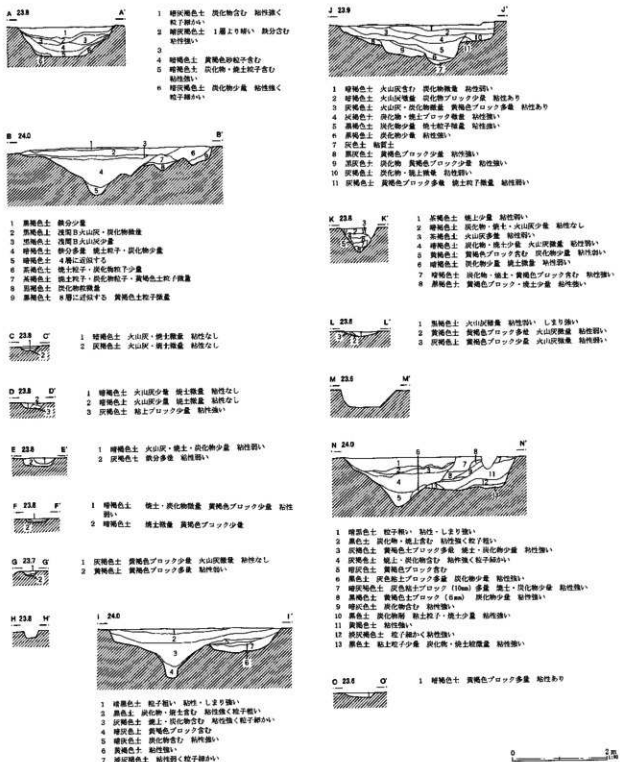
調査区を西から南西に向かって流れる枝線用水路である。掘削幅1.33m・深さ0.98mである。

第31号遺跡

調査区を西から東に向かって流れる枝線用水路である。掘削幅1.16m・深さ0.46mである。ZZ20グリッド以西は、確認できなかった。



第629図 溝跡全体図

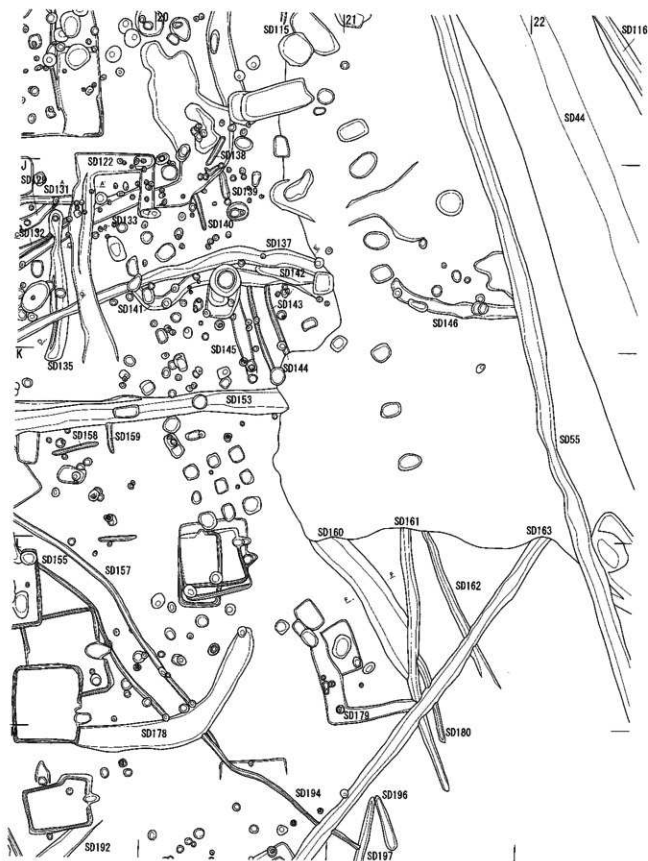


第630図 溝跡の土層断面図

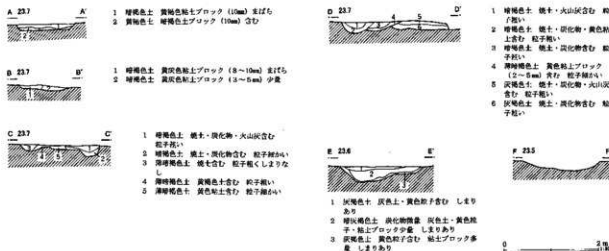
第32号溝跡

調査区を西から東に向かって流れる枝線用水路である。第32—1号溝跡と第32—2号溝跡に分かれる。第32—1号溝跡の規模は、掘削幅1.0～3.08m・深さ

0.4mである。ZZ20グリッド以西は、確認できなかった。第32—2号溝跡は、掘削幅0.48m・深さ0.4mである。A26グリッドで第32—2号溝跡が、第32—1号溝跡に合流する。



第631图 溝跡全体図(18)



第632図 溝跡(632土層断面図)

第33号溝跡

掘削幅0.72m・深さ0.28mの枝線用水路である。引水方向は不明である。ZZ21グリッドで第31号溝跡に破壊され、それ以北は確認できなかった。

第35号溝跡

調査区を北から南東に向かって流れる枝線用水路である。掘削幅0.24m・深さ0.39mである。A16グリッド以外では、確認できなかった。

第36号溝跡

調査区を北西から南東に向かって流れる枝線用水路である。掘削幅1.4~2.2m・深さ0.6mである。A17グリッド以西、E22グリッドで第76号溝跡に破壊され、それ以南は確認できなかった。

第38号溝跡

掘削幅1.38m・深さ0.20mの枝線用水路である。引水方向は不明である。A20グリッドで第29号溝跡に破壊され、それ以北は確認できなかった。

第39号溝跡

掘削幅0.30m・深さ0.04mの枝線用水路である。引水方向は不明である。B23グリッド以南は確認できなかった。

第40号溝跡

調査区を北東から南に向かって流れる枝線用水路である。掘削幅0.4m・深さ0.14mである。B25グリッドで枝線用水路の第23号溝跡に合流する。

第41号溝跡

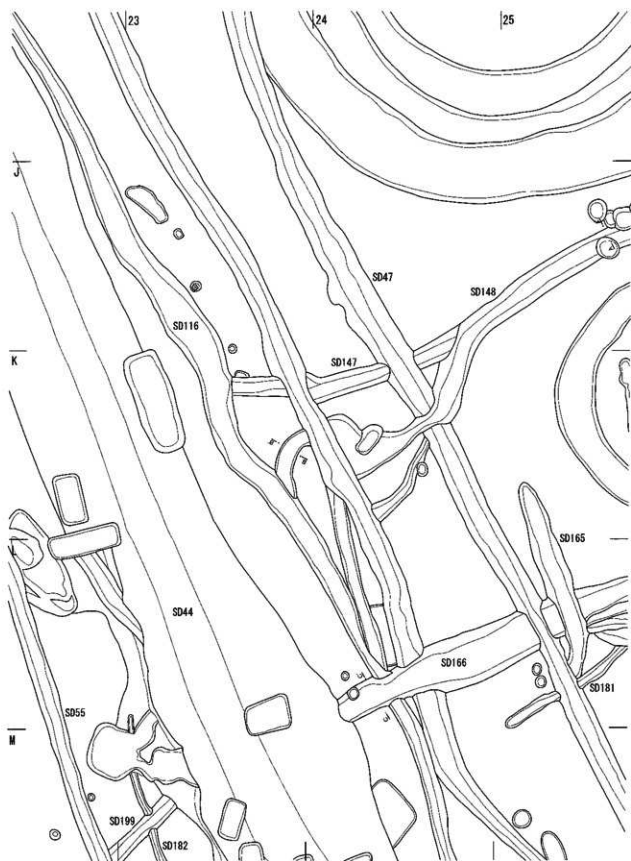
調査区を北西から南東に向かって流れる枝線用水路である。掘削幅0.21m・深さ0.96mである。B25グリッドで第40号溝跡に破壊され、それ以西は確認できなかった。またB26グリッド以来も確認できなかった。

第42号溝跡

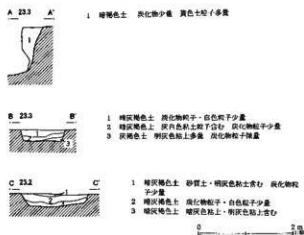
調査区を北から南東に向かって流れる枝線用水路である。掘削幅0.38m・深さ0.49mである。A27グリッドで第25号溝跡に破壊され、B27グリッドで第43号溝跡に破壊されていた。それより先は確認できなかった。

第45号溝跡

調査区を北西から東に向かって流れる枝線用水路である。掘削幅0.52m・深さ0.16mである。C17グリッドで第51号溝跡に破壊され、それ以来は確認できなかった。



第633图 溝跡全体图(9)



第634図 溝跡(9土層断面図)

第48号溝跡

調査区を西から北に向かって流れる枝線用水路である。掘削幅0.62m・深さ0.56mである。B22グリッドで第37号溝跡に破壊され、C21グリッドで第47号溝跡に破壊されていた。それより先は確認できなかった。

第49号溝跡

調査区を西から南東に向かって流れる枝線用水路である。掘削幅1.4m・深さ0.2mである。C16グリッド以西、C17グリッド以东は、確認できなかった。C17グリッドで枝線用水路の第52号溝跡を引水する。

第50号溝跡

調査区を西から南東に向かって流れる枝線用水路である。掘削幅0.44m・深さ0.24mである。D17グリッド以南は確認できなかった。

第52号溝跡

調査区を西から東に向かって流れる枝線用水路である。掘削幅0.23m・深さ0.02mである。C17グリッドで枝線用水路の第49号溝跡から引水する。

第56号溝跡

調査区を北西から南東に向かって流れる枝線用水路である。掘削幅0.4m・深さ0.31mである。E24グ

リッドで第51号住居跡に破壊され、それ以来は確認できなかった。

第59号溝跡

掘削幅0.4m・深さ0.05mの枝線用水路である。流水方向は不明である。D18グリッド以外では確認できなかった。

第60号溝跡

調査区を北西から南東に向かって流れる枝線用水路である。掘削幅0.55m・深さ0.28mである。南端は、第44号溝跡に破壊されていた。北端は、D19グリッドより北に確認できなかった。

第62号溝跡

調査区を北から南に向かって流れる枝線用水路である。掘削幅0.7m・深さ0.27mである。G20グリッドで枝線用水路の第105号溝跡に合流する。D19グリッド以北は、検出できなかった。

第65号溝跡

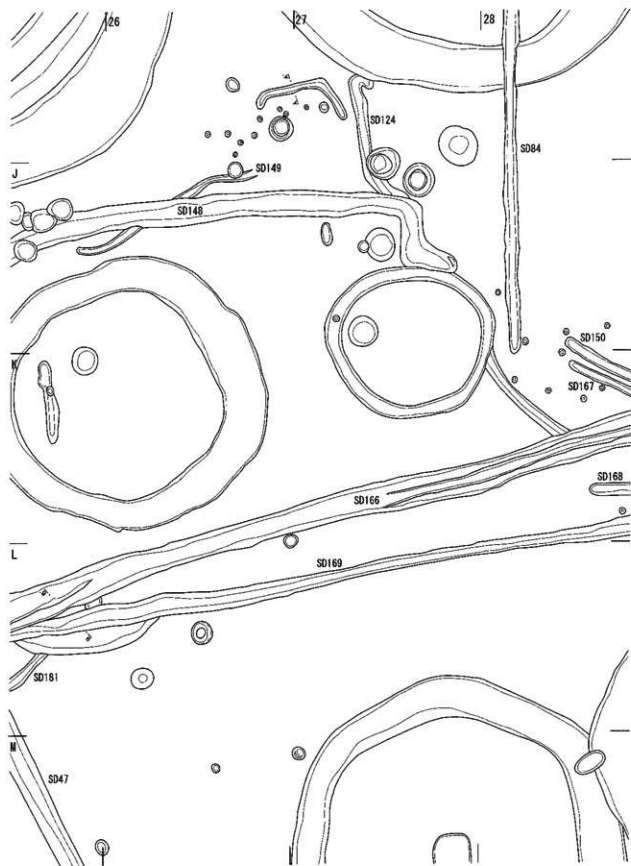
掘削幅0.65m・深さ0.04mの枝線用水路である。引水方向は、不明である。E24グリッドで第51号住居跡に破壊され詳細は不明である。しかし枝線用水路の第66号溝跡から引水していると判断した。その場合の引水方向は、南から北へ向かって流れていたこととなる。D24グリッド以北は検出できなかった。

第66号溝跡

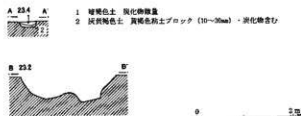
調査区を南西から北東の方向に流れる枝線用水路である。掘削幅1.26mである。F22グリッド以西、D25グリッド以东は、検出できなかった。

第67号溝跡

調査区を南西から東に向かって流れる枝線用水路である。掘削幅0.49m・深さ0.16mである。E15グリッド以西、E18グリッド以东は、検出できなかった。



第635图 清跡全体图(20)



第636図 溝跡20土層断面図

た。

第68号溝跡

調査区を北西から南東に向かって流れる枝線用水路である。掘削幅0.58m・深さ0.25mである。北端は、枝線用水路第67号溝跡に破壊されていた。また南端は、第40号住居跡に破壊されていた。そのためそれより先は検出できなかった。

第69号溝跡

調査区を西から東に向かって流れる枝線用水路である。掘削幅0.28m・深さ0.06mである。E17グリッド以外では確認できなかった。

第74号溝跡

調査区を北西から南に向かって流れる枝線用水路である。掘削幅0.67m・深さ0.16mである。北端は、第12号住居跡に破壊され、その先は検出できなかった。またI20グリッド以南も検出できなかった。

第79号溝跡

掘削幅0.4m・深さ0.18mの枝線用水路である。引水方向は不明である。北端は、第72号住居跡に破壊され、南端は、第8号掘立柱建物跡に破壊されていた。その先は検出できなかった。

第80号溝跡

調査区を北西から南東に向かって流れる枝線用水路である。掘削幅0.29m・深さ0.08mである。E19グリッド以北は、検出できなかった。

第88号溝跡

掘削幅0.37m・深さ0.06mの枝線用水路である。引水方向は不明である。枝線用水路の第89号溝跡から引水している可能性も考えられる。その場合の引水方向は、南西から北東となる。溝の北端は、第87号溝跡に破壊されていたため、その先は検出できなかった。

第89号溝跡

調査区を西から東に向かって流れる枝線用水路である。掘削幅0.31m・深さ0.05mである。東端は、第78号住居跡に破壊され、西端は、第90号溝跡に破壊されていた。それより先は検出できなかった。

第104号溝跡

調査区を西から東に向かって流れる枝線用水路である。掘削幅0.8m・深さ0.04mである。西端は、第70号溝跡に破壊され、東端は、第44号溝跡に破壊されていた。それより先は検出できなかった。

第105号溝跡

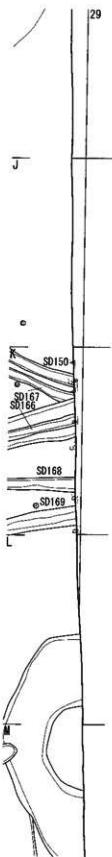
調査区を北東から南に向かって流れる枝線用水路である。掘削幅0.84m・深さ0.51mである。東端は第44号溝跡に破壊され、南端は、第106号溝跡に破壊されていた。それより先は検出できなかった。G20グリッドで枝線用水路の第65号溝跡が合流する。

第106号溝跡

調査区を北西から東に向かって流れる枝線用水路である。掘削幅1.33m・深さ0.27mである。G20グリッドで第71号土塊に破壊され、それより北は検出できなかった。

第115号溝跡

調査区を北東から南に向かって流れる枝線用水路である。掘削幅1.05m・深さ0.27mである。H20グリッドで第44号溝跡に破壊され、それより北は検出



第637図 溝跡全体図(2)

できなかった。また、I 20グリッド以南も検出できなかった。

第116号溝跡

調査区を北西から南東に向かって流れる枝線用水路である。掘削幅1.62m・深さ0.35mである。P 26グリッドで枝線用水路の第229号溝跡が合流する。また枝線用水路の第226号溝跡が、O 26グリッドから引水し、P 26グリッドで合流している。Q 26グリッド以南では、確認できなかった。

第126号溝跡

調査区を北東から南東に向かって流れる枝線用水路である。掘削幅0.63mである。北端は、第125号溝跡に破壊され、南端は、第151号溝跡に破壊されていた。それより先は検出できなかった。

第129号溝跡

調査区を南西から東に向かって流れる枝線用水路である。掘削幅0.52m・深さ0.12mである。J 19グリッドで第131号溝跡に破壊され、それより東は検出できなかった。またK 17グリッド以南も検出できなかった。

第130号溝跡

調査区を北から南に流れる枝線用水路である。掘削幅0.70m・深さ0.31mである。南端は、第129号溝跡に破壊され、それより南は検出できなかった。

第137号溝跡

調査区を南西から東に向かって流れる枝線用水路である。掘削幅0.56m・深さ0.08mである。K 18グリッド以西、J 21グリッド以東は検出できなかった。

第141号溝跡

調査区を北西から東に向かって流れる枝線用水路である。掘削幅0.79mである。北端は枝線用水路の第137号溝跡に破壊され、それより北は確認できなかった。また、J 21グリッド以東も確認できなかった。

第142号溝跡

調査区を西から東に流れる枝線用水路である。掘削幅1.82m・深さ0.33mである。第181号溝跡に破壊され、それより東は検出できなかった。

第146号溝跡

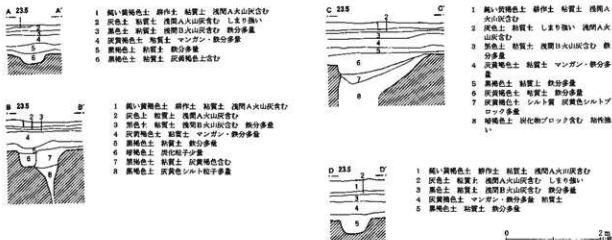
調査区を西から東に向かって流れる枝線用水路である。掘削幅0.6m・深さ0.09mである。J 21グリッドで第55号溝跡に破壊され、それより東は検出できなかった。

第149号溝跡

調査区を南西から東に向かって流れる枝線用水路である。掘削幅0.71m・深さ0.15mである。J - 26グリッド以東では検出できなかった。

第161号溝跡

調査区を北から南に向かって流れる枝線用水路である。掘削幅0.68m・深さ0.16mである。K 21グリッド以北では検出できなかった。



第638図 溝跡70土層断面図

第162号溝跡

調査区を北から南に向かって流れる枝線水路である。掘削幅0.49m・深さ0.19mである。L21グリッド以外では検出できなかった。

第168号溝跡

調査区を西から東に向かって流れる枝線水路である。掘削幅0.61m・深さ0.11mである。

第176号溝跡

調査区を西から東に向かって流れる枝線水路である。掘削幅0.55m・深さ0.19mである。L19グリッド以東では検出できなかった。

第181号溝跡

調査区を南西から北東に向かって流れる枝線水路である。掘削幅0.62m・深さ1.47mである。第169号溝跡に破壊され、それより北では検出できなかった。

第182号溝跡

調査区を北から南に向かって蛇行しながら流れる枝線水路である。掘削幅0.52m・深さ0.26mである。S23グリッド以東では確認できなかった。

第222号溝跡

調査区を北西から南東に向かって流れる枝線水路である。掘削幅0.49m・深さ0.08mである。西端は、第219号溝跡に破壊され、東端は、第199号溝跡に破壊されていた。それより先は検出できなかった。

第228号溝跡

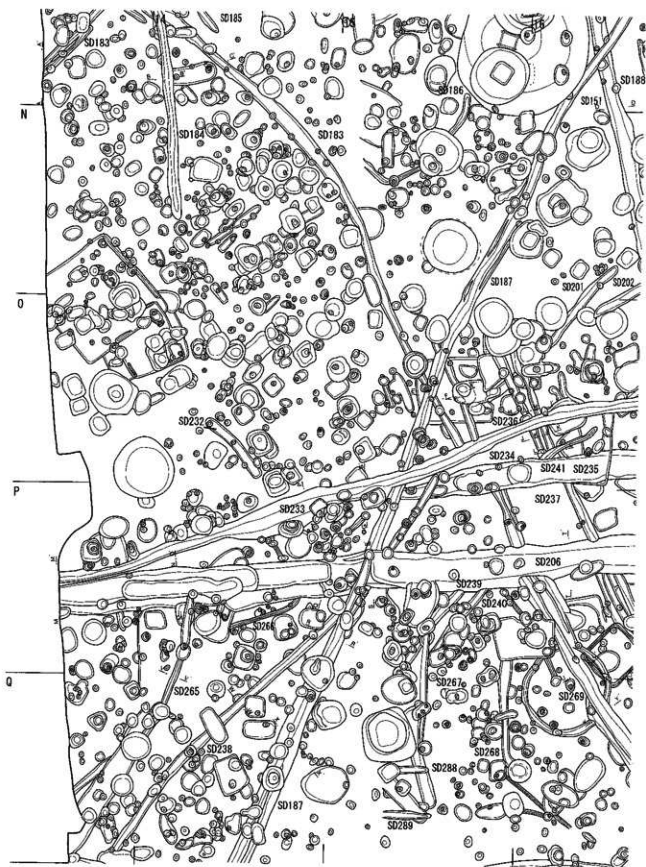
調査区を南西から東に向かって流れる枝線水路である。掘削幅0.26m・深さ0.14mである。南端は第200号溝跡に破壊され、東端は第182号溝跡に破壊されていた。それより先は検出できなかった。

第229号溝跡

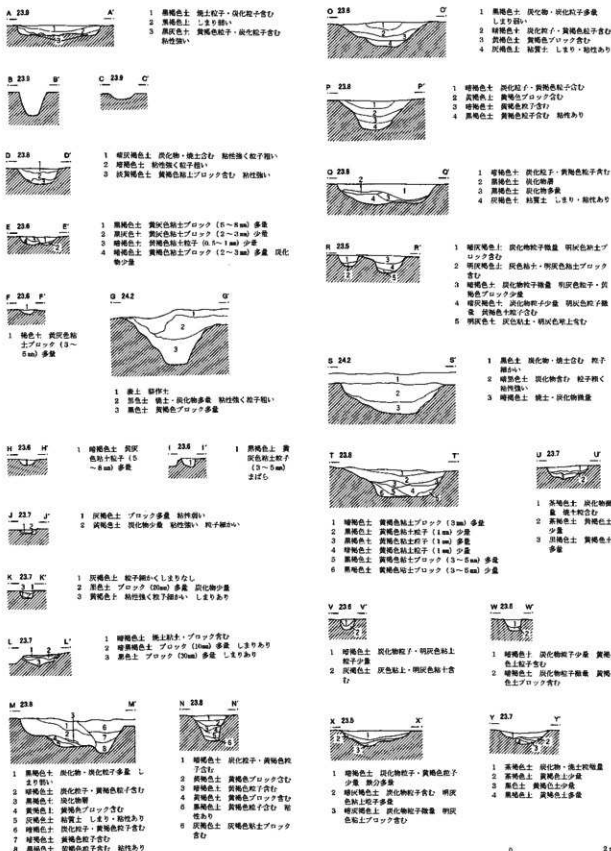
調査区を北西から南東に向かって流れる枝線水路である。掘削幅0.95mである。P26グリッドで枝線水路第116号溝跡に合流する。西端は、N23グリッドで第200号溝跡に破壊され、それより西は検出できなかった。

第231号溝跡

調査区を北東から南に向かって流れる枝線水路である。掘削幅0.65m・深さ0.1mである。北端は第6号墳の周溝に入り、それより北は検出できなかった。なお古墳周溝を先行して調査してしまったため、全体像を把握できなかった。またO27グリッド



第639图 清跡全体図(2)



第640図 溝跡の土層断面図

ド以南も検出できなかった。



第641图 满踪全体图例



- 1 基層色土
- 2 暗褐色土 粘土粒子多量
- 3 基層色土 砂分多量
- 4 暗褐色土 灰質石灰山灰少量
- 5 暗褐色土 灰化土、粘土粒子少量 粘性強い



- 1 暗褐色土 黄褐色粘土、粘土粒子、灰化物少量 しまり強い、粘性強い
- 2 暗褐色土 黄褐色粘土、黄褐色ブロック (10mm) 多量 灰化物少量 しまり強い、粘性強い



- 1 灰褐色土 灰土少量 しまりあり
- 2 暗灰褐色土 黄褐色少量 しまりあり
- 3 灰褐色土 灰土少量 しまりあり
- 4 灰褐色土 灰土ブロック含む しまりあり



- 1 黄褐色土 白色火山灰少量 粘性強い
- 2 黄褐色土 白色火山灰少量 粘性強い
- 3 黄褐色土 灰化物、粘土、火山灰少量 白色火山灰、明褐色火山灰含む 粘性強い
- 4 黄褐色土 灰化物、粘土、白色火山灰少量 粘性強い
- 5 黄褐色土 灰化物、粘土、白色火山灰少量 粘性強い
- 6 暗灰褐色土 灰化物、白色火山灰、粘土少量 粘性強い



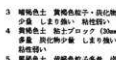
- 1 基層色土 灰化物含む 粘土粒子少量
- 2 基層色土 灰化物、粘土ブロック多量
- 3 暗褐色土 粘土粒子少量 砂分多量



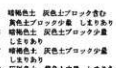
- 1 灰褐色土 粘土、灰化物まじり 黄色土、ブロック、砂分多量
- 2 灰褐色土 灰化物、黄色土まじり
- 3 灰褐色土 灰化物、黄色土少量
- 4 暗灰褐色土 粘土、灰化物まじり 黄色土少量
- 5 暗灰褐色土 灰化物少量

6 基層色土 5層に近似する 灰化物少量

- 7 基層色土 砂分多量
- 8 基層色土 粘土粒子、灰化物粒子少量
- 9 暗褐色土 灰化物粒子少量
- 10 暗褐色土 黄褐色土ブロック含む 灰化物多量
- 11 暗褐色土 黄褐色粘土少量 粘土粒子、灰化物少量
- 12 暗褐色土 黄褐色ブロック多量 粘土粒子少量
- 13 黄褐色土 黄褐色ブロック含む



- 1 暗褐色土 黄褐色粘土、灰化物少量 しまり強い、粘性強い
- 2 黄褐色土 粘土粒子、灰化物少量 しまり、粘性強い
- 3 暗褐色土 黄褐色粘土、灰化物少量 しまり、粘性強い
- 4 黄褐色土 粘土粒子、灰化物少量 しまり、粘性強い
- 5 暗褐色土 黄褐色粘土、灰化物少量 しまり、粘性強い
- 6 暗褐色土 黄褐色粘土、灰化物少量 しまり、粘性強い
- 7 暗褐色土 黄褐色粘土、灰化物少量 しまり、粘性強い



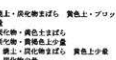
- 1 暗褐色土 黄褐色粘土、灰化物少量 しまり強い、粘性強い
- 2 暗褐色土 黄褐色粘土、灰化物少量 しまり強い、粘性強い
- 3 暗褐色土 黄褐色粘土、灰化物少量 しまり強い、粘性強い
- 4 暗褐色土 黄褐色粘土、灰化物少量 しまり強い、粘性強い
- 5 暗褐色土 黄褐色粘土、灰化物少量 しまり強い、粘性強い
- 6 暗褐色土 黄褐色粘土、灰化物少量 しまり強い、粘性強い
- 7 暗褐色土 黄褐色粘土、灰化物少量 しまり強い、粘性強い



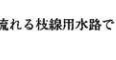
- 1 基層色土 下部に灰化物層 粘土、黄褐色粘土含む
- 2 灰褐色土 粘質土 黄褐色土ブロック、粘土含む
- 3 黄褐色土 灰褐色土ブロック少量
- 4 灰褐色土 粘質土 粘土粒子、粘土ブロック 灰化物粘土多量



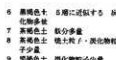
- 1 暗褐色土 灰化物多量 粘土粒子多量 しまり、粘性強い
- 2 暗褐色土 灰化物多量 粘土ブロック少量 しまり、粘性強い
- 3 暗褐色土 粘土ブロック (20mm) 多量 灰化物少量 しまり、粘性強い
- 4 暗褐色土 粘土ブロック (20mm) 多量 灰化物少量 しまり、粘性強い
- 5 暗褐色土 粘土ブロック (20mm) 多量 灰化物少量 しまり、粘性強い
- 6 暗褐色土 粘土ブロック (20mm) 多量 灰化物少量 しまり、粘性強い
- 7 暗褐色土 粘土ブロック (20mm) 多量 灰化物少量 しまり、粘性強い



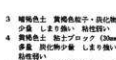
- 1 灰褐色土 粘質土
- 2 灰褐色土 粘質土 黄褐色土ブロック含む
- 3 灰褐色土 粘質土
- 4 灰褐色土 粘質土 黄褐色土ブロック含む
- 5 灰褐色土 粘質土
- 6 灰褐色土 粘質土
- 7 灰褐色土 粘質土



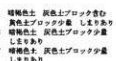
- 1 灰褐色土 粘質土
- 2 灰褐色土 粘質土
- 3 灰褐色土 粘質土
- 4 灰褐色土 粘質土
- 5 灰褐色土 粘質土
- 6 灰褐色土 粘質土
- 7 灰褐色土 粘質土



- 1 暗褐色土 粘土粒子、粘土粒子少量 しまり、粘性強い
- 2 暗褐色土 粘土粒子、粘土粒子少量 しまり、粘性強い
- 3 暗褐色土 粘土粒子、粘土粒子少量 しまり、粘性強い
- 4 暗褐色土 粘土粒子、粘土粒子少量 しまり、粘性強い
- 5 暗褐色土 粘土粒子、粘土粒子少量 しまり、粘性強い
- 6 暗褐色土 粘土粒子、粘土粒子少量 しまり、粘性強い
- 7 暗褐色土 粘土粒子、粘土粒子少量 しまり、粘性強い



- 1 暗褐色土 灰化物多量 粘土粒子少量 しまり、粘性強い
- 2 暗褐色土 灰化物多量 粘土粒子少量 しまり、粘性強い
- 3 暗褐色土 灰化物多量 粘土粒子少量 しまり、粘性強い
- 4 暗褐色土 灰化物多量 粘土粒子少量 しまり、粘性強い
- 5 暗褐色土 灰化物多量 粘土粒子少量 しまり、粘性強い
- 6 暗褐色土 灰化物多量 粘土粒子少量 しまり、粘性強い
- 7 暗褐色土 灰化物多量 粘土粒子少量 しまり、粘性強い



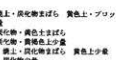
- 1 暗褐色土 灰化物多量 粘土粒子少量 しまり、粘性強い
- 2 暗褐色土 灰化物多量 粘土粒子少量 しまり、粘性強い
- 3 暗褐色土 灰化物多量 粘土粒子少量 しまり、粘性強い
- 4 暗褐色土 灰化物多量 粘土粒子少量 しまり、粘性強い
- 5 暗褐色土 灰化物多量 粘土粒子少量 しまり、粘性強い
- 6 暗褐色土 灰化物多量 粘土粒子少量 しまり、粘性強い
- 7 暗褐色土 灰化物多量 粘土粒子少量 しまり、粘性強い



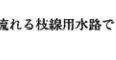
- 1 暗褐色土 灰化物多量 粘土粒子少量 しまり、粘性強い
- 2 暗褐色土 灰化物多量 粘土粒子少量 しまり、粘性強い
- 3 暗褐色土 灰化物多量 粘土粒子少量 しまり、粘性強い
- 4 暗褐色土 灰化物多量 粘土粒子少量 しまり、粘性強い
- 5 暗褐色土 灰化物多量 粘土粒子少量 しまり、粘性強い
- 6 暗褐色土 灰化物多量 粘土粒子少量 しまり、粘性強い
- 7 暗褐色土 灰化物多量 粘土粒子少量 しまり、粘性強い



- 1 暗褐色土 灰化物多量 粘土粒子少量 しまり、粘性強い
- 2 暗褐色土 灰化物多量 粘土粒子少量 しまり、粘性強い
- 3 暗褐色土 灰化物多量 粘土粒子少量 しまり、粘性強い
- 4 暗褐色土 灰化物多量 粘土粒子少量 しまり、粘性強い
- 5 暗褐色土 灰化物多量 粘土粒子少量 しまり、粘性強い
- 6 暗褐色土 灰化物多量 粘土粒子少量 しまり、粘性強い
- 7 暗褐色土 灰化物多量 粘土粒子少量 しまり、粘性強い



- 1 暗褐色土 灰化物多量 粘土粒子少量 しまり、粘性強い
- 2 暗褐色土 灰化物多量 粘土粒子少量 しまり、粘性強い
- 3 暗褐色土 灰化物多量 粘土粒子少量 しまり、粘性強い
- 4 暗褐色土 灰化物多量 粘土粒子少量 しまり、粘性強い
- 5 暗褐色土 灰化物多量 粘土粒子少量 しまり、粘性強い
- 6 暗褐色土 灰化物多量 粘土粒子少量 しまり、粘性強い
- 7 暗褐色土 灰化物多量 粘土粒子少量 しまり、粘性強い



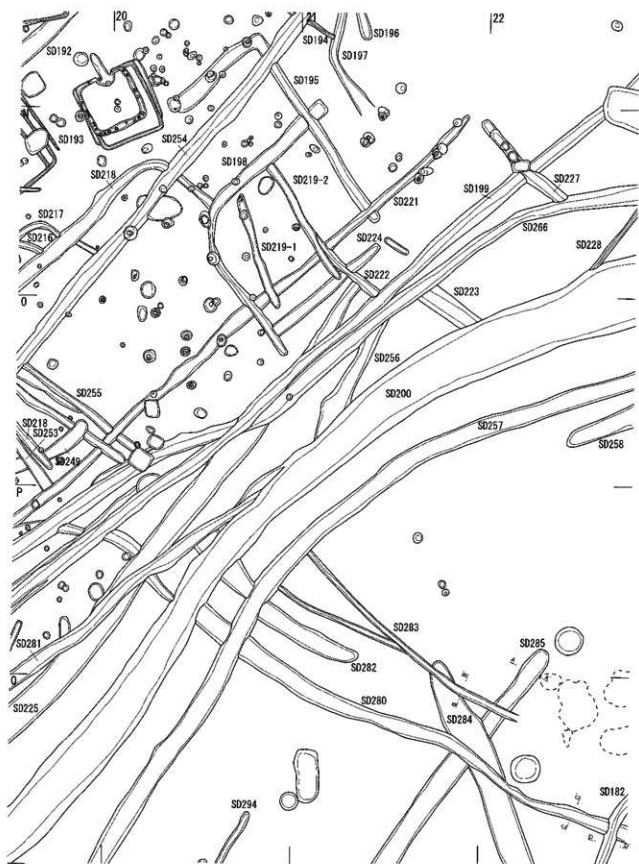
- 1 暗褐色土 灰化物多量 粘土粒子少量 しまり、粘性強い
- 2 暗褐色土 灰化物多量 粘土粒子少量 しまり、粘性強い
- 3 暗褐色土 灰化物多量 粘土粒子少量 しまり、粘性強い
- 4 暗褐色土 灰化物多量 粘土粒子少量 しまり、粘性強い
- 5 暗褐色土 灰化物多量 粘土粒子少量 しまり、粘性強い
- 6 暗褐色土 灰化物多量 粘土粒子少量 しまり、粘性強い
- 7 暗褐色土 灰化物多量 粘土粒子少量 しまり、粘性強い

第642図 溝跡23土層断面図

第233号溝跡

調査区を西から東に向かって流れる枝線用水路で

ある。掘削幅0.9～2.02m・深さ0.56～1.05mである。



第643图 溝跡全体図(24)



- 1 灰茶褐色土 黄褐色粘土少量 砂分含む
- 2 灰茶褐色土 1層に隣接する 砂分多量
- 3 灰茶褐色土 黄褐色粘土・白色粘土含む



- 1 黄褐色土 粘土粒子少量 砂分多量 しまり強い 粘性強い
- 2 黄褐色土 白色粘土粒子少量 砂分多量 しまり、粘性強い



- 1 黄褐色土 砂分、白色粘土含む しまり、粘性強い
- 2 黄褐色土 黄褐色ブロック・白色粘土多量 しまり、粘性強い
- 3 灰褐色土 白色粘土ブロック・黄褐色粘土多量 しまり、粘性強い
- 4 黄褐色土 白色粘土ブロック多量 黄土粒子・灰化粉少量 しまり、粘性強い
- 5 黄褐色土 白色粘土ブロック・黄土粒子・灰化粉少量 しまり、粘性強い
- 6 灰褐色土 粘土ブロック多量 黄土粒子・灰化粉少量 しまり、粘性強い



- 1 褐色土 粘質土 灰褐色粘土少量 灰褐色粘土ブロック含む



- 1 灰褐色 粘質土 灰化粉粘土少量 灰褐色粘土ブロック少量



- 1 黄褐色土 白色粘土・灰化粉粘土少量
- 2 黄褐色土 粘質土 灰化粉粘土少量 灰褐色粘土ブロック含む



- 1 褐色土 粘質土 黄褐色粘土少量 灰褐色粘土ブロック含む

0 2 m

第644図 溝跡Q土層断面図

第248号溝跡

調査区を南西から東に向かって流れる枝線用水路である。掘削幅0.4m・深さ0.22mである。O17グリッドで第206号溝跡に破壊され、それより南は検出できなかった。

第249号溝跡

調査区を西から東に向かって流れる枝線用水路である。掘削幅0.78m・深さ0.09mである。P18グリッドで第163号溝跡に破壊され、それより東は検出できなかった。

第253号溝跡

調査区を北西から南東に向かって流れる枝線用水路である。掘削幅0.25m・深さ0.14mである。第218号溝跡に破壊されていた。枝線用水路の第254・255号溝跡を引水すると判断した。第221号溝跡に破壊され、それより先は検出できなかった。

第254号溝跡

調査区を北西から南東に向かって流れる枝線用水路である。掘削幅0.52m・深さ0.11mである。O19グリッドで枝線用水路の第253号溝跡から引水すると判断した。第226号溝跡に破壊され、それより南は検出できなかった。

第255号溝跡

調査区を北西から南東に向かって流れる枝線用水路である。掘削幅0.73m・深さ0.11mである。O19グリッドで枝線用水路の第253号溝跡から引水すると判断した。第226号溝跡に破壊され、それより南は検出できなかった。

第256号溝跡

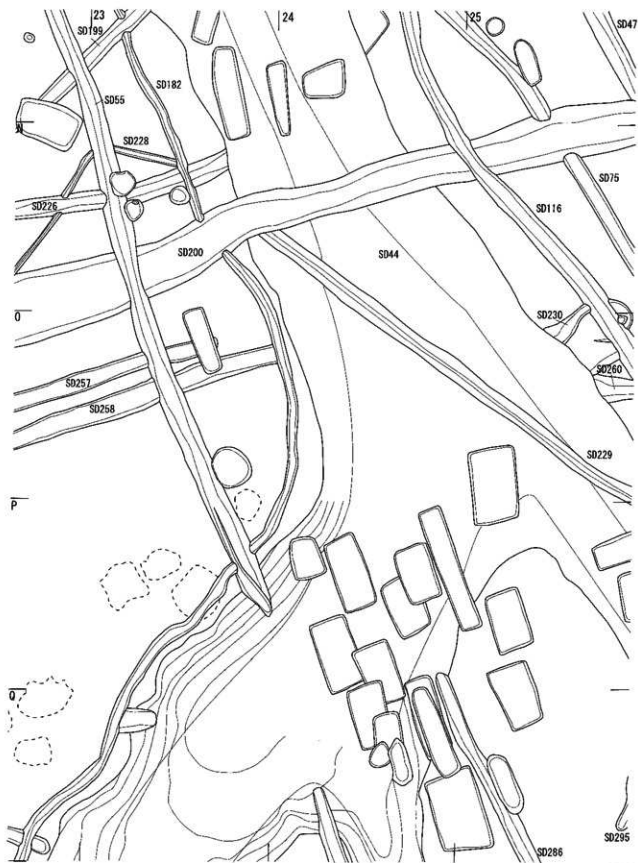
掘削幅0.92m・深さ0.24mの枝線用水路である。引水方向は不明である。北端は、第226号溝跡に破壊され、南端は、第200号溝跡に破壊されていた。それより先は検出できなかった。

第261号溝跡

調査区を北西から南に向かって流れる枝線用水路である。掘削幅0.54m・深さ0.26mである。O26グリッドで枝線用水路の第116号溝跡から引水し、P26グリッド再び合流している。

第262号溝跡

調査区を北から南西に向かって流れる枝線用水路である。掘削幅1.16m・深さ0.94mである。P26グリッドでは、第254号溝跡が合流する。P26グリッドでは、第44号溝跡に破壊され、それより南は検出できなかった。



第645図 溝跡全体図(25)

第264号溝跡

調査区を北東から西に向かって流れる枝線用水路である。掘削幅0.46m・深さ0.21mである。P26グリッドで枝線用水路の第262号溝跡に合流する。

第265号溝跡

掘削幅0.34m・深さ0.2mの枝線用水路である。引水方向は不明である。P14グリッドで第206号溝跡に破壊され、それより北は検出できなかった。

第280号溝跡

調査区を南西から南東に向かって蛇行しながら流れる枝線用水路である。掘削幅0.71m・深さ0.16mである。P18グリッドでは、第226号溝跡に破壊され、それより南は検出できなかった。

第281号溝跡

調査区を南西から北東に向かって流れる枝線用水路である。掘削幅0.75m・深さ0.22mである。南端は、R18グリッドで第225号溝跡に破壊され、西端は、P20グリッドでは、第200号溝跡に破壊されていた。それより先は検出できなかった。

第283号溝跡

北西から南東に向かって流れる枝線用水路である。掘削幅0.47m・深さ0.18mである。P21グリッドで第257号溝跡に破壊され、それより北は検出できなかった。

第284号溝跡

調査区を北から南東に向かって流れる枝線用水路である。掘削幅1.55m・深さ0.04mである。R22グリッド以来は、確認できなかった。

第286号溝跡

調査区を北西から南東に向かって流れる枝線用水路である。掘削幅0.73m・深さ0.42mである。P24

グリッド以北は、検出できなかった。

第295号溝跡

調査区を北から南に向かって流れる枝線用水路である。掘削幅1.18m・深さ0.18mである。Q26グリッドでは、第44号溝跡に破壊され、それより北は確認できなかった。

第297号溝跡

調査区を北西から南東に向かって流れる枝線用水路である。掘削幅0.65m・深さ0.09mである。西端は、Q27グリッドで第44号溝跡に破壊され、南端は、S29グリッドで第324号溝跡に破壊されていた。それより先は検出できなかった。

第300号溝跡

調査区を西から東に向かって流れる枝線用水路である。掘削幅0.42m・深さ0.12mである。R16グリッドで第163号溝跡に破壊され、それより東は、確認できなかった。R14グリッド以西も確認できなかった。

第302号溝跡

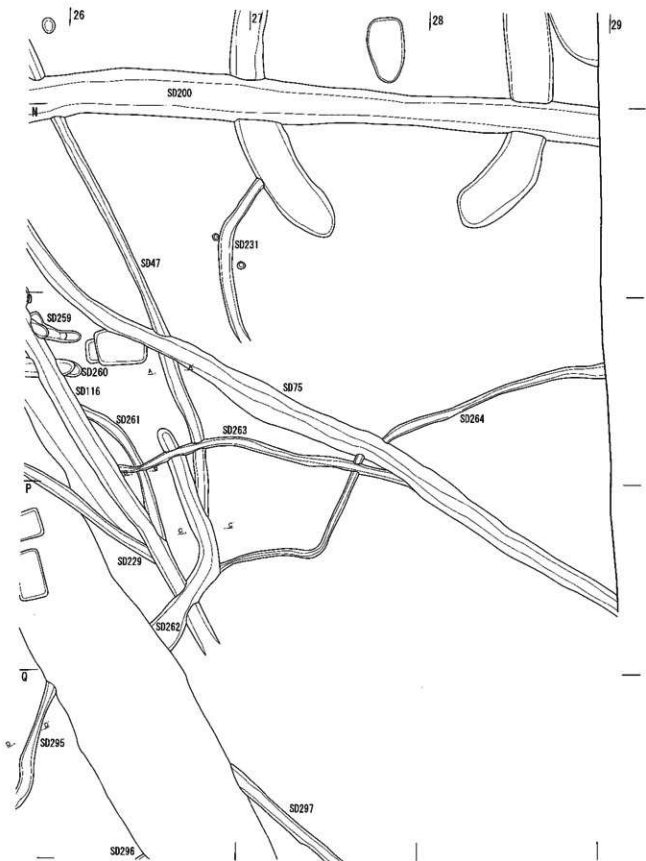
調査区を西から北東に向かって流れる枝線用水路である。掘削幅0.73m・深さ0.06mである。北端は第225号に破壊され、西端は第200号溝跡と交叉し、それより先は検出できなかった。

第304号溝跡

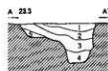
掘削幅0.45m・深さ0.15mの枝線用水路である。引水方向は不明である。北端は、第200号溝跡に破壊され、西端は、第93号井戸跡に破壊されていた。それより先は検出できなかった。

第306号溝跡

調査区を北西から南に向かって流れる枝線用水路である。掘削幅0.64m・深さ0.12mである。R16グリッドで第200号溝跡に破壊され、それより北は検出



第646图 溝跡全体図(26)



- 1 暗灰色土 白色微粒子少量 明灰色粘土ブロック少量
- 2 明灰色粘土 粘質土
- 3 暗灰色土 炭化微粒子少量 砂粒含む しまり強い
- 4 灰色土 灰色粘土・黄灰色シルト含む しまりなし
- 5 明灰色粘土 暗灰色土主体 灰色粘土含む



- 1 暗灰色土 明灰色粘土ブロック少量 灰色土しまりなし
- 2 暗灰色土 炭化微粒子少量 白色微粒子少量 粘質強い
- 3 暗灰色土 明灰色粘土ブロック含む 粘質強い
- 4 灰色土 灰色土 粘質強い



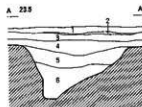
- 1 灰褐色土 白色微粒子少量 炭化微粒子少量 暗灰色粘土ブロック・明灰色粘土ブロック含む



- 1 暗灰色土 白色微粒子・炭化微粒子少量 暗灰色粘土含む

0 2m

第647図 溝跡②土層断面図



- 1 暗い黄褐色土 粘質土 粘質土 浅間火山灰を含む
- 2 灰色粘質土 浅間火山灰を含む しまり強い
- 3 暗い黄褐色土 浅間火山灰・砂分多量
- 4 黒色土 粘質土 浅間火山灰を含む 砂分多量
- 5 灰褐色土 シルト質 砂分多量 しまり強い
- 6 黒褐色土 シルト質ブロック少量 粘質強い

0 2m

第648図 溝跡②土層断面図

できなかった。

第308号溝跡

調査区を北から南に向かって蛇行しながら流れる枝線水路である。掘削幅0.66m・深さ0.13mである。R17グリッドで第225号溝跡に破壊され、U16グリッドで第343号溝跡に破壊されて、それより先は検出できなかった。

第309号溝跡

調査区を西から東に向かって流れる枝線水路である。掘削幅0.41m・深さ0.07mである。R17グリッドで枝線水路の第310号溝跡が合流する。西端は、第307号溝跡に東端は、第277号溝跡に破壊され、それより先は検出できなかった。

第310号溝跡

調査区を南西から北東に向かって流れる枝線水路である。掘削幅0.46m・深さ0.06mである。枝線水路の第309号溝跡に合流する。第200号溝跡に破壊され、それより南は検出できなかった。

第311号溝跡

掘削幅0.48m・深さ0.12mの枝線水路である。引水方向は不明である。西端は、第183号溝跡に破壊され、東端は第277号溝跡に破壊されて、それより先は検出できなかった。

第312号溝跡

掘削幅0.31m・深さ0.04mの枝線水路である。引水方向は不明である。S19グリッド以南は、検出できなかった。

第313号溝跡

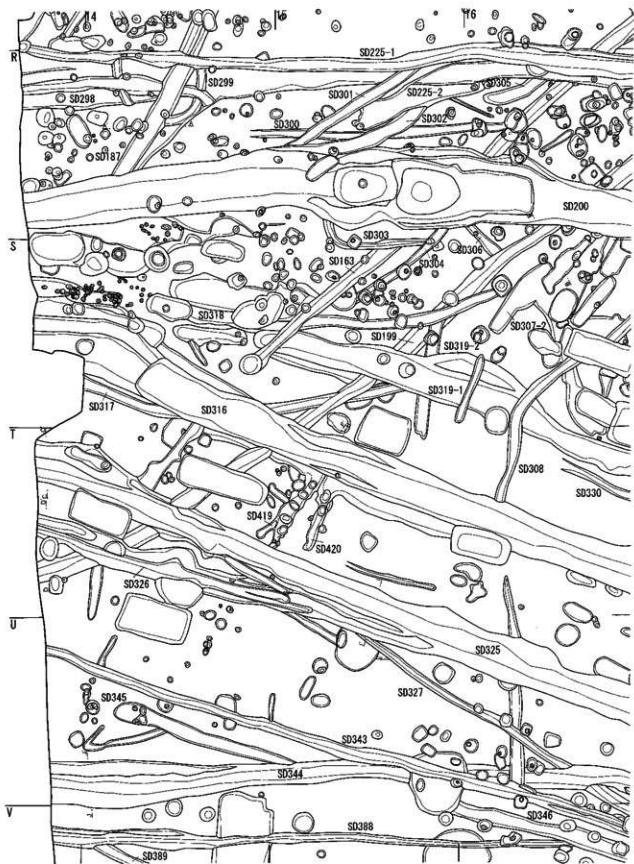
調査区を西から東に向かって流れる枝線水路である。掘削幅0.55m・深さ0.05mである。R19グリッドで第293号溝跡に破壊され、それより西には検出できなかった。

第317号溝跡

調査区を西から東に向かって流れる枝線水路である。掘削幅0.56m・深さ0.08mである。S15グリッドで道路の側溝である第319号溝跡に合流する。

第318号溝跡

調査区を西から東に向かって流れる枝線水路である。掘削幅1.05m・深さ0.41mである。S14グリッドで第427号土壌に西側を破壊され、それより西は検出できなかった。またS16グリッドより先も検出できなかった。



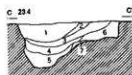
第649图 溝跡全体図(2)



- 1 暗褐色土 黄褐色粘土・黄褐色ブロック少量 炭化物・粘土含有
- 2 暗褐色土 黄褐色粘土・黄褐色ブロック少量 炭化物・粘土少量
- 3 黄褐色土 黄褐色粘土・黄褐色ブロック少量
- 4 暗褐色土 砂質土・黄褐色粘土含有
- 5 黄褐色土 黄褐色粘土・黄褐色ブロック少量
- 6 黄褐色土 黄褐色粘土・黄褐色ブロック主体
- 7 暗褐色土 粘土粘土・炭化粘土含有



- 1 暗褐色土 粘土少量 黄褐色ブロック含有 しきりあり
- 2 暗褐色土 炭化粘土含有 黄褐色ブロック少量 しきりあり
- 3 暗褐色土 黄褐色粘土少量 しきり・粘性あり



- 1 暗褐色土 粘土粘土少量 炭化粘土含有
- 2 暗褐色土 炭化粘土・粘土粘土含有
- 3 暗褐色土 粘土粘土・粘土ブロック含有
- 4 暗褐色土 炭化粘土少量
- 5 暗褐色土 砂質土
- 6 暗褐色土 炭褐色粘土ブロック含有
- 7 暗褐色土 粘土主体



- 1 黄褐色土 粘土ブロック・白色粘土含有 しきりあり
- 2 暗褐色土 粘土ブロック・白色粘土含有
- 3 暗褐色土 黄褐色土主体 炭褐色粘土ブロック含有
- 4 暗褐色土 粘土ブロック少量
- 5 暗褐色土 暗褐色ブロック含有



- 1 暗褐色土 浅層砂層下 炭化物含有
- 2 暗褐色土 粘土粘土粘性強い
- 3 暗褐色土 炭化物含有 粘土粘土粘性強い



- 1 暗褐色土 炭化粘土少量 黄褐色粘土・粘土粘土含有
- 2 黄褐色土 粘土粘土 黄褐色粘土含有 しきりあり
- 3 暗褐色土 粘土主体 暗褐色土・炭化粘土含有
- 4 暗褐色土 重層に砂層 粘性強い
- 5 砂質土 粘土主体 色調明るい
- 6 暗褐色土 暗褐色土少量



第650図 溝跡の土層断面図

第327号溝跡

調査区を北西から東に向かって流れる枝線用水路である。掘削幅1.03m・深さ0.21mである。T14グリッドで道路の側溝である第325号溝跡から引水すると推測できる。しかし断面観察では確認していない。

第328号溝跡

調査区を北西から東に向かって流れる枝線用水路である。掘削幅0.39m・深さ0.04mである。U15グリッドで第327号溝跡に合流する。T15グリッドで第326号溝跡に破壊され、それより西は検出できなかった。

第330号溝跡

調査区を西から東に向かって流れる枝線用水路である。掘削幅0.65m・深さ0.04mである。T16グリッド

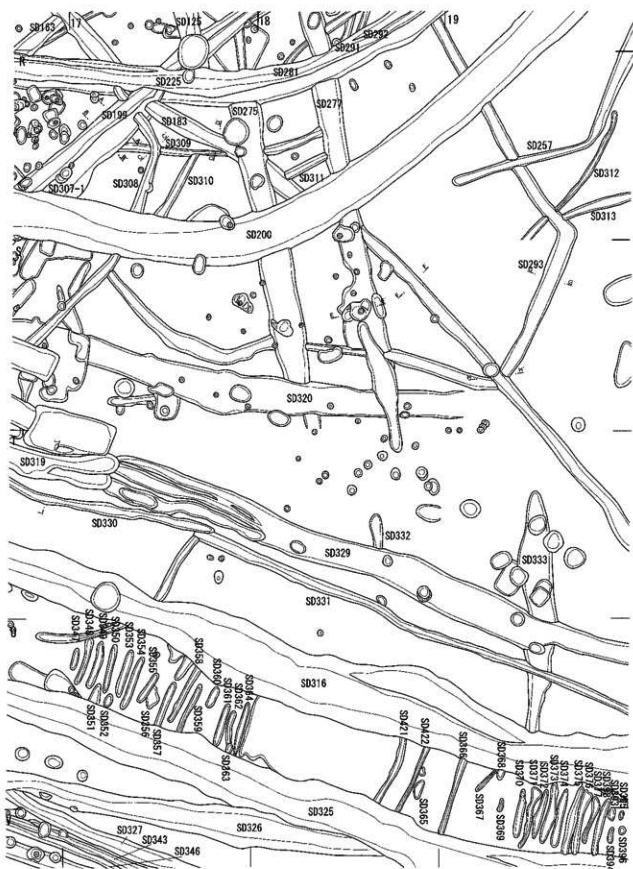
以西は、確認できなかった。

第331号溝跡

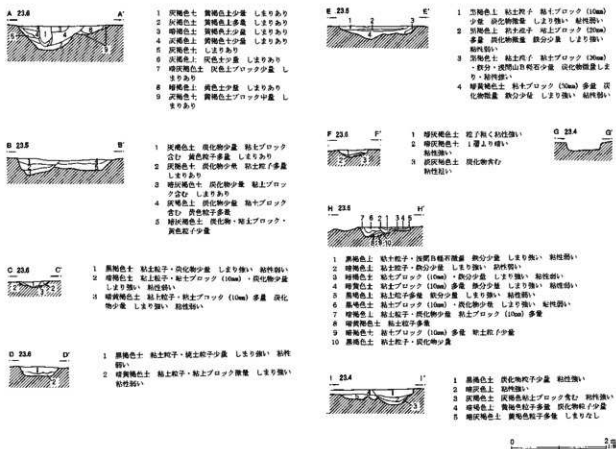
調査区を西から東に向かって流れる枝線用水路である。掘削幅0.60m・深さ0.15mである。西端はT17グリッドで第330号溝跡に破壊され、東端は、U20グリッドで第321号溝跡に破壊されていた。それより先は検出できなかった。

第337号溝跡

調査区を北から南に向かって流れる枝線用水路である。掘削幅0.42m・深さ0.15mである。U23グリッドで枝線用水路の第338号溝跡が合流していた。またV22グリッドで枝線用水路の第404号溝跡に合流していた。T22グリッドでは、第322号溝跡に破壊され、それより北は検出できなかった。



第651図 清跡全体図(20)



第652図 溝跡部土層断面図

第338号溝跡

調査区を北から南に向かって流れる枝線用水路である。掘削幅0.04m・深さ0.10mである。U23グリッドで枝線用水路の第337号溝跡に合流する。T23グリッドで第336号溝跡に破壊され、それより北は検出できなかった。

第339号溝跡

調査区を東北から南に向かって流れる枝線用水路である。掘削幅0.62m・深さ0.27mである。T24グリッドとY23グリッドで第324号溝跡に破壊され、それより先は検出できなかった。

第341号溝跡

調査区を西から東に向かって流れる枝線用水路である。掘削幅0.42m・深さ0.04mである。西端は、

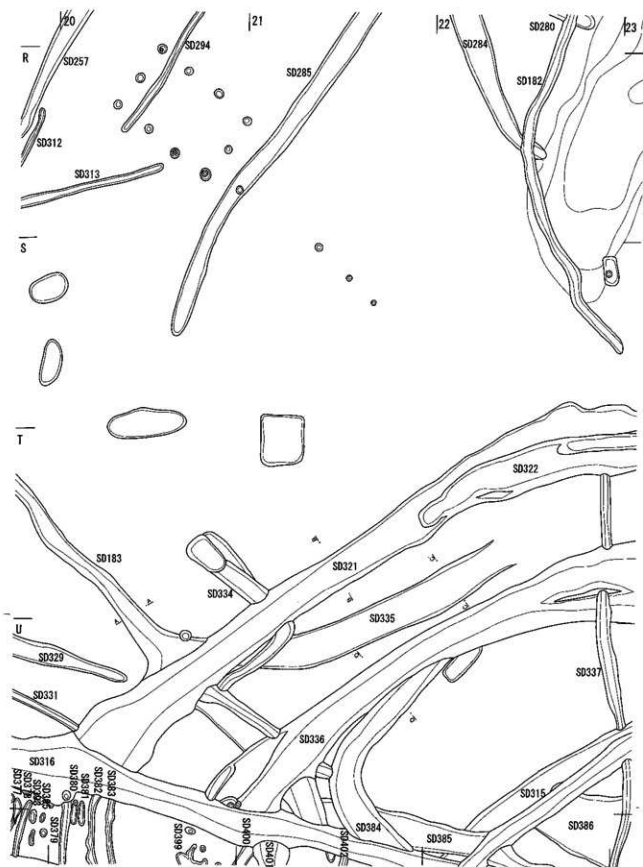
第324号溝跡に破壊され、東端は、第44号溝跡に破壊され、それより先は検出できなかった。

第342号溝跡

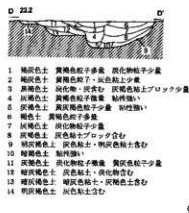
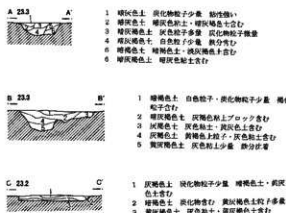
調査区を西から北東に向かって流れる枝線用水路である。掘削幅0.9m・深さ0.48mである。V22グリッドで第316号溝跡に破壊され、それより西は検出できなかった。

第343号溝跡

調査区を北西から東に向かって流れる枝線用水路である。掘削幅1.39m・深さ0.58mである。V19グリッドで枝線用水路の第392号溝跡を引水する。W21グリッドで第315号溝跡に破壊され、それより東は検出できなかった。



第653图 溝跡全体図(2)



第654図 溝跡(土層断面図)

第387号溝跡

調査区を南西から北東に向かって流れる枝線用水路である。掘削幅0.7m・深さ0.25mである。X23グリッドで枝線用水路の第414号溝跡を引水する。

第388号溝跡

調査区を西から東に向かって流れる枝線用水路である。掘削幅0.74m・深さ0.08mである。V14グリッドで枝線用水路の第389号溝跡を引水していた。V16グリッドで第346号溝跡に破壊され、それより東は検出できなかった。

第389号溝跡

調査区を西から東に向かって流れる枝線用水路である。掘削幅0.53m・深さ0.18mである。V14グリッドで第388号溝跡から引水する。V16グリッドで東は確認できなかった。

第390号溝跡

調査区を北から南に向かって流れる枝線用水路である。掘削幅0.46m・深さ0.11mである。北端は、第325号溝跡に破壊され、南端は、第343号溝跡に破壊され、それより先は検出できなかった。

第391号溝跡

調査区を北から南に向かって流れる枝線用水路で

ある。掘削幅0.42m・深さ0.07mである。北端は、第327号溝跡に破壊され、南端は、第423号溝跡に破壊され、それより先は検出できなかった。

第392号溝跡

調査区を西から東に向かって流れる枝線用水路である。掘削幅0.41m・深さ0.09mである。V19グリッドで枝線用水路の第343号溝跡から引水する。V20グリッドでは、第397号溝跡に破壊され、それより東は検出できなかった。

第397号溝跡

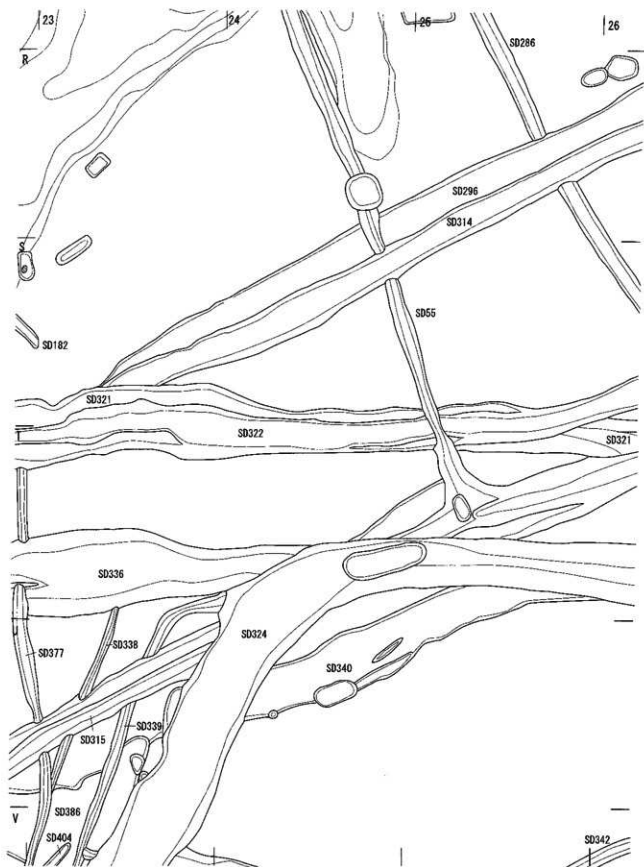
調査区を北西から南東に向かって流れる枝線用水路である。掘削幅0.93m・深さ0.37mである。V19グリッドでは、道路の側溝である第325号溝跡から引水していた。W21グリッドでは、第407号溝跡に破壊されるが、その先の第408号溝跡につながる。

第400号溝跡

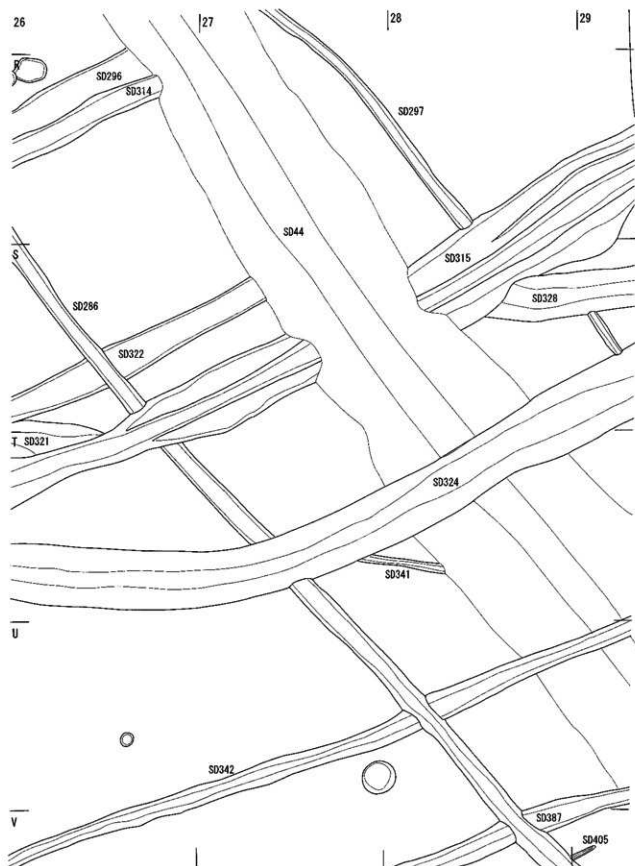
調査区を北から南に向かって流れる枝線用水路である。掘削幅0.65m・深さ0.28mである。北端は、第316号溝跡に破壊され、南端は、第397号溝跡に破壊されていた。それより先は、検出できなかった。

第403号溝跡

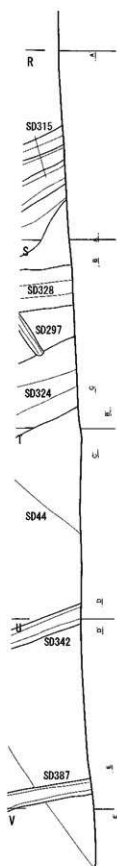
調査区を西から南東に向かって流れる枝線用水路



第655图 清跡全体図(30)



第656図 溝跡全体図(3)



第657図 溝跡全体図(32)

である。掘削幅0.47m・深さ0.31mである。道路側溝の可能性も考えられる。W23グリッドでは、第415号溝跡と切り合う。流路の変更と考えられる。V22グリッドでは、第316号溝跡に破壊され、それより西は検出できなかった。

第404号溝跡

調査区を北東から南西に向かって流れる枝線用水路である。掘削幅0.51m・深さ0.15mである。W22グリッドでは、第407号溝跡に破壊されていた。それより南は検出できなかった。

第405号溝跡

調査区の南東から北西に向かって流れる枝線用水路である。掘削幅0.34m・深さ0.10mである。

第406号溝跡

調査区を北東から南西に向かって流れる枝線用水路である。掘削幅2.28m・深さ0.43mである。V29グリッドで第286号溝跡に破壊さ

れ、それより東は検出できなかった。

第408号溝跡

調査区の北西から南東に向かって流れる枝線用水路である。掘削幅0.85m・深さ0.13mである。W21グリッドで第407号溝跡に破壊される。しかしその先の第397号溝跡につながると判断した。

第409号溝跡

調査区を北から南に向かって流れる枝線用水路である。掘削幅0.52m・深さ0.02mである。W23グリッド以北は検出できなかった。

第411号溝跡

調査区を西から南東に向かって流れる枝線用水路である。掘削幅0.55m・深さ0.14mである。道路の側溝の可能性も考慮しておきたい。W23グリッドでは、第410号溝跡に破壊され、それより西は検出できなかった。

第412号溝跡

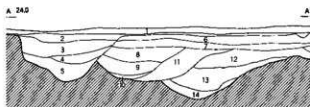
調査区を西から南東に向かって流れる枝線用水路である。掘削幅0.53m・深さ0.05mである。X24グリッド以南は、検出できなかった。

第413号溝跡

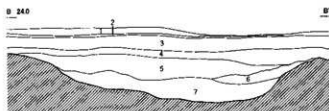
調査区を北から南に向かって流れる枝線用水路である。掘削幅0.23m・深さ0.04mである。

第414号溝跡

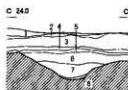
調査区を南西から北東に向かって流れる枝線用水路である。掘削幅0.24m・深さ0.03mである。X23グリッドでは、第387号溝跡から引水する。W23グリッドでは、第413号溝跡に破壊され、それより北は検出できなかった。



- 1 薄い黄褐色土 砂質土 液間火山灰少量 粘性あり
- 2 薄い黄褐色土 1と8層の間で液間火山灰・砂分多量
- 3 灰褐色土 液間火山灰・砂分多量 粘性強い
- 4 灰褐色土 液間火山灰少量 粘性強い
- 5 灰褐色土 液間火山灰・砂分多量
- 6 灰褐色土 液間火山灰含む しり強い
- 7 灰色土 粘質土 液間火山灰含む 砂分多量
- 8 灰色土 液間火山灰少量
- 9 灰褐色土 シルト・粘土含む 液間火山灰少量
- 10 灰褐色土 灰黄色シルトブロック多量
- 11 灰褐色土 液間火山灰少量 粘性・しり強い
- 12 灰褐色土 砂分多量 粘性・しり強い
- 13 灰褐色土 灰黄色シルトブロック多量 粘性強い しり強い
- 14 灰褐色土 液間火山灰少量 粘性・しり強い



- 1 薄い黄褐色土 砂質土 粘質土 液間火山灰含む
- 2 薄い黄褐色土 液間火山灰・砂分多量
- 3 灰色土 粘質土 液間火山灰含む しり強い
- 4 灰色土 砂質土 液間火山灰含む 砂分多量
- 5 灰色土 シルト質 しり強い
- 6 灰色土 粘質土 しり強い
- 7 暗灰色土 粘質土 シルトブロック少量 しり強い



- 1 薄い黄褐色土 砂質土 粘質土 液間火山灰含む
- 2 薄い黄褐色土 液間火山灰・砂分多量
- 3 灰色土 粘質土 液間火山灰含む しり強い
- 4 黄褐色土 液間火山灰少量
- 5 灰色土 砂分・マンガン多量 粘性強い
- 6 灰褐色土 シルト質 砂分多量
- 7 暗灰色土 粘質土 砂分多量 シルト含む しり強い
- 8 暗灰色土 粘質土 灰黄色粘土ブロック多量



- 1 黄褐色土 液間火山灰多量
- 2 灰色土 砂分・マンガン多量 粘性強い
- 3 灰褐色土 粘質土 マンガン・砂分多量



- 1 薄い黄褐色土 砂質土 粘質土 液間火山灰含む
- 2 灰色土 粘質土 液間火山灰含む しり強い
- 3 黄褐色土 液間火山灰多量
- 4 灰色土 砂分・マンガン多量 粘性強い
- 5 灰色土 粘質土 砂含む しり強い

0 2m

第658図 溝跡の土層断面図

第415号溝跡

調査区を北西から南東に向かって流れる枝線用水路で、掘削幅0.32m・深さ0.06mである。道路側溝の可能性も考えられる。W23グリッドで第403号溝跡と切り合う。

流路が変更したと考えられるが、どちらが先かは断面観察からは確認できなかった。

第416号溝跡

掘削幅0.3m・深さ0.06mの枝線用水路である。引水方向は不明である。W28グリッド以来は確認できなかった。

第417号溝跡

調査区を北西から南東に向かって流れる枝線用水

路で、掘削幅0.47m・深さ0.01mである。

第418号溝跡

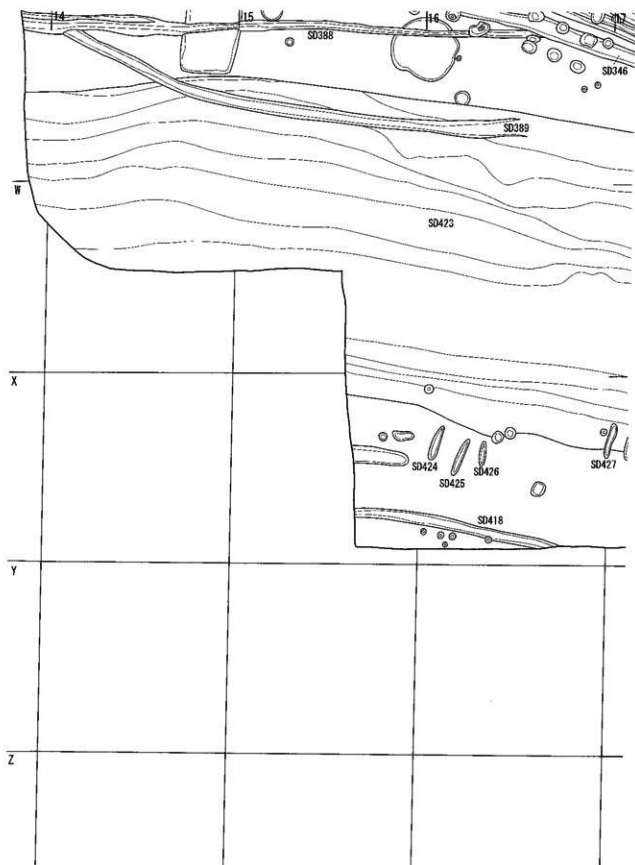
調査区を西から東に向かって流れる枝線用水路で、掘削幅0.47m・深さ0.09mである。

⑦ 溝状窪地

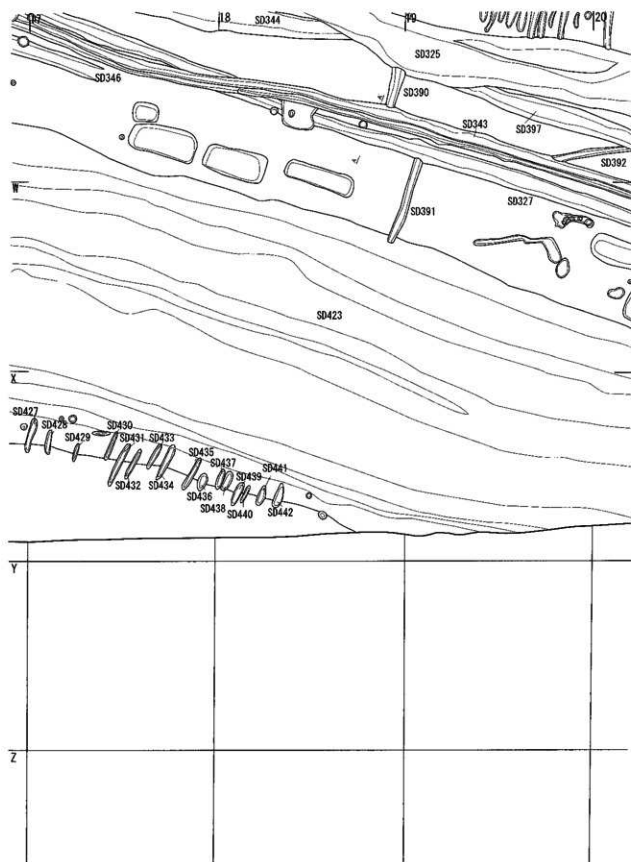
通水や区画などの明確な目的以外に掘削された窪地で、形態が溝状となる遺構を一括した。第10・17・46・92・122・135・160・178・179・180・197・285・287・301・305・307・320・335・340号溝跡である。

第10号溝跡

第5号溝跡の南側に検出された。北端は第5号溝跡に接し、そこから南に延び、ZY23グリッドで東に向きを変えていた。



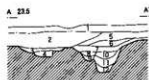
第659図 清跡全体図(33)



第660図 清跡全体図34



第661图 清跡全体図(35)



- 1 灰色土 耕作土 浅間火山灰土含む
- 2 灰土 鉄分多量 砂土・浅間火山灰土少量
- 3 灰褐色土 鉄分多量 砂土・浅間火山灰土少量
- 4 灰褐色土 灰褐色土・灰褐色土含む 浅間火山灰土少量
- 5 灰褐色土 灰褐色土・灰褐色土含む 浅間火山灰土少量
- 6 灰褐色土 灰褐色土・灰褐色土含む 浅間火山灰土少量
- 7 灰褐色土 灰褐色土・灰褐色土含む 浅間火山灰土少量
- 8 灰褐色土 灰褐色土・灰褐色土含む 浅間火山灰土少量
- 9 灰褐色土 灰褐色土・灰褐色土含む 浅間火山灰土少量
- 10 灰褐色土 灰褐色土・灰褐色土含む 浅間火山灰土少量
- 11 灰褐色土 灰褐色土・灰褐色土含む 浅間火山灰土少量
- 12 灰褐色土 灰褐色土・灰褐色土含む 浅間火山灰土少量

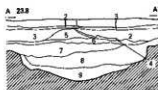
0 2m

第662図 溝跡04土層断面図

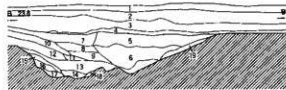
規模は、掘削幅1.04m・深さ0.03mである。

第17号溝跡

第7号溝跡の東側に検出された。第7号溝跡と併走するように南北方向に走っていた。南端は第24号溝跡に破壊され、北端はZX21グリッドで途切れ、そ



- 1 青灰色土 現代の水田 浅間火山灰土少量 しりしり強い 粘性強い
- 2 青灰色土 鉄分多量 水田の底土 浅間火山灰土少量 しりしり強い 粘性強い
- 3 青灰色土 鉄分多量 水田の底土 浅間火山灰土少量 しりしり強い 粘性強い
- 4 灰褐色土 鉄分多量 水田の底土 浅間火山灰土少量 しりしり強い 粘性強い
- 5 灰褐色土 鉄分多量 水田の底土 浅間火山灰土少量 しりしり強い 粘性強い
- 6 灰褐色土 鉄分多量 水田の底土 浅間火山灰土少量 しりしり強い 粘性強い
- 7 灰褐色土 鉄分多量 水田の底土 浅間火山灰土少量 しりしり強い 粘性強い
- 8 灰褐色土 鉄分多量 水田の底土 浅間火山灰土少量 しりしり強い 粘性強い
- 9 灰褐色土 鉄分多量 水田の底土 浅間火山灰土少量 しりしり強い 粘性強い
- 10 灰褐色土 鉄分多量 水田の底土 浅間火山灰土少量 しりしり強い 粘性強い
- 11 灰褐色土 鉄分多量 水田の底土 浅間火山灰土少量 しりしり強い 粘性強い
- 12 灰褐色土 鉄分多量 水田の底土 浅間火山灰土少量 しりしり強い 粘性強い



- 1 青灰色土 現代の水田 浅間火山灰土少量 しりしり強い 粘性強い
- 2 青灰色土 鉄分多量 水田の底土 浅間火山灰土少量 しりしり強い 粘性強い
- 3 青灰色土 鉄分多量 水田の底土 浅間火山灰土少量 しりしり強い 粘性強い
- 4 灰褐色土 鉄分多量 水田の底土 浅間火山灰土少量 しりしり強い 粘性強い
- 5 灰褐色土 鉄分多量 水田の底土 浅間火山灰土少量 しりしり強い 粘性強い
- 6 灰褐色土 鉄分多量 水田の底土 浅間火山灰土少量 しりしり強い 粘性強い
- 7 灰褐色土 鉄分多量 水田の底土 浅間火山灰土少量 しりしり強い 粘性強い
- 8 灰褐色土 鉄分多量 水田の底土 浅間火山灰土少量 しりしり強い 粘性強い
- 9 灰褐色土 鉄分多量 水田の底土 浅間火山灰土少量 しりしり強い 粘性強い
- 10 灰褐色土 鉄分多量 水田の底土 浅間火山灰土少量 しりしり強い 粘性強い
- 11 灰褐色土 鉄分多量 水田の底土 浅間火山灰土少量 しりしり強い 粘性強い
- 12 10層に相当

第663図 溝跡09土層断面図

れより先は検出できなかった。

規模は、掘削幅1.96~2.32m・深さ0.2mである。

第46号溝跡

第38号溝跡の南側に検出された。C20グリッドで東に向きを変えるが、第47号溝跡の手前で途切れていた。規模は、掘削幅1.2m・深さ0.16mである。

第92号溝跡

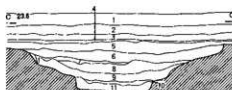
第4号掘立柱建物跡と第5号掘立柱建物跡の間に検出した。

規模は、掘削幅1.07m・深さ0.21mである。

第122号溝跡

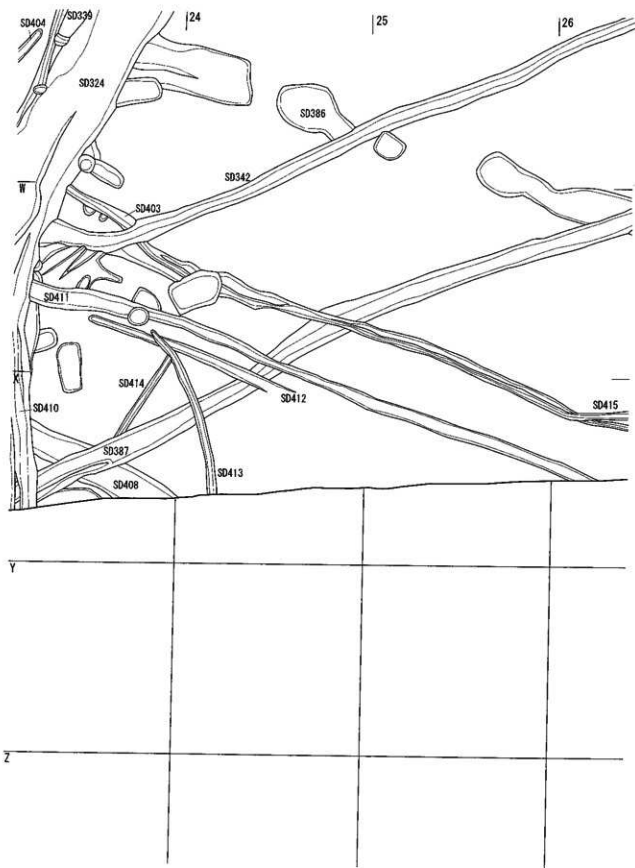
J19グリッドで検出した。南北に延びていたが、北側は礎の手状に東側に曲がっていた。

規模は、掘削幅1.26m・深さ0.13mである。



- 1 青灰色土 現代の水田 浅間火山灰土少量 しりしり強い 粘性強い
- 2 青灰色土 鉄分多量 水田の底土 浅間火山灰土少量 しりしり強い 粘性強い
- 3 灰褐色土 鉄分多量 水田の底土 浅間火山灰土少量 しりしり強い 粘性強い
- 4 灰褐色土 鉄分多量 水田の底土 浅間火山灰土少量 しりしり強い 粘性強い
- 5 灰褐色土 鉄分多量 水田の底土 浅間火山灰土少量 しりしり強い 粘性強い
- 6 灰褐色土 鉄分多量 水田の底土 浅間火山灰土少量 しりしり強い 粘性強い
- 7 灰褐色土 鉄分多量 水田の底土 浅間火山灰土少量 しりしり強い 粘性強い
- 8 灰褐色土 鉄分多量 水田の底土 浅間火山灰土少量 しりしり強い 粘性強い
- 9 灰褐色土 鉄分多量 水田の底土 浅間火山灰土少量 しりしり強い 粘性強い
- 10 灰褐色土 鉄分多量 水田の底土 浅間火山灰土少量 しりしり強い 粘性強い
- 11 灰褐色土 鉄分多量 水田の底土 浅間火山灰土少量 しりしり強い 粘性強い
- 12 灰褐色土 鉄分多量 水田の底土 浅間火山灰土少量 しりしり強い 粘性強い

0 2m



第664図 溝跡全体図(36)

第135号溝跡

第122号溝跡の西側に検出した。南北方向に延び、第122号溝跡と併走していた。

規模は、掘削幅1.29m・深さ0.23mである。

第160号溝跡

L21グリッドで検出した。北西—南東方向に伸び、北端は谷の際で切れていた。南端は、第161号溝跡に接していた。

規模は、掘削幅0.68m・深さ0.18mである。

第178号溝跡

第33号掘立柱建物跡の南側に検出した。第157号住居跡から東に延び、北に緩く弧を描いて延びていた。

規模は、掘削幅1.05m・深さ0.14mである。

第179号溝跡

第160号溝跡の南側に検出した。南北から東西方向に向きを変え、「く」の字の形状をしていた。

規模は、掘削幅0.88m・深さ0.04mである。

第180号溝跡

第160号溝跡の南側に検出した。南北方向に走り、北端は第161号溝跡に接していた。

規模は、掘削幅0.68m・深さ0.41mである。

第197号溝跡

第39・40号掘立柱建物跡の北側に検出した。緩い「く」の字を描いて南北方向に延びていた。南端は第39・40号掘立柱建物跡の手前で途切れていた。

規模は、掘削幅0.76m・深さ0.08mである。

第285号溝跡

調査区を北東—南西方向に延びていた。

規模は、掘削幅1.18m・深さ0.11mである。

第287号溝跡

第238号溝跡の西側に検出した。北東—南西方向に延び、北端は第82号井戸跡に破壊されていた。

規模は、掘削幅1.22m・深さ0.20mである。

第301号溝跡

R15グリッドで検出した。北東—南西方向に走り、北端は第225号溝跡に、南端を第200号溝跡に破壊されていた。

規模は、掘削幅0.58m・深さ0.16mである。

第305号溝跡

第66・67・68号掘立柱建物跡の北側に検出した。北端は第225号溝跡に破壊されていた。

規模は、掘削幅0.76m・深さ0.14mである。

第307号溝跡

第66・67・68号掘立柱建物跡の東から南側に検出した。北東—南西方向に途切れ途切れに走り、北端は第225号溝跡に破壊されていた。

規模は、掘削幅1.52m・深さ0.13mである。

第320号溝跡

第69号掘立柱建物跡の南側に検出した。東西方向に走り、西端は第308号溝跡の手前で、東端は第183号溝跡の手前で途切れていた。

規模は、掘削幅2.41m・深さ0.05mである。

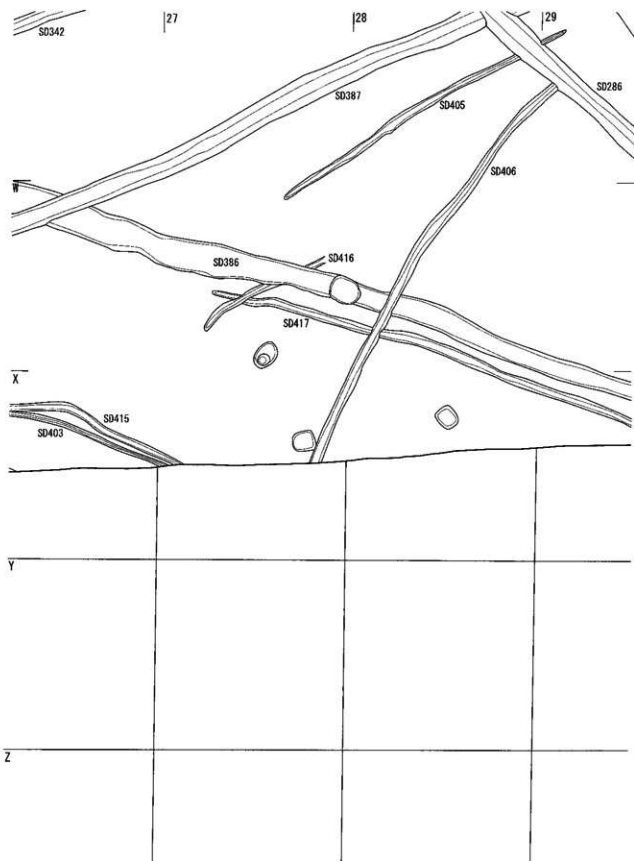
第335号溝跡

第321号溝跡の南側に検出した。東西方向に走り、西端は第321号溝跡に破壊されていた。

規模は、掘削幅1.55m・深さ0.13mである。

第340号溝跡

T25・U24・25グリッドで検出した。北東—南西方向に走り、北端と西端は、第324号溝跡に破壊されていた。



第665图 溝跡全体図(切)

規模は、掘削幅1.13m・深さ0.08mである。

⑧ 降斜路

窪地や河川・沼地などの低地への昇降のために設けられた溝を一括する。第51・53・54・230・259・260・332・401号溝跡である。

第51号溝跡

C17グリッドで検出した。第44号溝跡の南側に位置し、北端が接していた。このため第44号溝跡に付属する降斜路であると判断した。

規模は、掘削幅1.11mである。

第53号溝跡

Cー17グリッドで検出した。第44号溝跡の南側に位置し、この溝に向かって伸びていることから、第44号溝跡に付属する降斜路であると考えた。

規模は、掘削幅0.84m・深さ0.06mである。

第54号溝跡

第53号溝跡の東側に検出した。第44号溝跡の南側に位置する。第53号溝跡と同様に、第44号溝跡に付属する降斜路と考えられる。

規模は、掘削幅0.65m・深さ0.17mである。

第230号溝跡

N・O25グリッドで検出した。第44号溝跡の東側に位置し、西端が接していた。そのため第44号溝跡に付属する降斜路であると判断した。

規模は、掘削幅0.74m・深さ0.08mである。

第259号溝跡

第230号溝跡の南側に検出した。第44号溝跡の東側に位置し、この溝に向かって伸びていることから、第44号溝跡に付属する降斜路であると考えられる。

規模は、掘削幅0.66m・深さ0.23mである。

第260号溝跡

第230号溝跡の南側に検出した。第44号溝跡の東側に位置し、西端が接していた。このことから第44号溝跡に付属する降斜路であると判断した。

規模は、掘削幅0.85m・深さ0.38mである。

第332号溝跡

T18グリッドで検出された。第329号溝跡の北側に位置し、南端はこの溝に接していた。このことから、第329号溝跡に付属する降斜路であると判断した。

規模は、掘削幅0.59m・深さ0.07mである。

第401号溝跡

V21グリッドに検出された。第316号溝跡と第325号溝跡の間に位置する。北側の第316号溝跡に付属する降斜路と判断した。

規模は、掘削幅0.68m・深さ0.22mである。

⑨ 河川跡

北島遺跡19地点では、調査区の中央に南北の河川跡（第44号溝跡）、南に東西の河川跡（第423号溝跡）を確認した。ただし、南北の河川跡は、弥生時代・古墳時代前半には人工の用水路として掘削され、古墳時代後期に埋没し小河川となった。

なお河川については、第2編で詳細を報告する。

⑩ 円形周溝状遺構

北島遺跡第19地点では、円形周溝状遺構と確認した溝を4条検出した。円形周溝状遺構は、平地性住居や板を張り巡らした家畜小屋などに推定できる。以下個々の溝について述べたい。

第102号溝跡

G・H19グリッドで検出した。南東隅が3m程途切れていた。すぐ北では耕作痕跡を検出した。

規模は径5.0m・掘削幅0.26m・深さ2.1mである。

N15グリッドで検出した。南東側の円周の四分の一程しか検出されなかった。

規模は、長さ8.6m・掘削幅0.21m・深さ0.02mである。

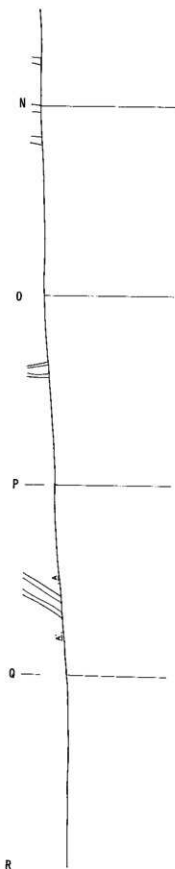
P・Q16グリッドで検出された。東側を第183号溝跡に切られるが、円周の切れ目は確認できなかった。

規模は、径4.5m・掘削幅0.24m・深さ0.24mである。

R14グリッドで検出した。北側を第225号溝跡に中央を第187号溝跡に破壊されていた。

規模は、径4.0m・掘削幅0.65m・深さ0.06mである。

北島遺跡第19地点では、12条の溝が、これまで述べてきた溝の分類に当てはまらず、その機能が特定できなかった。第27・28・191・193・202・215・247・250・266・293・294・334号溝跡である。



A-A'

1 緑い・雲母色土 緑砂土 粘質土 油濁
火山灰土質を含む

2 灰白色 粘質土 油濁火山灰土質を含む
しりり強い

3 無色土 油濁灰土土質多量

4 灰白色 炭粉・マンガン多量 粘質強い

5 灰黄白色土 粘質土 マンガン・炭粉
多量

6 灰黄褐色土 粘質土 シロトむ 炭
粉多量 しりり強い

7 灰白色 粘質土 灰黄色粘土ブロック
多量 しりり強い

B-B'

1 黒褐色土 粘質土 炭化物・炭粉多量 しり
り強い

2 黒色土 粘質土 炭化物・炭粉多量 しりり強い

(2) 遗迹出土遗物

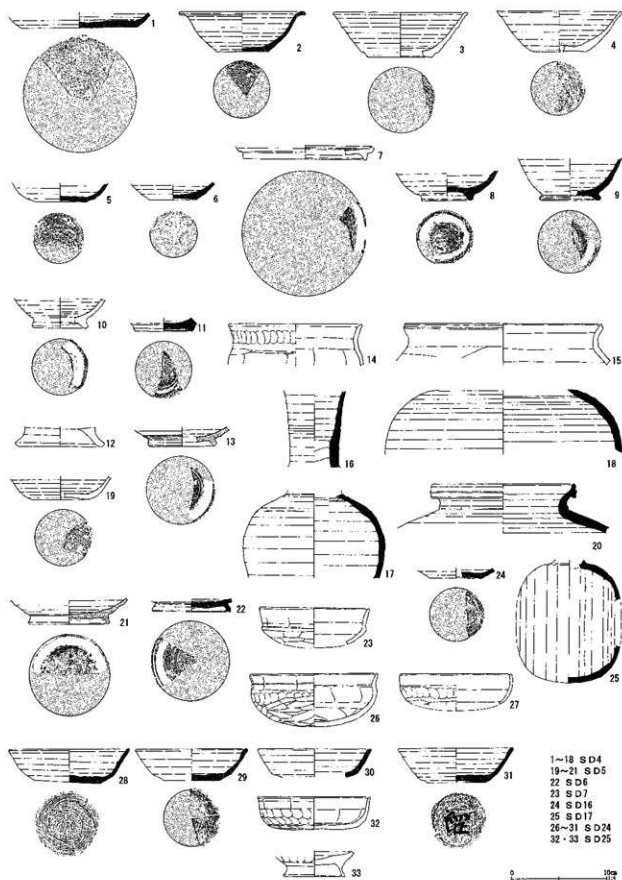
溝跡出土遺物の内、図化可能だった個体について記す。なお溝跡から出土した遺物は、すべて10×10mのグリッド単位で取り上げている。

第668図 1～6は、須恵器の坏である。1は、底部をヘラ切りした後、周辺部を手持ちヘラケズリしている。2は、大変器肉が薄く、シャープな作りである。1・2は、還元化が進み、硬質に仕上がっている。4は、酸化炎焼成である。1・2・4を除き、やや還元化が進まず、軟質な仕上がりとになっている。1～5は、末野窯跡群、6は、南比企窯跡群の製品である。

7～12は、高台付坑である。7は、土師器質土器
他は須恵器である。12は、高台が高く、「ハ」の字に
開く。他は紐状の高台が小さく付く。10・12は、酸
化炭焼成である。他は還元化が進まず軟質である。
11は南比企窯跡群、12は利根川水系の原土を用い、
他は、末野窯跡群の製品である。

13は、灰釉陶器の壺である。底部は回転ヘラケズリされている。

14・15は、土師器の甕である。「コ」の字状口縁甕の退化した形態で、口縁の伸びは小さい。利根川水系の原土が用いられている。



第668図 溝跡出土遺物(1)

16～18は、須恵器の長頸壺である。16は、頸部中央に二条の沈線が走る。17の肩部には、湿台の痕跡が残る。南比企窯跡群の製品である。

第4号溝跡から出土した土器は、7世紀末から8世紀初頭が、1・7・16、9世紀中葉が、2・3、10世紀前半が、4～6・8・9・13～15、10世紀後半が、10～12である。第4号溝跡は、10世紀前半に閉塞されたと考えたい。

第5号溝跡出土遺物

第668図19は、須恵器の坏である。やや還元化が進まず、軟質である。南比企窯跡群の製品である。

20は、須恵器の甕である。還元化が進み、硬質である。南比企窯跡群の製品である。

21は、灰釉陶器の壺である。底部には、回転ヘラケズリが施されている。東濃地方の製品で、光ケ丘1号窯式である。

第5号溝跡は、須恵器の坏から9世紀前半と考えたい。

第6号溝跡出土遺物

第668図22は、須恵器の高台付埴である。底部周辺を回転ヘラケズリを行った後、外端接地の高台を付けている。端部は「M」字状となる。南比企窯跡群の製品である。8世紀第IV四半期。

第7号溝跡出土遺物

第668図23は、土師器の須恵器坏蓋模倣坏である。器表の荒れが激しい。ローム台地の粘土を原土としている。6世紀後半。

第10号溝跡出土遺物

第668図24は、須恵器の坏である。底部は糸切りのみ。末野窯跡群の製品である。9世紀前半。

第17号溝跡出土遺物

第668図25は、須恵器の提瓶である。口縁部は欠損

する。器肉は大変薄く作られている。良く還元化し硬質である。南比企窯跡群の製品である。7世紀。

第24号溝跡出土遺物

第668図26・27は、土師器の坏である。26は、内斜口縁の埴形の坏である。底部外面を丁寧にヘラケズリしている。27は、坏Aである。器肉は薄い。両者は、利根川水系の原土が用いられている。

28～31は、須恵器の坏である。28・29は、底部周辺を回転ヘラケズリしている。31の底部周辺は、手持ちヘラケズリされている。4点とも還元化がやや進まずやや軟質である。31の底部外面には「綱」と墨書がみられる。28・30は南比企窯跡群、29・31は末野窯跡群の製品である。

第24号溝跡は、26を除いて8世紀第IV四半期である。26は、5世紀第III四半期であることから、周辺の遺構からの混入と考えたい。

第25号溝跡出土遺物

第668図32は、土師器の坏Aである。器肉が厚い。底部はヘラケズリしている。

33は、土師器の高台付埴である。高台が高く、細い。32・33は、利根川水系の原土が用いられている。

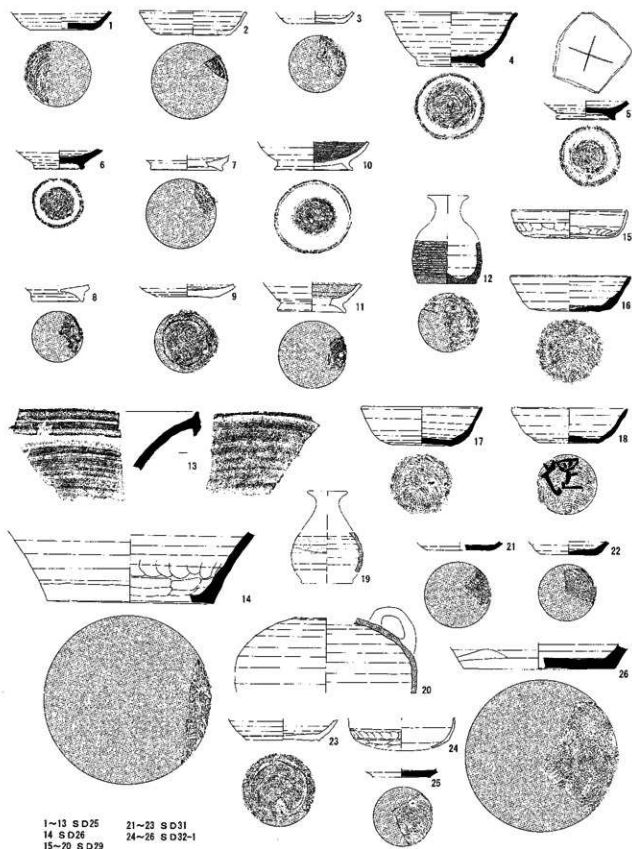
第669図1は、須恵器の坏である。比較的硬質に仕上がっている。南比企窯跡群の製品である。

2・3は、土師質土器の皿である。焼成が悪く、手に粉が付く。利根川水系の原土が用いられている。

4～6は、須恵器の高台付埴である。高台は定型化せず、紐状である。やや還元化が進まず軟質である。5は、底部内面にヘラ書きで「×」とある。末野窯跡群の製品である。

7～9は、土師質土器の高台付埴である。高台は低く、紐状である。手に粉が付く。ローム台地の粘土を原土としている。

10・11は、黒色土器の高台付埴である。内面は、丁寧にヘラミガキの後、黒色処理が施されている。高台は端部が水平で丁寧に作られている。ローム台



第669図 溝跡出土遺物(2)

地の粘土を原土としている。

12は、緑釉陶器の小瓶である。猿投窯跡群の製品で、黒笹90号窯式である。

13は、須恵器の甕である。比較的硬質に仕上がっている。末野窯跡群の製品である。

第25号溝跡から出土した土器は、9世紀前半が、第668図32・第669図1、10世紀前半が、第670図4～6、10世紀後半が、第668図33・第669図7～11、11世紀が、第669図2・3である。第25号溝跡は、10世紀前半に開鑿され、11世紀まで存続したと考えたい。第668図32・第669図1は、周辺遺構からの混入と考えたい。

覆土から出土した土器のデータを掲載する。



第670図 第25号溝跡覆土中遺物データ

第26号溝跡出土遺物

第669図14は、須恵器の甕である。内面にタタキ目が見られる。末野窯跡群の製品である。9世紀か。

第29号溝跡出土遺物

第669図15は、土師器の坏Aである。器内は大変薄い。利根川水系の原土が用いられている。

16～18は、須恵器の坏である。底部糸切り後、周辺部を細かく手持ちヘラケズリしている。還元化が進まず、やや軟質な仕上がりである。18の底部には、「綱」と墨書されていた。末野窯跡群の製品である。

19は、灰釉陶器の小瓶である。肩部にハケ塗りによる施釉が見られる。東濃地方の製品で、光ヶ丘1

号窯式である。

20は、灰釉陶器の手付き長頸甕である。把手は欠落している。猿投窯跡群の製品で、黒笹90号窯式である。

土師器の坏や須恵器の坏から第29号溝跡は、9世紀第II四半期と考えたい。

第31号溝跡出土遺物

第669図21・22は、須恵器の坏である。21は、底部周辺をヘラケズリしている。良く還元化し硬質である。22は、やや還元化が進まず軟質である。21・22とも南比企窯跡群の製品である。

23は、須恵器の高台付碗である。酸化炎焼成である。末野窯跡群の製品である。

第31号溝跡は、21が8世紀第IV四半期、22が、9世紀第II四半期、23が、9世紀中葉であることから、8世紀末から9世紀にかけての溝と考えたい。

第32—1号溝跡出土遺物

第669図24は、土師器の坏Aである。薄い器肉でやや器高が高い。利根川水系の原土が用いられている。9世紀前半。

25は、須恵器の坏である。良く還元化され硬質である。南比企窯跡群の製品である。9世紀前半。

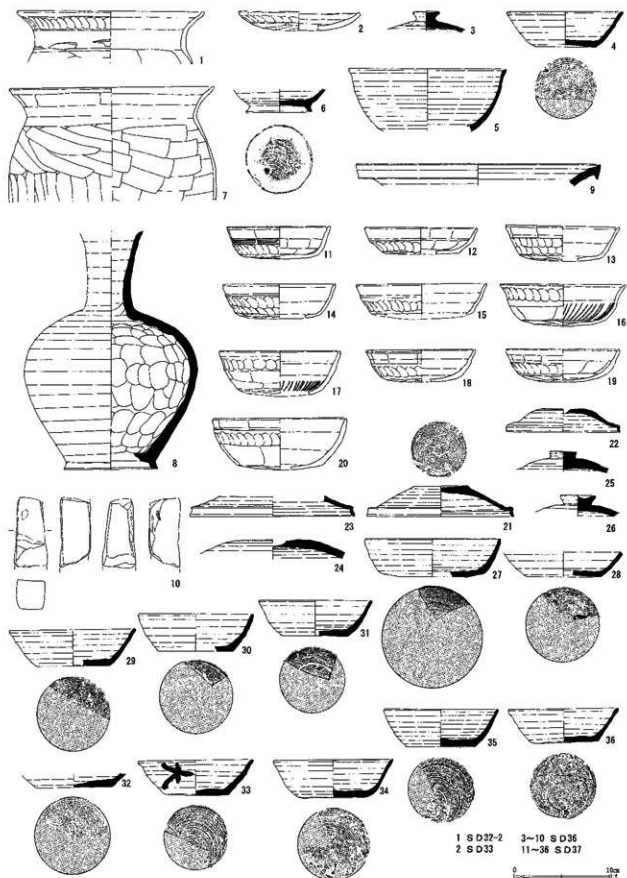
26は、須恵器の甕である。底部は手持ちヘラケズリされている。南比企窯跡群の製品である。

第32—2号溝跡出土遺物

第671図1は、土師器の甕である。いわゆる薄甕である。利根川水系の原土が用いられている。8世紀中葉。

第33号溝跡出土遺物

第671図2は、土師器の坏である。口縁部が欠損しているが、古墳時代後期の土器であろう。利根川水系の原土が用いられている。6世紀後半。



第671図 清跡出土遺物(3)

第36号溝跡出土遺物

第671図3は、須恵器の蓋である。つまみは高くボタン状である。還元化が進み、硬質である。南比企窯跡群の製品である。

4は、須恵器の坏である。還元化が進み、硬質である。南比企窯跡群の製品である。

5・6は、須恵器の高台付埴である。5は、高台部を欠くが、やや大振りの高台付埴となるであろう。6は、細くやや高い外端接地の高台が付く。35は、南比企窯跡群、6は、末野窯跡群の製品である。

7は、土師器の甕である。口縁部が長く伸びる。胴部は極めて薄く削られている。ローム台地の粘土を原土としている。

8は、須恵器の長頸瓶である。細頸の長頸壺で、口縁部は欠損する。内面には、当て具痕が明瞭に残り、外面は、胴下半がヘラケズリされている。南比企窯跡群の製品である。

9は、須恵器の大甕である。末野窯跡群の製品である。

10は、砥石である。

第36号溝跡から出土した遺物は、3・5・7・8が8世紀後半、4・6が9世紀前半である。周辺の竈穴住居跡からの混入を考慮すると第36号溝跡は、8世紀後半に開鑿されたと考えたい。

第37号溝跡出土遺物

第671図11～20は、土師器の坏である。11～15は、坏Aである。器肉が薄く、ユビ押さえの跡が明瞭に残る。16・17は、やや深めの坏で、口縁部の下半がヘラケズリされる。底部もヘラケズリされる。器肉は大変薄い。18～20は、器肉が厚く、口縁部下半や底部を小さくヘラケズリしている。口縁部に沈線が回る。焼成が悪く、手に粉が付く。橙白色である。11・12・18～20は、ローム台地の粘土を原土とし、他は利根川水系の原土を用いている。

21～26は、須恵器の蓋である。21は、天井部を糸切した後、調整を加えていない。つまみはもたない。

21～23は、口縁部が、小さく直立する。24は、つまみ、口縁部とも欠損する。25・26は、ボタン状のつまみである。全て良く還元化され、比較的硬質である。21は、末野窯跡群、22は、秋間窯跡群、他は、南比企窯跡群の製品である。

第671図27～第673図18は、須恵器の坏である。第671図27～32は、底部周辺を回転ヘラケズリしている。良く還元化し、硬質である。南比企窯跡群の製品である。

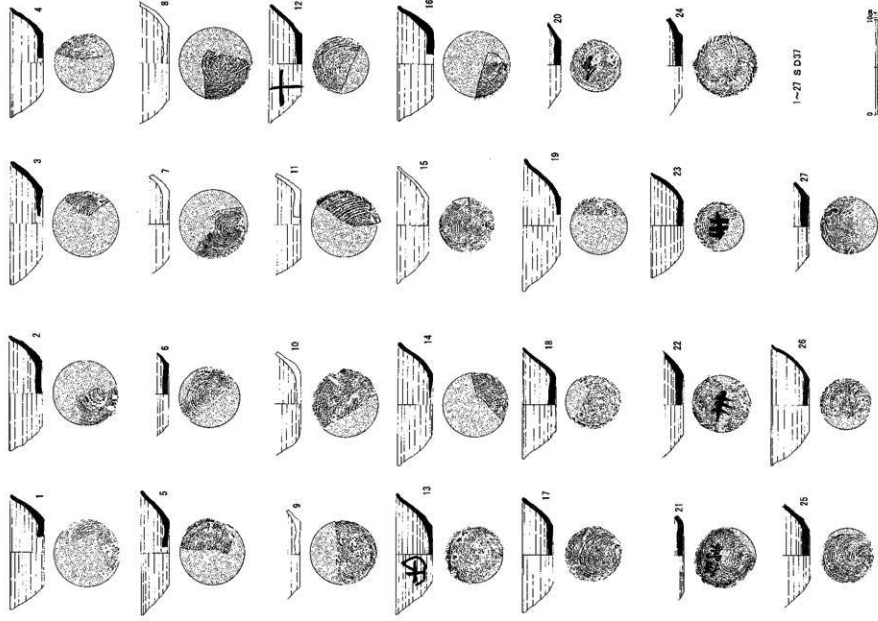
第671図33～第672図11は、底径7.0cm前後である。第671図33～第672図6は、還元化も進み、比較的硬質に仕上がっているが、第672図7は、やや還元化が進まず、軟質である。第671図33の口縁部側面には、「大」、第672図7の底部には、「術」かと墨書されている。7は図化せず。第672図4・10は、末野窯跡群、他は、南比企窯跡群の製品である。

第672図12～第673図11は、底径5.5cmから6.5cmである。第672図15・第673図9は、やや還元化が進まないが、他は、良く還元化が進み、硬質である。第672図15・16・20～24・26・第673図1・3～5・9は、南比企窯跡群、第672図17・18・第673図10・11は、東金子窯跡群、第672図19・27は、末野窯跡群の製品である。

第672図12は、口縁部側面に「十」、13は、同位置に「天」を○で囲んだ文字が書かれている。20は、底部に「黒」、21は、「後家」、22・23は、縦に三本線を引いた後、横に線を引く「三十」が、それぞれ墨書されている。24は、底部にヘラ書きがみられる。第673図6は、底部にヘラ書きがみられる。

第673図12～15、酸化炎焼成である。16・17は、口縁部に判読不可能な墨痕がある。18は、底部に「字」と墨書がみられる。17は、末野窯跡群、16・18は、南比企窯跡群、他は、利根川水系の原土が用いられている。

19・20は、土師質土器の坏である。大変軟質の仕上がりで手に粉が付く。ローム台地の粘土を原土としている。



第672図 溝跡出土遺物(4)

21・22は、須恵器の皿である。21は、良く還元化され硬質である。22は、酸化炎焼成である。21は、末野窯跡群、22は、南比企窯跡群の製品である。

第673図23～第674図17は、須恵器の高台付埴である。第673図23は、口縁部の直立する大形の埴である。還元化が進み、硬質である。秋間窯跡群の製品である。

24～30は、径8.0cm前後のやや高い高台であり、端部は、「M」字状となっている。還元化が進み、硬質である。第673図31～第674図5は、径6.5～7.0cmのやや低い高台で、端部は丸い。6～11は、小形の底部で、紐状の高台を付けている。全体に還元化されるが、やや軟質である。第673図25は、東金子窯跡群、第674図13は、南比企窯跡群、他は、末野窯跡群の製品である。

第673図24は、墨痕は鮮やかだが、判読不可能な墨書が底部にみられる。図化せず。31・32は、口縁部外面に墨書がみられるが、残画のみで判読不可能。第674図6は、口縁部外面に「千万」、7は、内面見込みに「太」と墨書がみられる。12は、「式」か「武」などの式かまゑの一部。13は、口縁部外面に「百」と墨書されている。

14～17は、酸化炎焼成の高台付埴である。高台は、低くやや紐状である。末野窯跡群の製品である。

第674図18～23は、土師質土器の高台付埴である。18は、高台が低く、角形の高台であることから酸化炎焼成の須恵器に含めるべきかもしれない。あるいは長頸壺の底部か。19・20は、低い紐状の高台である。21～23は、高脚高台である。高台端部は、「M」字状となっている。全てローム台地の粘土を原土としている。

24～29は、黒色土器である。24は、外面が黄色となる器内の薄い高台付埴である。25～27は、器内のやや厚い高台付埴である。27は墨痕がみられる。28は、高台が欠損するが、高台付皿となるであろう。29は、高めの高台付埴である。内面は、それぞれ細かく磨かれ、黒色処理が施されている。24・26・28は利根川水系の原土、他はローム台地の粘土を用い

ている。

30～34は、灰釉陶器である。30・31・33は埴、32は皿、34は耳皿のそれぞれ破片である。31は、底部に回転ヘラケズリが施され、30・32・33は、糸切り未調整である。30～32・34は東濃地方、33は東遠江地方の製品である。30・32は大原2号窯式、31は光ヶ丘1号窯式、33は折戸53号窯式、34は黒笹90号窯式である。

35・36は、緑釉陶器である。35は埴、36は埴の破片である。内外面に丁寧なミガキを施した後、施釉が行われている。猿投窯跡群の製品である。35は、黒笹90号窯式である。

第675図1～6は、土師器の甕である。1～5は、「コ」の字状口縁甕である。大変器肉の薄い作りである。6は、口縁部がやや厚く、「く」の字になり、器肉も全体的に厚い。利根川水系の原土が用いられている。

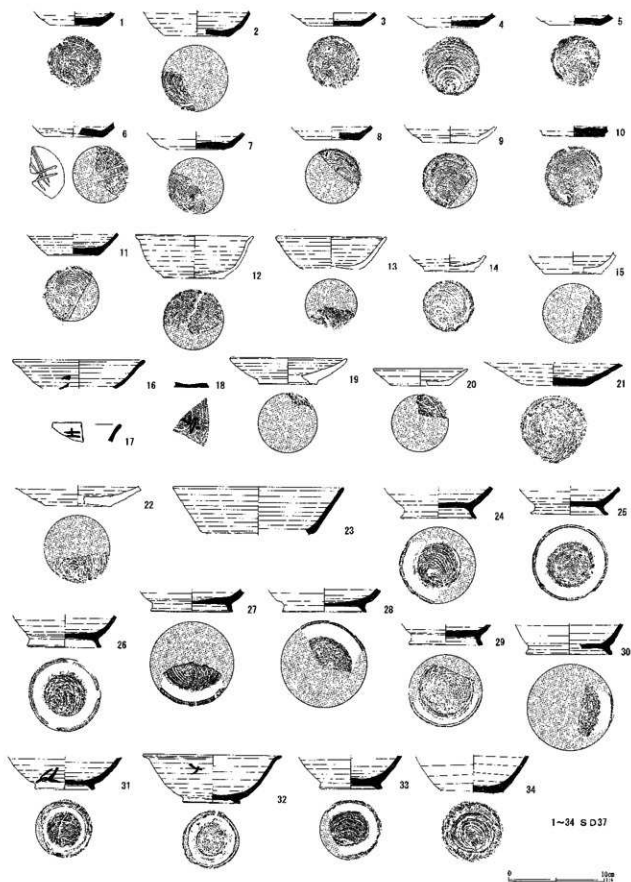
7・8は、土師器の羽釜である。7は、一般的な羽釜で鈹部は細く突出するが、8は、口縁部が外反する。鈹のドには、ユビ押さえの跡が明瞭に残り、横位のヘラケズリが施されている。7は末野窯跡群の製品である。8は利根川水系の原土が用いられている。

9～12は、須恵器の長頸壺である。比較的良く還元化し、硬質な仕上がりである。9・10は、口縁部、11・12は、底部の資料である。10・11は、南比企窯跡群、他は、末野窯跡群の製品である。

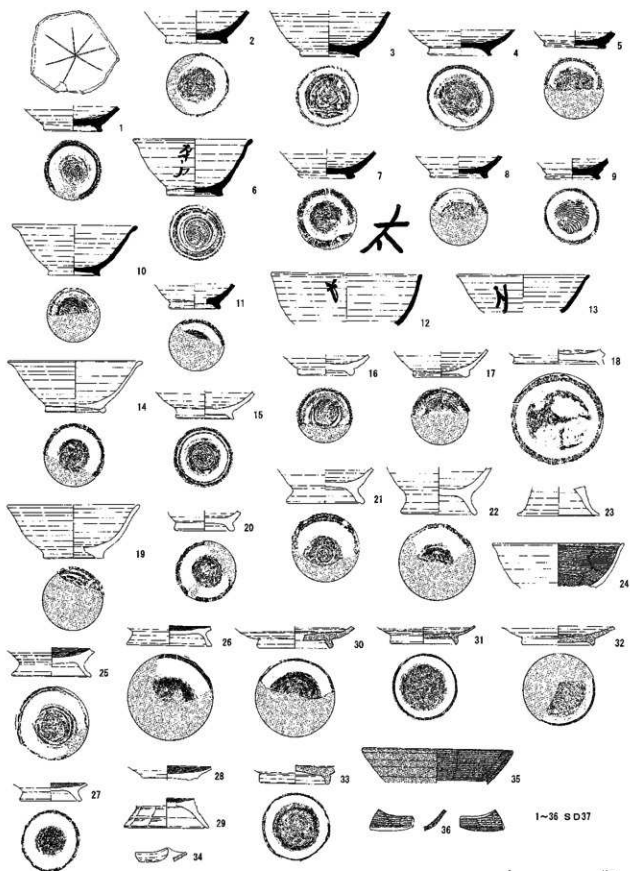
13・14は、灰釉陶器の長頸壺である。13は、浜北地方の製品で、黒笹90号窯式である。14は、口縁部から肩部にかけてハケ塗りの痕跡がみられる。東濃地方の製品である。

15・16は、須恵器の小形の壺である。底部は、平底である。底部周辺をヘラケズリしている。良く還元化し、硬質な仕上がりである。15は、東金子窯跡群、16は、南比企窯跡群の製品である。

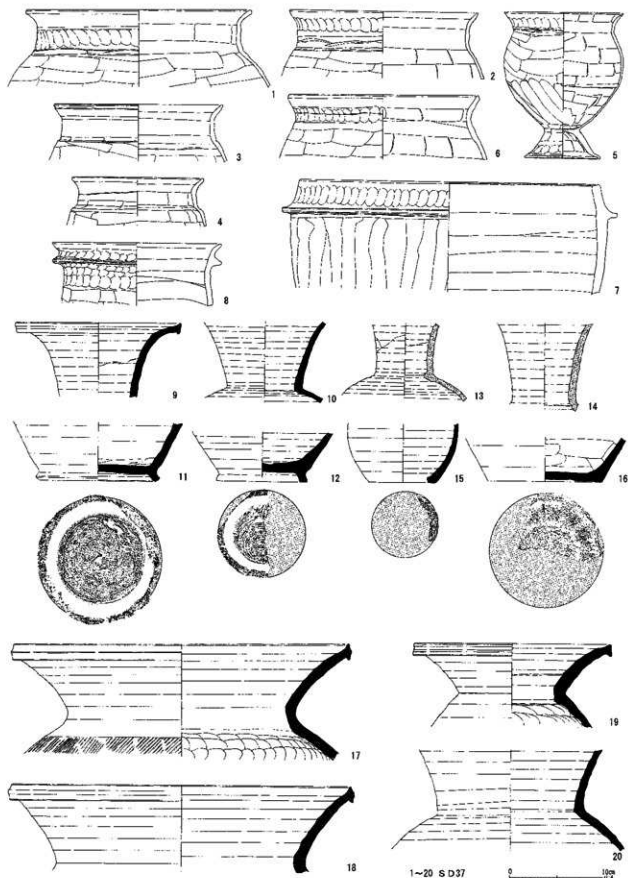
第675図17～第677図2は、須恵器の大甕である。全て良く還元化し、大変硬質な仕上がりとなっている。第675図20は、末野窯跡群、他は、南比企窯跡群



第673図 溝跡出土遺物(5)



第674図 溝跡出土遺物(6)



第675図 溝跡出土遺物(7)

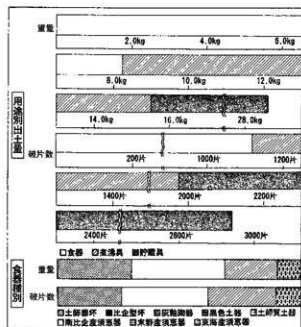
の製品である。

第677図3は、砥石である。

第37号溝跡から出土した遺物は、8世紀第Ⅲ四半期が、第671図27、8世紀後半が、第671図25・32・第674図18、9世紀前半が、第671図11・17・21・23・第671図33～第672図11、9世紀後半が、第671図18・20・第672図12～第673図11・21・22・第673図31～第674図5第Ⅲ四半期・6～11第Ⅳ四半期・第675図1～5、10世紀前半が、第673図12～15・第674図14～17・24・30～34・第675図6・7、10世紀後半が、第674図17～23・25～29・第675図8、11世紀以降が、第673図19・20である。

第37号溝跡は、9世紀前半から10世紀前半にかけてが最も多く、この段階の幹線水路として活用されていたと考えたい。ただしその開鑿は、さらに8世紀中葉まで遡る可能性を残し、また10世紀前半には、一度埋没しているようである。10世紀後半の遺物は、再掘削した溝、第37号溝跡にかかる遺物と考えたい。また第37号溝跡の埋没層の一つに浅間山B軽石層が存在していることは、12世紀初頭まで存在した溝といえよう。

覆土から出土した土器のデータを掲載する。



第676図 第37号溝跡覆土中遺物データ

第38号溝跡出土遺物

第677図4は、須恵器の蓋である。かえりは小さく、口縁よりも突出する。良く還元化され硬質である。湖西窯跡群の製品である。7世紀第Ⅲ四半期。

第44号溝跡出土遺物

古墳時代後期（5世紀後半）の土器が出土しているが、ここでは扱わないこととする。

第45号溝跡出土遺物

第677図5は、土師器の甕である。半球形の甕で、器肉は大変薄い。利根川水系の原土が用いられている。8世紀前半。

第46号溝跡出土遺物

第677図6は、須恵器の甕である。良く還元化し、自然釉が付着する。南北比企窯跡群の製品である。9世紀か。

第47号溝跡出土遺物

第677図7～11は、土師器の甕である。7は、有段口縁甕である。8・9は、内彎口縁甕である。8は、やや小形で、9は、やや外傾している。10・11は、甕Aである。器肉は極めて薄く、口縁部は内彎する。全て利根川水系の原土が用いられている。

12は、須恵器の蓋である。つまみは、ボタン状のつまみで、天井部の器肉は厚い。かえりは高く、肉厚である。還元化がやや進まず、軟質な仕上がりである。末野窯跡群の製品である。

13は、須恵器の甕である。底部周辺に回転ヘラケズリが行われている。硬質な仕上がりである。南北比企窯跡群の製品である。

14・15は、須恵器の高台付甕である。14は、酸化炭成で、軟質である。15は、比較的硬質な仕上がりである。15の底部には、黒痕が残る。14は、末野窯跡群、15は、南北比企窯跡群の製品である。

16は、須恵器の鉢である。口縁部が小さく外反し、器肉も薄く作られる。末野窯跡群の製品である。